平成２６年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

報　　告　　書

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

目　次

はじめに

Ⅰ　振興事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1．助成の目的
　2．委託先対象
　3．対象事業
　4．活動の範囲
　5．委託費と対象経費
　6．地域振興事業検討委員会の設置

Ⅱ　実施事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅲ　まとめと今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　1．事業内容の特徴
　2．組織連携の取り組み
　3．障害者スポーツ指導者の活動内容
　4．地域振興事業の成果
　5．今後の課題
　6．おわりに

Ⅳ　事業実施団体の報告
　1．公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会
　2．新潟県障害者スポーツ協会
　3．特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会
　4．公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
　5．公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
　6．愛媛県障害者スポーツ協会
　7．社会福祉法人高知県社会福祉協議会　高知県立障害者スポーツセンター
　8．公益財団法人島根県障害者スポーツ協会
　9．一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
　10．福岡県障害者スポーツ協会
　11．大分県障がい者体育協会
　12．特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

はじめに

平成 23 年に施行された「スポーツ基本法」は、障がい者のスポーツ振興に大きな変化をもたらし、国や地方自治体のスポーツ施策や地域でのスポーツ事業において障がい者の参加機会の拡大が図られるようになりました。

さらに、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた準備が進められているなかで、この機運は益々高まっています。

この期にあたり、日本障がい者スポーツ協会では、平成 23 年度より国庫補助事業として、都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会を事業対象とした「地域における障がい者スポーツの振興事業」を実施しています。

この事業は、障がい者が身近な地域において自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができる環境づくりをめざし、それぞれの地域特性にあわせた各種事業を実施するとともに、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、組織強化ならびに地域連携に寄与できることを目的としています。

今年度は、12 の団体が特色ある事業を実施することができました。地域の実情にあわせた多様なスポーツ事業では、多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、この取り組みにより、さまざまな人や組織との連携が広がっている実情もみえてきました。今後、さらなる発展を期待するとともに、関係者の一層の取り組みの強化を期待しているところです。

本報告が、障がいある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加できる環境整備のための取り組み事例として、今後の地域の障がい者スポーツの振興に役立てていただければ幸いです。

平成 27 年 3 月

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

Ⅰ　振興事業の概要

１．助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

２．委託先対象

平成２６年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会障がい者スポーツ協会協議会登録団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とする。

今年度は、申請のあった１２団体を対象に助成した。

３．対象事業

本事業は助成の目的に合致し、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものであること。下記の例を参考とした地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。

【事業内容例】

(1) 障がい者のスポーツ教室事業
(2) 障がい者スポーツ指導者の育成事業
(3) 障がい者スポーツ指導者の派遣事業
(4) 選手発掘・育成事業
(5) 障がい者スポーツ理解啓発事業（大会等イベントも含む）
(6) 障がい者スポーツにおける情報発信事業（広報）
(7) 組織連携強化事業

※注）厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」内の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」で助成を受けている事業は重複して申請はできない。

４．活動の範囲

事業は原則として一つの都道府県内（指定都市を含む）を対象とすること。なお、実施場所は、競技特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

５．委託費と対象経費

委託費は、各団体に 200 万円または 100 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、備品の購入は認めない。また、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとする。

6．地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。

また、検討委員会により、本事業の総括を行い、今後の日本における障がい者スポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

地域振興事業検討委員会委員（技術委員会地域振興班）

	氏　　名	役　　職
1	大久保晴美	公益社団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員長
2	三上　真二	大阪市長居障がい者スポーツセンター　館長
3	高山　浩久	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会　地域スポーツ振興室　室長
4	川部　勝一	厚生労働省　老健局振興課　課長補佐
5	白石三重子	埼玉県障害者交流センター　スポーツ指導担当　担当主査
6	金山　千広	神戸女学院大学　体育研究室　教授
7	前田　　究	鹿児島県障害者スポーツ協会　事務局　事務局長
8	安井　友康	国立大学法人北海道教育大学札幌校　特別支援教育専攻　教授
9	山﨑　珠美	長野県障がい者福祉センター サンアップル　スポーツ課　係長

事務局（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

1	水原　由明	スポーツ推進部　部長
2	小島　武志	スポーツ推進部　課長補佐
3	滝澤　幸孝	スポーツ推進部　課長補佐
4	屋敷　優友	スポーツ推進部

◆会議の実施

第 1 回会議

日　時：平成 26 年 5 月 16 日（金）

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：1. 平成 25 年度振興事業の報告

2. 平成 26 年度申請団体の実施内容について

・申請内容、実施体制の確認　等

3. 委託先の選考・審査・決定について

4. 今後の実施について

第 2 回会議

日　時：平成 27 年 3 月 2 日（月）

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：1. 平成 26 年度事業の報告

・報告の集計について

2. 報告書の作成について

・報告書の骨組、今後の作業スケジュールについて

3. 平成 27 年度事業について

Ⅱ　実施事業の概要

12 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業のねらい」、実施された「事業内容」、「連携・協力団体」、「障がい者スポーツ指導者の活動・役割」、そして「事業成果」の 7 項目から実施概要を整理した。

それぞれの団体の活動の詳細については、Ⅳ．実施事業団体の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分　一覧】

No.	団　体　名	(1) 障がい者のｽﾎﾟｰﾂ教室事業	(2) 障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の育成事業	(3) 障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の派遣事業	(4) 選手発掘・育成事業	(5) 障がい者ｽﾎﾟｰﾂ理解啓発事業(大会等ｲﾍﾞﾝﾄ含む)	(6) 障がい者ｽﾎﾟｰﾂにおける情報発信事業(広報)
1	(公財)北海道障害者スポーツ振興協会	●					
2	新潟県障害者スポーツ協会	●	●		●		
3	(特非)栃木県障害者スポーツ協会	●			●		
4	(公財)静岡県障害者スポーツ協会	●	●			●	
5	(公財)兵庫県障害者スポーツ協会			●			●
6	愛媛県障害者スポーツ協会					●	
7	(社福)高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター		●			●	
8	(公財)島根県障害者スポーツ協会	●		●			●
9	(一社)山口県障害者スポーツ協会	●		●		●	●
10	福岡県障害者スポーツ協会	●		●	●	●	
11	大分県障がい者体育協会			●		●	
12	(特非)沖縄県障がい者スポーツ協会	●				●	
		8	3	5	3	7	3

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
1	（公財）北海道障害者スポーツ振興協会 北海道における 障がい児者スポーツの振興事業 ①全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業 〔200万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆本道出身の選手がパラリンピックなどの国際大会で活躍しているが、道内全域における裾野の拡大を目指すには、障がい者が主体的にスポーツに参加できる機会の充実や環境の整備を図る必要がある。 **【地域の実情・課題点】** ◆本道の障がい者スポーツ事業は、主に15歳以上の者を対象としているため、小中学校の特別支援学級の児童生徒のスポーツ支援が立ち遅れている現状にある。障がい者のスポーツ人口の裾野を拡げるためには、基盤となる年齢層の支援促進が求められている。 ◆他県にない広大な面積と多数の市町村を有しており、全道の隅々まで事業効果を浸透させるためには多くの時間と労力を要する。 **【事業のねらい】** ◆特別支援学級という新たなターゲットを開拓し、学級で学ぶ児童生徒のスポーツに対する潜在的なニーズを顕在化させることを目的として、道の14振興局の全エリアで巡回スポーツ教室を開催する。 **【事業内容】** ◆14振興局のうち、12のエリアの小中学校を巡回し、特別支援学級の児童生徒を対象として、障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具に触れ、様々なスポーツを体験学習した。種目は、ドッヂビー、フライングディスク、ボッチャ、ハンドサイクル、ディスクターゲットなど幅広いメニューを用意し、障がいの種別を問わずスポーツを楽しめるプログラムに配慮した。 ◆臨機応変にプログラムをアレンジする裁量も講師に求められることから、指導経験豊富な上級障がい者スポーツ指導員１名をメイン講師に固定し、全教室に派遣した。 **【連携・協力団体】** ◆NPO法人あ・り一さだ、北海道教育委員会、北海道特別支援学級設置学校長協会、北海道内の小中学校 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆メイン講師として全教室に赴いた上級障がい者スポーツ指導員は、本事業の企画から運営に至るまで、スポーツ教室の全般にわたって主導的な役割を担い、初級および中級の資格を有する他の講師や補助員に対して指導的な立場で接した。 **【事業成果】** ◆特別支援学級の児童生徒にとって、外部講師によるスポーツ指導を体験することは新鮮であり、児童生徒と共に教室に参加した特別支援学級の担当教諭からも体育の授業にフィードバックできるなどの感想がえられた。 ◆教室に参加した児童生徒には、スポーツに対する関心が芽生えるとともに、自主性や活動意欲が向上するなどの効果が認められ、発語のない児童や運動の苦手な児童も楽しめたプログラムであったと高い評価を受けた。 ◆14振興局のうち、12エリアでの開催となったが、道内における障がい者スポーツの普及に対する地域の偏りや不均衡を是正するための端緒となった。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
2	新潟県障害者スポーツ協会 上越地域の障がい者スポーツ活性化及び東京パラリンピックに向けた競技力の向上事業 ①障がい者健康スポーツ教室 ②ボッチャ教室 ③障がい者スポーツ支援者研修会 ④2020年東京パラリンピック新潟県選手強化策検討会議（全県競技力向上） ⑤新潟県健康・スポーツ医科学センター活用モデル事業（全県競技力向上） 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆「県民スポーツ振興プラン」は、平成18年度から平成28年度までの11年間の計画であり、当協会からも委員として参画している。計画では「障がい者スポーツの地域への浸透と定着」が主な課題としてあげられている。 **【地域の実情・課題点】** ◆新潟県は縦長に広い県であるため、障がい者スポーツの県内各地域における普及には大きな開き、地域間の格差がある。新潟市近郊は盛んに行われている一方で、昨年度の佐渡同様、上越地域においても障がい者スポーツの環境の整備・普及が望まれている。 ◆スポーツ競技者に対する支援策は乏しく、競技レベルは極めて低い状況にあり、選手発掘・育成とスポーツ環境の整備が課題である。 **【事業のねらい】** ◆昨年度の佐渡地域の活性化事業に続き、今年度は上越地域を活性化重点地域と定め、県内障がい者スポーツの推進と地域格差を少なくする。 ◆2020年東京パラリンピックに向けて、今後の取り組みにおける課題や競技者支援策をまとめ、障がい者スポーツ振興・環境整備を図る。 ◆併せて、スポーツ医科学センターを活用した事業をモデル実施することで、今後の競技者支援を行うため専門機関との関係作りを進めていく。 **【事業内容】** ◆障がい者のスポーツ教室事業（健康、レクリエーションを目的とした教室及びボッチャ教室）を開催した。 ◆障がい者スポーツ指導者、福祉関係者、特別支援学校教諭、スポーツ推進委員を対象とした支援者研修会を開催した。 ◆県内選手の競技力向上やスポーツ振興を目的とした選手発掘育成策検討会議を開催した。 ◆健康・スポーツ医科学センターを活用し、車いすアスリートの体力及び技術力向上を目指したモデル事業を実施した。 **【連携・協力団体】** ◆障害者スポーツ指導者協議会、上越市、上越市教育委員会、上越市社会福祉協議会、妙高市、糸魚川市、教育委員会、社会福祉協議会、身体障害者団体、新潟県身体障害者施設協議会、新潟県障害者施設協議会、新潟県、新潟市、新潟県体育協会、新潟県障害者スポーツ協会加盟競技団体、障がい者交流センター **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆スポーツ教室事業の講師及び補助、障がい者スポーツ支援者研修会やスポーツ医科学センター活用モデル事業に参加した。 **【事業成果】** ◆上越地域の活性化事業では、関係機関との連携体制が構築でき、今後の上越地域での活動における支援体制の道筋をつけることができた。 ◆「2020東京パラリンピックに向けた新潟県選手発掘・育成検討会議」では、競技者支援、普及体験会、指導者育成、本協会の基盤整備等の内容で県から次年度の新規予算の計上ができた。 ◆スポーツ医科学センターで行った車いす競技者の測定利用では施設スタッフからも理解・関心を持って取り組んでいただき、施設を管理する新潟県体育協会との連携強化や今後の利用促進に資することができた。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
3	（特非)栃木県障害者スポーツ協会 栃木県における 障がい者スポーツ振興事業 ①全国障害者スポーツ大会団体種目育成事業 ・知的障害バスケットボール ・知的障害サッカー ②障害者アウトドアスポーツ体験事業 （外で体を動かそう） ③障害者スポーツふれあい事業 （わかくさアリーナ祭） 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆「とちぎスポーツ振興プラン21」を策定し、県民総スポーツの推進を基本目標として、平成22年度のスポーツ活動実施率の34.2%を、平成27年度には50%以上にすることを目標に進めている。 ◆施設整備においても、高齢者や障がい者を含め、誰もが使いやすい施設を目指して、総合スポーツゾーン整備の開始とともに、「だれでも」「いつでも」「気軽に」スポーツを楽しめる環境づくりに努めている。 **【地域の実情・課題点】** ◆平成34年の全国障害者スポーツ大会を控え、障がい者スポーツの振興のためには、個人競技の普及はもとより、団体競技の普及・振興が重要となる。特に、知的障がい者のバスケットボールとサッカーなどは育成・強化が必要である。 ◆恵まれた自然環境を活かしたレジャー活動を通して、障がいのある方が、自然の中心で身体を動かすことの喜びを実感出来るような取り組みをした。 **【事業のねらい】** ◆継続的な強化活動ができるよう、指導者との連携を構築する。 ◆体験・イベントに関しては、「とちぎスポーツ振興プラン21」を含め、中長期的にスポーツ活動ができるよう、スポーツ未経験者に対して啓発活動を行い、健康増進にもつながることを目的とする。 **【事業内容】** ◆知的障がい者のバスケットボール競技においては、競技力向上と通年活動への移行、サッカー競技においてはフェスティバルの開催を通じてチーム設立および競技力の向上を図る。 ◆アウトドアスポーツへの潜在的ニーズの掘り起こしを図る。 ◆イベントを開催することにより、障がい者のスポーツに対する理解を深め、認知度を上げる。 **【連携・協力団体】** ◆栃木県障害者スポーツ指導者協議会、栃木県バスケットボール協会、栃木県特別支援学校知的障害教育校体育連盟、栃木県立富屋特別支援学校、栃木県サッカー協会、栃木SC、ヴェルフェたかはら那須、モランゴFC、栃木県立宇都宮中央女子高等学校、栃木県キャンプ協会、野外活動探険隊キャプテントムソーヤ、自然体験教室ネイチャーフレンド、栃木県障害者フライングディスク協会、栃木県ライフル射撃協会 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆障害者スポーツふれあい事業わかくさアリーナ祭においては、企画段階から実践に至るまで、障がい者スポーツ指導員が積極的に参加することができた。しかし、全国障害者スポーツ大会団体種目育成事業や障害者アウトドアスポーツ体験事業は指導の専門性が高いため、それぞれ講師の補助指導員として関わることで経験と資質向上の育成面に努めた。また、認定校と連携し、学生を指導補助として活用することができた。 **【事業成果】** ◆全国障害者スポーツ大会に向けた団体競技の普及・振興を図ることでは重要な課題であったが、栃木県サッカー協会と連携し、サッカーフェスティバルを開催することができた。また、サッカーフェスティバルを契機として、サッカーチーム創設に至ったことは大きな成果であった。 ◆栃木県キャンプ協会と連携しデイキャンプを実施し、障がい者のニーズがレジャーを含めた幅広いものであることが認識できた。 ◆地域住民に「わかくさアリーナ」の存在を認知してもらうことはもとより、体験会を通して障がい及び障がい者スポーツの理解を深められたことは大きな成果であった。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
4	（公財）静岡県障害者スポーツ協会 静岡県における 障害者スポーツの地域連携振興事業 ①静岡県地域ネットワーク型障がい者スポーツトライアル教室開事業 ②障がいのある人々のスポーツ活動を支える人材養成講習会開催事業 ③静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業 〔200万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆県スポーツ推進計画に基づき、県民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくり、そして障がい者スポーツの振興を図るとともに、スポーツができる機会を提供し、指導者養成及び支える体制の充実を目指している。 **【地域の実情・課題点】** ◆重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーションをしたくても受け入れ可能な場所が無い、また遠方で行くことができない等の現状を改善し、公認障がい者スポーツ指導者と地域の連携により、普及の進んでいない地域をスポーツのできる環境に整えたい。 ◆昨年度開催した地域からの問い合わせも多く、スポーツへの関心の高まりを実感している。 **【事業のねらい】** ◆普及に対する地域格差を少なくすることを目的に各地域に合った方法で公認障がい者スポーツ指導者と地域が連携しスポーツ環境を根付かせ、継続・発展させたい。 ◆昨年度の効果で講師依頼が増加してはいるが、未だに情報不足であったり、実施していない市町において教室開催を行う。 **【事業内容】** ◆県内各地域の公認障がい者スポーツ指導者と地域との連携により、障がい者スポーツの普及に対する地域格差を少なくし、日常的にスポーツ参加できる環境を整備する目的で昨年実施しなかった県内5か所で事業を実施した。 ◆公認障がい者スポーツ指導者と共に地域で障がい者スポーツを支えていただく人材を養成することを目的に、県内3か所で講習会を実施した。講習会の受講者へは、公認指導員資格取得についても働きかけた。 ◆県内の障がい者スポーツの状況を県民に啓発するイベントを実施した。 **【連携・協力団体】** ◆障がい者スポーツ指導者協議会、県障害者支援局、教育委員会、県スポーツ推進委員連絡協議会、各市町障害者福祉担当課、各市町村生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校・支援学級、県身体障害者福祉会、各市町身体障害者福祉会、県知的障害者福祉協会、県手をつなぐ育成会、各市町手をつなぐ育成会、精神障害者スポーツ推進協議会、各市町社会福祉協議会、各健康福祉センター、各市町体育協会、県理学療法士会、総合型スポーツクラブ他 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆地域での継続実施を目指し、開催場所に近い所にいる指導員を派遣した。 ◆公認障がい者スポーツ指導者と講習会を受講した方が協働し、その地域の障がい者のスポーツを支えた。 ◆指導者協議会が主体となりフォーラム実行委員会を組織し、実施した。 **【事業成果】** ◆募集周知の拡大を図り、昨年開催した地域からの問い合わせも多く、スポーツへの関心、派遣事業の高まりを実感した。 ◆医療関係従事者へ働きかけ、教室や講習会でアドバイスをもらえたことから、公認障がい者スポーツ指導者の重度障がい、肢体不自由者への対応の幅が広がった。 ◆県の特色であるサッカー競技において、様々な障がい者へ募集をかけたところ、多種の障がい者同士の交流が深まった。また、大会を通じて各地域の指導者の情報交換につながった。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
5	（公財）兵庫県障害者スポーツ協会	【地域のスポーツ環境の特色】 ◆平成25年3月に「兵庫県スポーツ推進計画」を策定し、5つの重点目標のうち、「障がいのある人のスポーツ参加者の増加」を重点目標の一つに掲げ取り組んでいるところである。県下には、各小学校区に1ヵ所ずつ総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ21ひょうご」が設置されており、「障がい者スポーツとの連携に取り組むスポーツクラブ21ひょうごの増加」を掲げているが、まだまだ低調と言わざるを得ない状況である。
		【地域の実情・課題点】 ◆障がい者スポーツは、神戸・阪神地区が活動の中心となっており、実施施設の所在、支援者数の多寡等から地域間格差が生じている。県内全域で障がい者スポーツを推進するための普及啓発のためのスキームの構築が緊喫の課題である。また、各地域における障がい者スポーツに対する理解、認識を醸成するというソフト面での取り組みも重要と考えている。
	兵庫県障害者スポーツ普及・振興事業 ①障がい者スポーツ指導者派遣事業 ②広報事業 〔100万円〕 ※	【事業のねらい】 ◆「する、見る、ささえる」障がい者スポーツの実現をはかるため、『障がい者スポーツとはどのような競技で、どのようなルールで実施し、どのような用具を使用するのか。』など、県民が障がい者スポーツへ積極的な関わりを持ちたいという意識醸成のための普及啓発を図る。 ◆地域のスポーツクラブ21ひょうごで障がい者スポーツを紹介、体験することにより、障がい者スポーツに対する理解、認識を醸成するほか、障がい者のスポーツへの参加機会を確保する。
		【事業内容】 ◆小学校区単位で取り組んでいるスポーツクラブ21ひょうご等のスポーツ団体に対し、障がい者スポーツとの連携を図るために障がい者スポーツ指導員（講師）を派遣し、シッティグンバレーボール、ローリングバレーボール、フライングディスク、ボッチャ、ふうせんバレー、テーブルふうせんバレーなどの体験会を実施した。 ◆障がい者スポーツ広報事業 障がい者スポーツ指導員の派遣事業を掲載した県協会機関誌を県内関係先及び他都道府県等にも配布した。また、障がい者スポーツ指導者協議会その他関係機関・団体が加盟する「障がい者スポーツネットひょうご」と協同でスポーツカレンダー2014を作成した。
		【連携・協力団体】 ◆総合型地域スポーツクラブ、県教育委員会、障がい者スポーツ団体、小学校、障がい者スポーツネットひょうご
		【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆「スポーツクラブ21ひょうご」の事業に障がい者スポーツ指導者を派遣し、障がい者スポーツを体験できる事業を県内全域に広報し、希望があったスポーツクラブに指導者を派遣するモデル事業を行った。
		【事業成果】 ◆「スポーツクラブ21ひょうご」において障がい者スポーツと連携した活動を行っているところは少ないことが課題であり、今回の事業では障がい者スポーツ指導者を派遣し、障がい者スポーツを体験する事業を県内全域に広報し、希望があったスポーツクラブに指導者を派遣するモデル事業を行った結果、障がい者や障がい者スポーツへの理解が促進された。 ◆障がい者スポーツ指導者派遣事業のチラシを県内の全スポーツクラブに配布するとともに、県障がい者スポーツ協会の機関誌により事業PRに務めた。
	※事業内容の変更に伴い、30万円での実施となった。	

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
6	**愛媛県障害者スポーツ協会** 愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業 ①愛媛県障害者サイクリング 大会開催事業 ②愛媛県障害者スポーツ紹介事業 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆H23年に愛媛県スポーツ振興計画（後期）が策定され、住民誰もが地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとなった。 ◆H29年の全国障害者スポーツ大会の開催が決まり、障がい者スポーツの理解と認識を推進していく必要がある。
		【地域の実情・課題点】 ◆障がい者スポーツの普及及び啓発や、指導員の養成及び支援・連携等を目的として、愛媛県障害者スポーツ協会が平成25年4月に発足した。このため、障がい者スポーツへの理解と認識を深めるための事業展開が今後どんどん必要になって来ると考えられる。
		【事業のねらい】 ◆全国障がい者スポーツ大会の啓発と、障がい者の心身の健康増進と社会参加に対する理解を図る。 ◆県知事がサイクリング事業でのタンデム車の公道走行を提唱していることから、障がい者スポーツの振興につなげるためにサイクリング大会を企画する。
		【事業内容】 ◆しまなみ海道の自転車専用部分及び一般道【今治～（来島海峡）～大島】約20㌔のコースを、普段自転車に乗る機会のほとんどない視覚障がい者や知的障がい者等がタンデム自転車や1人用自転車を楽しむサイクリング事業を開催した。 ◆障がい者スポーツの啓発チラシ及びグッズを作成し、県内各市町の福祉団体や障がい者関係機関等に配布するとともに、特別支援学校等を訪問し、障がい者スポーツ体験会（フライングディスク）を併せて実施した。
		【連携・協力団体】 ◆愛媛県、愛媛県教育委員会、特別支援学校、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、NONちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチーム、フライングディスク協会他
		【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆サイクリング大会においては、パイロットとしての役割は勿論、カメラマンやDVD編集係、事前準備等幅広く協力していただき、一つの事業を実施することで今まで以上に連携が図られた。 ◆障害者スポーツ紹介事業においては、フライングディスク協会のサポートや生徒の手足となり動いていただいた。 ◆障がい者スポーツ指導者と障害者スポーツ協会との連携の大切さを改めて感じた。
		【事業成果】 ◆自転車が初体験の障がい者も多く、タンデム自転車でパイロットの先導により、サイクリングを楽しむことができたことは有意義で障がい者の人たちも十分満足した様子であり、思い出に残る大変貴重な体験ができた。 ◆啓発チラシ及びグッズを作成し配布することで、平成29年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会の普及啓発が一層図られた。また、障がい者スポーツ体験会（フライングディスク）で、普段体験したことのない障がい者スポーツを体験することができ、大変有意義な事業となった。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
7	（社福）高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター 障害者スポーツ普及啓発事業 ①ユニバーサルフェスティバル ②伴走者養成講習会 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆スポーツ推進計画では、生涯スポーツの中に障がい者スポーツも含まれているというスタンスであるため、障がい者スポーツの名称を出していない。昨年は県教育委員会の主催する、スポーツ推進委員の新任研修を障害者スポーツセンターで実施。ボッチャの実技体験を行うと共に、障がい当事者との簡単な懇談も行い、障がいのある人も自分の生活する地域で、スポーツが出来る環境を広げていこうという取り組みが徐々に進んできている。 **【地域の実情・課題点】** ◆地形的に東西に長く、障がい者スポーツの振興拠点である県立障害者スポーツセンターの所在する高知市から、県東部へは車で約2時間、県西部へは約3時間かかるため、中央部以外のスポーツの振興は遅れ気味である。東部地域は拠点となる施設がない、普及に努める人材が十分に育ってないだけでなく、障がい者スポーツの情報量そのものが少ない現状がある。 ◆近年、視覚障がい者だけではなく、知的障がい者やその周囲からマラソン等の伴走者を望む声があがっており、組織的な人材養成を行う必要性がある。 **【事業のねらい】** ◆障がい者スポーツに関する情報が少ない県東部地域で、ユニバーサルフェスティバルを実施することにより、障がい者スポーツの新たな普及啓発につなげる。特に、日頃、障がい者スポーツと関わる事のない人に関心を促すため、福島県からゲストを招き、「震災と障がい者」という講演会を企画した。 ◆伴走者養成講習会は、伴走者を組織的に養成することで、一人で走る事が困難な視覚障がい者や知的障がい者が、気軽にランニングに親しむことができる環境づくりを目的とする。更に、イベントの協力団体に高等学校を入れることで、スポーツを通じて障がいのある人の可能性や逞しさに触れてもらうことが出来る。 **【事業内容】** ◆障がい者スポーツ指導者、総合型クラブ関係者、教育委員会、レク協に加えて、地元の高等学校生徒会で実行委員会を構成し、全校生徒や地元住民を対象に障がい者スポーツを体験するユニバーサルフェスティバルを開催した。 ◆視覚障がいに限らず、知的障がい者の伴走者を増やすために、障がい者スポーツ指導者や一般のマラソン愛好者を対象にした伴走者養成講習会を開催した。 **【連携・協力団体】** ◆障がい者スポーツ指導者協議会、総合型スポーツクラブ、県教育委員会、県レクリエーション協会、高等学校生徒会 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆実行委員会スタッフとしてイベントの企画運営に携わる主任級が3名。イベント当日協力の指導員（約15名）には、障がい者スポーツ体験コーナーの主任となってもらい、競技用車椅子の操作やビームライフル、フライングディスクといった競技用具の使用方法を高校生に指導する。 ◆走力のある指導員には、伴走者としての協力を依頼。また、今回講習会を受講されたランナーと選手（障がい者）が練習を行う時に、コーディネーターとして関わりを持ってもらうケースも想定される。 **【事業成果】** ◆県東部地域でイベントを開催することにより、地域の初級指導員と中級指導員（県東部地域の核となる人材として期待している指導員）が、密に連携を取り合うようになった事が今回の事業の最も大きな成果ではないかと考える。 ◆専門的な講師を招き、障害特性について座学と実技も行ったことから参加者も一定の安心感を持って伴走に挑む事が出来るようになった。早速、1月開催された駅伝大会では3名の受講生が伴走に参加してくれるなど成果出てきている。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
8	（公財）島根県障害者スポーツ協会 島根県における 障害者スポーツの振興事業 ①ボッチャ教室開催 ②障害者スポーツ指導員の派遣事業 ③障害者スポーツにおける 情報発信事業 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆平成24年にスポーツ推進計画が策定され、障がいの有無に関わらずスポーツに参加する機会を確保するために、スポーツを提供する組織・団体を支援・育成することとしている。 ◆障がいの特性に応じながら誰もが楽しめるスポーツ活動の推進、また、指導者の研修会等で障がい者スポーツを取り上げるなど、障害のある人もない人も共にスポーツに親しめるよう事業展開がなされている。 **【地域の実情・課題点】** ◆昨年度ボッチャ教室を開催し普及を図ったことで、障がい者スポーツ指導者協議会の活動が活発化し、地域で指導ができる体制が整いつつある。また、ボッチャが県障害者スポーツ大会の競技として導入され、ルール等の十分な周知が必要になってきた。 ◆ボッチャの参加者が障がい者及び障がい者団体が中心であるため、障がいの有無に関わらず事業に参加する事で障がい者スポーツの理解・啓発を図る必要がある。 ◆道具が高価であることから購入が難しく、当協会へ借用を依頼する団体が多い。 **【事業のねらい】** ◆昨年度養成した障がい者スポーツ指導者を中心に、ボッチャ教室の開催や指導者の派遣等を通じて障がいの理解を図るとともに、地域におけるスポーツ活動のツールとしてボッチャの導入を障がい者団体以外へも働きかけていく。 **【事業内容】** ◆昨年度を基盤とし、ボッチャを通じて障がいのある人もない人も一緒にスポーツができるような事業を展開する。実施内容は「ボッチャ教室の開催」昨年度普及講習を受けた指導者による「障がい者スポーツ指導者の派遣事業」、各種事業をホームページに掲載、パンフレットの作成など「障がい者スポーツにおける情報発信事業」を行う。 **【連携・協力団体】** ◆障がい者スポーツ指導者協議会、日本ボッチャ協会、レクリエーション協会、教育委員会、体育協会、スポーツ推進委員協議会 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆昨年度、ボッチャ競技普及委員の講習を受講した障がい者スポーツ指導員が、ボッチャ協会の講師のアシスタントとしてだけでなく、教室運営、実技指導などを主体的に行う機会を設けた。また、ボッチャ指導に関わる指導者の派遣も依頼数が増えている。 **【事業成果】** ◆本事業を通じて多くの団体と協働することで連携を図ることができ、スポーツ協会全般の事業に好循環をもたらしている。 ◆ホームページ等（情報発信事業）の周知から、指導依頼の増加、指導者の活動の場が増えスキルアップにつながっている。 ◆「ボッチャ教室」では障がいのある人ない人が同じ空間でスポーツを行うことで、障がい者スポーツの理解・啓発が促進され、また組織化の機運が高まってきた。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
9	（一社）山口県障害者スポーツ協会	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆昨年3月に「山口県スポーツ推進計画」を策定し、地域の障がい者が自主的、主体的に参加できるスポーツ環境づくりを推進していく必要があるとしている。 ◆地理的には山口市を中心としているが、各地に同規模の都市が点在し、障がい者スポーツの拠点化には苦労している。
		【地域の実情・課題点】 ◆平成23年に開催した「おいでませ山口大会」の成果で、県民の障がい者スポーツへの理解や障がい者のスポーツへの意欲は大いに高まってきているが、障がい者が各地域で実践するにはまだまだ多くの問題や課題を残している。 ◆当協会では、県内7ブロックに障がい者スポーツ推進員１名を配置し、地域における障がい者スポーツの推進に努めている。今後は推進員がこれまで進めてきた地域の組織（拠点）づくりだけでなく、総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員に働きかけ、推奨スポーツ（ボッチャ、卓球バレー、ふうせんバレー）の障がい者スポーツ教室や大会開催支援を積極的に実施すること、そして指導者や支援者の養成が急務である。
	山口県における 障害者スポーツ地域推進事業 ①地域障害者スポーツ教室開催事業 ②障害者スポーツ体験教室事業 ③地域障害者スポーツ大会開催事業 ④障害者スポーツ大会指導者派遣 及び養成事業 ⑤情報発信事業 〔200万円〕	**【事業のねらい】** ◆共生社会の実現に向けて、地域の障がい者が自主的、主体的に参加できるスポーツ環境づくりのために、ボッチャ、卓球バレー、ふうせんバレーのレクスポーツを県内7ブロックに普及させることや総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員、特別支援学校に働きかけ、障がい者スポーツ教室や大会開催支援を積極的に実施することにより、障がいのある人もない人が一緒にスポーツを楽しむ交流スポーツ大会を実現させる。 ◆教室や大会の充実のために、企画立案やコーディネートできる指導者や支援者やボランティアの養成と確保を行う。
		【事業内容】 ◆身近な地域で障がいのある人とない人が交流する、地域障害者スポーツ教室事業を開催した。 ◆障がいのある児童生徒がスポーツの楽しさを体験する、障害者スポーツ体験教室事業を開催した。 ◆身近な地域で障がいのある人とない人が交流する、地域障害者スポーツ大会事業を開催した。 ◆障がい者のスポーツを支えるボランティアを養成する講習会等を開催した。 ◆県内の障がい者スポーツクラブチームを紹介する情報発信事業を行った。
		【連携・協力団体】 ◆総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員連絡協議会、各市町社会福祉協議会、地域の障がい者スポーツ拠点、県内の大学のボランティア、特別支援学校体育連盟、特別支援学校長会、障がい者スポーツ団体・クラブ、障がい者スポーツ指導者協議会
		【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】 ◆各地域の総合型地域スポーツクラブや障害者スポーツ推進員と協議しながら各地域の実態に応じて対応した。 ◆各校の実情に応じて教室の対象者や講師（指導者）の派遣について検討した。 ◆レクスポーツ大会の各競技の運営に指導員を活用した。 ◆指導者や医科学スタッフを派遣することにより、練習や大会の安全や効率化が図れた。また、レクスポーツの普及指導員及び審判員を養成した。
		【事業成果】 ◆県内7ブロックで核となる組織づくりを行うため、障がいのある人もない人も親しめる種目の教室を各地域で開催し、共に楽しめる交流の場にもなった。 ◆特別支援学校3校において出前スポーツ教室を実施し、スポーツや運動に積極的に取り組める児童生徒の育成ができた。 ◆障がいの有無に関わらず参加できるスポーツ・レクリエーション大会を開催し、各大会では支援者も一緒に楽しむことができた。 ◆各地域のスポーツクラブや大会において、延べ172名の医科学スタッフや障がい者スポーツ指導者を派遣することができた。また、ふうせんバレー、卓球バレー、ボッチャの審判員の養成については、各スポーツ団体の事業や初級指導者養成講習会の中でも積極的に取り上げることができた。 ◆障がい者がスポーツに興味関心を持ち、各地域で参加できるように障がい者スポーツ活動団体やスポーツクラブのリーフレットを指導者と企画し4000部配布した。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
10	福岡県障害者スポーツ協会 福岡県内における 障害者スポーツ振興事業 ①大木町軽スポーツ教室事業 ②地域における指導者の派遣事業 ③ジュニア選手発掘・育成事業 （ラケットスポーツ等） ④障害者スポーツ理解啓発事業 （スポーツフェスタ：車椅子ツインバスケ等） 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆当県のスポーツ推進計画は、大きく5つの柱に分かれており、障がい者のスポーツは「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」に属し、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツ活動ができる環境づくり、障がいの有無に関わらず共に尊重し、支えあう共生社会の実現に取り組んでいる。 ◆県内が4地区に分かれ、それぞれ多様な地域特性があるとともに、スポーツの支援にあたり障がい者スポーツ指導員資格の認定校を含めた様々な地域資源がある。 **【地域の実情・課題点】** ◆過去3年間の「地域振興事業」により、筑豊地域（県内をブロックで分けると福岡地区・北九州地区・筑豊地区・筑後地区）では自主的活動（知的水泳・バスケ）が進んでいるが、他の地域（北九州・筑後）での継続的なスポーツ活動が課題となっている。 ◆県内の認定校は13校（内中級認定校は3校）あるが、地域と認定校との連携についても地域差があり、継続的なスポーツ活動を実施するためには地域組織と認定校・障がい者スポーツ指導者をどのように繋ぐかが課題である。 **【事業のねらい】** ◆認定校と地域の障がい者スポーツ指導者及び地域組織が連携し教室事業を実践するとともに自主活動を目指す。 ◆障がい者スポーツの普及・振興を図るとともに、地域指導者の育成を図る。 ◆ジュニア選手のスポーツ活動の場及びサポート体制の構築を図る。 ◆認定校及び地域組織が連携し、啓発事業(スポーツフェスタ)を企画・実践することで、地域のキーパーソンを育成する。 ◆昨年の派遣事業において新たな連携が図れた国際医療福祉大学（中級認定校）と協力し、学生自ら指導プログラムの作成、実践へと繋げることで、経験を養い、継続的サポートを目指す。 ◆対象者・障がい・種目等に合った専門スタッフを派遣するとともに地域からの指導者を併せて派遣することで、人材育成を図るとともに継続したサポート体制を構築する。 ◆2020年パラリンピックに向けて、今年度当協会事業で実践することが困難なジュニア選手の発掘・育成する。さらにスポーツ活動を行う場・経験を必要とする子どもたちを対象として事業を実施するとともに専門指導者の育成も図る。 ◆認定校の施設を活用し、学生を中心として障害の有無に関わらず参加型の啓発活動を実践。当協会会員クラブを参加させることで交流を促す。また、障がい者スポーツを体験することで理解啓発を図る。 **【事業内容】** ◆筑後地区において、ストレッチ＆コーディネーション運動と軽スポーツ（ふうせんバレー・フライングディスク・ソフトボウリング等）教室を実施した。 ◆地域ニーズに沿った障がい者スポーツプログラム（ボッチャ・フライングディスク・卓球バレー・車椅子バスケットボールなど）を実施するために障がい者スポーツ指導者を派遣した。 ◆ジュニアを対象としたラケットスポーツ等の選手発掘・育成、基礎（基礎体力測定、車椅子操作、ラケットの握り方、スイング、サーブ、ラリー、ルール解説）、応用（シングルス、ダブルス、ゲーム） の事業を開催した。 ◆大学生（認定校）を対象とした、車椅子ツインバスケットボール交流会、障がい者スポーツの紹介・体験会を実施した。 **【連携・協力団体】** 国際医療福祉大学（中級認定校）、大木町社会福祉協議会、県内のスポーツ推進委員及び総合型クラブ、県内の特別支援学校、障がい者スポーツ指導者協議会、県内の障害者施設等 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆地域の障がい者スポーツ指導者が地域組織との連携を図り、また、クラブをサポートしている指導者が認定校の学生と連携し、参加者のレベルに沿った指導を実践した。 **【事業成果】** ◆大木町軽スポーツ教室（筑後地域）事業では、国際医療福祉大学（中級認定校）の資格取得学生が毎回（5～7名）参加し、延べ47名がサポートをした。10月からの指導プラグラムは学生が作成し、プログラムを展開した。また大木町社会福祉協議会とみすゞの会（保護者と支援者の会）が連携し教室を運営できた。 ◆地域における指導者の派遣事業では、指導者の派遣実績は11回であった。過去3年間の派遣において、依頼団体へ予算確保を要請した成果がみられた。 ◆ジュニア選手発掘・育成事業（ラケットスポーツ等）において、バドミントンでは競技団体の指導者（スポーツコーチ）と日本代表が所属する会員クラブと連携ができた。テニスでは地域の総合型地域スポーツクラブ（桜花台クラブ）、久留米大学（中級認定校）との連携が図られた。 ◆障害者スポーツ理解啓発事業（スポーツフェスタ：車椅子ツインバスケットボール等）では、認定校の学生が選手との交流により、障がいの特性や障がい者スポーツ（車椅子ツインバスケットボール）を体感する場となった。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
11	大分県障がい者体育協会 大分県における 障害者スポーツの振興事業 ①大分県内における障がい者スポーツ体験会開催のための指導員派遣 ②各小中学校におけるスポーツ体験会 〔200万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆平成20年に開催された第8回全国障害者スポーツ大会（チャレンジ！おおいた大会）を契機に、障がい者スポーツの普及に取り組んできた。新しく設立された団体も加わり、21団体もの障がい者スポーツ団体が活動を行う。それに伴い障害者スポーツ指導員の数も増加している。 **【地域の実情・課題点】** ◆全国的に障害者スポーツ指導員の登録割合は多い。しかしながら、障がい者スポーツの実施は各地区で偏りがあり、指導員の活動状況も同様にバラつきがある。要因としては、派遣指導者や各地域における障がい者スポーツ大会の固定化があげられる。 ◆障がいの有無に関わらず、誰もがそれぞれの個性やニーズに応じた活動を楽しめるようなスポーツ・レクリエーションを通じて、障がい者スポーツの振興を図っていくことが必要である。 **【事業のねらい】** ◆障がいの有無に関わらず、地域において楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及推進。 ◆各小中学校での障がい者スポーツの講演・体験会を開催することにより、児童生徒が障がい者スポーツの理解促進を図る。 **【事業内容】** ◆地域において楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及・振興活動として県内各地でユニバーサルスポーツを中心にした障がい者スポーツ体験会を計30回実施した。 ◆県内の小中学校を対象に、障がい者スポーツの講話や体験会を計34校で実施した。 **【連携・協力団体】** ◆総合型地域スポーツクラブ、障がい児・者施設、特別支援学校、社会福祉協議会、教育委員会、青少年育成委員会、自治会連合会、教育委員会、教育事務所、社会福祉協議会、小中学校 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆県協会事務局と共にイベントの企画や広報など運営を主体的に実施した。障がい者スポーツを幅広い年齢層の方に体験指導するほか、各総合型地域スポーツクラブ・施設等で取り組む時のアイデアを伝えた。 ◆障がい者スポーツの歴史やルールについて講演を行い、参加児童・生徒に障がい者や障がい者スポーツに関する理解を深めた。 **【事業成果】** ◆教育委員会、社会福祉協議会、福祉関係者、障がい者スポーツ関係団体等との連携体制の強化にも繋がり、今後の障がい者スポーツの振興にあたっての基盤づくりとして効果が大きかった。 ◆事業を実施した中で、支援学校を対象に体験会を開催したことはとても成果として大きなものとなった。会場を支援学校とすることにより、対象となる参加者も多く集まり、障がい者スポーツを初めて行うきっかけ作りにもなった。 ◆県内各地で障がい者スポーツ体験会を開催し、障がい者だけではなく、地域住民も参加し交流できる場を設けることができた。 ◆各小中学校で障がい者スポーツの講演・体験会を開催することができ、児童生徒が障がい者スポーツの理解を深めるきっかけづくりができた。

No.	実施団体名 事業名	実 施 概 要
12	（特非）沖縄県障がい者スポーツ協会 沖縄県における 障がい者スポーツ振興事業 ①サッカークリニック ②水泳記録会 ③アダプテッドスポーツキャラバン 〔100万円〕	**【地域のスポーツ環境の特色】** ◆現在、沖縄県は「スポーツアイランド沖縄」と称して、スポーツ先進県ということをアピールしている。これまで福祉的イメージの強かった障がい者スポーツの分野は、沖縄県障がい者スポーツ協会を中心に、スポーツ推進計画に基づき競技的な要素も強め、一般競技と同様に、スポーツ・ツーリズムを積極的に展開していくことが期待されている。 **【地域の実情・課題点】** ◆離島県である沖縄では他県と比べて競技スポーツに触れる機会が少なく、県内でも沖縄本島と比べ離島の障がい児(者)は、その機会がさらに減少する。ゆえにスポーツ活動を展開・参加する団体は限られた中での取り組みとなり、新規の参加者数を伸ばすことが難しい現状にある。 ◆指導員の活動の場も同様で、学ぶ機会が少ないことが課題。 **【事業のねらい】** ◆スポーツを体験する楽しみ、目標に向かって挑戦する楽しみ、専門指導者から学ぶ楽しみを感じてもらい、スポーツに対する親近感をもたせる。 ◆交流事業では、本島・離島・県外からの参加者間の交流を図り、継続的に運動を楽しみたいと思う動機づけにつなげる。 **【事業内容】** ◆サッカーイベントとしてフットサル大会を、プロサッカー選手が指導するサッカークリニックを計3回開催した。 ◆6月に本県で開催された身体障害者水泳選手権をきっかけに、冬季トレーニングの一環として1月に障がい者水泳記録会を開催した。 ◆障がい者スポーツ体験と障がい者アスリート講演が軸となる普及啓発イベント「アダプテッドスポーツキャラバン」を宮古島など離島を含め計11回開催した。 **【連携・協力団体】** ◆一般社団法人琉球スポーツサポート、NPO法人ナインプロモーション沖縄、総合型スポーツクラブサンビスカス沖縄、プラン・ドゥ・ハプンスタンス株式会社、琉球フットボールクラブ株式会社、市町村教育委員会、県水泳連盟審判員、市町村社会福祉協議会、市町村体育協会、県内小学校及び特別支援学校、広告会社等 **【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】** ◆総合型スポーツクラブスタッフ、Jリーガーの補助スタッフとして参加。 ◆九州大会で実行委員会を経験した指導者が中心となり、町営プールスタッフと連携し企画・運営を行った。 ◆スポーツ協会職員と連携し、事業企画・運営を実施。当日は安全指導にあたった。 **【事業成果】** ◆県内外のトップアスリートを活用したイベントの開催や、離島での活動をこれまで以上に展開することができ、参加者が新たなスポーツ活動の発見に繋げられた。 ◆サッカーイベントでは、普段関わる機会の少ない県外のJリーガーに指導いただき、子ども達へ大きな夢を与えることができた。また、障がい種別や障がいの有無に関係なく、サッカーを通じて楽しめたことで、共生社会の一つの形が実現できた。 ◆他競技においても、参加対象を設けず障がいの有無の関わらず共に参加できるプログラムを実施することで、新たな選手発掘、その選手をサポートするための指導者となる人材の確保に繋がったことは大きな事業成果であった。

Ⅲ　まとめと今後の課題

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指すために、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、スポーツ教室やスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができること、そして、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与することを目的に 12 団体が事業を実施した。

まず、12 団体の事業内容を整理し、以下のようにまとめた。

※文中で、事業を実施した 12 団体を総称する場合「県障がい者スポーツ協会」とし、県と政令市を含む地域全体をさす場合も「県」と表現した。

1　事業実施の背景

1）県独自の障がい者スポーツ振興に関する制度・計画とのつながり

各県では、それぞれの実態に沿ったスポーツ振興に関する計画が策定され、中でも、障がい者スポーツの推進を具体的な目標として掲げた地域も増えてきている。しかしながら、県民それぞれのライフステージに沿ったスポーツ振興を謳いながらも、障がい者が身近な場所で継続してスポーツを楽しむ環境づくりにはまだまだ障壁が多い。

そのため、本事業での取り組みは、各地域の計画を推進し、そして牽引する重要な役割を担っているとともに、スポーツ環境整備への大きなきっかけづくりになっていると考えられる。

2）多くの県に共通する課題が明らかになってきている

それぞれの県が共通する課題として、“普及が進んでいる地域”と障がい者スポーツに関する取り組みが行き届かず“障がい者スポーツ未開の地域”があるなど地域格差があるのは否めないが、本事業を昨年から継続申請した団体においては、さらに内容を拡充させるような事業の実施、過去の事業の成果をモデルに未開の地域への障がい者スポーツ普及に着手するなど、今年度も様々な事業プランがみられた。

2　事業内容の特徴

1）指導者が地域に出向いていく“出張型”事業の充実

多くの県では、拠点となる施設がある中心部とそれ以外の地域との取り組みの格差が課題となっている。そこで、障がい者スポーツ指導者や中には認定校の学生を活用して地域に出向いていく出張型の事業が広がっている。また、学校に出向き児童・生徒を対象に障がい者スポーツを普及させる取り組みも行われている。

新潟県、静岡県、島根県、山口県など本事業を継続して実施している県においては、スポーツの普及が未開拓な圏域を中心に取り組みを進めている。

新潟県では、昨年の佐渡地域に続き、今回は上越地域において健康・レクリエーション教室やボッチャ教室を開催、静岡県では、全市町生涯スポーツ主管課会議において募集をかけ、昨年度実施できなかった 5 地区においてサッカーを中心とした地域ネットワーク型トライアル教室を開催している。島根県では、昨年度の本事業でボッチャの普及を図り、今年度より県障害者スポーツ大会の実施競技となるまで発展している。また、新たな普及のためにボッチャ教室を 4 市で開催し、障がいのない人に対して障がいおよび障がい者スポーツへの理解促進を図っている。山口県では、山口市を中心に同規模の都市が点在し、障がい者スポーツの拠点化に苦労していることから、県内 7 ブロックにおいて地域障がい者ス

ポーツ教室を開催した。

また、特別支援学校・学級の児童・生徒がスポーツに触れるための事業と障がいのない子供たちへの理解啓発を目的とした事業も進められている。北海道では、特別支援学級という新たなターゲットを開拓し、学級で学ぶ児童・生徒へスポーツに対する潜在的なニーズを顕在化させることを目的に巡回スポーツ教室を開催した。山口県においても障がいのある児童・生徒がスポーツを愛好し、スポーツに親しむために、特別支援学校校長会や特別支援学校体育連盟の協力を得て体験教室を開催した。大分県では、小・中学校において障がい者スポーツ体験会を開催し、障がいや障がい者スポーツの理解を促進している。

２）効果的な事業継続を見据えた「人、施設、団体　等」との連携

本事業の大きな目的として、各団体が地域の障がい者スポーツの統括団体として、地域資源とのネットワークを構築し、障がい者が自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組めるように環境づくりを進めることとしている。今回、各地域において様々な「人、施設、団体」との連携が図られ、事業が展開された。

新潟県では、上越地域の活性化事業において、上越市教育委員会、総合型地域スポーツクラブ、地元スポーツ推進委員などの多方面との連携ができ、今後の上越地域での活動における支援体制構築の道筋をつけることができた。また、県体育協会と協働することでスポーツ医科学センターとの連携を図ることができた。

静岡県では、今回の事業を実施するにあたり、「ふじのくに地域スポーツ推進会議」に参画することで、行政、体協、レク協、スポーツ推進委員などに事業を紹介することができ、障がい者スポーツへの意識が高まってきている。また、県理学療法士会と講習会を共催したことで、障がい者スポーツ指導員の知識向上、スキルアップを図ることができた。

高知県では、スポーツの普及が進んでいない地域においてユニバーサルフェスティバルを開催し、障がい者スポーツ指導者が地域の施設職員と連携を図り、施設行事としてイベントに参加する道筋が立ち、地元高等学校の生徒会が実行委員会に参画したことが大きな特徴となった。

愛媛県では、県知事がサイクリング事業でのタンデム車の公道走行を提唱していることから、県庁や地元企業のサイクリングチームと連携を図り、視覚障がい者や知的障がい者を対象としたサイクリング事業を開催できた。

沖縄県では、各種の障がい者サッカーの普及・競技力向上を目的として、MIX サッカーフェスタを開催した。クリニックでは、地元の FC 琉球の選手やトレーニングキャンプに来ている J リーガーの指導を受けるなど、プロ選手からの刺激は大きな成果であった。

山口県では、地域に障がい者スポーツ指導者を配置し、各地域の教育委員会、高齢障害課、社会福祉協議会、小・中学校校長会、特別支援学校、大学、社会福祉法人などの組織と協議し、事業の企画を行っている。現場での実施体制は、障がい者スポーツ指導者、上記組織の職員やボランティア、当該市町村のスポーツ推進委員、競技団体指導者、総合型地域スポーツクラブなどの協力を得ている。

福岡県では、認定校と連携した地域スポーツ教室事業を開催し、指導者資格取得を目指す学生が毎回（5～7 名）参加、延べ 47 名がサポートした。後半からは指導プログラムを学生が作成し、さらに大木町社会福祉協議会とみすゞの会（保護者と支援者の会）とも連携を図り教室を運営した。

３）「障がい者スポーツを体験する」ことを重視した「スポーツに触れる」「体験する」機会の充実

障がい者にとって、「スポーツは難しい、自分には無理」というような印象を抱いている場合がある。そのようなイメージを払拭するためには、気軽にスポーツやレクリエーションを体験できる環境が必要であり、また、周囲の障がいのない人が障がい者スポーツを知ることによって理解促進が図る効果があ

る。本事業では、両方の側面で「障がい者スポーツを体験する」場が広がった。

まず、障がい者へのスポーツ体験会の実施では、北海道や山口県、大分県において、特別支援学校や特別支援学級に障がい者スポーツ指導者が出向き、フライングディスクやボッチャなど比較的取り組みやすいプログラムに加えて、タンデムやハンドサイクル、卓球バレーなど地域の特徴に合わせた内容も実施された。このように、子供の頃にスポーツに出会うことで、心身の成長とともに生涯にわたってスポーツを愛好し、スポーツの楽しさを経験するという効果が表れている。

また、新潟県、栃木県、静岡県、島根県、山口県、福岡県、沖縄県などの多くの県で、当事者を対象としたスポーツ体験会が実施されている。今回の特徴としては、県の実情に合わせたスポーツに絞った体験会が実施されたことである。主なものとして、ボッチャ、キャンプ、サッカー、卓球バレー、ふうせんバレーなどであり、特にボッチャの実施度が高いことがわかる。

次に、障がいのない人に向けたスポーツ体験会では、学校を対象とした理解啓発と地域住民への理解啓発の両面がみられた。大分県では、障がい者スポーツ指導者や競技団体、社協と連携し、年間を通じて計 34 の小・中学校で障がい者スポーツの歴史やルールの講演や体験会を実施した。福岡県では、認定校の大学生を対象とした障がい者スポーツフェスタを開催し、在学中に障がい者スポーツのサポートができるような仕組みづくりが始まっている。また、静岡県、愛媛県、山口県、沖縄県などでは地域住民を対象とした体験会が開催されており、沖縄県ではスーパーマーケットにおいて障がい者スポーツ用具の展示会を行うなど、スニークな取り組みが始まった。

4）ターゲットを絞り込み短期的に成果が見えた、県の独自性が見られた事業の取り組み

3)のように、障がいの有無に関わらず、多くの方々が障がい者スポーツを体験する事業に加えて、今年度の事業の特徴の一つとして、対象者を絞り込んだ事業を行うことによって、短期的に成果がみられた取り組みが挙げられる。

栃木県では、平成 34 年の全国障害者スポーツ大会開催に向けて、団体競技の普及・強化が課題となっており、特に知的障がい者のバスケットボールとサッカーをターゲットとし強化事業を実施した。結果として、県サッカー協会と連携し、サッカーフェスティバルを開催できたことでサッカーチーム創設に至っている。

高知県では、ここ数年、視覚障がい者だけではなく、知的障がい者やその関係者から伴走の依頼が増えていることから、教育委員会の協力を得て伴走サポーターを募集し、伴走者養成講習会を開催した。結果、団体主催の駅伝大会で受講生が伴走するなど、活動の場が始まっている。

新潟県では、東京パラリンピックに向けて、県内競技者の支援に資することを目的として「新潟県選手発掘・育成策検討委員会」を立ち上げ、県協会としての課題や競技者支援策をまとめ、障がい者スポーツ振興・環境整備を図ることと併せ、スポーツ医科学センターを活用した事業をモデル実施し、今後の競技者支援のために専門機関との関係づくりを進めた。結果として、次年度の新規事業を受託することとなった。

3　組織連携の取り組み

各団体は、１．２)に記したとおり、地域の実情や内容に合わせて連携すべき人や組織、機関の協力を得て事業の運営を行っている。

本事業では、各団体と障がい者スポーツ指導者協議会との連携強化を図ることを事業のねらいの一つにしているが、各団体では、さらに地域の実情や事業の内容に合わせて様々な地域の人や組織と連携し事業を実施していることが明らかになった。

各団体の組織連携を表のとおり整理した。

【連携団体　一覧】

◆各都道府県 障がい者スポーツ指導者協議会は除く

No.	連　携　先				北海道	新潟県	栃木県	静岡県	兵庫県	愛媛県	高知県	島根県	山口県	福岡県	大分県	沖縄県
					初	2年目	初	2年目	初	初	2年目	2年目	2年目	4年目	初	2年目
1	行政関係	15	県・市担当主管課	6		●		●		●		●	●	●		
2			県・市教育委員会	9	●	●		●	●		●	●	●		●	●
3	教育関係	25	青少年育成委員会	1											●	
4			教育事務所	1											●	
5			学校長会 （特別支援学級設置校含む）	2	●								●			
6			特別支援学校長会	1									●			
7			小・中学校・高校	8	●		●	●	●		●			●	●	●
8			専門学校・大学	2									●	●		
9			特別支援学校・学級	7			●	●		●			●	●	●	●
10			特別支援学校体育連盟	2			●						●			
11			視覚障害教育校体育連盟	1										●		
12	スポーツ関係	30	県・市・町体育協会	5		●		●				●		●		●
13			県レクリエーション協会	3							●	●			●	
14			スポーツ推進委員連絡協議会	4				●				●	●	●		
15			一般競技スポーツ団体	4			●	●					●			●
16			スポーツ関連団体	3			●						●			●
17			総合型地域スポーツクラブ	8				●	●		●	●	●	●	●	●
18			企業スポーツ団体	1						●						
19			プロスポーツ団体	2			●									●
20	福祉関係	30	県・市・町社会福祉協議会	8		●		●			●	●	●	●	●	●
21			障がい児・者施設	2										●	●	
22			身体障害者福祉協会	4		●		●				●		●		
23			身体障害者団体連合会	2									●		●	
24			肢体不自由児・者父母 の会連合会	1											●	
25			知的障害者福祉協会	2				●					●			
26			手をつなぐ育成会	2				●					●			
27			精神障害者福祉会連合会 精神保健福祉連合会	2				●					●			
28			障害者施設協議会	2		●							●			
29			健康福祉センター	1				●								
30			勤労身体障害者教養文化 体育施設（サン・アビリティーズ）	1									●			
31			その他　障がい者団体	3									●	●	●	
32	障がい者 スポーツ関係	16	障がい者競技スポーツ団体	6		●	●			●	●	●	●			
33			障がい者スポーツ関連団体	4	●			●	●				●			
34			障がい者スポーツセンター	1		●										
35			勤労身体障害者教養文化 体育施設（サン・アビリティーズ）	1									●			
36			障がい者スポーツの クラブ・サークル	4						●			●	●	●	
37	その他	5	自治会連合会	1											●	
38			県理学療法士協会	1				●								
39			メディア （新聞社、放送局等）	1				●								
40			一般企業	2										●		●
					4	8	7	17	4	5	6	9	23	14	14	10

昨年の本事業では、県の福祉行政や教育委員会と連携を図った団体は2団体だけであり、障がい者スポーツ競技団体との連携も少なく、県協会の現状として表れていたが、今年度は半数を超える団体が県の福祉行政、教育委員会、小・中・高等学校、特別支援学校・学級、総合型地域スポーツクラブ、社会福祉協議会、障がい者競技スポーツ団体などと連携を図り事業を進めており、本事業が地域に浸透してきたことがうかがえる。

また、本事業を複数年実施している団体は、今年度初めて実施した団体と比べて、連携数が倍近い団体も多く、事業を継続して実施することが地域との連携を深めることに繋がっていると思われる。

４　障がい者スポーツ指導者の活動

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりのために、障がい者スポーツ指導者の活用を促すこととしている。障がい者スポーツ指導者の活動は、単なる補助ではなく、事業の企画や運営、また他団体の指導者とのコーディネーターとしての役割が期待されている。また、今年度の特徴として、指導者資格取得を目指している認定校の学生が、主体的に事業運営する取り組みも見られた。

北海道では、上級障がい者スポーツ指導員がメイン講師として全教室に赴き、スポーツ教室の企画から運営に至るまで全般にわたって主導的な役割を担い、初級および中級の資格を有する他の指導者の指導的な立場で取り組んだ。

栃木県では、バスケットボール選手発掘・育成事業において、認定校の学生が指導を補助するなど、チームを運営するにあたり、継続したサポートの基盤づくりができたと思われる。また、障害者スポーツふれあい事業わかくさアリーナ祭は、企画段階から実践に至るまで、障がい者スポーツ指導者が積極的に参加していた。

島根県では、昨年度、ボッチャ競技普及委員の講習を受講した障がい者スポーツ指導者が、ボッチャ協会の講師のアシスタントとしてだけでなく、教室運営、実技指導などを主体的に行った。結果として、ボッチャ指導に関わる指導者の派遣依頼数が増えてきている。

高知県では、障がい者スポーツ指導者が実行委員会スタッフとしてイベントの企画・運営に3名が携わり、イベント当日には約 15 名が障がい者スポーツ体験コーナーの主任として、競技用車椅子の操作やビームライフル、フライングディスクといった競技用具の使用方法を高校生スタッフに指導した。
また、伴走者講習会では、走力のある障がい者スポーツ指導者が参加、今後は講習会を受講したランナーと選手（障がい者）が練習を行う時に、コーディネーターとしての役割が期待される。

愛媛県では、サイクリング大会においてパイロットとしての役割はもちろんのこと、カメラマンやDVD編集係、事前準備等幅広く協力し、県協会と指導者が事業を協働することで今まで以上に連携が図られた。

大分県では、団体の事務局と共にイベントの企画や広報などの運営を主体的に行い、障がい者スポーツを体験する幅広い年齢層の方に指導するほか、各総合型地域スポーツクラブや施設などで取り組むアイデアを指導する役割を果たした。また、指導者が小・中学校において、障がい者スポーツの歴史やルールについて講演を行い、児童・生徒に障がい者や障がい者スポーツに関する理解を深めた。

福岡県では、地域の障がい者スポーツ指導者が地域組織との連携を図り、また、障がい者スポーツクラブをサポートしている指導者が認定校の学生と連携し、参加者のレベルに沿った指導を行った。

５　地域振興事業の成果

地域のスポーツ実情は異なっており、各団体が様々なアプローチでスポーツ推進に取り組んでいることがわかる。昨年度からの継続によってみえてきた成果も含めて、下記の４項目で整理した。

１）障がい児者のスポーツ活動機会の拡充（場づくり）

・出張型の事業展開に力を入れることで、障がい者スポーツ振興の地域格差解消が進んだ
・事業での取り組みが特別支援学校、学級の体育授業へ反映された
・協力団体との連携により、全国障害者スポーツ大会に向けたチームが地域に設立された
・障がいの有無に関わらず楽しむことができるスポーツが地域に定着した

２）障がい児者に対するスポーツへの理解啓発（スポーツに取り組む意識の変化）

・障がいのあるこどもたちにスポーツや運動への興味関心、好意的なイメージを育てることができた
・障がい当事者の新たなニーズを開拓できた

３）地域社会に対する障がい者スポーツへの理解啓発（障がい者スポーツを支える側の意識の変化）

・事業の実施施設が、地域の障がい者スポーツの拠点施設として地域住民に認知された
・事業をきっかけに、一般体育施設に障がい者の施設利用に対する理解が進み、配慮がなされるようになった
・地域で盛んなスポーツを取り入れることで、障がいの有無を問わず県民の交流がみられた
・特別支援学校と一般校との交流が図られ、共に楽しむ機会ができた
・事業を通して、県内の多くの小・中学校のこどもたちに障がい者スポーツの理解が深まった

４）事業が継続していくための仕組みづくり（組織連携、人づくりなど）

・継続した事業によって、県内全域にわたり、障がい者スポーツの拠点づくりが推進された
・障がい当事者のニーズに応える事業に着手し、継続させるための仕組みができた
・事業を通じて、障がい者スポーツ指導者資格取得認定校や障がい者スポーツ指導者と県内各地域の関係機関との連携が深まり、取り組みを継続させるための仕組みづくりが進んだ
・取り組みが評価された地域では、県の次年度予算に計上されるなど新たな取り組みに着手できる可能性がみえてきた
・新たな協力団体との協働が、関わる指導者にとっての資質向上の機会になった
・事業を通じて、新たな関係機関との連携体制が構築できた

本事業の目的である、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境を作るという視点でみると、障がい者のスポーツ環境の整備が未開拓な地域やこれからスポーツに触れることになる特別支援学校・学級に出向く事業を多く実施したことで、地域間の格差が解消されたことや体育の授業に反映されるなど、幅広い年齢層の障がい者に対して、スポーツに触れ合うきっかけづくりが進んだと思われる。

また、障がいのない人に対する啓発活動が活発に行われたことで、一般体育施設における障がい者の利用が促進されたことや多くの小・中学生に対して障がいや障がい者のスポーツの理解が深まったと考えられる。

さらに、継続して本事業を実施している団体は、各地域における障がい者スポーツの統括組織としてより組織連携を強めることができており、障がい者スポーツ指導者協議会だけでなく、認定校をはじめ県内各地域の関係機関との連携が深まり、障がい者スポーツの拠点づくりの推進になったなど、大きな成果がみられた。

6　今後の課題

今後の地域振興事業における課題について、以下のようにまとめた。

1）指導者、支援者の資質向上と活動促進

・障がい者の身近なところにいる、その地域の障がい者スポーツ指導者、支援者の活動の促進と定着
・指導者の指導レベル（スポーツ指導、企画運営のマネジメント力など）の向上
・指導者の活動状況の把握や障がい当事者とのつながり方など支援体制の構築
・週末だけでなく、平日に活動できる障がい者スポーツ指導者、支援者の確保
・地域で障がい者に関わる方々が、障がい者スポーツに興味を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなるような情報発信などの工夫

2）障がい者スポーツの活動拠点の整備

・地域で日常的にスポーツができる施設確保と用具の整備
・地域の実情に合わせた実施場所や日程の調整

3）障がい者のスポーツに関するニーズの把握と障がい者のスポーツ活動の継続に向けた仕組みづくり（各関係との連携強化）

・スポーツに関する地域ニーズの掘り起こし
・「学校体育」から卒後の継続したスポーツ活動への移行、仕組みづくり
・スポーツ活動継続に向けた、県域にわたる多くの障がい者スポーツ拠点づくり
・障がい者スポーツを支援する関係団体のネットワークの構築
・事業を継続していくこと、自立した活動を進めていく上での財源の確保

本事業では、各団体が障がい者スポーツ指導者の活用を促し、スポーツ教室やスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに親しむということを目指している。そのためには、障がい者スポーツ指導者の資質向上が求められている。障がい者との接し方はもちろんのこと、スポーツの指導力、事業の企画運営のマネジメント力など、初級・中級・上級でそれぞれの役割がある。団体では、そのために核となるリーダーの育成や若手の指導者の開拓などが課題となっており、さらに、「学校」という環境での取り組みを進める場合には、平日に活動できる障がい者スポーツ指導者の確保が必要なため、様々な領域の方々が指導者資格を有することができるよう、各団体において指導者の養成が期待される。

また、障がい者がスポーツを実施するための拠点を広げることも課題に挙がっており、多くの団体が、障がい者スポーツの拠点づくりが進んでいる地域と取り組みが行き届かず「障がい者スポーツ未開の地域」があることを挙げている。しかし、本事業を継続申請した地域においては、さらに内容を拡充させるような事業の実施、過去の事業の成果をモデルに未開の地域への障がい者スポーツ普及に着手するなど、徐々にではあるが課題解消が進んでいることがわかる。

さらに、事業を実施する運営側の課題としては、各団体ともに事業計画を作成し、計画に基づき準備を進めていただいたが、天候の問題や協力団体等との調整が思うように進まないなど、事業内容をやむを得ず修正しなければならない状況が発生した際の対応である。

今年度は、11 月に進捗状況の確認を各団体にし、事業の進行状況や予算の執行状況、その他の起きている課題等の把握に努めたが、残念ながら大幅な事業内容の変更をしなければならない団体があった。公的な助成金による事業を進める上では、常にそのようなリクス管理は当協会、実施団体の双方にとっ

て心得ておかなければならない内容であり、常に先を見越した情報共有が必要であると感じた。

7　おわりに

当協会のビジョンでは、障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、さらにはライフステージに応じて、身近な地域でみんなと一緒に日常的にスポーツを楽しめる「生涯スポーツ」の環境の整備を挙げている。そのためには、各団体と障がい者スポーツ指導者、地域の関連団体が協働しながら障がい者スポーツの裾野を広げることが大切である。

本事業を通じて、各団体が地域の統括組織として、地域の関係者を巻き込みながら事業の企画や運営を進めてきたことは、この地域振興事業の成果と考えられ、今後さらに多くの団体が取り組むことを期待したい。

平成 26 年度北海道における障がい児者スポーツの振興事業

◆ 全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業

公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会

平成２６年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
全道巡回障がい児者スポーツ教室　事業報告書

１　はじめに

北海道では、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、道民の誰もがスポーツを通じて健康で心豊かなライフスタイルを築く「生涯スポーツ社会」の実現に向けて、本道スポーツの総合的な振興に取り組んでいる。

障がい者スポーツについては、本道出身の選手がパラリンピックなどの国際大会において活躍しているが、道内全域において裾野の拡大を目指すには、今後も、障がい者が主体的にスポーツに参加する機会の充実や環境の整備を図っていく必要がある。

このたびの振興事業では、障がい者スポーツの裾野の拡大という観点から、道内の小中学校の特別支援学級に就学する児童生徒を事業対象とした。

本道は、他県にない広大な面積と多数の市町村を有しており、全道の隅々まで事業効果を浸透させるためには多くの時間と労力を要するが、全道各地に点在するという小中学校の利点を活用し、アウトリーチ型のスポーツ教室を計画した。

障がい者スポーツを地域に根付かせるためには、何よりも、低年齢の障がい児に対するアプローチが重要であり、子供の頃にスポーツに出会えば、心身の成長とともに、それぞれのステージにおいて、スポーツを楽しむことができる。そのような思いを込めて本事業を実施した。

２　事業の目的

道内の特別支援学級には、平成 26 年 5 月 1 日現在、小中学校併せて、3,602 学級に 10,619 人の児童生徒が就学し、障がい種別では、弱視、難聴、知的、肢体、病弱、言語、自閉症・情緒に区分されるが、知的と自閉症・情緒が全体の 9 割を占めている。

当協会の事業においては、これまで、特別支援学校（中・高）の生徒を対象とした事業は数多く実施してきたが、特別支援学級の児童生徒には、積極的なアプローチをしてこなかった経緯があり、特別支援学級という新たなターゲットを開拓し、学級で学ぶ児童生徒のスポーツに対する潜在的なニーズを顕在化させることを目的として巡回スポーツ教室を開催した。

なお、本事業の実施にあたり、北海道特別支援学級設置学校長協会の協力のもと、全道の特別支援学級に案内チラシを配布し、本事業の周知を図った。

３　事業の概要

本事業のスポーツ教室は、からだを動かすという人間の本源的な欲求や、精神的な充足、楽しさ、喜びをもたらすというスポーツの内在的な価値を踏まえ、全道の小中学校を巡回し、特別支援学級の児童生徒を対象として、障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具に触れ、様々なスポーツを体験学習するということに重きを置いて実施した。

教室では、フライングディスク、ボッチャ、ハンドサイクルなど幅広いメニューを用意し、障がいの種別を問わずスポーツを楽しめるプログラムに配慮した。

参加する児童生徒の障がい程度や人数は教室ごとに異なるため、参加者の障がい特性を見極め、当初予定のプログラムを臨機にアレンジする裁量も講師に求められることから、指導経験豊富な上級障がい者スポーツ指導員１名をメイン講師に固定し、全教室に派遣した。

本事業の実施内容については次表のとおりであるが、暴風雪の影響により、学校が臨時休校になったため開催中止となった教室が１件あり、事業実績は２９教室となった。

No.	開催年月日（曜）	開催場所	参加者数（人）			講師・補助（人）		
			生徒	教員等	合計	講師	補助	合計
1	H 26. 7.17（木）	札幌市立八軒小学校	9	11	20	2	1	3
2	H 26.10. 8（水）	江別市立野幌若葉小学校	9	5	14	2	2	4
3	H 26.12. 5（金）	夕張市立夕張中学校	6	4	10	2	2	4
4	H 26.12. 6（土）	恵庭市立恵み野小学校	18	38	56	5	3	8
5	H 26.12.19（金）	黒松内町立黒松内小学校	6	2	8	2		2
6	H 27. 1.15（木）	もなみ学園	8	1	9	3	1	4
7	H 27. 1.19（月）	江別市立野幌若葉小学校	9	5	14	2		2
8	H 27. 1.20（火）	南幌町立南幌中学校	4	3	7	2	1	3
9	H 27. 1.22（木）	網走市立第三中学校	12	6	18	2		2
10	H 27. 1.23（金）	北見市立三輪小学校	13	7	20	2		2
11	H 27. 1.26（月）	北海道室蘭聾学校	5	4	9	2		2
12	H 27. 1.27（火）	札幌市立鴻城小学校	7	2	9	2		2
13	H 27. 1.27（火）	江別市立江別第三小学校	16	8	24	3		3
14	H 27. 1.28（水）	帯広市立啓北小学校	5	3	8	2		2
15	H 27. 1.30（金）	函館市立鍛神小学校	17	18	35	2		2
16	H 27. 2. 6（金）	千歳市立北陽小学校	4	4	8	2		2
17	H 27. 2.12（木）	岩見沢市立岩見沢小学校	5	5	10	1	1	2
18	H 27. 2.13（金）	稚内市立稚内南小学校	5	2	7	2		2
19	H 27. 2.16（月）	中標津町立中標津東小学校	暴風雪による臨時休校のため開催中止					
20	H 27. 2.17（火）	釧路町立富原小学校	40	11	51	2		2
21	H 27. 2.17（火）	釧路市立東雲小学校	17	8	25	2		2
22	H 27. 2.19（木）	今金高等養護学校（1 学年）	23	7	30	2		2
23	H 27. 2.23（月）	今金高等養護学校（3 学年）	23	6	29	3		3
24	H 27. 2.24（火）	今金高等養護学校（2 学年）	27	6	33	3		3
25	H 27. 2.25（水）	せたな町立瀬棚中学校	2	3	5	3		3
26	H 27. 2.27（金）	旭川市立永山南小学校	40	12	52	3		3
27	H 27. 3. 3（火）	北海道釧路鶴野支援学校	19	4	23	2		2
28	H 27. 3. 4（水）	北郷児童会館	8	10	18	3	1	4
29	H 27. 3. 5（木）	千歳市立北進小中学校	68	18	86	8	1	9
30	H 27. 3. 6（金）	八雲町立落部小学校	4	4	8	2		2
		合 計	429	217	646	73	13	86

４　障がい者スポーツ指導者の活動・役割

メイン講師として全教室に赴いた上級障がい者スポーツ指導員は、本事業の企画から運営に至

るまで、スポーツ教室の全般にわたって主導的な役割を担い、初級および中級の資格を有する他の講師や補助員には指導的な立場で接した。

小中学校の特別支援学級を対象としている事業の性質上、教室の開催日は、授業のある平日に限定されるため、本事業の日程に合わせて協力できる障がい者スポーツ指導者は極少数であり、登録指導者の絶対数が少ない地方の教室では、地元の指導者の協力を得ることが出来なかった。

５　成果および評価

特別支援学級の児童生徒にとって、外部講師によるスポーツ指導を体験することは新鮮だったようで、教室の間は常に集中力を保ち、初めて経験するスポーツ種目にも果敢に挑戦しており、児童生徒と共に教室に参加した特別支援学級の担当教諭は、今回の教室の成果を今後の体育の授業にフィードバックできると感想を語っている。

また、教室に参加した児童生徒には、スポーツに対する関心が芽生え、自主性や活動意欲が向上するなどの効果が認められ、発語のない児童や運動の苦手な児童も楽しめたプログラムであったと高い評価を受けている。

今回の巡回スポーツ教室は、本道の１４の行政地区の内の１２地区で開催しており、道内における障がい者スポーツの普及に対する地域の偏りや不均衡を是正するための端緒となった事業と言える。

約１万人の児童生徒が就学する特別支援学級は、障がい者スポーツの裾野の拡大や、未来のアスリートの発掘なども期待できる土壌があり、今年度の教室事業により、その土壌を耕し、種を蒔くことができた。蒔いた種が地域の至る所で芽吹くよう今後も事業を継続して参りたい。

教室終了後に行ったアンケートでは、来年度も教室開催を望む声が多く寄せられており、本事業に対する関心の高さが伺えた。アンケートの主な回答については次のとおり。

○本教室に参加した感想

- 子どもたちと保護者が一緒になって楽しく活動し、普段にはない貴重な体験が出来た。
- 運動の苦手な子、得意な子を問わず、とても興味を示しながら、教室に参加していた。
- 参加した生徒たちが、見て、触れて感じることにより、今回、様々な事を学んだと思う。
- スポーツに消極的だった生徒が、生き生きとした表情で教室に参加していた。
- 新しいスポーツを体験することで、からだの動かし方や感覚を学ぶことが出来た。

○児童生徒の反応

- どの子も全ての活動を楽しんでいた。もっとやりたかったようだ。
- 初めての競技用具やルールにも順応し、最後まで楽しく活動することが出来た。
- ひとつの活動に長時間取り組めていたことに驚いた。途中で投げ出す子もいなかった。
- 競技のやり方について、生徒同士で話し合いながら取り組む姿が見られて、本当に良かった。
- 初めて体験するスポーツに興味を持ったようだ。「また、やりたい。」と何度も言っていた。

○本教室を開催した教育効果

- 運動が苦手の子も楽しく取り組めていたので、今後の運動への意欲に繋がると思う。
- 今回の体験が、今後の体づくり運動や余暇の過ごし方に活用できそうだ。
- 初めてのことに挑戦する気持ち、上手にできなくても諦めない気持ちが生徒に芽生えた。
- 今回の教室が、卒業後も生徒がスポーツに関わるきっかけ作りになった。
- 楽しみながら取り組むスポーツに触れ、今後の教育活動に取り入れるヒントになった。

６　今後の課題

(1) 教室の開催日程

本事業を実施するにあたって、北海道特別支援学級設置学校長協会に協力を要請し、同協会のネットワークを通じて、全道の小中学校に事業の周知を図り、その後も、教室案内用のチラシを１，５００枚作成し配布するなどの取り組みを行ったが、新規事業ということもあり、この巡回教室の情報が特別支援学級を担当する教員に届いていない事例が数多くあった。

最終的には、当初計画の開催期日である「１月末まで」を３月までに延長し、特別支援学級の児童生徒数が比較的多い学校を重点的に再度案内するなど、教室開催のニーズの掘り起しを行ったところ、重層的な取り組みが功を奏し、当初計画した実施回数をほぼ達成することが出来た。

その結果、教室の開催日が、１月と２月の２ヶ月間に集中し、過密スケジュールになったことは、大いに反省すべき点である。学校の授業時間を利用して実施する事業であることから、夏休み期間と冬休み期間は、教室の予定を入れることが出来なかったことも過密日程の一因となった。

また、教室の開催日が冬期間に多くなったことで、冬の北海道特有の天候のリスクも生じ、２月中旬に予定していた道東地区の教室が、暴風雪の影響で学校が臨時休校になり、開催が中止となった。

今後は、教室の開催を厳冬期前に終了するような事業日程を組む必要がある。そのためには、今回の教室開催の周知方法を見直し、教室情報を迅速で効果的に全道の小中学校に発信するための方策を検討しなければならない。

(2) 指導者の活用

今回の事業では、教室の開催地である地元の障がい者スポーツ指導者の協力が、ほとんど得られなかった。学校の授業時間を利用する事業であったことから、開催日は必然的に平日となり、平日に勤務する地元の指導者に参加協力を求めにくい状況であった。

今後は、全道の障がい者スポーツ指導員に対して、ホームページ等の媒体を活用しながらスポーツ教室事業の情報を発信し、一人でも多くの指導員の協力が得られるよう、北海道障害者スポーツ指導者協議会との連携を強化し、指導員の活用を図っていかなければならない。

(3) その他の課題

- 本道の広域性を考えると、効率的かつ経済的に巡回することが重要であるが、各学校が希望する教室日程を地域のエリアごとに調整するのは容易ではなかった。教室日程を調整するための一定の時期を予め設けて、関係する学校との間で事前協議する期間が必要であった。
- 単年度では成果が見え難い事業であっても、複数年の実施により、実践効果が得られることも多いので、本事業を継続することにより、障がい者スポーツの「普及」を図り、次のステップである選手の「育成」に取り組んでいく必要がある。
- 一般社会における障がい者スポーツの認知度は、まだまだ低い状況にあり、提供される「福祉」から自主性が求められる「スポーツ」へと環境を変えていくためにも、学校の教育プログラムに障がい者スポーツを積極的に取り入れていくことが必要である。
- 特別支援学校や特別支援学級に通学する児童が、放課後の時間にスポーツをするための施設や場所が地域にないことから、自治体との連携や協力により、施設の整備や競技用具の充実を図っていく必要がある。

7　おわりに

障がい者スポーツの普及を図っていくためには、障がい児者だけを対象とするのではなく、一緒に学校に通う健常児にも障がい者スポーツを体験する機会を設け、学校内における共生社会を創り上げていく必要がある。

折しも、文部科学省は２０１５年度から、小中高校の体育の授業にブラインドサッカーなどの障がい者スポーツを取り入れる事業を始める。障がいがあってもなくても、児童生徒ができるだけ同じ場で学ぶ教育環境を整え、交流を促すのが狙いであるという。

本事業の教室においても、今後は、健常児が障がい者スポーツを学習するプログラムや障がい児と健常児が一緒に障がい者スポーツを体験するプログラムなど、新たなメニューを加えていきたいと考えている。

「平成26年度地域における障がい者スポーツの振興事業」

全道巡回障がい児者スポーツ教室開催要領

１　目　的

本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を涵養し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的とする。

２　主　催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会

３　共　催

ＮＰＯ法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

４　開催期日

平成２６年６月から平成２７年１月末まで（平日の2時間を原則）

５　開催場所

全道の小中学校の体育館（14振興局全エリアの30校予定）

６　教室内容

小中学校の特別支援学級の児童・生徒を対象として、障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術やトレーニング方法などについて指導する。

７　講　師

正木　英之　氏（ＮＰＯ法人あ・りーさだ代表理事）ほか

８　参加対象者

(1) 特別支援学級の児童・生徒
(2) 小中学校の教職員
(3) その他関係者

９　参加費

無料

10　申込先

公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目　かでる2・7　4階
TEL 011-261-6970　FAX 011-261-6201　担当：羽田（はねだ）

11　その他

(1) 参加者は、スポーツに適した服装・上靴を着用すること。
(2) 主催者は、参加者を対象とした傷害保険に一括加入する。

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 1
実施日	2014年７月１７日　木曜日　(12:30~16:00) 13:30~15:30(２時間)					
学校名	札幌市立八軒小学校					
参加者	生徒9名	教員2名	保護者9名	介助員等0名	合計	20　名
スタッフ	講師2名・サポート1名				合計	3　名

実施内容		
12:30	スタッフ集合	
13:00	学校側と打ち合わせ及び事業説明・準備	
14:00	挨拶・ウォーミングアップ	ドッチビー等
14:15	給水	
14:20	フライングディスク	
	①投げる・受ける	ﾄﾞｯﾋﾞｰﾃﾞｨｽｸから公認ディスクへ
	②アキュラシー・ディスクターゲット	
14:45	③ハンドサイクル体験	
15:00	修了式	修了書
15:00	保護者説明	今後の活動について
15:30	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 2
実施日	2014年10月8日　水曜日　(8:00~12:00) 9:30~11:30(２時間)					
学校名	江別市立野幌若葉小学校					
参加者	生徒9名	教員4名	保護者0名	介助員等1名	合計	14　名
スタッフ	講師2名・サポート2名				合計	4　名

実施内容			
8:30	スタッフ集合		
9:00	学校側と打ち合わせ及び事業説明・準備		
9:30	挨拶・ウォーミングアップ	ドッチビー等	
10:40	フライングディスク		10:10~10:35 避難訓練
	①投げる・受ける		
	②アキュラシー・ディスクターゲット		
11:00	③ハンドサイクル体験		
11:30	修了式	修了証書	
12:00	終了		

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 3
実施日	2014年12月5日　金曜日　(11:30~15:35) 12:30~15:05(２時間)					
学校名	夕張市立夕張中学校					
参加者	生徒6名	教員4名	保護者0名	介助員等0名	合計	10　名
スタッフ	講師2名・サポート2名				合計	4　名
実施内容						
11:30	スタッフ集合・学校へ挨拶					
12:30	給食					
13:00	準備					
13:15	挨拶					
13:45	①FDデモンストレーション					
	②アキュラシー・ディスクターゲット					
	③ボッチャ					
	④ハンドサイクル体験					
15:05	修了式				修了証書	
15:35	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						NO 4
実施日	2014年12月6日　土曜日　(9:00~12:30) 10:00~12:00(２時間)					
参加者	生徒18名	教員2名	保護者20名	兄弟16名	合計	56　名
スタッフ	講師5名・サポート3名				合計	8　名
実施内容						
9:00	スタッフ集合					
9:30	主催者側と打ち合わせ及び事業説明					
10:00	挨拶・ウォーミングアップ				バルーン体操	
10:45	給水・フライングディスク・ボッチャ					
	Aアキュラシー・Bゴルフ・Cﾎﾞｯﾁｬﾀｰｹﾞｯﾄ					
11:20	給水・ハンドサイクル体験					
12:00	修了式				修了証書	
12:30	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 5
実施日	2015年12月19日　金曜日　(9:30~12:30) 10:30~12:00(２時間)					
学校名	黒松内町立黒松内小学校					
参加者	生徒6名	教員2名	保護者0名	介助員等0名	合計	8　名
スタッフ	講師2名・サポート1名				合計	2　名

実施内容		
9:30	スタッフ集合・学校へ挨拶	
10:00	準備	
10:30	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③アキュラシー・ディスクターゲット	
	④ハンドサイクル体験	
	修了式	修了証書
12:00	終了・片付け	
12:30	給食	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 6
実施日	2015年1月15日　木曜日　(9:00~12:30) 10:00~12:00(２時間)					
学校名	もなみ学園					
参加者	生徒6名	教員2名	保護者0名	介助員等0名	合計	8　名
スタッフ	講師3名・サポート1名				合計	4　名

実施内容		
9:00	スタッフ集合・学校へ挨拶	
9:30	準備	
10:00	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②FD投げる・受ける	
	③アキュラシー	
	④輪投げ・ボッチャ	
	⑤ハンドサイクル体験	
12:00	修了式	修了証書
12:30	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 7
実施日	2015年1月19日　月曜日　(8:30~11:50) 9:30~11:20(２時間)					
学校名	江別市立野幌若葉小学校					
参加者	生徒9名	教員4名	保護者0名	介助員等1名	合計	14　名
スタッフ	講師3名・サポート0名				合計	3　名

実施内容		
8:30	スタッフ集合	
9:00	学校側と打ち合わせ及び事業説明	
9:30	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③アキュラシー・ディスクターゲット	
	⑤ハンドサイクル体験	２台用意
	④ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦
11:20	修了式	修了証書
11:50	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 8
実施日	2015年1月20日　火曜日　(9:40~13:00) 10:40~12:30(２時間)					
学校名	南幌町立南幌中学校					
参加者	生徒4名	教員3名	保護者0名	介助員等0名	合計	7　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
9:40	スタッフ集合・学校へ挨拶	
10:10	準備	
10:40	①ハンドサイクル体験	
	②FDデモンストレーション	
	③投げる・受ける	
	④アキュラシー・ディスクターゲット	
	⑤ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦
12:30	修了式	修了証書
13:00	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 9
実施日	2015年1月22日　木曜日　(10:45~13:05) 11:45~12:35(2時間)					
学校名	網走市立第三中学校					
参加者	生徒12名	教員6名	保護者0名	介助員等0名	合計	18　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
10:45	学校へ挨拶	
11:15	準備	
11:45	挨拶・ウォーミングアップ	
	①投げる・受ける	
	②アキュラシー・ディスクターゲット	
	③ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦
	④ハンドサイクル体験	
12:35	修了式	修了証書
13:05	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 10
実施日	2015年1月23日　金曜日　(8:00~10:40) 8:45~10:10(２時間)					
学校名	北見市立三輪小学校					
参加者	生徒13名	教員7名	保護者0名	介助員等0名	合計	20　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
8:00	学校へ挨拶	
	準備	
8:45	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③アキュラシー・ディスクターゲット	
	④ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦
	⑤ハンドサイクル体験	
10:10	修了式	修了証書
10:30	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 11
実施日	2015年1月27日　火曜日　(14:30~17:30) 15:30~17:00(２時間)					
学校名	北海道室蘭聾学校					
参加者	生徒5名	教員4名	保護者0名	介助員等0名	合計	9　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
14:30	学校へ挨拶	
15:00	準備	
15:30	挨拶	
	①ハンドサイクル体験	
	②FDデモンストレーション	
	③投げる・受ける	
	④アキュラシー・ディスクターゲット	
	⑤ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦
17:00	修了式	修了証書
17:30	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 12
実施日	2015年1月27日　火曜日　(8:00~10:50) 8:50~10:20(２時間)					
学校名	札幌市立鴻城小学校					
参加者	生徒7名	教員2名	保護者0名	介助員等0名	合計	9　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
8:00	学校へ挨拶	
8:20	準備	
8:50	挨拶	
	①ハンドサイクル体験	
	②投げる・受ける	
	③アキュラシー・ディスクターゲット	
	④輪投げ	
10:20	修了式	修了証書
10:50	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 13
実施日	2015年1月27日　火曜日　(12:25~)13:25~15:00(２時間)					
学校名	江別市立江別第三小学校					
参加者	生徒16名	教員6名	保護者0名	介助員等2名	合計	24　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名
実施内容						
12:25	スタッフ集合・学校へ挨拶					
12:55	準備					
13:25	挨拶					
	①ハンドサイクル体験					
	②FDデモンストレーション					
	③投げる・受ける					
	④アキュラシー・ディスクターゲット					
	⑤ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦				
15:00	修了式	修了証書				
15:30	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 14
実施日	2015年1月28日　水曜日　(9:45~12:50)10:45~12:20(２時間)					
学校名	帯広市立啓北小学校					
参加者	生徒5名	教員3名	保護者0名	介助員等0名	合計	8　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名
実施内容						
9:45	学校へ挨拶					
10:15	準備					
10:45	挨拶					
	①ハンドサイクル体験					
	②FDデモンストレーション					
	③投げる・受ける					
	④アキュラシー・ディスクターゲット					
	⑤ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦				
12:20	修了式	修了証書				
12:50	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 15
実施日	2015年1月30日　金曜日　(8:00~10:30) 8:40~10:00(2時間)					
学校名	函館市立鍛神小学校					
参加者	生徒17名	教員5名	保護者13名	介助員等0名	合計	35　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
8:00	学校へ挨拶	
8:15	準備	
8:40	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③アキュラシー・ディスクターゲット	
	④ディスクゴルフ大会	保護者参加
	⑤ハンドサイクル体験	
	修了式	修了証書
	⑦保護者ハンドサイクル体験	
10:30	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 16
実施日	2015年2月6日　金曜日　(9:00~12:30) 10:00~12:00(２時間)					
学校名	千歳市立北陽小学校					
参加者	生徒4名	教員1名	保護者0名	介助員等3名	合計	8　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容

特別支援学級		通常学級	
9:00	スタッフ集合・学校へ挨拶	10:30	通常学級4年生40名参加
9:30	準備		①FDデモンストレーション
10:00	挨拶		②投げる・受ける
	①FDデモンストレーション		③ディスゲッター･アキュラシー
	②投げる・受ける		④ハンドサイクル体験
	③ディスゲッター･アキュラシー	11:15	通常学級1年生30名参加
	④ハンドサイクル体験		①FDデモンストレーション
12:00	修了式･修了証		②投げる・受ける
12:30	終了		③ディスゲッター･アキュラシー
			⑤ハンドサイクル体験

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 17
実施日	2015年2月12日　木曜日　(9:30~12:35) 10:30~12:05(２時間)					
学校名	岩見沢市立岩見沢小学校					
参加者	生徒5名	教員5名	保護者0名	介助員等0名	合計	10　名
スタッフ	講師1名・サポート1名				合計	2　名

実施内容		
9:30	スタッフ集合・学校へ挨拶	
10:00	準備	
10:30	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③ディスゲッター･アキュラシー	
	④ディスクゴルフ大会･表彰式	先生を含め個人戦
	⑤ハンドサイクル体験	
	修了式	修了証書
12:05	片付け	
12:35	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 18
実施日	2015年2月13日　金曜日　9:00~10:20(２時間)					
学校名	稚内市立稚内南小学校					
参加者	生徒5名	教員2名	保護者0名	介助員等0名	合計	7　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
8:30	スタッフ集合・学校へ挨拶	
	準備	
9:00	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③ディスゲッター･アキュラシー	
	④ディスクゴルフ大会･表彰式	先生を含め個人戦
	⑤ハンドサイクル体験	
	修了式	修了証書
10:20	片付け	
10:50	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容					No 19
実施日	2015年2月16日　月曜日　(9:35~12:40) 10:35~12:10(２時間)				
学校名	中標津町立中標津東小学校				
参加者	生徒17名	教員6名	保護者0名	介助員等3名	合計　26　名
実施内容					

備考
名簿別紙
天候不良のため休校

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容					No 20
実施日	2015年2月17日　火曜日　(8:30~10:45) 9:30~10:15(2時間)				
学校名	釧路町立冨原小学校				
参加者	生徒40名	教員9名	保護者0名	介助員等2名	合計　51　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計　2　名
実施内容					
8:30	スタッフ集合・学校へ挨拶				
9:00	準備				
9:30	挨拶				
	①説明とデモンストレーション				4ｺｰﾅｰを4ｸﾞﾙｰﾌﾟで15分程度、体験する
	②4コーナーで体験				(Aｱｷｭﾗｼｰ Bﾃﾞｨｽｹﾞｯﾀｰ Cﾃﾞｨｽｸｺﾞﾙﾌ D自転車)
10:15	修了式				修了証書
10:45	終了				
教室の様子					

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 21
実施日	2015年2月17日　火曜日　(12:25~15:30) 13:25~15:00(1時間)					
学校名	釧路市立東雲小学校					
参加者	生徒17名	教員6名	保護者0名	介助員等2名	合計	25　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
12:25	スタッフ集合・学校へ挨拶	
12:55	準備	
13:25	挨拶・ウォーミングアップ	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③ディスゲッター･アキュラシー	
	④ディスクゴルフ大会･表彰式	先生を含め個人戦
	⑤ハンドサイクル体験	
15:00	修了式	修了証書
15:30	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 22
実施日	2015年2月19日　木曜日　(12:00~15:00) 13:00~14:30(２時間)					
学校名	北海道今金高等養護学校					
参加者	生徒23名	教員7名	保護者0名	介助員等0名	合計	30　名
スタッフ	講師3名・サポート0名				合計	3　名

実施内容		
12:00	スタッフ集合・学校へ挨拶	
12:30	準備	
13:00	挨拶	
	①FDデモンストレーション	
	②投げる・受ける	
	③ディスゲッター･アキュラシー	
	④ディスクゴルフ大会	3科対抗戦(産業･農業･家庭科)
	⑤ハンドサイクル体験	
14:30	修了式	修了証書
15:00	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 23
実施日	2015年2月23日　月曜日　(12:00~15:00) 13:00~14:30(２時間)					
学校名	北海道今金高等養護学校					
参加者	生徒23名	教員6名	保護者0名	介助員等0名	合計	29　名
スタッフ	講師3名・サポート0名				合計	3　名
実施内容						
12:00	スタッフ集合・学校へ挨拶					
12:30	準備					
13:00	挨拶					
	①FDデモンストレーション					
	②投げる・受ける					
	③ディスゲッター･アキュラシー					
	④ディスクゴルフ大会					
	⑤ハンドサイクル体験					
14:30	修了式					
15:00	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 24
実施日	2015年2月24日　火曜日　(12:0015:00) 13:00~14:30(２時間)					
学校名	北海道今金高等養護学校					
参加者	生徒27名	教員6名	保護者0名	介助員等0名	合計	33　名
スタッフ	講師3名・サポート0名				合計	3　名
実施内容						
12:00	スタッフ集合・学校へ挨拶					
12:30	準備					
13:00	挨拶					
	①FDデモンストレーション					
	②投げる・受ける					
	③ディスゲッター･アキュラシー					
	④ディスクゴルフ大会					
	⑤ハンドサイクル体験					
14:30	修了式					
15:00	終了･卒業記念玄関コンサート					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 25
実施日	2015年2月25日　水曜日　(9:25~12:30) 10:25~12:00(２時間)					
学校名	せたな町立瀬棚中学校					
参加者	生徒2名	教員3名	保護者0名	介助員等0名	合計	5　名
スタッフ	講師3名・サポート0名				合計	3　名
実施内容						
9:25	スタッフ集合・学校へ挨拶					
9:55	準備					
10:25	挨拶					
	①ハンドサイクル体験					
	②FDデモンストレーション･投げる受ける					
	③ディスゲッター･アキュラシー					
	④ディスクゴルフ大会	先生を含め個人戦				
12:00	修了式	修了証書				
12:30	給食	給食を生徒と一緒に食べる				
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 26
実施日	2015年2月27日　金曜日　(8:50~11:20) 9:50~10:50(2時間)					
学校名	旭川市立永山南小学校					
参加者	生徒40名	教員12名	保護者0名	介助員等0名	合計	52　名
スタッフ	講師3名・サポート0名				合計	3　名
実施内容						
8:50	スタッフ集合・学校へ挨拶					
9:20	準備					
9:50	挨拶					
	①説明とデモンストレーション	3ｺｰﾅｰを3ｸﾞﾙｰﾌﾟで10分程度、体験する				
	②3コーナーで体験	(Aアキュラシー Bデスゲッター C自転車)				
	③ディスクゴルフ大会	3ｸﾞﾙｰﾌﾟ対抗戦				
10:50	修了式	修了証書				
11:20	終了・片付け					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 27
実施日	2015年3月3日　火曜日　(12:20~15:35) 13:20~15:05(2時間)					
学校名	北海道釧路鶴野支援学校					
参加者	生徒19名	教員4名	保護者0名	介助員等0名	合計	23　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名
実施内容						
12:20	スタッフ集合・学校へ挨拶					
12:50	準備					
13:20	挨拶					
	①FDデモンストレーション					
	②ディスゲッター･アキュラシー					
	③ハンドサイクル体験					
	④ディスクゴルフ大会					
15:05	修了式	修了証書				
	片付け					
15:35	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 28
実施日	2015年3月4日　水曜日　(17:15~19:45) 18:15~19:15(2時間)					
団体名	あ・りーさだ放課後教室					
参加者	生徒8名	指導者1名	保護者9名	介助員等0名	合計	18　名
スタッフ	講師3名・サポート1名				合計	4　名
実施内容						
17:15	スタッフ集合					
	準備					
18:15	挨拶・ウォーミングアップ					
	①ハンドサイクル体験					
	②投げる・受ける					
	③ディスク遊び					
19:15	修了式	修了証書				
	片付け					
19:45	終了					
教室の様子						

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 29
実施日	2015年3月5日　木曜日　(8:30~12:20) 9:30~11:50(2時間)					
学校名	千歳市立北進小中学校					
参加者	生徒68名	教員6名	保護者0名	介助員等12名	合計	86　名
スタッフ	講師8名・サポート1名				合計	9　名

実施内容		
8:30	スタッフ集合・学校へ挨拶	
9:00	準備	
9:30	挨拶(小学生)	挨拶(中学生)
	①ウォーミングアップ(風船)	①FDデモンストレーション
	②投げる・受ける	②投げる・受ける
	③ハンドサイクル体験	③アキュラシー・ディスクターゲット
	④アキュラシー・ディスゲッター	④ハンドサイクル体験
11:50	修了式(修了証)	修了式(修了証)
	片付け	
12:20	終了	

教室の様子

全道巡回障がい児・者スポーツ教室　実施内容						No 30
実施日	2015年3月6日　金曜日　(9:00~12:30)10:00~12:00(２時間)					
学校名	八雲町立落部小・中学校					
参加者	生徒4名	教員4名	保護者0名	介助員等0名	合計	8　名
スタッフ	講師2名・サポート0名				合計	2　名

実施内容		
9:00	スタッフ集合・学校へ挨拶	
9:30	準備	
10:00	挨拶	
	①ハンドサイクル体験	11:20 通常学級3年生18名参加
	②FDデモンストレーション	①FDデモンストレーション
	③投げる・受ける	②ディスクゴルフ大会
	④アキュラシー・ディスクターゲット	
12:10	修了式	修了証書
	片付け	
12:30	終了	

教室の様子

平成26年度 地域における障がい者スポーツの振興事業

全道巡回 障がい児者スポーツ教室

参加無料

お申込受付中

北海道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を涵養し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ります。

開催場所
全道の小中学校体育館

2014年6月～2015年1月末まで

平日の2時間

参加対象者 特別支援学級の児童・生徒（小中学校の教職員・その他関係者）

参加者は、スポーツに適した服装・上靴の着用をお願いいたします。

障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術、トレーニング方法について指導いたします。

講　師

●**正木 英之**（NPO法人あ・りーさだ 代表理事）**ほか**

あ・りーさだは、「公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会」との共同事業により、北海道全域の特別支援学級への出張教室を行っています。

教室内容例

●フライングディスク ●ボッチャ ●ゴールボール
●ドッチビー など

お申込先 公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階

TEL 011-261-6970　FAX 011-261-6201　担当／羽田（はねだ）

主 催／公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会
共 催／NPO法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

平成 27 年 1 月 27 日（火）
北海道新聞（室蘭・胆振版）朝刊

円盤投げ「楽しい！」

室蘭聾学校でスポーツ教室

フライングディスクを楽しむ子供たち

室蘭聾学校で26日、障害者スポーツ教室が開かれ、子供たちがプラスチックの円盤を投げる「フライングディスク」などを楽しんだ。障害者にさまざまなスポーツの楽しさを知ってもらおうと、道障害者スポーツ振興協会などが主催。昨年6月から全道の学校で開催されており、同校での実施は胆振管内で初めて。

今回は、寄宿舎に住む小学5年から中学2年の5人が参加。障害者スポーツの普及に取り組むNPO法人「あ・りーさだ」の担当者が、「フライングディスク」の楽しみ方などを教えた。

子供たちは数m先の的をめがけ円盤を投げ、命中すると歓声を上げた。参加した小学5年の坂口七海さんは「投げるところが面白かった」と笑顔を見せていた。（芳垣なの香）

平成 27 年 1 月 27 日（火）
室蘭民報　朝刊

的を狙って

室蘭聾学校でスポーツ教室

フライングディスクに歓声

フライングディスクを楽しむ子どもたち

全道巡回障がい児者スポーツ教室が26日、室蘭市水元町の室蘭聾学校で開かれた。子どもたちがフライングディスクなどの競技に触れ歓声を響かせていた。

日本障がい者スポーツ協会などが主催。出張教室を行う「あ・りーさだ」（夕張市）の正木英之代表らが講師を務め、2014年（平成26年）6月から15年1月末にかけ、全道各地で実施している。

同校の寄宿舎生5人らが参加した。子どもたちは円盤（ディスク）で、数字の書いてある的を射貫くストラックアウト、円形の的を通過させるゲームに熱中。正木代表は「手首を使って投げて」とアドバイスしていた。競技用の車いすの試乗でも盛り上がりを見せていた。（奥村憲史）

上越地域の障がい者スポーツ活性化
及び選手発掘・育成・環境整備に関する事業

- ◆ 障がい者健康スポーツ教室（上越地域）
- ◆ ボッチャ教室（上越地域）
- ◆ 障がい者スポーツ支援者研修会（上越地域）
- ◆ 新潟県選手育成策検討会議
- ◆ 新潟県健康・スポーツ医科学センター活用モデル事業

新潟県障害者スポーツ協会

平成 26 年度「地域における障がい者スポーツ振興事業」
【上越地域の障がい者スポーツ活性化および選手発掘・育成・環境整備に関する事業】事業報告書

新潟県障害者スポーツ協会

1　はじめに

新潟県は縦長に広い県であるため、障がい者スポーツの県内各地域における普及には大きな開き、そして地域間の格差がある。本協会のある新潟市近郊は盛んに行われている一方で、昨年度の佐渡同様、上越地域においても障がい者スポーツの活動場所や指導員や支援者が少ないため、地域での環境の整備・普及が望まれている。

また、本県でのスポーツ競技者に対する支援策は乏しく、競技レベルは極めて低い状況にある。2020 年の東京パラリンピック開催に際し、選手の発掘・育成、環境の整備を目指し本事業の計画・開催に至った。

2　実施目的

平成25年度の佐渡地域の活性化事業に続き、平成26年度は上越地域を活性化重点地域と定め、各種障がい者スポーツ教室・大会や支援者向け研修会を実施することで、障がい者スポーツの理解・普及を進め、県内障がい者スポーツの推進と地域格差を少なくすることを目的とする。

また、2020 年に開催される東京パラリンピックに向けて、県内競技者の支援に資することを目的として「新潟県選手発掘・育成策検討委員会」を開催し、本協会としての今後の取り組みにおける課題や競技者支援策をまとめ、障がい者スポーツ振興・環境整備を図ることを目的とする。

併せて、スポーツ医科学センターを活用した事業をモデル実施することで、今後の競技者支援を行うため専門機関との関係作りを進めていく。

3　実施内容及び実施体制

※事業実施毎に地元関係者との打合せ会議を実施

（1）障がい者健康スポーツ教室（上越地域）

日　程：平成 26 年 6 月 10 日、7 月 15 日、9 月 16 日、10 月 14 日、11 月 18 日
会　場：上越市福祉交流プラザ
参加者：52 名（内訳：身体障害者 40 名、知的障害者 5 名、精神障害者 2 名、介助者 5 名）
指導者：講師 1 名、補助員 2 名×5 回（障がい者スポーツ指導員及び地元関係者）

（2）ボッチャ教室（上越、糸魚川）

日　程：平成 26 年 6 月 7 日（土）、9 月 17 日（水）
会　場：妙高ふれ愛パーク、糸魚川市アクアホール
参加者：123 名（内訳：身体障害者 98 名、知的障害者 3 名、介助者 23 名）
指導者：講師 2 名、補助員 3 名×2 回（障がい者スポーツ指導員及び地元関係者）

（3）障がい者スポーツ支援者研修会（上越地域）

日　程：平成 26 年 8 月 24 日（日）
会　場：上越市教育プラザ
参加者：43 名（障がい者スポーツ指導員、福祉関係者、総合型地域スポーツクラブ関係者他）
指導者：講師 1 名（NPO 法人アダプテッドスポーツ・サポートセンター理事長高橋　明氏）

（4）新潟県選手発掘育成策検討会議開催

日　程：平成 26 年 6 月 14 日（土）、9 月 6 日（土）

会　場：デンカビッグスワンスタジアム、新潟ふれ愛プラザ
委　員：8 名（内訳：委員長 1 名、競技選手 5 名、指導者 2 名）
ｽﾀｯﾌ：4 名（内訳：事務局員 2 名、県主管課職員 2 名）

（5）新潟県健康・スポーツ医科学センター活用モデル事業

日　程：平成 27 年 2 月 19 日（木）
会　場：新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター
参加者：5 名（内訳：選手 1 名、支援者 4 名）

4　成果及び評価

上越地域の活性化事業では、上越市・上越市教育委員会・上越市スポーツ推進委員・上越市社会福祉協議会・新潟県身体障害者施設協議会など、関係機関との連携体制を構築できたことが大きな成果である。2020 年東京パラリンピック開催決定を受けて障がい者スポーツに対する関心が少しずつ高まってきている中で、支援者講習会や本協会の自主事業として上越地域で初開催した「初級障がい者スポーツ指導員養成研修会」には、特にスポーツ関係者を中心に（上越市教育委員会、総合型地域スポーツクラブ、地元スポーツ推進委員等）多方面からの参加があり、今後の上越地域での活動における支援体制構築の道筋をつけることができた。

また、「2020 東京パラリンピックに向けた新潟県選手発掘・育成検討会議」では、取り組みがマスメディア等にも多数取り上げられ、報告書の提言をもとにして、競技者支援、普及体験会、指導者育成、本協会の基盤整備等の内容で県から次年度の新規予算を計上していただくことができた。併せて、スポーツ医科学センターで行った車いす競技者の測定利用では施設スタッフからも理解・関心を持って取り組んでいただき、施設を管理する新潟県体育協会との連携強化や今後の利用促進に資することができた。

5　今後の課題

継続的に障がい者スポーツ振興を行っていくためには、指導員の育成とともに、身近な地域で活躍できる場の提供、そして 2020 年の東京パラリンピックに向け、多くの県民から障がい者スポーツについて更に関心を持っていただき、障がい者がスポーツに取り組む環境が推進されるよう、様々な情報発信をしていく必要があると考える。

また、本県の競技者支援を継続的に行っていくためには、本協会が中心となって県内の福祉・スポーツ・医療の各分野の専門機関との連携を更に深めていきたい。特に、今回の事業で接点ができたスポーツ医科学センターとの連携体制を継続していきたいと考える。

6　所　感（実施担当者：新潟県障害者スポーツ協会　事業担当理事　丸田　徹）

スポーツ基本法の施行や 2020 年東京パラリンピックの開催などにより、障がい者スポーツを取り巻く環境は大きく変化しようとしている。このような中で、特にスポーツ関係者からの障がい者スポーツへの関心の高まりが感じられた事業開催であった。

上越地域で開催したスポーツ教室やボッチャ大会がきっかけとなり、身体障害者を中心としたボッチャサークルや身体障がい者施設でのチームが発足するなど、様々なきっかけ作りができなのではないだろうかと考える。

本事業を通じて繋がった関係機関との連携を更に深め、2020 年の東京パラリンピックには、本県より選手を輩出できるよう、そして県内の障がい者が身近な地域で日常的にスポーツに親しむことができるよう一層の環境整備に取り組んでまいりたい。

平成２６年度「地域のおける障がい者スポーツ振興事業」（新潟県）
【上越地域の障がい者スポーツ活性化及び選手発掘・育成・環境整備に関する事業】

健康スポーツ教室（上越地域）全５回

ボッチャ教室（上越地域・上越市）

ボッチャ教室（上越地域・糸魚川市）

障がい者スポーツ支援者講習会（上越地域）

新潟県選手発掘・育成検討会議　全２回

新潟県スポーツ・医科学センター活用モデル

20年東京パラ五輪

地元選手の発掘、育成を

県障害者スポーツ協 県に報告書

11/26 日報

２０２０年の東京パラリンピックに向け、県障害者スポーツ協会は25日までに、本県選手の発掘や育成を求める提言を盛り込んだ報告書を県に提出した。パラリンピックに出場した経験がある県人選手らの意見を取り入れ、競技者への資金や雇用面の支援などを求めている。

報告書は、競技者への支援のほか、選手発掘に向けた教室を開くことや、スポーツ施設の整備など五つの提言を柱とした。県に対しては①障害者スポーツ選手の発掘、育成支援②障害者スポーツの裾野を広げるための基盤整備③障害者スポーツの環境整備―などを要望した。

スキーで14年のソチ冬季パラリンピックまで３大会連続出場した出来島桃子選手や、車いすラグビーで04年アテネ、08年北京の両大会に出場した高橋義信、室橋卓朗両選手ら８人でつくる検討会議がまとめた。会議では「練習場所が限られて移動に時間がかかる」「常に資金不足」「遠征に対する職場の理解が得られず、退職した」との意見が出たという。

同協会の竹森登志男常務理事は「東京大会を節目として、障害者が日常的にスポーツができるようにすることが目標。身近な人が出場すれば関心が高まるので、今から選手を育てたい」と話す。

報告書を受け取った県障害福祉課の斎藤有子課長は「報告書を基に県で何ができるか検討する。できることから進めていきたい」と述べた。

（公財）日本障害者スポーツ協会委託「地域における障がい者スポーツ振興事業」

２０２０東京パラリンピックに向けた

新潟県選手発掘・育成策検討会議報告書

―現状と課題及び活動基盤の整備のために―

平成 26 年 10 月

新潟県障害者スポーツ協会

目　次

Ⅰ　はじめに～経過と諸情勢～・・・・・・・・・1ページ～

Ⅱ　検討会議の経過・・・・・・・・・・・・・・2ページ～

Ⅲ　寄　稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・3ページ～

～東京パラに向けた選手育成・強化と都道府県に期待すること～
（公財）日本障がい者スポーツ協会　スポーツ振興部長　水原由明氏

Ⅳ　課　題・・・・・・・・・・・・・・・・・・4ページ～

～事前調査票及び第1回検討委員会より～

Ⅴ　提　言・・・・・・・・・・・・・・・・・・8ページ～

Ⅵ　県への新規及び拡充事業の要望事項・・・　11ページ～

Ⅶ　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・14ページ～

Ⅰ　はじめに～経過と諸情勢～

平成２５年９月、２０２０年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決定しました。県内の障がいのある方達や関係者からも「県内パラリンピアン」の誕生への期待が高まっています。

国のスポーツ施策においては、平成２３年に、新しいスポーツ基本法とスポーツ基本計画によって、障害者も健常者と同じ環境でスポーツに取り組むことができるための方向性が示され、平成２６年度からは競技スポーツやスポーツ振興の観点から行う障害者スポーツに関する事業が厚生労働省から文部科学省に移管されました。平成２７年度にはオリンピック・パラリンピック開催準備や競技振興などのスポーツ行政を一元的に担うスポーツ庁が創設される方針です。

本県においては、２０２０東京オリンピック・パラリンピック開催決定を受けて、開催効果が新潟県の発展に繋がるよう、県と市町村、県体協や本協会、経済団体が一体となった取り組みを総合的かつ計画的に推進するため、「東京オリンピック・パラリンピック新潟県活性化推進会議」を立ち上げ、競技力の向上及びスポーツ振興、合宿等の誘致、本県の観光戦略など様々な分野で検討が進められているところです。

このような環境下で、本検討委員会は、本県のパラリンピック出場経験のある選手やコーチを委員として招聘し、本協会としての今後の取り組み課題を整理したものです。２０２０年の東京パラリンピックに向けた競技力向上に取り組むことで本県選手の出場を目指すとともに、本県の障害者スポーツ振興・環境整備を図ることを目的としています。

障害者スポーツ施策の枠組みが大きく変わろうとしているなかで、本報告書が本県の障害者スポーツの環境改善の方向性を考えるうえでの資料として参考にしていただけることを願っています。

Ⅱ　検討会議の経過

	期日等	検討内容等
設置要綱 委員委嘱	５　月	県障害者スポーツ協会常務理事を議長とし、県内のパラリンピック出場経験のある選手５名、コーチ２名を本会議の委員として委嘱する。
事前調査	５　月～ ６　月	各委員を対象に、今後、本県選手が東京パラリンピックを目指すために、１現状課題（練習場所、指導・サポートスタッフ、経費面、仕事との両立）、２行政や本協会への要望・提言、３選手の発掘方法、４県内のスポーツ環境整備、地域間格差をなくすための方法について、各委員に事前調査を行った。 また、事務局より（公財）日本障害者スポーツ協会に対し、東京パラリンピックに向けた動向、国と都道府県の役割などを聴取し、報告書への寄稿をいただいた。
第１回検討会議	６月１４日 土曜日	委員及び事務局のほか、県障害福祉課をオブザーバーに加え会議を開催した。 各委員から調査票をもとに、スポーツに取り組み始めたきっかけ、現状の課題や今後の方策について意見をいただいた後に、以下の議題について検討を行った。 １　パラリンピック選手及び指導者が抱える課題 ・練習場所の確保について ・指導者・サポートについて ・活動経費について ・仕事との両立、職場の支援体制について ・有望選手の発掘・育成方法について ２　県内の障害者スポーツの普及策・地域間格差をなくすために 第１回の検討会議の内容をもとに、事務局にて報告書（案）をまとめ、第２回会議で内容を精査する。 第２回会議は、９月６日（土）に開催する。
第２回検討会議	９月６日 土曜日	以下について検討を行った。 ・報告書（案）の方向性の整理 ・報告書（案）のまとめ ・スポーツ医科学センターにおけるモデル事業の実施

Ⅲ　寄稿～東京パラに向けた選手育成・強化と都道府県に期待すること～

（公財）日本障がい者スポーツ協会　スポーツ推進部長　水原由明氏より

１　日本障がい者スポーツ協会及び日本パラリンピック委員会（ＪＰＣ）の選手強化への考え方

- パラリンピックに向けた選手強化は国からの支援が大きな力となり各競技団体が実施するものであるが、選手の発掘・育成に関しては、競技団体組織が全国に普及しているわけでないので、各都道府県・政令市が中心となり実施していくことが大切である。
- 選手を強化のベースに乗せるためには、大会遠征費等の大きな財政負担や、日常においてトレーニング場所、指導者、就労支援等の総合的な環境整備が必要である。各都道府県・政令市においては、従前より選手に対する財政支援が行われていたが、東京パラリンピックが決定し、更に選手や指導者への支援が拡充されることを期待している。

２　都道府県及び都道府県障害者スポーツ協会に期待すること

- 障がい者スポーツの裾野を広げていくためには、まず、都道府県や政令市の障がい者スポーツ協会の組織体制の強化が不可欠である。
- 都道府県においては、単にパラリンピックに選手を出すことを目標にするのではなく、障がい者のスポーツ環境整備（支える人、活動場所、財政支援、用具整備、情報発信等）の取り組み結果の集大成がパラリンピック出場に繋がること、そして遺産（レガシー）として何を残すのかを意識していただきたい。
- 障がい者スポーツ指導者の育成と活動の場の拡充がスポーツ振興を図るために重要である。よき理解者、支援者を増やすよう努めていただきたい。
- 障がい者が身近な地域でスポーツに親しむためには、全国約３５００カ所ある総合型地域スポーツクラブと都道府県障がい者スポーツ協会との連携が重要である。
- 各都道府県においても、全国障害者スポーツ大会の予選会にあたる大会の内容充実に努めるとともに、各地域のスポーツ施設のバリアフリー化、アクセスビリティ（近づきやすさ）の促進に努めていただきたい。
- 今後、更に増加が予測される重度障がい者、高齢障がい者等がより生活を豊かにする観点やリハビリテーション等、福祉の一環として行うスポーツ活動への支援は多くの障がい者が必要としているものである。文科省に移管されていない地域生活支援事業を有効に活用してほしい。

Ⅳ　課　題（事前調査票及び第１回検討委員会より）

１　委員の専門競技種目

氏　名	専門種目
八重澤委員	陸上競技（車いす：トラック）選手
高橋委員	ウィルチェアラグビー選手
室橋委員	ウィルチェアラグビー選手
出来島委員	スキー（立位：クロカン、バイアスロン）選手
音田委員	スキー（立位：アルペン）選手
青柳委員	ウィルチェアラグビーコーチ
大島委員	陸上競技（車いす：トラック）指導者

【委員となった選手及び指導者の特性】

・夏季競技の選手及び指導者は車いす種目を専門としている（5 名）

・冬季競技の選手は立位の選手である（2 名）

・競技は陸上競技（車いす：トラック）、ウィルチェアラグビー、スキーの 3 種目に限られている。

２　競技環境について

競技を始めたきっかけ

・パラリンピック特集の放映を見て

・国立リハビリテーションセンターに入所した際に体験して

・障害者交流センターの職員に紹介されて

・県内で開催された競技体験会に参加して

・県内で大会が開催されるとの新聞記事を見て、また先輩に勧められて

①　練習場所はどのような場所を使用していたか？　困っていた点は？

≪車いすの選手の場合≫

練習場所は

・バリアフリー化されている県障害者交流センターや新潟市福祉会館、長野県の障害者福祉センター（ｻﾝｱｯﾌﾟﾙ）を主に使用

・ほか、自主トレ（ﾁｰﾑｽﾎﾟｰﾂ）は自宅近くの体育館を使用

【困った点は】

・練習場所が限られていたため、移動に時間がかかる。

・降雪、豪雨の際は、駐車場から施設までの移動が困難である。

・一般の体育館も含め、予約がなかなか取れない。

・地域の施設には車いす者が使えるトレーニング設備がない。

≪立位選手の場合≫

練習場所は

・オフシーズンは自宅近くの体育施設

・シーズン中は専用コースのあるスキー場

【困った点は】

・練習場所が遠い（シーズン中の）

・移動時間と経費がかかる。

② どのような指導者、サポートスタッフがいたか？ 困っていた点は？

・障害者スポーツ指導員

・県障害者交流センターの職員

・家　族

・クラブチームのスタッフ

・ナショナルチームのスタッフ

・地元 Jr チームのコーチ

・用具のメンテナンスの業者

【困った点は】

・競技の専門的指導者の不足

・普及活動で興味を持っても、長期間にわたるサポートは望めない。

・トレーニングをしたい時、常にサポートを受けられる訳ではない。

・ボランティアでのサポートには多少の経費を負担しなければならない。

③ 年間の自己負担は？

≪選　手≫

・海外遠征がある場合　　約年間 200 万円強

・海外遠征がない場合　　約年間 150 万円前後

≪スタッフ≫

・海外遠征がある場合　　約年間 100 万円弱

・海外遠征がない場合　　約年間 50 万円弱

【困った点は】

・常に資金不足状態

・貯金は全て使い果たし０になった。

・自身の生活を圧迫していた。

・遠征費を銀行のローンで工面しなければならないことがあった。

・用具代がかさむ（陸上用車いす、ﾗｸﾞﾋﾞｰ用車いすはﾌﾙｵｰﾀﾞｰのため高コスト１台５０万円～）

・全日本の合宿や遠征には補助が出るが、活動の基盤となる日々の活動や遠征については選手、スタッフ共に全額自己負担になるため、資金のない者は参加を断念、競技自体を辞した選手や指導者も多数いた。

④　競技生活と仕事の両立、職場の支援体制の状況は？

・職場内にスポーツ経験者がいたため、比較的協力的だった。
・理解は得られていたが、正規雇用ではなかったため遠征期間中は無給。
・公文書により職専免対応が叶った（公務員の場合）
・「ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ」に限って理解は示されたが、その他の活動、遠征に対する理解は得られにくく、結果退職に至った。（スタッフ）

【困った点は】

・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ以外の活動に対する周囲の理解が得られず、常に職場に対して心苦しい状態にあった。（７人中６人の意見）
・比較的活動しやすい環境であっても、大半を自費と有給休暇で賄わなければならない環境であった。（指導者）

３　選手がﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸや国際大会出場を目指すために行政（県、市町村）などに望むことは？

・選手、指導者へのパラ以外の大会遠征費等の資金援助を願いたい。
・選手及び指導者の雇用及び就労への支援を行ってほしい。
・練習環境の整備（特別なことを望むわけではなく、一般と同様にいつでもどこででも活動が可能になる事）
・一般競技団体との連携（大会の共同開催など）
・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ以外の大会のPR、競技のPRなど、マスメディアを用いての広報活動
・先ずは、行政の福祉及びスポーツの担当者が障害者スポーツへの理解を深めてほしい。

４　ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ選手発掘手段についてご意見をお聞かせください

・雇用の拡大（生活の基盤がなくては競技に打込めない、サポートできない）
・どんな競技があるのかを紹介し、まずは体験する機会を提供しなければならない。
・選手の保護者等からの理解と協力を得ることが重要である。
・学校においては教員が、病院においてはドクターやＰＴ・相談員が、地域においてはスポーツ指導員が情報提供や活動支援ができる体制と中核となる場所の構築が必要。
・「聞いてみたい」「見てみたい」「体験してみたい」に即対応できる体制整備が必要。

５　地域間格差なくスポーツやレクリエーション活動を盛り上げるために、行政や障害者スポーツ協会に望むことは？

・障害者と聞くと尻込みする人がいるが、障害の有無に係わらず意見交換をすればお互いに得るものがあるはず、と地域への呼びかけを。

・「障害者だけの」ではなく、一般の活動にも参加することで、我々の活動を知ってもらう。（PR 出来る）

・広い新潟県では、県内何カ所かで拠点場所を作らなければ、現状活動は広がらない、根付かないので、県障害者交流センターや県障害者スポーツ協会機能を有したサテライト施設（事務所）の設置を望む。

・「３」でも述べたが、特別なことを望んでいるのではなく、一般と同様にもっと身近にスポーツやレクリエーションを楽しめる環境が欲しい。

・ハード（施設設備）面が困難であっても、ソフト（人的サポート）面でカバーできることが多々あることに気づいて欲しい。

Ⅴ　提　言

１　優秀選手及び優秀指導者への財政支援

課題で記されているように、選手及びその指導者はトップレベルにいくまでに、入ってくる収入の大部分を使わなければやっていけない状況にあり、熱い想いや才能があっても夢を断念せざるをえない選手や指導者が多数いた。

近年は、パラリンピックもエリート競技としての認識の転換が進むとともに、本年度から障がい者の競技スポーツついては厚生労働省から文部科学省に所管変更があり、トップ選手やトップ指導者の財政支援は増加されていくことが予測されるが、日本代表としてトップクラスのレールに乗るまでの負担は従前と何ら変わらない。

新潟県の健常者のスポーツにおいては、従前から実施している「新潟から世界へ夢プロジェクト事業」に加え、本年度から新たに「オリンピック選手育成事業」を県予算２，７００万円で始め、競技力向上のための基金創設にも１億円を計上して東京オリンピックに向けた取り組みを開始している。

新潟県の障害者スポーツにおいては、今まで、「全国障害者スポーツ大会の選手育成」に主眼を置き、パラリンピック等に向けた支援は行っていない。

あくまで、都道府県や新潟県障害者スポーツ協会の主眼は裾野を広げる活動や全国障害者スポーツ大会の選手育成が第一であるが、６年後の夢舞台で躍動する「県人パラリンピアン」の雄姿を見るためには、有望選手の発掘・育成とともに、遠征費等の補助を行うための財政支援や強化指定選手等の制度創設が必要である。

県内パラ選手誕生となれば、県民全体の理解促進等その何倍もの費用対効果が得られるはずである。

２　優秀選手及び優秀指導者に対する雇用支援

パラリンピックに向けた競技生活を継続していくには、雇用支援や勤務先の理解が欠かせない。現状では、選手・指導者ともに公務員や公的機関等に勤める方達が多く、県内の民間企業においては競技生活と仕事を両立することは困難な実情にある。

ロンドンパラリンピック出場選手にも県内出身者は２名いたが、県内での就労が叶わず、県外に出て就職された方であった。

また、本検討委員の中にも、度重なる遠征等に対して職場からの理解が得られず、結果として退職に至った方がいた。

障害者スポーツ選手に限らず、一般スポーツのトップ選手においても一部のメジャー選手を除いては、就労継続や雇用支援体制は厳しい状況にある。

まずは、行政機関や公的機関を中心に有望な選手及び指導者の雇用枠を設け

るなどの支援を行い、県内の民間企業等にも広げていくべきである。

自身を厳しく律し努力を重ねた競技者や指導者であれば、引退後には雇用先の大きな力になれるはずである。

３　選手発掘に向けた普及教室や体験会の拡充実施

パラリンピック選手であった委員の多くが、競技に本格的に取り組もうと考えたきっかけは、競技の体験会や県障がい者スポーツ大会等への参加であった。

今後、選手を発掘・育成するためには、パラリンピック競技種目の積極的な広報や全国規模の大会誘致を積極的に推進することで、選手候補者に興味、関心を持っていただけるよう取り組むとともに、県内各地域でパラリンピック各競技の体験会や普及教室等を拡充して実施することで、ジュニア選手を中心とした選手発掘を行っていくことは有効である。

また、肢体不自由の方を中心に中途障がい者が短期間でトップ選手となり、パラリンピック等に参加する実例も多いことから県内医療機関との連携や積極的な情報発信が重要である。

実施の際には、引退した県内パラリンピアンや各競技の優秀選手から積極的に協力をいただき、技術の伝承と共に、参加者が身近に夢を感じていただけるよう取り組んでいくことが望まれる。

なお、パラリンピック競技の用具は特殊かつ高額（※１）であり、県内においては、本協会が様々な民間助成金等の活用により総額４，０００万円程の障がい者スポーツ用具を整備して普及教室や体験会等に活用してきたが、パラリンピックに関する用具は足りない状況である。現在は民間助成金の活用も厳しくなり、更新の目途も立っていないことから、今後、普及事業や体験会を行うための用具整備に予算上の配慮が必要である。

用具は県内の各拠点場所に配備し、常時、手軽に体験貸し出しができるようにすることで有効な活用に繋がるものと考える。

（※１）　一例：陸上用車椅子約６０万～１００万円、バスケ用車椅子約５０万円
ボッチャ８万円、ボッチャ用ランプ６万円など

４　中核拠点の強化、地域拠点の整備、特別支援学校等の開放・整備

本検討委員会では、身近な地域での活動場所や障害者スポーツの専門的指導ができる人材が不足していることが共通した大きな課題としてあげられた。

県内の障がい者スポーツの中核拠点である新潟県障害者交流センター・新潟県障害者スポーツ協会の体制が他県と比較しても脆弱であることから、今後、拡充した事業を推進していくには、まずは、中核拠点の人材や設備面の充実を図ることが不可欠である。

同センター・協会が県内の総合型地域スポーツクラブや一般のスポーツ施設、

体育協会等との連携を推進し、障害者スポーツに関する広域スポーツセンターのような役割を果たしていくことが、障害のある人がより身近な場所で、より効率的にスポーツを行える環境を整えることに繋がる近道である。

新潟県は面積が広く縦長で、離島もあることから、中核拠点１ヵ所では県内全域の障がい者スポーツの振興を図ることは極めて困難な環境にある。

本県と人口規模・面積がほぼ同等の長野県では、中核拠点となる長野県障害者福祉センターの他に、東信、南信、北信、中信地区の４ヶ所にサテライト施設を設け、専門指導員を配置し、全県を網羅した事業展開をおこない普及、選手発掘・育成、指導者養成等に成果を上げている。

本県においても、廃校となる学校・施設やあまり活用されていない地域の体育館、福祉施設等を有効に活用した低コストでのサテライト事務所（支える人）・スポーツ施設（場所）の整備が望まれる。

併せて、既にバリアフリー化が進んでいる特別支援学校や障がい者施設等の体育館、グランドを、夜間や休日に学校開放を行えるよう整備を進めることで障がい者のスポーツ選手等の活動場所の増加を図る必要がある。

５　一般スポーツ指導者の活用と指導者養成研修の拡充

本検討委員会を通じて、障害特性をよく理解して専門的な指導技術が必要な競技と、一般のスポーツ指導者を取り込んだ指導を行ったほうが効果的な競技に分かれることがわかった。

車いすスポーツや視覚障がい者スポーツ、重度障がい者のスポーツ等は、専門的指導技術や障害の特性をよく理解する必要があるが、立位のスポーツや一般競技とルールがほぼ同様のスポーツにおいては、一般競技の指導経験者から障がいについて学んでいただいたうえで、指導いただくことが効果的である。

現在行っている障がい者スポーツ指導者の養成に加え、今後、地域の体育協会及び競技団体、総合型地域スポーツクラブ、一般のスポーツ施設等と連携を図りながら、「競技指導」に精通した関係者向けの「初級障がい者スポーツ指導員養成研修会」を誘導策として各地域で展開していくことで、ルール・指導技術が共通している競技の障がい者アスリートは一般競技者とともに練習できる環境を醸成していくべきである。

また、中核となる指導者・支援者には、中級・上級障がい者スポーツ指導員や障がい者スポーツコーチ・障がい者スポーツドクター・障がい者スポーツトレーナーにステップアップするための中央研修受講を積極的に支援するべきである。

併せて、スポーツ、教育、福祉、医療等、各分野の垣根を超えた指導者コミュニティの充実と各地域の指導者の組織化を推進していくことが必要である。

Ⅵ　県への新規及び拡充事業の要望事項

１　障がい者スポーツを行う選手の発掘・育成支援

①　パラリンピック等出場選手育成支援費補助事業

パラリンピックを始めとした全国・世界大会に出場する選手・指導者を育成することを目的とし、大会・練習会参加、科学トレーニング等にかかる経費を助成する事業

②　パラリンピック選手発掘・育成事業

ア　主にジュニア層を対象にパラリンピック競技の体験会や普及（広報、大会誘致等）を行う事業

イ　特殊用具の整備を行い、有望選手や特別支援学校等を対象に用具を貸し出しする事業

③　有望選手等に対する就労支援事業

東京パラリンピックへの参加が有望視される選手及び指導者に対し、雇用先の斡旋及び雇用先に経費を補助する事業

２　障がい者スポーツの裾野を広げるための基盤整備

①　障がい者スポーツ振興事業費補助金事業

ア　県障がい者スポーツの中核を担う新潟県障害者スポーツ協会の運営を支援するとともに、加盟障がい者スポーツ団体への助成など、障がい者スポーツの普及促進に関する取り組みを支援する事業

イ　県内４ヶ所（佐渡、上越、中越、下越）に県障害者スポーツ協会のサテライト事務所を設置し、身近な地域での普及促進を支援する事業

②　県障害者スポーツ大会開催事業（拡充）

より多くの方に参加いただけるよう、特にパラリンピック共通種目を中心に県障害者スポーツ大会の内容を充実する事業

３　スポーツを行うための環境整備

①　特別支援学校、福祉施設、廃校体育館等整備・開放事業

障がい者スポーツを行う団体について、土、日、祝日や夜間等に他に優先して体育館、グランド、プール等を開放するために必要なハード整備を行う事業

４　障がい者スポーツに関する支援体制の強化

①　障がい者スポーツ指導員養成事業（拡充）

現在、主要な受講者となっている福祉施設や特別支援教育等の関係者に加え、総合型地域スポーツクラブ、体協及び競技団体、スポーツ推進員等のス

ポーツ関係者を対象に県内各地で「初級障がい者スポーツ指導員講習会」を実施する事業

また、中核を担う指導者・支援者には、中級・上級障がい者スポーツ指導員やスポーツコーチ・スポーツドクター等の資格取得させるための中央研修受講を支援することで、指導者の数と質の向上に取り組む事業

② 競技別指導者の養成研修事業

一般競技と大幅にルールや指導法が異なる競技についての指導者の養成講習会を行うことで、パラリンピック関連指導者の養成と現任障がい者スポーツ指導員のフォロー研修も兼ねて行う事業

新潟県の2020東京パラリンピックに向けた取り組み（イメージ図）

おわりに

「２０２０東京パラリンピックに向けた新潟県選手・育成策検討会議」は、平成２６年６月１４日、９月６日の２回にわたり開催し、２０２０年の東京パラリンピックに向けた競技力向上や本県の障がい者スポーツの振興における現状や課題を明らかにするとともに、持続可能な本県の障がい者スポーツ振興を実現するための方策等について意見交換、検討を行いました。

意見交換のなかで、委員であるパラリンピック経験選手・指導者からは、競技を継続するうえでの経済的負担の大きさや、仕事との両立に悩みながら競技活動を継続してきた、非常に厳しく切実な姿が披瀝されました。

新潟県の障がい者スポーツ振興予算の現状は、他県の状況と比較しても潤沢とは言い難く、中核となる県障害者スポーツ協会や加盟競技団体の組織の脆弱さにも繋がっています。今後、東京パラリンピックに向けた競技力向上や全県を網羅した障がい者スポーツ振興を進めるためには、中核団体の組織力・経済力の強化はもちろんのこと、それを支える人材の育成・確保等の基盤整備が極めて重要となります。

また、選手が身近な地域でスポーツに取り組んでいくためには、福祉やスポーツ、教育や医療等の分野の垣根を超えた連携が必要です。特に県体育協会及び加盟団体や総合型地域スポーツクラブ、市町村担当課等との連携強化は重要であり、障害者スポーツ協会の側から積極的なアプローチを試みていくことが求められます。

最後に、行政をはじめとする関係者、支援者の皆様方からは、各委員の永年にわたる真摯な実践に裏打ちされた貴重なご意見・ご提言をしっかりと受け止めていただき、２０２０年東京パラリンピックへの本県選手出場の夢が叶いますようご尽力をお願いすると共に、それらの活動とその成果が２０２０年以降にも大切な遺産となって、県内全域で障がい者スポーツが更に普及・拡大する取り組みに繋がることを祈念して報告といたします。

栃木県における障害者スポーツ振興事業

◆ 全国障害者スポーツ大会団体種目育成事業

◆ 障害者アウトドアスポーツ体験事業（外で体を動かそう）

◆ 障害者スポーツふれあい事業（わかくさアリーナ祭り）

特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会

平成２６年度「地域における障害者スポーツ振興事業」
「栃木県における障害者スポーツ振興事業」事業報告書

１．はじめに

本県では、「とちぎスポーツ振興プラン２１」を策定しており、その中で、県民総スポーツの推進を基本目標とし、生活の一部として定着できるように勧めています。　平成２２年度のスポーツ活動実施率は３４．２%にとどまっていますが平成２７年度には５０%以上を目標として設定しています。

しかし、障害をもっている方に限ると、総合型地域スポーツクラブへの参加も含め、実態把握が困難であり、様々なハードルが待ち受けております。

また、施設整備においても、高齢者や障害者を含め、誰もが使いやすい施設を目指して、総合スポーツゾーン整備の開始と共に、「誰でも」「いつでも」「気軽に」スポーツを楽しめる環境づくりに努めている。

２．実施目的

平成３４年の全国障害者スポーツ大会本県開催を控え、個人種目の普及はもとより、団体種目の普及・振興も重要である。特に知的障害のバスケットボールチームの強化や、知的障害のサッカーチームの設立・強化は喫緊の課題である。

また、本県の恵まれた自然環境を活かしたレジャー活動についても、自然の中心で体を動かすことの喜びを実感することができ、人間にとっても必要な価値ある活動として認めることができる。

これにより、より多くの障害者がスポーツやレジャーを通しての生きがいづくりや、選手としての可能性を広げられるよう配慮し、これらの取り組みによる効果が期待できることから事業の計画に至った。

３．実施概要

（１）全国障害者スポーツ大会団体種目育成強化事業

①知的障害バスケットボール

日　程：平成２６年１０月１８日（土）～平成２７年２月２１日（土）
会　場：栃木県立富屋特別支援学校体育館、群馬県立高崎高等養護学校体育館
参加者：栃木県代表選手（男子１０名・女子９名）
指導者：講師５名、講師補助者１１名

②知的障害サッカー

日　程：平成２７年１月１７日（土）～平成２７年２月２１日（土）
会　場：栃木県立宇都宮中央女子高等学校、サンエコ自然の森サッカー場、
　　栃木県立グリーンスタジアム
参加者：イベント３５名、選手選考会３４名（栃木県代表選手１８名を含む）
指導者：講師４名、講師補助者９名

（２）障害者アウトドアスポーツ体験事業（外で体を動かそう）

日　程：平成２６年９月２１日（日）

会　場：うつのみや平成記念子どものもり公園宇都宮冒険活動センター

参加者：２１名（介助及び家族７名含む）

指導者：講師２名、講師補助者８名

（３）障害者スポーツふれあい事業（わかくさアリーナ祭）

日　程：平成２６年１１月３０日（日）

会　場：わかくさアリーナ

参加者：約２５０名

指導者：４９名（競技団体１５名、障害者スポーツ指導員１２名、運営ボランティア２２名）

４．障害者スポーツ指導者の活動・役割

イベントに関しては、企画段階から実践に至るまで積極的に参加することができ満足している。

イベントを除く事業に関しては、専門性が高いことから、補助指導者として、経験を積ませ、資質の向上を図った。

今後に向けては、競技団体・指導者・事務局が連携を深めることで、より充実した事業を展開して参りたい。

５．成果及び評価

・全国障害者スポーツ大会に向けた団体競技の普及・振興を図ることでは重要な課題であったが、栃木県サッカー協会と連携し、サッカーフェスティバルを開催することができた。また、サッカーフェスティバルを契機として、サッカーチーム創設に至ったことは大きな成果であった。

・障害者アウトドアスポーツ体験事業については、栃木県キャンプ協会と連携しデイキャンプを実施し、障害者のニーズがレジャーを含めた幅広いものであることが認識できた。

・障害者スポーツふれあい事業（わかくさアリーナ祭）については、地域住民に「わかくさアリーナ」の存在を認知してもらうことはもとより、障害者スポーツの体験会を通して、障害及び障害者スポーツの理解を深められたことが大きな成果であった。

６．今後の課題

「地域における障害者スポーツ振興事業」の取組が一過性で終わることが無いように、障害者がスポーツをしやすい環境づくりを進め、障害がある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会の創出を図ることが課題である。そのためには各関係機関・団体との連携を図りながら、選手等の育成強化に向けた計画を策定する必要がある。

①全国障害者スポーツ大会団体種目強化事業（知的障害バスケットボール）

①練習会

②練習会

③練習会

④練習会

⑤選手選考会

⑥選手選考会

⑦遠征

⑧遠征

①全国障害者スポーツ大会団体種目強化事業（知的障害サッカー）

①サッカーフェスティバル

②サッカーフェスティバル

③サッカーフェスティバル

④選手選考会

⑤強化練習会

⑥強化練習会

⑦強化練習会

⑧強化練習会

②障害者アウトドアスポーツ体験事業（外で体を動かそう）

①午前の活動

②午前の活動

③火おこし講習

④火おこし講習

⑤午後の活動

⑥午後の活動

⑦午後の活動

⑧記念撮影

③障害者スポーツふれあい事業（わかくさアリーナ祭）

①車椅子バスケットボール

②車椅子バスケットボール

③フライングディスク

④フライングディスク

⑤卓球バレー

⑥ビームライフル

⑦模擬店

⑧ゲスト（栃木ＳＣの選手３名）

平成２６年度「栃木県における障害者スポーツ振興事業」
バスケットボール（知的障害）チーム育成強化事業　開催要項

１　目　的
　全国障害者スポーツ大会出場を目標とし、選手候補の探索を始めチームの強化を図り、運営及び活動を通年型に移行を目的とする。

２　主　催
　特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会

３　協　力
　栃木県障害者スポーツ指導者協議会
　栃木県特別支援学校知的障害者教育校体育連盟

４　募集人数
　男女各１５名程度

５　期　日
　平成２６年１０月から平成２７年３月まで
　（月１～２回で土・日の予定）

６　場　所　栃木県立富屋特別支援学校・わかくさアリーナ

７　参加資格　　県内在住の１２歳以上（平成 26 年 4 月 1 日現在）の知的障害者。
　　原則として、本事業に関る全日程の参加が可能であること。

８　参加費　　無料

９　その他
（１）傷害保険は当方にて加入します。

１０　問合せ先
　特定非営利活動法人　栃木県障害者スポーツ協会
　〒320-8508 宇都宮市若草 1-10-6 とちぎ福祉プラザ内
　TEL：028-624-2761　（fax 兼用）

平成２６年度「栃木県における障害者スポーツ振興事業」
サッカー（知的障害）チーム設立事業　開催要項

1　目　的
知的障害者サッカー教室やイベントを通して、選手発掘等を行い、全国障害者スポーツ大会出場に向けて、本県のサッカーチームを設立することを目的とする。

2　主　催
特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会
公益社団法人　栃木県サッカー協会

3　主　管
公益社団法人　栃木県サッカー協会事業委員会

4　協　力
栃木県特別支援学校知的障害者教育校体育連盟

5　募集人数
１６～２０名程度

6　選手選考会　期日・会場
第１回選考会　平成２７年１月１７日（土）10:00～12:00　宇都宮中央女子高等学校　グラウンド
第２回選考会　平成２７年１月３１日（土）13:00～15:00　県立グリーンスタジアム（宇都宮市）
※１日参加、両日参加ともに可能です。

7　強化練習会　期日・会場
平成２７年２月　８日（日）10:00～12:00　サンエコ自然の森サッカー場（鹿沼市）
平成２７年２月１４日（土）10:00～12:00　宇都宮中央女子高等学校　グラウンド
平成２７年２月２１日（土）13:00～15:00　県立グリーンスタジアム（宇都宮市）
※練習会は、選考会合格者が参加対象です。
※追加日程は、決まり次第ご連絡します。

8　参加資格　①県内在住の１２歳以上（平成 26 年 4 月 1 日現在）の知的障害者。
※厚生事務次官通知（昭和 48 年 9 月 27 日厚生省発児第 156 号）による療育手帳の交付を受けたもの。またはその取得対象に準ずる障害のある者。
②原則として、本事業に係る全日程の参加が可能であること。

9　参加費　　無料
※練習用のジャージ、運動靴やスパイク、練習会場までの往復交通費等は自己負担です。

10　その他
（１）傷害保険は当方にて加入します。

11　問合せ先
特定非営利活動法人　栃木県障害者スポーツ協会
〒320-8508 宇都宮市若草 1-10-6 とちぎ福祉プラザ内
TEL：028-624-2761　（fax 兼用）

わかくさアリーナ祭

平成 26 年 11 月 30 日(日)

10:00～15:00

【周辺地図】

★わかくさアリーナ祭 ６つのポイント
①入場無料です
②無料駐車場あります
③模擬店は有料販売です
④上履き持参だと非常に ありがたい
⑤いろいろチャレンジ しましょう
⑥小雨くらいなら決行です

主催・問合せ先　特定非営利活動法人　栃木県障害者スポーツ協会
〒320-8508　宇都宮市若草 1-10-6　とちぎ福祉プラザ
ＴＥＬ　028-624-2761（ＦＡＸ兼用）

スタンプラリー用紙と

イベント内容は裏面！！

会　場：わかくさアリーナ
　　宇都宮市若草１−10−38
　　※とちぎ福祉プラザ敷地内
内　容：★障害者スポーツ体験（４種目）
　　車椅子バスケットボール
　　卓球バレー
　　ビームライフル
　　フライングディスク
　　★展示コーナー
　　障害者スポーツ用品展示
　　パラリンピックのパネル展示
　　（2014 ソチ　2012 ロンドン）
　　わかくさアリーナ利用団体の紹介
　　★模擬店
　　いろいろあります
　　★ゲスト
　　栃木ＳＣ
　　当日は各コーナーを巡回予定

タイムスケジュール

★わかくさアリーナ内

10：00～　車椅子バスケットボール体験

13：00～　卓球バレー体験

ビームライフル体験

★わかくさアリーナ入口

10：00～　展示コーナー

★芝生広場

10：00～　フライングディスク体験

★駐車場

10：00～　模擬店

★スタンプラリー会場

各体験コーナー

展示コーナー

開催日は

平成２６年１１月３０日（日）

小雨決行

スタンプラリー

1

3

2

●３か所まわって、違うスタンプを
　押そう！！
●体験コーナーの人に渡すと
　いいことがあるかも？

スタッフ確認欄

静岡県における障がい者スポーツの地域連携振興事業

◆ 静岡県地域ネットワーク型
障がい者スポーツトライアル教室開催事業

◆ 障がいのある人々のスポーツ活動を支える
人材育成講習会開催事業

◆ 静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

静岡県における障がい者スポーツの地域連携振興事業報告書

１　はじめに

静岡県のスポーツ環境の特色

「静岡県スポーツ振興基本計画」は、心身ともに健康で、人生をより豊かに生きていく上で、生涯にわたりスポーツに親しんでいくことは大変重要であると考え、「『ふじのくに』生涯スポーツ社会の実現」を基本理念としこの理念を具現化するため、基本目標を「ライフステージに応じたスポーツの振興」「競技力の向上」「スポーツを支える環境づくり」と設定した。県民の多様化するスポーツニーズに応え、誰もが、いつでも、どこでも、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりを目指し、障がいのある人のスポーツの振興を図るとともに、スポーツができる機会を提供し、指導者養成を含め、それらを支える体制の充実を目指していく。

地域の実情と課題

障がいのある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション（人との交流）をしたくても、受入可能な場所が無い、場所はあるが遠くて（ひとりで）行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認指導者と地域との連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境を整えること。

２　事業の目的・ねらい

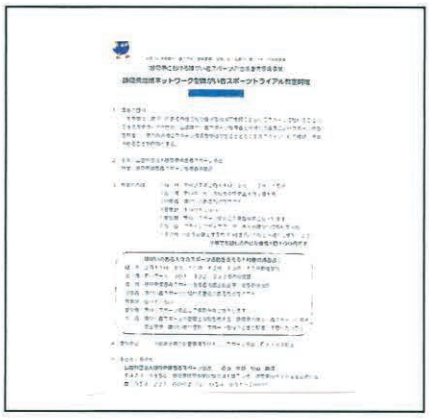
障がい者スポーツの振興のためには何が必要かを把握し、普及に対する地域格差を少なくすることを目的に、各地域に合った方法で、公認指導者と地域が連携しスポーツ環境を根付かせるとともに生涯スポーツとして継続・発展させることを目指す。

平成２５年度事業効果で、障がい者スポーツについて各市町障害者福祉担当課・生涯スポーツ主管課よりの問い合わせや講師派遣依頼が増加し、初級講習会受講希望者も倍増したが、県内９カ所のみの教室開催では、やはり、遠くて参加できなかった方が多かった。さらに、参加者アンケート等から、とにかく情報をもっとほしいという声が多かったことを踏まえ、昨年度未実施市町での教室開催を実施し、まず体験していただくことから始めたい。

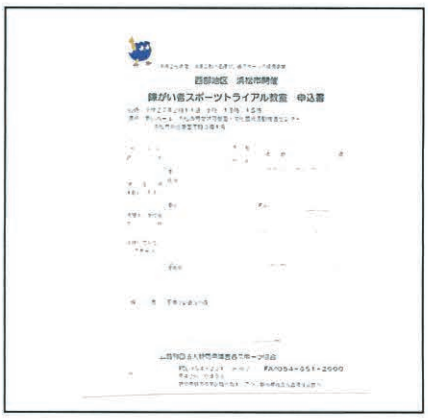
３　実施概要（内容および実施体制等）

①　静岡県地域ネットワーク型障がい者スポーツトライアル教室開催（５回）

募集ポスター



開催要項



申込書

1回目

日　　時　平成２６年9月7日（日）１０時～１５時

会　　場　静岡県草薙総合運動場　屋内運動場（静岡市駿河区栗原 19-1）

参 加 者　知的１３名、知的肢体重複３名、精神３名、付添他２５名　　計４４名

スタッフ　指導員５名、補助員３８名　　計４３名

スカットボールボッチャ

エアーボール

サッカー

2回目　三島市共催

日　　時　平成２６年１１月２２日（土）１３時～１５時

会　　場　三島市民体育館（三島市文教育町 2-10-57）

参 加 者　知的３８名、肢体１０名、内部４名、知的肢体重複１名、精神１８名、視覚１名、
聴覚４名、付添他５０名　　計１２６名

スタッフ　講師２名、指導員５名、実行委員３名、補助員１５名　　計２５名

準備運動

ボッチャ

バルバレー

ペタボード

アキュラシー

集合写真

3回目

日　　時　平成２６年１２月２３日（火祝）１２時～１５時

会　　場　南熱海マリンホール（熱海市下多賀 541-12）

参 加 者　知的１４名、肢体５名、精神２名、付添他９名　　計３０名

スタッフ　講師１名、実行委員３名、補助員２名　　計６名

準備運動

ディスクゴルフ

ストラックアウト

ディスクゴルフ

ボッチャ

集合写真

4回目　静岡障害者サッカーフェスティバル　静岡カップ‘１５開催実行委員会

うながり・きょうゆう・はってん

Ⅰ．広報、準備、運営、応援を通して、多くの方に障害者のスポーツ（サッカー）の意義についての理解を推進する。

Ⅱ．様々な障害種のサッカーを通して、関わるものすべてが、スポーツの楽しさ・厳しさを共有することで、個々の社会自立への一層の意欲へとつなげる。

Ⅲ．静岡カップ´１５を通して、各々のサッカー競技の普及とレベルの向上を図る。

大会名　静岡カップ´１５
主　催　一般財団法人静岡県サッカー協会ハンディキャップ委員会
共　催　静岡カップ´１５開催実行委員会
大会期日　平成２７年１月１０日（土）
開催場所　静岡市立清水庵原中学校（静岡市清水区原２４５）
J-ステップ（静岡市清水区山切１２８７－１）
静岡視覚特別支援学校（静岡市駿河区曲金６丁目１－5）

【知的障害者サッカー】小学生の部

いつもは土のグラウンドや体育館、人工芝のフットサル場でボールを追いかけている小学生の子どもたちが、初めて大きな芝生のグラウンドの上に立ちました。中には、真新しいシューズを履いたりすね当てをつけたりしている子どもたちもおり、初めての芝生での試合に張り切っている気持ちが伝わってきました。

試合は、低学年の部と高学年の部に分かれてハーフコートで行いました。低学年の子どもは、みんなでお団子のようになってボールを追いかけていました。相手のゴールにシュートが決まると大喜びし、自分たちのゴールにシュートを決められると悔しそうな顔をしていました。ちゃんと自分たちのチームや勝ち負けを理解していたからですね。高学年の子どもは、東海大翔洋高校中等部のサッカー部の生徒の力も借りながら、味方にパスを出したり敵がいないところに走り込んだり相手

ゴールに向かってシュートをしたりしていました。
天候にも恵まれ、暖かい日差しの下で、走ったりボールを蹴ったりして、参加した多くの子どもたちが、サッカーの楽しさに触れることができたのではないかと思います。
試合会場には、小学生だけでなく、中学生、高校生、一般といろいろな年齢の選手が来ており、子どもたちや保護者の方にとっては、５年後や１０年後の姿をイメージする機会にもなったようです。

参加者の保護者から

朝刊に、サッカー大会の記事がありました。「アンプティサッカーの日本代表選手の方が来ていた」とあり、あの速さやプレーを間近で見られたんだなと思いました。
サッカー教室に参加して２年ほどで、ボールがあればなんとなくドリブルできるようになっていて、あのような大きなコートで試合に参加するまでになって……と思って、試合開始の笛の音に涙が出そうでした。酒井コーチが、「ここまで来るのに１０年かかった。」と帰りにあいさつした時は、「コーチも、もっとがんばるからね。」と息子におっしゃいました。言葉の重さを忘れずにいたいです。
息子の試合が始まった頃、隣にいた集団から「あれ、富士見小じゃない？」と言いました。「だって審判が富士見小の先生だから…。」「交流ペアの○○君が。」「△△君もいたし。」と様々な声が聞こえ、ふり返ると南の丘分校の生徒さんたちでした。
こんな形で、その場面にうれしい気持ちになりました。

『シュートだ！』

『一緒にやろう！』

【知的障害者サッカー】中学生の部
公式戦試合結果

Ａリーグ

	エスペランサ1	エスペランサ2	高洲中学校
エスペランサ1		× 1−2	○ 4−1
エスペランサ2	○ 2−1		○ 3−0
高洲中学校	× 1−4	× 0−3	

Ｂリーグ

	エスペランサ3	エスペランサ4	エスペランサ5
エスペランサ3		△ 3−3	○ 3−0
エスペランサ4	△ 3−3		○ 2−1
エスペランサ5	× 0−3	× 1−2	

Ａ−優勝　エスペランサ２　　準優勝　エスペランサ１　３位　高洲中学校
Ｂ−優勝　エスペランサ３　　準優勝　エスペランサ４　３位　エスペランサ５

静岡県障害者サッカーフェスティバルプレ大会「中学生の部」が清水庵原中学校、清水ナショナルトレーニングセンターで開催された。静岡市内特別支援学級の合同チーム「エスペランサ」から５チーム、藤枝市の高洲中学校から１チームが大会に参加した。Ａ、Ｂブロックに別れ、１０分ハーフで５人制サッカーを行った。
Ａブロックでは「サッカーが上手くなりたい」と月一回の合同練習に励んでいるエスペランサの２チームと、日頃から体育の授業で練習している高洲中学校が対戦した。どの選手もドリブル、パス、シュートの質が高く、接戦が繰り広げられた。試合終了の笛が鳴り終わるまで走り続け、白熱した素晴らしい試合になった。

Bブロックでは「サッカーを楽しみたい」と練習をしているエスペランサの３チームが対戦した。年度始めの頃は、正確にパスを出したり、ドリブルしたりするのが難しかった選手が、試合の中で味方にパスを出したり、ドリブルしながらシュートをしたりすることができた。勝ち負けではなく、どの選手も自分の精一杯のプレーをし、満足することができた。

静岡県内には「サッカーが上手くなりたい」「サッカーを楽しみたい」と思っている中学生がたくさんいるのではないかと思う。今後もサッカーフェスティバル等を通じて、静岡県の知的障害者の代表チームで活躍できる選手を発掘・育成すると共に、生涯にわたってサッカーやスポーツを楽しむ人が増えることを期待している。

選手の感想

１月１０日（土曜日）に静岡カップが行われました。僕はＢブロック・エスペランサオレンジチームで出場しました。最初の相手は、黄色チームでした。相手のチームの人たちは、速く走り回ったので、なかなか点が取れませんでした。結果は、３対３で引き分けでした。僕は、かっこいいシュートを１本うって、気持ちよかったです。

第２試合は、緑チームと戦いました。緑チームには祐希先輩がいました。長田南中学校の友達もいて、真剣勝負が楽しかったです。相手の人たちがシュートを妨害してくるので、なかなかシュートが入らずたいへんでした。結果は、３対３で勝ちました。僕は、かっこいいシュートを２本決めました。

第３試合は、清水庵原中学校と組んで戦いました。会場を庵原中学校からJ-STEPへ移動しました。天然芝が広くて使いやすかったです。結果は、負けてしまいました。J-STEPには、たくさんのチームが参加していました。高校生や社会人の人までいました。来年もサッカーに出られるようにがんばりたいです。

【知的障害者サッカー】一般・エンジョイの部

＊エンジョイの部には、福井県からも参加してくれました。

試合結果

Aリーグ

	静岡SS	南の丘分校B	福井FID	
静岡SS		○4－1	○3－0	優勝：静岡SS
南の丘分校B	×1－4		○2－0	準優勝：南の丘分校B
福井FID	×0－3	×0－2		3位：福井FID

Bリーグ

	FC駿遠	清水特支B	御前崎分校	
FC駿遠		○14－0	×1－2	優勝：御前崎分校
清水特支B	×0－14		×0－14	準優勝：FC駿遠
御前崎分校	○2－1	○14－0		3位：清水特支B

Cリーグ

	静大附属特支	楽しむ会	伊豆田方分校	
静大附属特支		×2－4	×0－9	優勝：伊豆田方分校
楽しむ会	○4－2		×1－2	準優勝：楽しむ会
伊豆田方分校	○9－0	○2－1		3位：静大附属特支

選手の感想

静岡カップに出て、FC 駿遠と御前崎分校と試合をしました。駿遠との試合は、０対１４で負けてしまったけれど、みんな怖がらずにボールをクリアすることができたり、ゴールには入らなかったけれど、２回もシュートチャンスができてよかったです。御前崎との試合も、０対１４で負けてしまいました。相手は足がとても速かったけれど、しっかり走ってついていけたことや、疲れても諦めずに最後まで頑張ることができました。

今回の大会では、様々なカテゴリーのサッカーを見ることができました。僕は、初めて車椅子サッカーとアンプティサッカーを見ました。車椅子サッカーは、電動車椅子と、大きなボールを使う競技でした。車椅子に乗りながら、コントロール良くパスやシュートするところを見て少しビックリしました。アンプティサッカーはつえを使う競技でした。片足で蹴るところを見て少し大変そうだなと思ったけれど、上手にバランスをとっていてすごいなと思いました。色々な種類のサッカーを見ることができて楽しかったです。

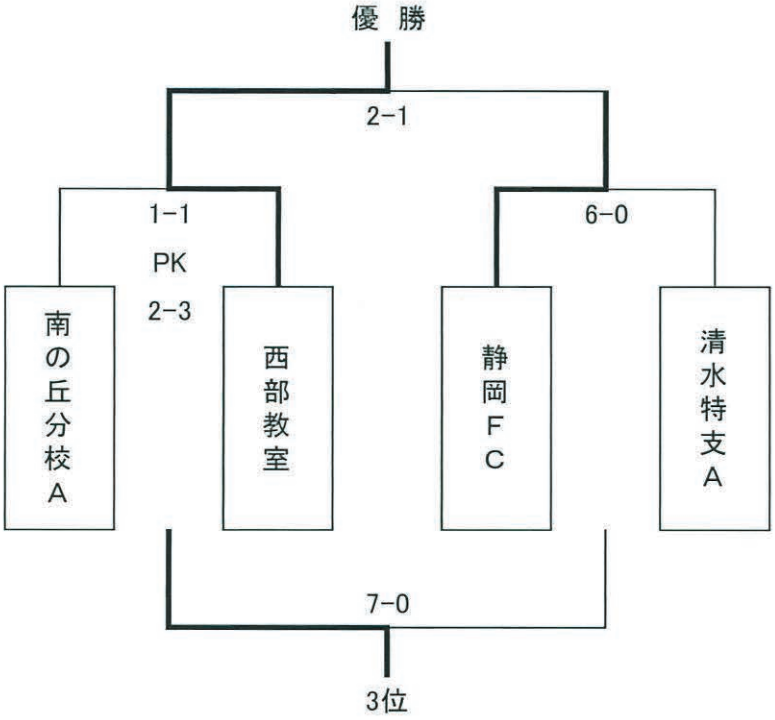
僕は、３年間サッカーを続けてきて、最初は怖くてボールを取りに行くことができませんでしたが、一生懸命練習すると３年生になって少しずつ怖がらずにボールを取りに行くことができるようになりました。とても嬉しかったです。

僕にとっては、この大会がサッカー部最後の大会になりましたが、これからもサッカーを続けたいと思います。

清水特別支援学校　３年　塩村一樹

【知的障害者サッカー】一般・スタンダードの部

試合結果



優勝　西部教室　　準優勝　静岡 FC　　３位　南の丘分校 A

選手の感想

ぼくは、これが南の丘での最後の大会だったので、目標は優勝でした。大会に向けて努力したことは、パスをしっかりチームメイトの要求したところに出すことと、１体１で負けないことでした。

大会では、１試合目の相手が西部サッカー教室でした。たくさん練習してきた１対１で負けないことや正確にパスを出すことはできたと思います。しかし、スコアは１対１で PK 線で負けてしまいました。とても悔しかったです。目標の優勝はなくなってしまいましたが、最後にこんなに強いチームと試合ができてよかったです。

ぼくは、卒業してもサッカーを続けたいと思っています。中部サッカー教室に入り活躍したいです。県選抜にはいり続け、日本代表をを目指してがんばっていきたいと思います。そのために、もっと練習をし、もっとうまくなり、みんなにすごいと言われるような選手になりたいです。

最後に、同じ会場でやっていた他の種別のサッカーを見て、片足がないのに、もう１本の足だ

けでサッカーをやっているのを見て、この人たちはぼく達よりもっとすごいことをしていると思い感動しました。

静岡北特別支援学校南の丘分校　サッカー部主将　上山鉱輝

【電動車椅子サッカー】
試合結果
公式試合１　ＳＦＣデルティーズ△２－２　Ｆ・バッドボーイズ
公式試合２　ＳＦＣデルティーズ△０－０　Ｆ・バッドボーイズ
２試合とも引き分けたため、ＰＫ戦を実施するも、決着がつかず（８－８）。
よって、抽選により、ＳＦＣデルティーズを優勝とする。

静岡カップ’１５に参加をさせていただきありがとうございました。 障害者サッカーのカテゴリーの中、一同に開催しこれだけの障害者が集まるのは全国的に珍しく、その中に参加出来たことは嬉しく思うとともに、私たちにとって多くの意味を持つと感じています。
まだまだ電動車椅子サッカーはマイナーな競技のため、知っている人は少ないのが現状です。
今回、試合を見学された方には、選手個々のテクニックやスピード感あふれる試合を見ていただくことが出来ました。
また、体験教室では、実際に電動車椅子に乗ってボールを蹴ってもらいました。体験者からは『おもしろい』、『楽しい』との声が聞かれました。短い時間の中ではありましたが、電動車椅子サッカーを知っていただくことが出来、障害者スポーツの理解に繋がったと思います。
後一つ大きな収穫は、お互いの競技を知ることが出来、また、他の競技団体との繋がりを持つことが出来ました。このことは、これからの私たちの活動に大きな力となっていくことと思います。
この機会をチャンスとし、他団体との情報交換や交流を持つようにしていきたいと思います。
それと、他団体に負けないよう、電動車椅子サッカー競技の普及啓発に努めて行きたいと改めて感じ最後に、選手・スタッフみんなから『楽しかった。また参加したい。』との声がありました。次回も参加させていただければ嬉しいです。

ＳＦＣデルティーズ代表 渡辺 英俊

体験参加者の感想

○ 現場で知りました。
○ 当事者の方が一生懸命に教えてくれるので一生懸命やりました。
○操作は微妙で自分の思ったところになかなかいけません。横からボールをたたいてシュートするのは頭でわかっているのですが、スピードがでないし、思ったところあたりません。

スタッフの感想

○ いつも同じメンバーでやっているので、応援してくれる人がいてうれしかったです。
○ 笑顔で教えているの良かったです。
○ たくさん体験してくれてありがとう！
○ エスパルスの人とやりたいです。

【アンプティサッカー】

アンプティサッカー選手によるデモストレーション

体験（受付）

体験

体験者の感想

○ 友人からの紹介で知りました。
○ 一生懸命やっているのを
○ 応援していきたいと思いました。
テレビと違い迫力がありました。
○ 見るのとやってみるのとは大きな違います。是非やってみてください。アンプティサッカーの技術の高さがわかります。疲れます。でも楽しい。

選手、スタッフから

○ たくさんの人が来てくれて楽しかった！
○ 静岡の人はいい人だ！また来たい。
○ 試合をしたい！
○ 合宿したい！
○ アンプティを広げるぞ！

【ブラインドサッカー】

体験者の声

【一般の方】
○ 知人の紹介で知り、参加しました。
○ 障害があっても前向きにスポーツを打ちこまれる姿が素晴らしいと思います。
○ アイマスクをしてのボールをコントロールするのは大変で難しいと思いました。でも、聴覚を通してのサッカーは、新鮮でとても楽しかったです。

【視覚障害の方】
○ 支援センターからのメールで知りました。
○ 外に出て身体を動かす機会を得ることができて良いです。
○ 初めての体験でしたが楽しくて面白かったです。
外でするので気持ちよかったです。
ボールを外で操るのは難しかったです。

今回のブラインドサッカー体験は、障害者スポーツ協会の紹介だけでなく、静岡視覚特別支援学校児童生徒用にも資料を作って配布する、その資料を静岡県視覚障害者支援センターからメールで発信する、静岡視覚特別支援学校教員から静岡県視覚障害者協会の青年部に連絡していただくなどして、できる限り多くの方に知っていただけるようにしました。実際にどのくらいの人が来てくれるのか不安でしたが、当日は視覚障害のある方が３名、健常者の方が３名（指導者などの立場の方）の６名が集まってくださいました。ほとんどの方がブラインドサッカー未経験ということで、最初はブラインドサッカーの歴史や、競技の説明などをしてから、ドリブルやパス、シュートの練習にアイマスクを着けて行いました。最後は、今日の集大成ということで、「ゴールに向かってドリブルシュート！」（ゴールキーパーなし）をやりました。ゴールの後ろにいる「コーラー」（味方選手たちに位置情報などを伝える人）の声を頼りにゴール前までドリブルで近づき、「シュート！」の掛け声で、ボールとゴールの位置を確かめてからシュートしました。最初はゴールを決めるのが難しかったですが、結局全員がドリブルシュートを決めることができました！（実際のブラインドサッカーでは、ゴールキーパーは晴眼者なので、ゴールを決めるのが本当に難しいです。今回は６名の参加者でしたが、少しずつ参加者を増やしていければと思います。しかし、ブラインドサッカー体験くらいのレベルなら現状でも対応できますが、本格的に「静岡県でブラインドサッカーの選抜チームを作る」となると、指導者の問題や環境面がまだまだ整っていないので、すぐには難しいと思われます。まずは「ブラインドサッカー」とはどのようなスポーツなのかということを、皆さんに広めていくことが大切であると考えています。

参 加 者　知的２９４名、肢体３０名、視覚５名　　計３２９名
スタッフ　講師１名、指導員４６名、実行委員３名、補助員３６名、付添他３２５名　計４１１名

5回目

日　　時　平成２７年2月１１（水祝）１３時～１５時

会　　場　あいホール（浜松市中区幸三丁目3-1）

参 加 者　知的６名、肢体４名、知的肢体重複１名、精神８名、付添他１６名　　計３５名

スタッフ　講師１名、指導員４名、実行委員１名、補助員１３名　　計１９名

準備運動

ドッチビー

ストラックアウト

ボッチャ

ボッチャ

集合写真

◇アンケート（抜粋）　回答　本人１００名（聴き取りも含む）・保護者１５名・引率者１３名

1　この教室をどこで知りましたか。

- 学校からのお便り。
- 施設のスタッフから。
- スポーツクラブ。
- 育成会。
- 病院。
- 福祉会。
- スポーツ推進委員の定例会。
- みんなでスポーツ教室にて。
- スポーツ協会から。

2　教室に参加してみようと思った理由。

- 身体を動かすのが好きなので、一度体験してみたかった。
- 色々な体験をさせたいと思ったので。
- 休みの遊ぶ一つと考え。
- レクリエーション的な運動もたまには良いと思い。
- 前回参加して楽しいと言っていた。
- 障がい者スポーツがどのようなものがあるか知りたかった。子供が楽しめるスポーツ

を一緒にやりたかった。
・身体を鍛えたい。
・いつもスポーツを気軽に参加させたいと思っていた。
・健康に良いから。
・やってみたいスポーツがあった。
・行動支援の一環。
・外に出るきっかけになると思ったから。
・友人に誘われて。
・重度心身障害児施設勤務の為、日中の活動に取り入れられるスポーツまたその提示方法を学ぶ為。
・いつも親と一緒の行動なので、知らない人の中でも行動がとれるようにと思って。
・スポーツイベントに対するモチベーションの高い方がいるため。
・運動不足だから。
・スポーツに興味があった。
・友達を作りたかった。

3　参加して良かったこと。楽しかったこと。

・家族みんなで楽しめた。休日に体を動かすことがないので、本人もすべての種目を楽しそうにやっていた。
・短時間でしたが、たくさんの汗をかくことができました。
・みんなで楽しむ事の重要さを感じた。
・知らないことにチャレンジすること。
・なかなかやる事がないスポーツで楽しかった。
・こんなに楽しめるスポーツがたくさんあると知りませんでした。
・色々な人と交流できた
・元気に声をだして頑張っていた。
・ダイエットに少し良いと思った。
・みんなと会えて良かった。
・気分転換になった。
・また施設でもやってみたいと思った。

4　参加して嫌だったこと。

・スタッフの方が多く来てくれたのはありがたかったが、少し本人が委縮（緊張）してしまった。
・楽しみにしていた競技が出来なくて残念だった。
・疲れた。
・人気のスポーツに人が集まって参加しにくいものがあった。
・寒かった。
・順番待ちが長かった。
・種目がもう少しあっても良かった。
・全部のスポーツに参加出来なかった。もう少し時間を長くしてほしい。

5　またこのような教室があったら参加したいですか。どこで開催してほしいですか。

- 機会があれば参加したい。
- どこで開催しても参加したい。
- 同会場希望。
- 三島市。
- 函南町。
- 沼津市。
- 長泉町の新しい体育館。
- 伊豆の国市。
- 学校。
- 伊東市。
- 浜松地区。
- あまり参加したくない。

6　その他、気づいたこと。感想やご意見を。

- 皆さんが優しく丁寧に教えてくれてとても良かった。
- 色々な方に接することが出来て良かった。
- 他のスポーツをもっと体験させたい。
- 私は視覚障がい者なので、目の悪い人でもできることがあったらと思いました。
- もっと球技を増やしてほしい。
- もっと多種あれば良かった。
- ボランティアが優しかった。
- やったことのないスポーツが楽しかった。
- 広報をしっかりして、参加人数を多くする。
- かなりスタミナが必要だった。
- もっと一般の人も参加できたら良かった。

② 障がいのある人々のスポーツ活動を支える人材養成講習会開催（3回）

1回目　三島市共催

日　　時　平成２６年１１月２２日（土）１０時～１２時

会　　場　三島市民体育館（三島市文教育町 2-10-57）

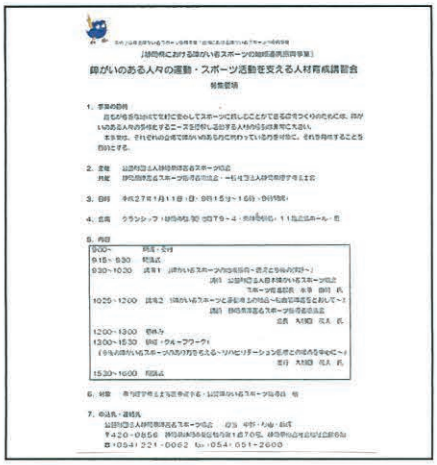
参 加 者　１５名

2回目　一般社団法人静岡県理学療法士会共催

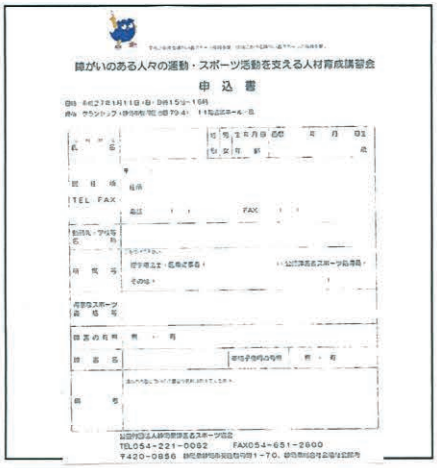
日　　時　平成２７年１月１１日（日）９時１５分～１６時

会　　場　グランシップ（静岡市駿河区池田 79-4）

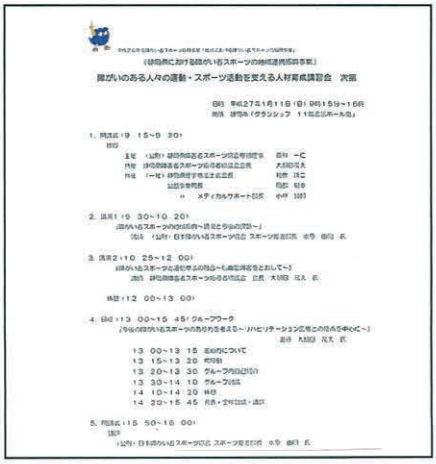
参 加 者　６９名（ＰＴ.ＯＴ.Ｄｒ.Ｎｓ.含む）



募集要項



申込書



次第

3回目

日　　時　平成２７年２月１１日（水祝）１０時～１２時

会　　場　あいホール（浜松市中区幸三丁目 3-1）

参 加 者　１９名

◇アンケート（抜粋）

1　この講習会（及びスポーツ教室）を受講して感じたこと。

・障がい者と健常者を区別してはいけないと思いますが、色々な思いをもった先生が包み隠さず本音を話してくださった講義は楽しかったです。
・障がい者の気持ちをもっと理解したいです。
・たくさんの方が参加してくださって、楽しいと感想までいただけて嬉しく思います。スポーツ教室の情報を色々欲しいと思います。
・講習では、今まで知らなかったスポーツの歴史についてや、普段関わっていない障がいの事を知ることができた。スポーツ教室もとても楽しく体験することができました。審判もやらせていただき、良い経験になりました。施設でもぜひやりたいと思いました。
・指導者、指導の基礎をつくることの大切さ、スポーツをする場所が機会が少ないということ。学校を卒業した後でもなにかしらのスポーツを継続してほしいなと強く感じた。
・常々講習会に参加させて頂くことで、障がい者スポーツに関わる意義を再確認できる。
・これまでの指導は指導になっていたのか。
・この数年間、リハビリスポーツの大切さを感じていた。医療従事者が障がい者スポーツに関心を持ってくれることを望んでいたので、多くの参加者がいて嬉しく思った。
・障がい者スポーツと運動療法の融合はとても興味深かった。体力の向上が目に見える数字で表されるとモチベーションにつながると思った。リスクの話をもう少し聞きたかった。
・脳血管障害の話がとても参考になった。
・熱意を持っている方々がいる。
・日々の生活の中で共に障がい児・者と過ごしているので希望の光を感じた。障がいがあることで暗かったイメージを明るいイメージに変えていきたいと強く思った。
・障がい者スポーツは特別なものではないということ、指導者として障がい者スポーツの楽しさや可能性を伝えることが大切であるというイメージをいただいて気をひきしめることができた。（指導者の心得）
・医学的知識がないので、実際に障害をもつ人との関わりをもっと多くしたいと思う。
・ＰＴとしての障がい者スポーツへの関わりが必要だということ。もっと県士会と共同での勉強会を行ってほしい。具体的なリスク管理等絡めた障がい者の身体についての講義を聴講したい。
・障がい者スポーツ指導員がなにをしているのかあまり見えてこない。
・障がいのある人々の運動・スポーツ活動というとパラリンピックなどＴＶという媒体を通してみるといった少し遠い存在だったが、身近なものと感じることができた。
・“病院”というリハビリの入り口から“社会参加としての障がい者スポーツ”を提供する者同士が同じ場所で障害者スポーツについて考える機会が得られたこともまた素晴らしいことだと思う。
・運動療法を取り入れることの必要性、それは負担を軽減することまた社会へのアピール等で多くの人たちへの理解を深めていく、その循環がさらには障がい者スポーツが発展すること。そのためには指導員が質的向上をしていかないとと認識した。
・障がいがあっても工夫することでスポーツを楽しむことができると思った。自分自身がＰＴとして選

手の能力を理解、判定してたくさんの人がスポーツできるように支援していきたいと思った。
・ＰＴからみたスポーツのとらえ方を聞けたこと、リハビリに従事してる方の話を聞きたいと思った。

2　あなたが地域で指導しているスポーツは。また、障がいのある方の参加状況は。

・すべて指導者ではなくお手伝いとして（ソフトボール、野球、ＦＤ）
・指導していません。施設でドッチビーの大会に出場が決まり、講師の方と一緒に体験したりしています。
・子どもたちにテニスを指導している。これから参加者を増やしていこうと思います。
・月１～２度のボッチャに参加。
・中学生の体育の授業として、知的、精神障がいのある子どもに。
・みんなでスポーツ教室、スポーツ巡回指導
・野球、車いすマラソンを指導しているが選手が少ない。
・水泳教室。最近水中でリラクゼーションを含む水治療法参加者が増えています。
・障がい者本人が一人で参加するのは移動面で難しい。「やりたい、やらせたい」という意見は聞くが、参加者は増えていない。
・ニュースポーツ（ファミバト、インディアカ、ソフトバレーボール、スポレック、ラダーゲッターなど）障がい者の参加はない。
・６０歳以上の方々に健康体操を指導している。
・障がい者陸上のメディカルサポート
・障がい者カヌー（レクレベルから認知、普及が必要。県内ではまだ未実施）
・毎月土曜日（１回）午前中に原地区センターで実施。参加者は毎回変動しており、特に寒い時期は参加者が少ない。
・知的障がい・身体障がい・精神障がい・聴覚障がいのグループがあり、それぞれ活動している。一緒に活動することもある。スポーツと平行して研修会等の勉強会も企画している。

3　あなたの地域に、障がいのある方がスポーツできる環境はありますか。どのような。

・ない。子供のスポーツ団体もグラウンド確保に大変です。
・市のプール。グラウンドや体育館などは少ないと思う。
・施設のある地域の体育館を借り（有料）体を動かしています。（２ヶ月に１回くらい）１０月には施設での運動会を公園で行っています。
・市内での活動には日程が合わず、行けないことが多いです。あまり詳しいことは分からないのですが、公共の場で使える体育館が少ない。（坂が多い、料金が高いという理由）で定期的な使用場所がないと聞きます。
・体育館などはありますが、教室等はあまりありません。
・障がい者用トイレがあり、バリアフリーの環境が少ない。
・体育館（バリアフリー）を予約したくても健常者と競争になってしまう。
・水泳ですが、あるスポーツクラブの協力で場所を借りている。また、市民プールでは一般の方に迷惑のかからない時間帯に利用している。
・障がいをもっているが、通常のスポーツクラブに通っており視覚や肢体、知的の人も通っているので基本的にはどこでもできるのでは。
・小学生の知的障がい児の父兄から要望があり、スポーツ推進員が月２回指導に当たっている。友人が体操教室でダウン症の体操を指導している。

・障がいのある方が気軽にスポーツをしたいと思って個人で行って利用できるようなスポーツ施設は少ない（ない）ように感じる。
・県スポーツ協会からのスポーツ教室・巡回指導に頼るしかない。活動に対する協力体制がない。
・交通手段が難しい。
・健常者のレクリエーション・スポーツ大会は見たり聞いたりしたことはあるが、障がい者の関係のものは告知さえも見たことがない。

4　地域の障がいのある方が気軽に安心してスポーツに触れることのできる環境をふやすには、どうしたら良いと思いますか。

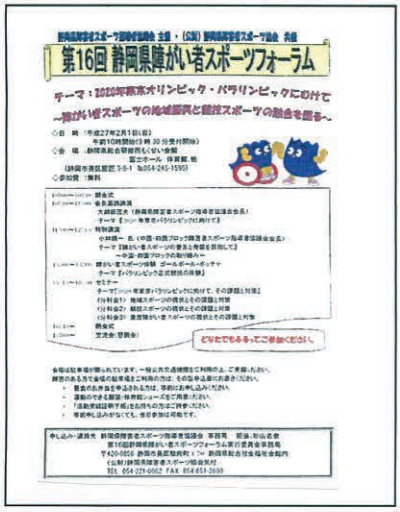
・障がいと１つにくくるのは間違いです。身体・知的・精神で対応の仕方が全く違います。それをほんの少しの時間で理解することは大変だと思います。日々、お世話をしている、福祉施設職員や特別支援学校の職員に、積極的にお手伝いをしていただきながら、スポーツを勧めていくことが大切なのではないでしょうか。
・情報だったり場所の提供、指導者の方の必要性。障がい者の方の教室を作る。（例えば、市の水泳教室に障がい者のクラスを作る。水を好む方が多いし、体を動かす良い運動だと思います。
・健常者の方にも障がい者スポーツをもっと認知してもらい、障がいをもった方が過ごしやすい時間、空間作りをしていく。
・家族の方に負担がかからないように、公共交通機関で移動が可能な場所で行う。
・施設等でスポーツを行い（気心知れた仲間で）スポーツを体験する楽しさを知る。それから外の世界へ出ていく。
・アクセスが良いこと。広い駐車場があること。子供との交流（障がいのある方にとっても、新鮮である。子供にとっても偏見がなくなり、成人してからも携わってくれる）
・教室等の定期開催。ちらし。ＰＲ。開催場所の確保。
・地区の運動会で、今までやってきた競技だけでなく全ての人達（ハンディのある人も）がやれる種目をいれる。
・県民だより、市町広報誌等でのイベント紹介。
・地域で主体的に企画・運営できる指導員の養成と支援。
・資金確保（支援企業の発掘等も重要）
・健常者の地域の大会に障がい者も参加できる区分分けのようなものがあると良いと思う。浜松シティマラソンを開催しているが「車椅子」というだけで断られる。
・支援できる方の増員、障がいをもった方たちへの社会の理解。
・施設を造る、病院の参加も重要、包括支援の中に取り込む。
・健常者の参加を増やす。
・重度の人たちがスポーツする際に指導ではなく移動や介助等をしてくれる人や制度が必要。
・障がい者もスポーツをするという文化をつくるための教育。
・行政から発進してくれると嬉しい。スポーツ推進員が動きたくてもなかなか難しい。
・熱心で正しい指導者。タイムリーで正確な情報。道具・会場などの環境整備。
・体協との合同で事業を行う。
・障がい者が優先に使えるスポーツセンターがあると良い（静岡県障がい者スポーツセンター）
・役場への呼びかけで地域の病院、施設と連携が必要。

・スポーツ指導員の横の繋がりを増やせたらよいのでは。
・家族の支援。
・健常者が“提供”するのではなく、障がいのある方が「なにをしたいか」それを実行するには「どうすればいいか」を多くの専門家を含め健常者と障がいのある方が一緒に考える機会が必要だと思う。
・市町ごとに研修会を行うことで、認知度を高めてはどうか。
・病院や施設などからそのままの流れで参加していけるような仕組みを取り入れたらよいかと思う（一度自宅へ帰って落ち着いてしまうとなかなか始めづらい。病院の段階からもっとスポーツリハを取り入れ、そこと地域での活動をつなげていければいいと思う。）

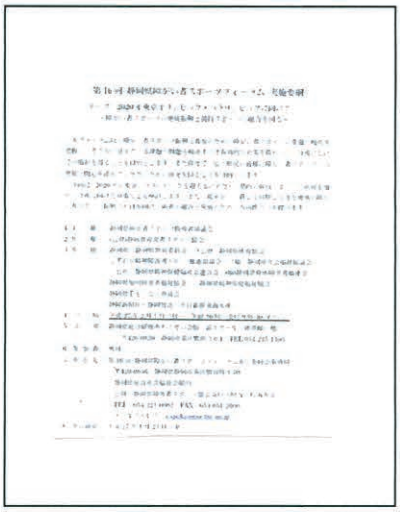
5　その他、障がいのある方とスポーツ(レクリエーションを含む)に関しお気づきの点がありましたら、ご意見をお願いします。

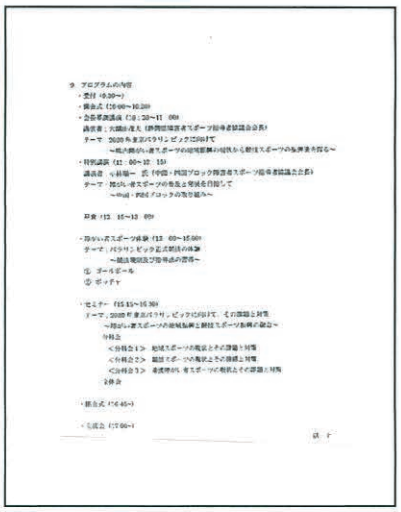
・私の働いている施設にも若い力があまっている知的の利用者さんがいます。どんどん地域の中のスポーツに参加させてあげたいと思っています。障がい者の方の活動には、協力したいと思いますので、また声をかけていただいたり、広報などで知らせていただけるとありがたいです。
・自分がガイドしている方はスポーツが好きで、水泳や卓球はダイエットも兼ねてやっているが、バレーやバスケットなど団体の球技などやれる所がない。食に興味のある方が多く、運動不足で若い方でも肥満の方が多く、体を動かす事に楽しさを覚えていただけたらと思います。
・福祉施設などで交流試合や、大会があるとスポーツをする機会が増えると思います。.
・小さな場所（病院の廊下やホール）でもできるデモンストレーションを細かく回数を上げて行ってほしい。特別支援学校でもスポーツをきちんと指導できる（正式なルールにのっとって行える）先生は少ないと思う。学校の先生対象に細かく指導してほしい。
・リハビリ医療として障がい者スポーツはとても重要だと感じる。病院に入院している間は１日１時間以上のリハビリを受けられるが、退院後は１週間に１時間しか受けられなくなる。
・こういった講習を定期的に行ってほしい。まわりに仲間がいないので、とても意欲を高める時間となった。（演習もできたらよかった）
・障がい者がスポーツできる環境は少しずつ広がっていると思われる。スポーツ協会が企画・運営することがよいことだと思う。種目の組織ができるとそれを統括する場所が協会であるとするとスポーツ振興が進むと思う。個々のスポーツ教室を開催するにあたり、会場を見つけることが難しい。人材育成も必要。
・いろいろな職種の方々と関わりを持って障がい者スポーツを盛り上げていきたい。
・スポーツの必要性を利用者、参加者にどのように伝えていくのか。スタッフが呼びかけても限界があるように感じる。
・障がいを意識しないで多くの方たちと一緒にできるスポーツができれば優しい社会への一つになるのではないかと思う。
・競技スポーツをするにあたり、リハスポーツなどでスポーツの基盤をつくる大切さを感じた。
・指導員の知識、経験不足（イベントや大会等において、指導員がきちんとルールを理解できていない場面が見受けられた）
・重度の方が混ざっていた時の進行の仕方が難しい。生きていた「証」を求めていることに感じることがあった。

③ 静岡県障がい者スポーツフォーラム開催


第16回 静岡県障がい者スポーツフォーラム

テーマ：2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて
～障がい者スポーツの地域展開と競技スポーツの融合を図る～





日　　時　平成２７年２月１日（日）１０時～１６時４５分　交流会１７時～

会　　場　静岡県総合研修所もくせい会館　富士ホール・体育館（静岡市葵区鷹匠３丁目）

主　　催　静岡県障害者スポーツ指導者協議会

共　　催　公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

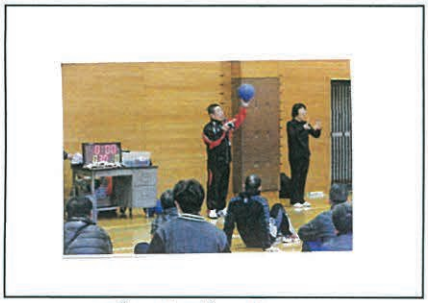
後　　援　静岡県・静岡県教育委員会・（公財）静岡県体育協会・しずおか精神障害者スポーツ推進協議会・（福）静岡県社会福祉協議会・（公社）静岡県精神保健福祉会連合会・（福）静岡県身体障害者福祉会・静岡県知的障害者福祉協会・静岡県精神保健福祉協会・静岡県手をつなぐ育成会・静岡新聞社・静岡放送・中日新聞東海本社

参 加 者　肢体障害１６名、視覚障害２名を含む指導員他一般参加者計１０４名

実行委員長あいさつ

会長基調講演

特別講演



ゴールボール

ゴールボール

ボッチャ

ボッチャ

分科会

交流会

4　成果および評価

今回は、『ふじのくに地域スポーツ推進会議』（県教育委員会・各市町生涯スポーツ主管課・県体育協会・県レクリエーション協会・地域スポーツクラブ連絡協議会・県スポーツ推進委員連絡協議会・県スポーツ用品商業協同組合・学識経験者）へ参画し、事業紹介するところからのスタートができたため、開催希望もあり、公認指導員受講者もさらに増えた。

昨年度開催した教室参加者からの問い合わせも多かったが、その後、地域スポーツ推進委員と公認指導員との協働で継続実施できている市もあり、障がい者スポーツが普及していない地区を選定したかったため、募集案内送付を倍増したことで、障がい者スポーツへの県民の意識も高まっているのではないかと思われる。

また、県理学療法士会との共催で、リハビリ医療関係従事者への働きかけに重点をおいた講習会を開催できたことから、公認指導員が模索していた肢体障害者への指導方法に対して、適切な情報の把握ができ、今後の重度障害者への対応の道が見えてきたところである。

さらに今回は、昨年度からの三障害合同レクリエーションスポーツの枠を超え、静岡県の特色を生かし、サッカー競技に特化した募集をしたところ、他障害競技団体との交流が深まり、大会等への団体競技ならではの、まわりを巻き込んだ参加意識が、地理的問題を緩和し、地域からの支援をよび社会参加へ繋げていくことを感じた。

5　今後の課題（指導者の役割）

昨年度からの課題であるが、県協議会登録指導員の中で派遣できる指導員が限られており、開催回数が増えてくるとさらに大きな問題となってきている。

地域の指導員が居ない場所での教室開催は、その後に繋がらず、地域に根付いていかない。

今後は、指導員のスキルアップ研修を集中的に継続実施し、地域行政機関、医療機関、スポーツ推進委員の協力で、各地域の指導員同志で自主的に開催（スポーツ協会はフォロー）できるよう、指導員へのサポート体制を早急に組み立てたい。

さらに、指導員が障がいのある方に指導して終わりではなく、各施設・学校・地域の介助者・付添者・保護者に一緒に指導方法を伝え、スポーツの良さを実感してもらい、その場所でのスポーツ環境を創り上げていくことが課題であると思う。

6　おわりに

「障がい者スポーツトライアル教室」に参加して思う

静岡県障害者スポーツ指導者協議会会長　　大胡田　茂夫

本事業の中で、2 地区のスポーツトライアル教室（以下；教室）に指導員として、また人材育成講習会など 3 地区で講習会講師としてそれぞれ参加しました。

昨年も参加した事業のこともあり、幅広く客観的に見て考えることができたこと、またその一方で、私なりの課題が見えてきたことなど、私にとっても、意義深く納得のできる教室でありました。

本報では一人の指導員の立場で参加した教室に関して、三島地区教室に参加したＭ君のことから、その役割などに触れ、私個人の感想に替えさせていただきます。

Ｍ君とは三島の教室の始まる直前に初めて会いました。Ｍ君は私どもが運営している「東部障害者スポーツクラブ（以下；クラブ）」の会員Ｋ君と知合いで、この教室もＫ君のお父さんから知らせを受け参加したということでした。Ｍ君のお父さんは、Ｍ君が就労支援施設を利用して以来、「すっかり体を動かす機会が減った」、「施設に馴染めず、最近どうも元気がなくなってきた」と、不安であり心配していることなどを話してくれました。

同様な話は、もうかなり前頃から聞いています。特別支援学校高等部を卒業した多くの障がい者が、その後運動不足や友達との交流機会が減り、精神的にも不安定になったという話です。

三島の教室が終わり、Ｍ君とお父さんにクラブを紹介したところ、今は家族で通ってきています。もともと運動・スポーツが得意であったということもあり、プログラムの実践では楽しそうに張り切って汗を流しています。

私は、この教室の目的や役割は、まさにこのような事例を着実に増やし、しだいに地域にスポーツを根付かせることではないかと思います。昨年も同様な捉え方はしていたのですが、とにかくスポーツやレクリーションを体験してもらい、楽しい時間を共有することと、その地域のスポーツ振興状況を知ることに主眼を置きました。Ｍ君の例はほんの一例に過ぎませんが、この教室に参加した障がい者が、スポーツの楽しさや意義を感じ、その後の生活の中にスポーツを取り込んでいく。また、福祉施設内の日課の一部に運動・スポーツの時間を設定し、利用者の体力・健康づくりの一つの手段に加える。このようなことなどを通じて、地域スポーツの発展が大いに期待できるものと信じています。

教室で、「運動・スポーツ」という小さな種を蒔き、それが芽吹き、大きく実るには長い年月を要することは承知しています。しかし、蒔かれた種は必ず芽を出します。そんな日が早く訪れることを期待せざるを得ません。

平成２６年１２月２４日　熱海新聞

10種のスポーツ体験

県障害者教室に20人参加

熱海

フライングディスクを使って体を動かす参加者＝熱海マリンホール

熱海市の南熱海マリンホールで23日、「県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室」（県障害者スポーツ協会主催）が開かれた。熱海、伊東両市から20人余りが参加し、フライングディスクを使ったスポーツなどを体験した。

県内各地域に障害者のスポーツ環境を根付かせ、生涯スポーツとして発展させることが狙い。日本障害者スポーツ協会の委託事業として本年度は全国11県で開催。県内では熱海、三島市を含む計6カ所で実施している。

知的、精神、肢体各障害者が対象で、施設関係者などを含め約30人が参加。浜松特別支援学校教諭で県障害者スポーツ指導者協議会副会長の波多野俊哉さんが講師を務めた。

会場には10種類ほどの障害者スポーツが用意され、参加者の希望に合わせて指導した。準備運動に続き、柔らかい素材でできたフライングディスクを使った競技で体を動かした。革製の球を投げたり転がしたりして、的球への距離を競うボッチャにも挑戦した。参加者は笑顔を見せながら、さまざまなスポーツを楽しんだ。

同協会の担当者は「伊豆地域には施設や指導者が少なく、障害者スポーツが根付いていない。社会参加の一つとして、広めていきたい」と話した。

平成２６年１２月２５日　静岡新聞

熱海　障害者がフライングディスクなど楽しむ

県障害者スポーツ協会は23日、「県地域ネットワーク型障害者スポーツトライアル教室」を熱海市の南熱海マリンホールで開いた。熱海、伊東の両市などから障害者約30人が参加し、フライングディスクを使ったスポーツなど計7競技を楽しんだ。

同協会や県障害者スポーツ指導者協議会の会員らが指導法を務めた。柔らかい素材でできたフライングディスクを仲間や的に向かって投げて体を動かした。写真＝ほか、的玉を目掛けて持ち玉を投げ、いかに近づけるかを競う「ボッチャ」などにも挑戦した。

県内各地域に障害者スポーツの環境を根付かせることを狙った日本障害者スポーツ協会の委託事業で、本年度の開催は6カ所目。県東部では三島市に続いて2カ所目で、ボランティア指導員も多数参加した。

平成２７年１月１３日　静岡新聞

脳血管障害に運動療法も有効

静岡で講習会

県障害者スポーツ協会などは11日、運動療法士で県障害者スポーツ指導者協議会長の大胡田茂夫さん（64）＝沼津市＝らを講師に招いた「人材育成講習会」を静岡市駿河区のグランシップで開いた。

運動によるリハビリの有効性を強調する大胡田茂夫さん＝11日、静岡市駿河区のグランシップ

大胡田さんは、中伊豆リハビリテーションセンター（伊豆市）などで脳梗塞や脳出血などの脳血管障害で体の自由を失った人々のリハビリに当たった経験を披露。脳血管障害を「スポーツと最も縁遠い障害とされる」と紹介する一方、安静第一の中でも運動療法が将来的な健康につながると強調し、踏み台昇降運動などの効果を解説した。

県内の障害者スポーツ指導者や理学療法士ら約70人が参加した。日本障がい者スポーツ協会の水原由明スポーツ推進部長から障害者スポーツの現状と課題を聞いたほか、グループ討議なども行った。

平成２７年２月６日　静岡新聞

障害者スポーツ 県内の課題検討
静岡で指導者ら

県障害者スポーツ指導者協議会（大胡田茂大会長）はこのほど、「県障害者スポーツフォーラム（静岡新聞社・静岡放送後援）」を静岡市葵区のもくせい会館で開いた。県内の障害者スポーツの指導者や競技者ら約80人が参加し、2020年の東京パラリンピックに向けた県内の課題などを考えた。

分科会では20年を見据えた課題や対策について、「地域スポーツ」「競技スポーツ」「重度障害者スポーツ」の3テーマで議論した。

「障害者スポーツを知る場がない」などの意見が出た。活発な取り組みが進められている中四国ブロック障害者スポーツ指導者協議会の小林順一会長の特別講演や、本紙夕刊「窓辺」を担当している大胡田会長による講演もあり、参加者は現状への理解も深めた。

東京パラリンピックに向けた課題について分科会で議論する参加者＝静岡市葵区のもくせい会館

平成２７年１月１１日　静岡新聞

障害者サッカー 21チームが熱戦

静岡県サッカー協会ハンディキャップ委員会は10日、障害者サッカー大会「静岡カップ'15」を静岡市清水区の清水ナショナルトレーニングセンターを主会場に開いた。知的障害者チームの交流大会として毎年開催し、ことしが16回目。小学生から一般の知的障害者4部門に21チームが出場し、リーグ戦などを行った。

今回はより多くの障害者がサッカーで交流する機会を目指し、電動車いすサッカー、アンプティサッカー、ブラインドサッカーの3部門を新設し、それぞれデモンストレーションや体験教室などを行った。

このうち上肢または下肢を切断した人が競技するアンプティサッカーは日本代表選手も来場し、スピード感あるプレーを披露した。

大会は清水ライオンズクラブが資金提供などで協賛し、清水庵原ゲートボール中と東海大翔洋中のサッカー部がボランティアとして運営を支えた。

日本代表を交えたアンプティサッカーの模範試合＝10日午後、静岡市清水区の清水ナショナルトレーニングセンター

平成２７年１月１１日　中日新聞

車いす障害者らサッカー楽しむ
清水区でイベント

身体障害者らによるサッカーフェスティバルが十日、静岡市清水区の清水ナショナルトレーニングセンターなど三カ所であった。目が不自由な人の「ブラインドサッカー」などルールの異なる四種類の競技を通じ親睦を深めた。

電動車いすサッカーの部では、ともに県内で活動する「SFCデルフィーズ」と「F・バッドボーイズ」が対戦。選手らは車いすの前方に備え付けたプロテクトガードで力強くボールを打ち込んでいた。下肢切断者らがクラッチと呼ばれる松葉づえで移動して七人制で争う「アンプティサッカー」の部では、健常者を交えてシュートやドリブルの仕方を学ぶ体験会も行われた。

参加した静岡アンプティサッカーを応援する会の原正英代表は「これだけ多くの障害者サッカーが集まるのは全国でも珍しい。お互いの競技の魅力を知り合うよい機会になった」と笑顔を見せていた。（奥村圭吾）

電動車いすで巧みにドリブルする選手ら＝静岡市清水区の清水ナショナルトレーニングセンターで

兵庫県障害者スポーツ普及・振興事業

◆ 障害者スポーツ指導者派遣事業

◆ 障害者スポーツ広報事業

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

１．はじめに

兵庫県では、今後 10 年間のスポーツ施策の基本的な考え方や具体的な方向性を示す「兵庫県スポーツ推進計画」を平成 24 年 12 月に策定した。計画の重点目標のひとつである『障害のある人のスポーツ参加者の増加』において、(1)障害者スポーツのすそ野拡大、(2)障害者スポーツを支える施設環境の整備、(3)障害者スポーツ選手の育成・強化、(4)障害者スポーツへの理解向上を推進することとしている。

また、同計画（実施計画）では平成 24 年度から平成 33 年度の 10 か年計画を策定しているが、目標指標のひとつとして、「障害者スポーツとの連携に取り組むスポーツクラブ 21 の増加」を掲げていることから、当協会では平成 27 年度にモデル的に障害者スポーツ指導員をスポーツクラブに派遣する出前教室を企画・実施した。

また、障害者スポーツの県民に向けた広報を強化するため、「スポーツクラブ２１ひょうご」全県スポーツサミットに参画、これまで年１回（年度末発刊）であった広報誌を年２回の発刊とした。

２．目的

小学校区ごとに設置しているスポーツクラブでは、地域にお住まいの方々が、多種多様なスポーツを楽しんでいる。しかし、障害者スポーツを積極的に取り入れているクラブ、障害のある方がメンバーとして多数参加されているクラブは少ないのが実情である。そこで本事業では障がい者スポーツ指導員がスポーツクラブに出向き、誰もが、いつでも、どこでも、気軽に体を動かし、楽しむことのできる障害者スポーツを紹介し、体験し、興味を持ってもらうことで、今後、障害のある方にスポーツ参加の呼びかけをしていただくことを期待して実施する。

また、障害者スポーツのすそ野の拡大を推進するためには、県民への啓発が必要不可欠であることから、年２回の広報誌発刊により、県民への障害者スポーツへの理解を促進するとともに、「スポーツクラブ２１ひょうご」全県スポーツサミットの分科会において、スポーツクラブのリーダーに対して、障害者スポーツの体験会を実施することで地域のスポーツクラブと障害者スポーツの連携を推進するきっかけとする。

３．事業内容及び成果

Ⅰ　障害者スポーツ指導者派遣事業

(1)　スポーツクラブでの障害者スポーツ体験会
モデル的に４か所で実施した（３月１５日（日）西宮市で実施)。

①　スポーツクラブ２１（氷丘）

ア　日時
平成 26 年 11 月 24 日（月・祝）　10:00～12:00

イ　場所
加古川市立氷丘小学校体育館　コート 2 面

ウ　種目
シッティングバレーボール

エ　講師
県立障害者スポーツ交流館　川口　清隆　氏
シッティングバレーボールチーム（兵庫ＬＳＣ5 名、播磨キング 3 名）

オ　参加者
氷丘エリアスポーツクラブ／神吉スポーツクラブ
小学生男子 12 名　小学生女子 27 名　その他（保護者、スポーツクラブコーチ等)

カ　講習内容
○パス（オーバーハンド、アンダーハンド)
講師が見本を行い、５グループに分かれて円になり、パスをする
○スパイク・ブロック
4 つのグループに分かれてスパイクを打つ
スパイク練習をしながら、同時にブロック練習を行う
○サーブ
エンドラインからサーブを打つ
○ゲーム（講師と混合チーム)
①女子対女子、男子対男子の試合
講師 2 名、受講者 4 名で 1 チーム
受講者が全員入れるように交代しながら行う
②男女混合チームにし、受講者のみのチーム同士で試合
受講者全員が入れるように交代しながら行う
○ドリームマッチ（コーチ・保護者ｖｓ講師)
より本格的なプレーを見てもらうため、　コーチ・保護者チームｖｓ講師チームで試合を行った

※　受講者アンケートより

○あまり体験できないスポーツを体験できてよかった。

○障害者スポーツがこんなに楽しいとは思わなかった。

○とても難しかったけど、協力してできて楽しかった。

○障がい者スポーツもけっこう激しいので驚いた。

○つながりを大切にしているスポーツだと思った。

○コートが狭い分、すぐとなりに仲間がいるのですごく楽しくできた。

○障害者・健常者関係なくみんながスポーツできるというのはとても良いこと。

○バレー以外のスポーツでも、障害者スポーツをしてみたいと思った。

○だれもが楽しくできるスポーツをこれからも体験してみたい。

○もっと多くの人たちが体験できるといいと思う。

※　成果

○講師の数が多く、受講者一人一人に声をかけながら、講習を行うことができた。

○講師を交えての試合を行い、本格的なシッティングバレーを体験してもらえた。

○障害者スポーツは障害者のみのスポーツではなく、健常者も参加しているということを知ってもらうことができた。

○日頃行っているスポーツに近いスポーツを体験することで、初めての体験にもかかわらず「できる」ことが多いので楽しんでもらうことができた。

○今回の講習会をきっかけに他の障害者スポーツにも興味を示してもらえた。

②　　スポーツクラブ２１（誉田）

ア　日時

平成 26 年 11 月 27 日（木）10 時 40 分～12 時 20 分

イ　場所

たつの市立誉田小学校体育館（アキュラシー３サイト）

ウ　講師

西播磨総合リハビリテーションセンター　　堀尾　典之　氏

エ　参加者

誉田小学校児童　　35 名（特別支援学級 2 名）

スポーツクラブ２１誉田　　7 名（義足の方１名）

オ　講習内容

○障害者スポーツについて

○フライングディスク体験

○試合形式で体験　（選手役：児童、スポーツクラブ２１参加者／審判役：スポーツクラブ２１参加者）

※　成果

○体験の中でアイマスク、椅子を利用して視覚障害者、車椅子使用者の疑似体験も行うことができた。

○誉田小学校の教頭先生より、「来年も来ていただきたいくらい良い講習会だった。」と高評価をいただいた。
○学校の授業内に行ったことで、教師の方々も一緒に体験していただき、幅広い層の方々に受講していただくことができた。
○授業で福祉の学習をしている児童ばかりだったので、関心も高く、積極的に参加してもらえた。
○疑似体験することにより、児童から「障害者の苦労がわかった」「社会で困ることがわかった」という感想が多かった。
○障害者・障害児の参加があったことや、福祉学習をしていたこと、疑似体験をしたことにより、「スポーツを体験する」というだけでなく、「障害者スポーツ」を理解し、体験して「障害について考える」ことができていた。

③　スポーツクラブ２１（名谷）

ア　日時

平成 27 年 2 月 15 日（日）　10:00～12:00

イ　場所

神戸市立名谷小学校体育館　バトミントンコート 2 面

ウ　種目

フライングディスク・ボッチャ・ふうせんバレーボール・テーブルふうせんバレーボール

エ　講師

兵庫フライングディスク協会　加藤　成久　氏
兵庫県ボッチャ協会　水吉　達也　氏・　佐々木かおり　氏
兵庫県障害者ふうせんバレーボール連盟　古岡　芳弘　氏・　古岡　多恵子　氏
井垣　六朗　氏・　瓜生　治　氏

オ　参加者

名谷くすのきＳＵＮクラブ・神戸市立名谷小学校関係者等　３６名

カ　講習内容

フライングディスク
○フライングディスクのルール説明
○３グループに分かれてアキュラシー５体験

ボッチャ
○ルール説明
○グループ戦体験
各ボックスに 3～4 名入り、順番に投げてグループ戦を行う。
○個人戦体験
講師の佐々木氏と選抜 6 人（一人 1 球ずつ）が対決。
○ランプスの紹介

ふうせんバレーボール
○ルール説明
○２つに分かれてラリー体験
○試合

テーブルふうせんバレーボール
○ルール説明
○試合

※　受講者より感想
○実際の選手と試合ができて良かった。
○ＦＤは工夫次第で自分たちでできそう、やってみたい。
○単純なルールだからこそ、簡単に楽しめる。
○みんなで協力してできるので、楽しい。
○一緒に参加してできるのでみんなで楽しめる。
○今後、地域のスポーツ大会等でできればやりたい。
※　成果
○実際の選手が参加することで、参加者により競技の面白さをわかってもらえた。
○短い講習時間ではあったが、たくさんの競技を体験し、飽きることなく受講していただけた。
○「またやりたい」「自分たちでもできそう」という気持ちになってもらえた。
○親子の参加者や小学生の参加者、ご年配の参加者等、幅広い年代の方に参加していただけた。

④ 西宮市の地域の方
ア　日時
　平成 27 年３月 15 日（日）
イ　場所
　甲武体育館
ウ　種目
　フライングディスク・ボッチャ・ローリングバレーボール
エ　講師
　兵庫フライングディスク協会
　兵庫県ボッチャ協会
　ローリングバレーボールチーム
オ　参加者
　地域の方約５０名

(2)　スポーツクラブ２１ひょうご全県スポーツサミットでの障害者スポーツ体験会の実施

①「スポーツクラブ２１ひょうご」全県スポーツサミット

ア　日時

平成 26 年 12 月 7 日（日）　　13:30～15:00

イ　場所

兵庫県民会館けんみんホール

ウ　種目

フライングディスク・ボッチャ

エ　講師

兵庫フライングディスク協会　　東　祐一郎　氏

兵庫県ボッチャ協会　　原田　浩明　氏・　水吉　達也　氏

オ　参加者

サミット参加のスポーツクラブ２１のリーダー２５名

カ　講習内容

フライングディスク

○フライングディスクのルール説明

○アキュラシー５体験

ボッチャ

○ルール説明

○グループ戦体験

○個人戦体験

講師の原田氏と参加者が対決。

○ランプスの紹介

Ⅱ　障害者スポーツ広報事業

(1)　「スポーツクラブ２１ひょうご」全県スポーツサミット

兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県体育協会主催の平成 26 年度「スポーツクラブ２１ひょうご」全県スポーツサミットに参画、障害者スポーツ担当として分科会を主宰した（教育委員会が１１の分科会に均等に参加者を振り分け)。

分科会日時：平成 26 年 12 月７日（日）１３：３０～１５：００
参　加　者：スポーツクラブ２１のリーダー２５名
場　　所：兵庫県民会館９階
内　　容：①　公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会の活動説明
②　フライングディスクのルール等説明
③　ボッチャのルール等説明
④　フライングディスク、ボッチャの体験会

(2)　広報誌の年度内２回の発行

通常、年度末に１回発刊していた広報誌を、障害者スポーツの普及・啓発を強化するために年度内２回発刊とした。具体的には、３月号に加え、新たに９月号を発刊、誰もが親しみを持ってもらえるようにカラフルな色を駆使し、障害者スポーツ関係機関、関係者に配布した。全国大会の予選を兼ねる「第８回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会」の結果や全国大会出場選手の記録掲載など、内容も工夫した。

４．障がい者スポーツ指導者の活動・役割

障がい者スポーツ指導員は、これまで、障害者スポーツ大会等の運営スタッフとして従事し、当協会に多大な貢献をいただいている。しかし、今後、障害者スポーツのすそ野の拡大のためには、出前講座などの積極的な施策が必要である。そのため、当協会では、サテライトの障害者スポーツ推進拠点を設置し、その拠点を起点として出張スポーツ教室を企画・実施するなど障害者スポーツのすそ野拡大を推進しておられる長野県障がい者福祉センターサンアップルを平成 26 年 11 月７日（金）に訪問し、様々な助言をいただいた。2020 年東京パラリンピックの開催が決定し、障害者スポーツの関心は高まっているが、これまで以上に障害のある方のスポーツ参加、ひいては社会参加を推進するためには、障がい者スポーツ指導員を中心とした関係機関のネットワーク、機動力が必要であり、障害者スポーツ支援リーダーの養成などの斬新な施策等の有益な情報提供は、本事業の実施において大いに参考となった。誌面をお借りして、サンアップル関口一道所長はじめ、ご協力いただいた職員の皆様に深く感謝申し上げたい。

５．事業評価

障害者スポーツ指導者の派遣事業の参加者は、皆、「楽しく競技できた」、「今後も、障害者スポーツに関わっていきたい」など総じて高い評価をいただいた。これまでは、障害者スポーツという言葉が一人歩きし、ハードルが高いように感じていた方が多い。その抵抗感が少しでも払拭できたのであれば幸いであり、モデル事業の効果は十分なものであったと言える。

また、「スポーツクラブ２１ひょうご」全県スポーツサミットへの参画、広報誌の年度内２回発刊の広報事業の推進については、障害者スポーツを広く知っていただく、興味を持っていただくという視点からも有意義であった。また、広報誌は全国大会出場選手も目にすることで、全国大会に向けたモチベーションアップにつながった。

６．今後の課題、展開

参加者は性別・年齢層・スポーツクラブで参加されている種目などは多種多様であったが、健常者が多く、障害のある方は少なかった。障害のある方、ない方、誰もが楽しめるスポーツとして、フライングディスク、ボッチャ、シッティングバレー、ローリングバレーなど体験いただいたが、あらかじめ障害のある方への声かけは難しかったようである。今後の課題としては、今回の参加者は、競技のルール、楽しさを知ることができた、地域の障害のある方にスポーツクラブへの参加をいかに呼びかけるかということであろう。スポーツクラブの組織の中で、たとえば「フライングディスク」の部を組織化することが理想であるが、一番のネックは競技道具である。障害者スポーツのすそ野の拡大が当協会の使命であるので、オーダーいただいた地域へ、障害者スポーツ指導員を出前講座として派遣することはもちろん、障害者スポーツの活動を支援する人材を地域ごとに登録し、活動していただく施策を推進していきたい。

７．おわりに

本事業に実施にあたり、参加いただいたスポーツクラブの皆様、自治会、ＰＴＡの皆様、場所を提供いただいた小学校の先生、競技指導等でご協力いただいた兵庫障害者フライングディスク協会、兵庫県ボッチャ協会、シッティングバレー・ローリングバレーのチームの皆様、本当にありがとうございました。

今回のモデル事業の経験を貴重な財産として、（公財）兵庫県障害者スポーツ協会の事業を邁進してまいりたい。

【事業記録】

『フライングディスクルール説明』

『テーブルふうせんバレー体験』

『シッティングバレー体験』

『シッティングバレー体験』

『ボッチャ体験』

『フライングディスク体験』

講習会のご案内
平成 26 年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会受託事業

はじめの一歩

障害者や高齢者など誰もができるスポーツを
みる 知る 触れる(体験する)
ことから始めませんか。

兵庫県では、2000 年度に「スポーツクラブ 21 ひょうご」が設立され、今では県内各地で子どもから高齢の方までがライフスタイルに応じたスポーツ文化が定着しています。

その兵庫で、**誰もがいつでも・どこでも・気軽に体を動かすことができるスポーツを学び、体を動かす爽快さを体験してみませんか？**

プログラム

☑ 2 時間

講師派遣無料!!

み　る	DVD や写真、図書の紹介。
知　る	障害者スポーツや障害のある方の話。
触れる	いろいろな障害者スポーツ用具に触れる、体験する。

○日時の調整、体育室や会議室など場所のご提案もいたします。
○少しでも興味を持たれたら、是非一度ご連絡ください。

講師派遣（旅費等）は無料、用具等も無料で貸出します。ただし、会場使用料や参加に係る諸費用は依頼者のご負担となります。

こんなスポーツが体験いただけます

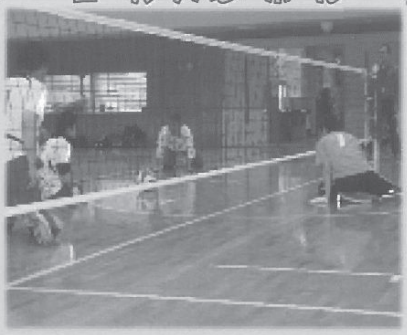
フライングディスク

標的の輪をめがけて 10 回連続投げて通過した回数を競う競技です。

ボッチャ

ペタンクに似たルールで赤と青のボールを白いジャックボールに寄せ得点を競います。

ローリングバレーボール



ネットの下にボールを通過させる６人制バレーボールです。

上記以外のスポーツも体験いただけます。「バレーボールに似たスポーツがしたい」「体力があまりない方でも気軽にできるスポーツがしたい」「車いすの方と一緒にできるスポーツがしたい」など、何でも気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ・お申し込みは公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会まで！！

FAX：078-362-9040　TEL：078-362-3237　mail：shogaishashien@pref.hyogo.lg.jp

団 体 名		お問合わせ内容 やってみたい スポーツ　等	
代表者名			
ご連絡先			

このチラシに直接記入して、FAX で送っていただければ結構です。メールでも OK です。

主　催　公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
協　力　ひょうご障害者スポーツ指導者協議会／障害者スポーツネットひょうご
後　援　兵庫県／兵庫県教育委員会

愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業

◆ 愛媛県障害者サイクリング大会開催事業

◆ 愛媛県障害者スポーツ紹介事業

愛媛県障害者スポーツ協会

平成 26 年度「地域における障害者スポーツ振興事業」事業報告書

愛媛県障害者スポーツ協会

①はじめに

本県では、平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」が策定され、子どもから高齢者・障害者まで地域住民誰もが、身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとしている。また、平成 29 年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会への理解と認識を積極的に推進していく必要がある。このため、今回、誰もが身近にできるスポーツを楽しむ体験事業と全国障害者スポーツ大会の普及啓発のための事業を企画した。

②実施目的・ねらい

平成 29 年に本県で全国障害者スポーツ大会が開催される予定となっており、全国障害者スポーツ大会の啓発と障害者の心身の健康増進や社会参加に対する理解が得られるよう「愛媛県障害者スポーツ理解啓発事業」を実施する。

③実施概要

・事業内容および協力団体

（1）愛媛県障害者サイクリング大会開催事業

日時：平成 26 年 9 月 27 日（土）9：00～15：00

場所：しまなみ海道（今治～（来島海峡大橋）～大島バラ公園）

参加：参加者 25 名（知的、視覚及び聴覚障害者。介助者 2 名）

スタッフ：42 名

実施協力：愛媛県、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、ＮＯＮちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチーム他

内容：しまなみ海道の自転車専用部分及び一般道【今治～（来島海峡）～大島】約 20 ㌔のコースを、普段自転車に乗る機会のほとんどない視覚障害者や知的障害者等がタンデム自転車や 1 人用自転車に乗り、サイクリングを楽しむ。

（2）愛媛県障害者スポーツ紹介事業

実施日：平成 26 年 12 月 3 日　（水）15：40～16：40

平成 26 年 12 月 11 日（木）13：45～15：30

実施場所：宇和特別支援学校及びしげのぶ特別支援学校

参加者：約 65 名（生徒、保護者、教職員）

実施協力：愛媛県教育委員会、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、特別支援学校、フライングディスク協会他

内容：障害者スポーツの啓発チラシ及びグッズを作成し、県内各市町の福祉団体や障害者関係機関等に配布し、障害者スポーツの普及啓発に努めると共に、特別支援学校等を訪問し、障害者スポーツ体験会（フライングディスク）を併せて実施した。

④障がい者スポーツ指導者の活動・役割

本県では、障害者スポーツ協会が発足間もないことから、各事業等の実施において障害者スポーツ指導員の役割は大きく、常に連携して事業を実施している。特に今回のサイクリング大会においては、パイロットとしての役割は勿論、カメラマンやＤＶＤ編集係、事前準備等幅広く協力していただき、1つの事業を実施することで今まで以上に連携が図られた。また、障害者スポーツ紹介事業においても、フライングディスク協会の方のサポートや生徒の手足となり、支援していただき、障がい者スポーツ指導者と障害者スポーツ協会との連携の大切さを改めて感じた。

⑤成果及び評価

(1) 愛媛県障害者サイクリング大会開催事業

自転車は初体験の障害者も多く、タンデム自転車でパイロットの先導により、サイクリングを楽しむことができたことは、有意義で障害者の人たちも十分満足した様子で「来島海峡大橋を自転車で初めて走ることができて、爽快だった。来年は違う場所を走りたい。」「来年はいつ実施するんですか。」等の声も多数あり、思い出に残る大変貴重な体験ができた。本県では、県を挙げてサイクリングを積極的に取り組んでいることもあり、協力していただいた県庁サイクリングチームや愛媛銀行サイクリングチームとの連携が図られ、「是非、来年も実施しましょう。」という声も多く聞かれた。

(2) 愛媛県障害者スポーツ紹介事業

啓発チラシ及びグッズを作成し配布したことで、「国体は知っていたが、障害者スポーツの全国大会のことは知らなかった。」という声もあった。テレビ・新聞等は勿論、県内各市町や関係機関のポスターや広報誌等で紹介され、県民の皆さんに周知していただいていると思っていたが、直接、チラシやグッズを配付してみると、まだまだ不十分だということや普及啓発の大切さを肌で感じた。

また、フライングディスク競技が初めという子どもも多く、生徒からも「面白かった。来年の県の障害者スポーツ大会には、フライングディスク競技で参加したい。」という声も聞かれた。学校サイドからも、「来年度以降もいろいろな障害者スポーツを紹介して欲しい。」というような声もあった。平成29年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会の普及啓発が一層図られるとともに、障害者スポーツ体験会（フライングディスク）で、普段体験したことのない障害者スポーツを体験することができ、大変有意義な事業となった。

(3) 新たな連携

「障害者サイクリング大会」及び「障害者スポーツ紹介事業」を実施したことで、サイクリング関係者や特別支援学校等、いままでつながりのなかった団体間との連携が新たに生まれるとともに活動の輪が広がり大きな成果があった。今後、この連携の輪を愛媛県障害者スポーツ協会の活動に活かしていけるのではないかと考えている。

⑥今後の課題

(1) 愛媛県障害者サイクリング大会開催事業

実施に際し、多くのスタッフの応援等が不可欠で、応援者の人員の確保が必要である。ま

た、県内ではタンデム自転車の台数に限りがあり、これ以上の参加者への対応等を検討する必要がある。次年度以降の実施にあたっては、人員の確保面では、今年度協力いただいた愛媛県、愛媛県障害者スポーツ指導者協議会、ＮＯＮちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチームに対し、人員の増員をお願いするほか、今回、日程があわず協力者のなかった伊予銀行サイクリングチームにも協力をお願いしたい。また、タンデム自転車の確保については、ＮＯＮちゃん倶楽部で新たに 2 台確保できたようであるが、タンデム自転車については、なかなか確保が難しいため、実施方法を検討（複数回実施する等）し、より多くの障害者に楽しんでもらえるよう努力していきたい。

（2）愛媛県障害者スポーツ紹介事業

普及啓発に努めており、ある程度全国障害者スポーツ大会への理解は得られたと思われるが、より一層の普及啓発に努める必要性を感じた。特別支援学校は、県内で 7 校あるが、26 年度については、日程調整ができず、2 校しか普及啓発事業ができなかった。このため、27 年度については、すべての学校に対し愛媛県障害者スポーツ指導者協議会と連携し、障害者スポーツの普及啓発に努めていきたい。また、県内の 9 箇所の競技開催予定市町とも連携し、開催市町等でのイベント開催時には、障害者スポーツの普及啓発を進めていきたい。

⑦その他所感、特記事項等

平成 29 年の全国障害者スポーツ大会開催を契機として、平成 25 年 4 月に愛媛県障害者スポーツ協会が発足し、昨年度は、ほとんど県からの委託事業の実施だけで終わった感があった。設立後間もないこともあり、まだ、十分機能していない部分も多いが、今年度、初めて「地域における障害者スポーツ振興事業」をさせていただいた。

初めて自主事業を主催することができ、愛媛県障害者スポーツ協会の存在意義を示すことが少しではあるが、示すことができたのではないかと思う。

今後も機会があれば、いろいろな事業を企画し、障害者スポーツの普及に努めて参りたい。

愛媛県障害者サイクリング大会（H26．9．27）

愛媛県障害者スポーツ啓発事業及び紹介事業

ほほえみフェスタ

障害者スポーツ体験会（FD）

宇和特別支援学校（H26．12．3）

しげのぶ特別支援学校（H26．12．9）

障害者スポーツに参加してみませんか！！

障害者スポーツは、何らかの障害のある人も、自分で活用できる能力を生かしてプレーができるように工夫されたスポーツです。健康づくりや、さまざまな人との親睦や交流などをして楽しみませんか。

また、障害者スポーツは、審判や選手の介助、手話及び要約筆記などのボランティアが必要です。

皆さんも障害者スポーツに参加してみませんか。

◎愛媛県障害者スポーツ協会の紹介

障害者の心身の健康増進と社会参加の促進を図るため、障害者スポーツの振興に関する諸事業を実施しています。詳細は、協会ホームページをご覧いただくか、当協会へお問い合わせください。

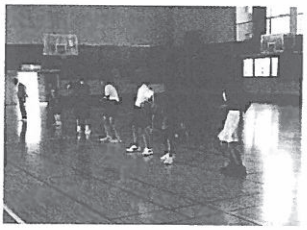
○愛媛県障害者スポーツ大会開催事業
・陸上競技、アーチェリー、フライングディスク、卓球（STTを含む）、水泳、ボウリング、精神障害者バレーボールを実施します。

○全国障害者スポーツ大会選手派遣事業
・県大会等で優秀な成績を収め、選考された選手を派遣します。

○障害者スポーツ指導員養成事業
・障害者スポーツの指導に習熟した指導者育成の講習会を実施します。

○地域における障害者スポーツの振興事業
・障害者サイクリング大会を9月27日（土）に、しまなみ海道で開催します。
・障害者スポーツ紹介事業については、裏面のスマホ置き及び障害者スポーツの啓発チラシを各種イベント等で配布します。

○障害者スポーツ講習事業
・フライングディスク、卓球、バスケットボール、バレーボール、サッカーの5種目を実施します。



◎スポーツ・レクリエーションについて

ゲーム的な要素のものから、スポーツの要素が含まれるものまでとても幅広い種目があり、障害の有無や年齢、性別等を問わず、誰もがそれぞれのライフスタイルに応じて取り組むことができます。

種目等の詳細については、愛媛県障害者スポーツ協会へお問い合わせください。

←カローリング

◎全国障害者スポーツ大会について

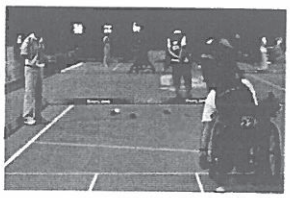
障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的に国民体育大会の終了後に、同じ開催地で行われています。

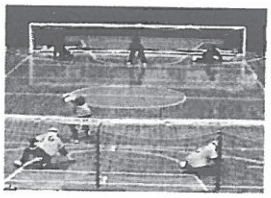
◎パラリンピック及びデフリンピックについて

パラリンピック（Paralympic）とは、4年に1度、オリンピック終了後にオリンピック開催都市で行われている「もう一つの（Parallel）＋オリンピック（Olympic）のことで、障害者特有の競技としては、シッティングバレーやボッチャ、ゴールボール等があります。

デフリンピック（Deaflympics）とは、聴覚に障害のある、ろう者の国際総合競技大会のことです。

シッティングバレー


ボッチャ


ゴールボール

第17回全国障害者スポーツ大会

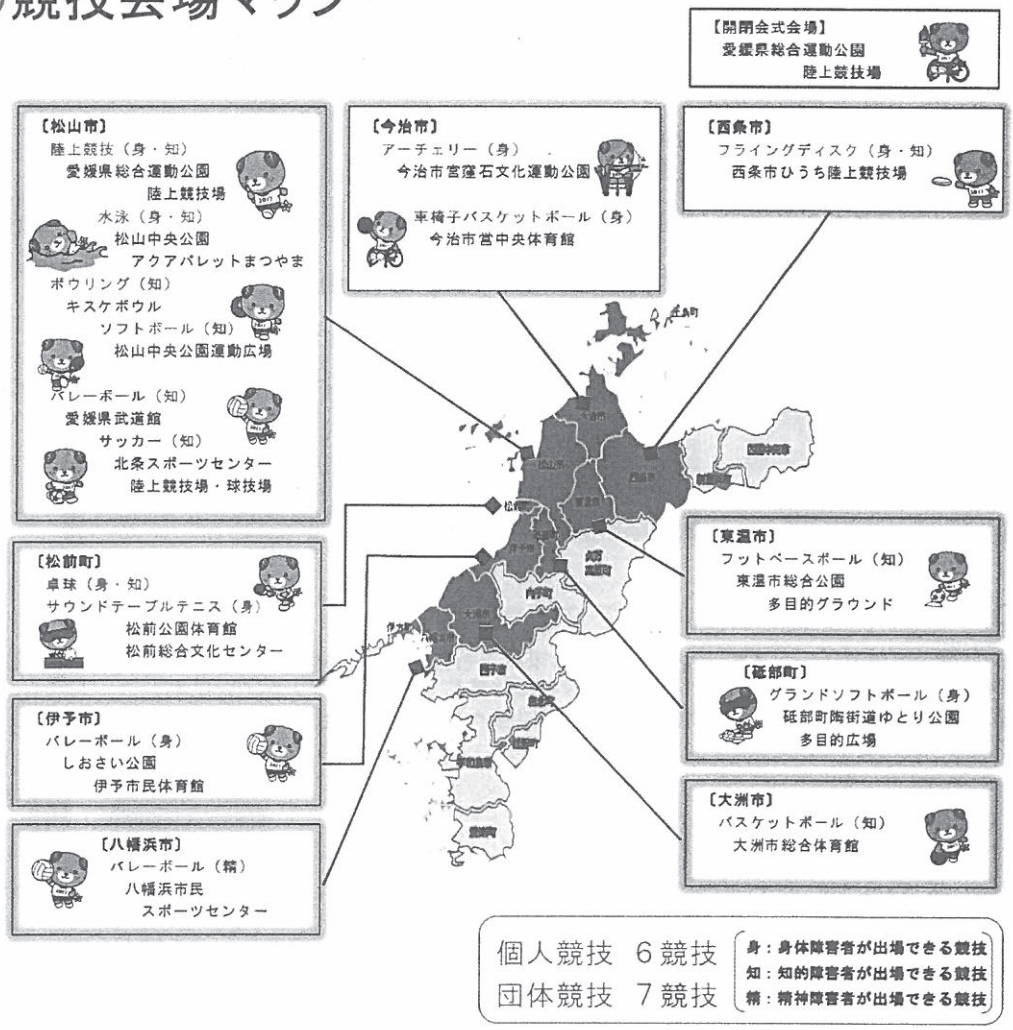
愛顔（えがお）つなぐえひめ大会 の会期が決定しました。

第17回全国障害者スポーツ大会 君は風 いしづちを駆け 瀬戸に翼え

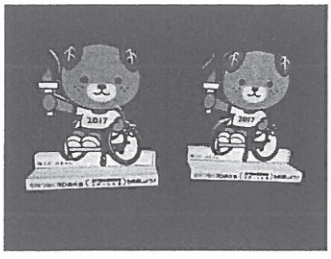
平成29年10月28日（土）～10月30日（月）の間に県内9市町で開催されます。

本県からは約300名の選手が参加できます。障害に応じて参加できる競技も多くありますので、皆さんの積極的な参加をお待ちしております。（選手は、各競技の予選会等で決定されます。）

○競技会場マップ



障害者スポーツ協会では、啓発グッズとして、スマホ置き（下記写真）を各種イベント等で配布します。



愛媛県障害者スポーツ協会事務局
〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目12－11
（愛媛県身体障害者福祉センター内）
TEL：(089)924-2101 FAX：(089)923-3717
e-mail：syo-supo@ehime-swc.or.jp
HP：愛媛県障害者スポーツ協会 CLICK!

障害者スポーツ普及・啓発事業

◆ ユニバーサルフェスティバル

◆ 伴走者養成講習会

社会福祉法人高知県社会福祉協議会
高知県立障害者スポーツセンター

ユニバーサルフェスティバル開催事業報告書

① はじめに

高知県の地形的特徴として、東西に非常に長い事があげられる。障害者スポーツの振興拠点である、障害者スポーツセンターの所在する高知市から、県東部地域までは車で約 2 時間、西部地域には 3 時間を要する。そのため、県中央部以外での障害者スポーツの振興は遅れており、特に県東部地域では障害のある方がスポーツに触れる機会が著しく少ないという課題がある。

また、伴走者養成においては、ここ数年視覚障害者だけではなく、知的障害のある方やその関係者から、健康マラソンや駅伝大会において、伴走者を望む声が上がってきているが、これまで組織的な人材養成を行ったことが無く、個別対応をしてきた現状がある。

② 事業目的

県東部地域で障害のある方やその周囲の方が、スポーツに触れる機会の提供と、指導員間の連携を図る事を目的に今回イベントを開催する。

また、伴走者養成講習会については、障がいへの知識と技術を持った伴走者を養成し、組織化していく事が本事業の目的となる。

③ 事業概要

（1）ユニバーサルフェスティバルの開催

1）日　程：平成 26 年 11 月 9 日（日）

2）場　所：高知県安芸郡田野町

3）参加者：145 名（身体障害者 15 名、知的障害児者 60 名、一般来場者 70 名）
スタッフ：58 名（ゲスト 1 名、指導員 9 名、県レク協 16 名、総合型クラブ 4 名、障害者バドミントンクラブ 21 名、県教名委 2 名、事務局 5 名）

4）実施体制および内容

実施にあたっては、実行委員会を組織し内容について検討を行った。実行委員の構成は、障害者スポーツ指導員、総合型クラブ関係者、県教育委員会、県レクリエーション協会といったスポーツ関係機関者と共に、県立中芸高等学校の生徒会にも入っていただいた事が、大きな特徴といえる。

障害者スポーツ指導員以外は、障害のある方と接した経験が少ないことから、実行委員会の中で、障害のある方の生活実態を知りたいとの声があり、県東部にある障害者入所施設や授産施設の見学を行った。実行委員は施設見学の中で感じた事を基に、「障害のある方々に楽しんでもらうには何をするべきか」という観点で当日の催しを組み立てた。

内容としてはトランポリン体験、ディスゲッター、ボッチャ、車いすレース、ビームライフル体験等を行った。

また、ゲストの増子氏の招聘については、「震災と障害者」をキーワードに、日頃、スポーツに関わっていない障害のある人にも足を運んでもらいたいとの意図から、講師調整を行った。

（2）伴走者養成講習会の開催

1）日　程：平成 26 年 11 月 29 日開催

2）場　所：高知県立障害者スポーツセンター

3）参加者：9 名（指導員 1 名、一般参加者 8 名）

スタッフ：3 名（講師 1 名、助手 2 名（視覚障害者）

4）実施体制および内容

実施にあたっては、伴走者には一定の走力が求められる事から、平成 26 年 2 月に行われた高知龍馬マラソンにおいて、大会主催者の高知県教育委員会の協力のもと、伴走サポーター募集のチラシを選手配布資料の中に同封してもらった。

その後、伴走サポーター希望者を当センターで登録し、今回の養成講習会の受講を促した。

講師依頼については、高い競技性を求めたものではないが、一定のルールをしっかりレクチャーしてもらえる事、また、視覚、知的の各障害にも見識を持っている方という基準から、福岡市障がい者スポーツセンターの指導員であり、北京パラリンピック陸上競技監督の小手川氏に依頼を行った。

受講プログラムとしては、障害各論を含めた座学を 2 時間、視覚障害のあるご夫婦にモデル協力してもらっての実技講習を 2 時間という形で行った。

④ 障がい者スポーツ指導者の活動・役割

（1）ユニバーサルフェスティバルにおいての役割

実行委員には、県東部地域で今後中核となって活躍していただけるよう、地元の中級指導員に依頼。快く引き受けてくれる中で、先の見学先の施設の職員（初級指導員）と連携し、施設行事としてイベントに参加してもらう道筋をつけてくれた。

（2）伴走者養成講習会での取組

今回は自身の走力が最も重要なファクターであり、障がい者スポーツ指導員への案内は行ったが、積極的な参加の働きかけは行わなかった。そのため有資格者は 1 名しか参加していない。ただ、今回の受講者の方々には、次年度の初級養成講習会を案内するようにしており、一定の特技を持った方に、指導者資格を取っていただく一つの事例と考えている。

⑤ 成果及び評価

（1）ユニバーサルフェスティバル

イベント当日が雨天となったこともあり、事務局の狙いであった「震災と障害者」というキーワードから、新たな参加者層を掘り起し、スポーツへの関心を引きだすという部分には至らなかったが、このイベントの開催を通じて、指導員の活躍の場が出来、これまで点でしかなかった指導員の存在が線として繋がってきたことは大きな成果ではないかと考える。

（2）伴走者養成講習会

1 月に行われた当センターの駅伝大会でも、受講生の方が数名伴走してくれるなど、潜在的な需要に対する養成であったことから、活動の場が早速できている。

また、県内の総合型スポーツクラブが本年 11 月に度開催する、市民マラソン大会では、参加を希望する、県外の視覚障害者の方から、主催者に伴走者の要請があり、主催クラブから当センターに相談がきており、マッチングの準備を進めている。

このような事例では、総合型クラブと我々障害者スポーツ関係機関が、課題の共有化を図る事ができ、そこに解決策を提示できることから、クラブとの信頼関係が構築されるという副産物も生まれている。

⑥ 今後の課題と展望

（1）ユニバーサルフェスティバル

せっかく線として繋がってきた指導員間の関係性を今後どのように面に広げていくのか？その機会をどのように提供していくのか？というのが課題である。

課題に対する展望として、県教育委員会との調整の中で、教育委員会主催事業の一環である、県民スポーツフェスティバルの実施競技としてボッチャを県東部地域で開催する案が出ており、主管団体として障がい者スポーツ指導者協議会が受けることで、東部地域の障害者スポーツ振興の核として取組むことによって、指導者間の連携が図れていくのではないかと考える。

（2）伴走者養成講習会

選手と伴走者のマッチングは、基本的にメーリングリストを使いながら、個人個人で行ってもらう為、活動の中での行き違いや経費の問題が出てくる可能性がある。

その為、定期的に伴走者が集まれる場の提供や、気軽に相談してもらえる関係づくりをしておくことが必要となってくる。

⑦ 終わりに（所感）

ユニバーサルフェスティバルでは、県立高校の学生と一緒にイベントを作り上げていることが一つの特徴だと思います。

この事は、福祉教育的な視点から見ると、地域の人材育成として、5 年先、10 年先に何がしかのフィードバックがあるのではないかと思っています。

実際にこのイベントを始めた頃（5 年前）の生徒の感想文と、今回の感想文では雲泥の差があります。障害者スポーツの社会的価値を高めていく為にも、こうした若い世代との協働は大切ではないかと考えています。

また、伴走者養成講習会は、成果の所でも書いていますが、需要に対する供給（養成）であったことから、活動の場がすぐに出来ています。

我々関係者は、指導員の活動の場を作り出す事に四苦八苦するだけではなく、このような潜在的な需要に対してアンテナを持ちながら、一定の特技に秀でた方々を指導員に巻き込むような視点も大切にする必要を感じました。

丘のてっぺんで絆を結ぶ!!

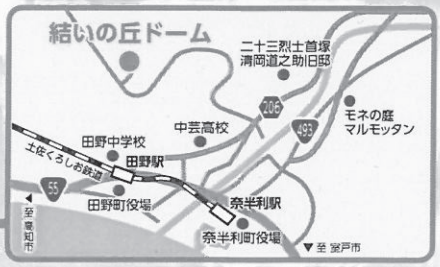
第6回 ユニバーサルフェスティバル 2014 in 東部

ユニバーサルフェスティバルは、イベントを通じて様々な情報を届けながら、障害のある方の生活やスポーツに関心を持ってもらう事を目的に開催します。

開催日 平成26年 11月 9日(日) 雨天決行!!

時間 AM10:00～PM3:00

会場 結いの丘ドーム【中芸広域体育館】



●主催:(社福)高知県社会福祉協議会 ●共催:(一社)高知チャレンジドクラブ・高知県立中芸高等学校・高知県障がい者スポーツ指導者協議会
●協力:高知県総合型地域スポーツクラブ連絡会・高知県レクリエーション協会・田野町スポーツクラブ・NPO法人むろとスポーツクラブ・来楽部あっき～な・(一社)Uプロジェクト・(株)スズキ自販高知・(株)亀プロジェクト(予定)
●後援:高知県スポーツ推進委員協議会・NPO法人まほろばクラブ南国・NPO法人こうなんスポーツクラブ(予定)

オープニングイベント

10:00～

安芸高校・中芸高校による 合同吹奏楽演奏

オープニングは安芸高校生と中芸高校生による吹奏楽の生演奏!
昔懐かしいフィンガー5メドレーや、最新のテレビテーマソングを披露していただく予定です。

おいしい出店がたくさん!!

アツアツのたこ焼きや、焼きそば。
みんなの大好きなクレープやソフトアイスの出店もあるよ♪
みんな食べに来てね～♫

金目鯛汁プレゼント!! 数量限定!!

体験無料 スポーツ体験コーナー 13:00スタート

普段なかなか体験することのできないスポーツが楽しめます。

ビームライフル

一度やったらはまります♪
10m離れた的に向かって光線銃を撃ちます。
10点取れたら電光板の王冠が光る!

トランポリン

柔らかいバネの上でピョーン、ピョーンと跳びはねると鳥の気分に…
視界は一気に3m上空へ!

ディスクゲッター

フリスビーを投げて、1から9までの番号を抜き落とします。
さぁ何枚抜き落とせるか挑戦してみよう!

ボッチャ

フロアに置かれた目標球に向かって、青チーム対赤チームでボールを転がし対戦します。カーリングやペタンクに似たルールで誰でも簡単に出来て、奥の深いゲームです。

基調講演 10:30～11:30

震災と原発事故 その時 障がい者は

講演:増子 恵美さん

増子恵美さんは、東日本大震災において自らも被災しながら、震災直後から自家用車に物資を積んで被災地を回り、障がいを持った仲間を励まし続けました。
さらに、警戒区域内に取り残されたペットの救出や保護活動も行いました。
今回は、「震災と原発事故、そのとき障がい者は」というテーマで、ご自身の貴重な体験も含めお話を伺います。

増子恵美さん プロフィール

平成元年、交通事故により車椅子の生活となりましたが、ご本人の努力やいろいろな方に支えられることで、車椅子バスケットボールの日本代表選手となり、アトランタ、シドニー、アテネ、北京パラリンピックの4大会に出場し、シドニーパラリンピックでは銅メダルを獲得しています。
現在も、日本代表選手であるとともに、福島県障がい者スポーツ協会に勤務し、福島県内の障がい者スポーツの振興に東奔西走されています。

みんなで挑戦してみよう!! 13:30～ 体育館集合! スポーツ用車椅子レース

豪華賞品がもらえるスポーツ用車椅子レース!!

スポーツ用車椅子に乗って、往復30mの距離を走ります。
途中には思わぬ障害物が…
幼児、小学3年生以下、小学4年生以上、中学生以上の
それぞれの部門で1～3位に賞品が!!

12:45～13:00 中芸高校生徒による 中芸よさこい

中芸高校生によるオリジナルの鳴子踊りを披露!

13:00～15:00 テレビ等で今話題の 足こぎ車椅子試乗会 開催!!

脳血管や膝関節痛などにより、歩行に不自由を感じる方でも左右どちらかの足が動くようであれば、自分の両足を使って動かせる可能性があります。
この機会に、最新の車いすに試乗してみませんか!

13:00～15:00 セニアカー 安全乗車 講習会開催!!

日常生活の足として便利な乗り物セニアカー、しかし、近年このセニアカーによる転落事故等が増加してきています。
今回は㈱スズキ自販高知に御協力をいただき、セニアカー安全乗車講習会を開催したいと思います。参加希望者は事前に事務局までお電話をお願いします。

15:10 みんなで踊ろう ようかい体操第一

フェスティバルの最後は、今大流行の「ようかい体操第一」をみんなで踊って、妖怪ウォッチグッズをゲット!!

お問い合わせ先 高知県立障害者スポーツセンター TEL:088-841-0021 FAX:088-841-0065
〒781-0313 高知市春野町内ノ谷1-1 【担当:北村・永島】

高知県立障害者スポーツセンター

伴走者養成講習会

高知県内では、障害のある方が各種マラソン大会や、駅伝大会に参加を希望する時に、伴走者が居ない事から、参加をあきらめなければならない事があります。

そこで、障害者スポーツセンターでは、県内のランニング愛好者の皆様を対象に、県外から講師を招いての講習会を開催し、伴走者を養成していきたいと考えています。

競技志向の伴走者養成ではありませんので、速く走れる必要はありません。ゆっくりでも良いので、参加者のペースに合わせて一緒に大会に出て頂ける方、また日頃の練習に御協力頂ける方の御参加をよろしくお願いいたします。

開催日 ： 平成26年11月29日(土)
時 間 ： 10:00 ～ 15:00（12:00～13:00は昼食休憩）
場 所 ： 高知県立障害者スポーツセンター グラウンド及び研修室
参加費 ： 無料
対 象 ： 受講後に機会があれば実際に伴走してくれる方。
（1キロ6分前後で10キロ程度が走れる方）
内 容 ： 午前 知的障害及び視覚障害についての座学
： 午後 伴走の実技
その他 ： ① 動ける服装(ジャージ等)での参加をお願いします。
： ② 各自で昼食の準備をお願いします。

【 お問合せ・申込み先 】
〒781－0313 高知市春野町内ノ谷1－1
高知県立障害者スポーツセンター
TEL:088－841－0021 FAX:088－841－0065 担当 ： 北村

切り取り線

平成26年 月 日

（ふりがな） 氏 名	ふりがな	年 齢	性 別
		歳	男 ・ 女
連 絡 先	〒	TEL ： － －	
		携帯 ： － －	
	今後の連絡等を可能な限りmailで行わせてもらいたいと思います。mailアドレスをお持ちの方は右に記入をお願いします。（アドレスをお持ちで無い方は記入しなくて構いません）		

【個人情報取扱いについて】
業務上知り得た個人情報を、業務運営に必要と認められる目的以外には利用、もしくは第三者に開示・提供することはありません。

伴走サポーター大募集！

高知県内には、障害のあるランニング愛好者が沢山いますが、視覚や知的に障害があるため、１人ではなかなか練習できないという悩みを抱えた方々もいらっしゃいます。

高知県立障害者スポーツセンターでは、このように伴走者を必要としている方々をサポートしていく為、伴走者のボランティアグループを作っていきたいと考えています。

高い競技性を求めるのではなく、障害のある方の安全確保をしながら、一緒にランニングを楽しんでくれる方をお待ちしています。

お礼は選手の笑顔と達成感だけですが、趣味のランニングに新たな楽しみが加わることと思います。

４月以降には、サポーターが集まっての伴走講習会も予定しておりますので、関心を持っていただけた方はぜひ、ご連絡をお願いします。

【申込み、問合せ先】
〒７８１－０３１３　高知市春野町内ノ谷１－１
高知県立障害者スポーツセンター（担当：北村、福本）
TEL：０８８－８４１－００２１
FAX：０８８－８４１－００６５
mail：sports１１@kochi-scfd.com
※お申込みいただいた方にはこちらから一度ご連絡いたします。

切り取り

伴走サポーター申込書

平成　　年　　月　　日　　（ＦＡＸ：088 - 841 - 0065）　担当：北村・福本

ふりがな		年　齢	性　別	備　考
氏　名			男・女	
住　所	〒		連絡先	ＴＥＬ：　－　－ 携　帯：　－　－ ＦＡＸ：　－　－
Ｍａｉｌ				

島根県における
障害者スポーツの理解・障害者スポーツの振興事業

◆ ボッチャ教室の開催

◆ 障害者スポーツ指導者の派遣事業

◆ 障害者スポーツにおける情報発信事業

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

平成 26 年度「地域における障がい者スポーツ振興事業」
【島根県における障害者の理解、障害者スポーツの振興事業】事業報告書

島根県障害者スポーツ協会

Ⅰはじめに

当県においては、平成 24 年度にスポーツ推進計画が策定され、平成 28 年度を目標年度とする 5 か年計画で実施されている。

そこにおいて障害者のスポーツは、健常者と同様にスポーツに参画する機会を確保するため、スポーツを提供する組織・団体を支援・育成することとしている。

また、障害特性に応じて、だれもが参加し楽しむことができるスポーツ活動の推進のために、障害者と一緒にできるスポーツ、イベントを実施したり、スポーツ指導者の研修会等でのテーマに障害者スポーツを取り上げるなど、障害者も健常者も一緒にスポーツができるよう事業展開がなされつつある。

本会では、平成 25 年度は、本助成金を活用し、「ボッチャ出前講習会」ならびに「ボッチャ教室」を開催し、競技の普及を図り多くの参加者を得ることができた。そして、平成 26 年度は、「島根県障害者スポーツ大会」の開催競技として導入した。

さらに、昨年度の活動により、指導者協議会の活動が活発化し、地域で指導をできる体制が、整いつつある。

しかし一方では、ボッチャ競技を普及するにあたり、道具が高額であるため購入が難しく、当協会へ借用する団体が多い。また、指導体制は整いつつあるものの、その利用方法について十分な周知ができていない課題があった。

Ⅱ事業の目的・ねらい

昨年度開催のボッチャに関する事業の参加者のほとんどが、障害者本人あるいは障害者団体関係等の方々であったので、障害および障害者スポーツの理解・啓発を図るために健常者の多くの参加が必要であると考え、障害者団体以外へも教室・イベント案内を行い、参加を促し、障害の理解を図ることをねらいとした。

また、より多くの方が情報を得やすいように、各種事業の開催案内をホームページで掲載するとともに、パンフレットを作成し、ボッチャ競技に関する説明、用具の貸出、指導者スポーツ指導員の派遣についても積極的に情報発信をおこなうことで、地域における障害者スポーツ環境の整備を目指した。

Ⅲ実施概要

１．ボッチャ教室

障害の有無を問わず、より多くの方がスポーツに取り組む機会を提供し、障害および障害者スポーツの理解・啓発を図るとともに、島根県障害者スポーツ指導者協議会およびボッチャ普及員養成講習会受講者に対して、競技運営等を体験してもらう機会を提供するために実施した。

■内容等

日時	場所	受講者数等	協力団体
9 月 20 日（土）	出雲体育館（出雲市）	37 名（参加者 31 名、障害者スポーツ指導員 5 名、事務局 1 名）	島根県障害者スポーツ指導者協議会、出雲市身障者協会
日時	場所	受講者数等	協力団体
10 月 19 日（日）	松江市総合体育館（松江市）	607 名（参加者 483 名、スタッフ 121 名うち障害者スポーツ指導員 6 名、役員 1 名、事務局 2 名）	島根県、島根県教育委員会、島根県体育協会、島根県レクリエーション協会、島根県スポーツ推進委員協議会、島根県障害者スポーツ指導者協議会
11 月 29 日（土）	大田市民センター（大田市）	18 名（参加者 12 名、日本ボッチャ協会 1 名、障害者スポーツ指導員 4 名、事務局 1 名）	日本ボッチャ協会、総合型地域スポーツクラブ、大田市社会福祉協議会、島根県スポーツ推進委員協議会、島根県障害者スポーツ指導者協議会
12 月 13 日（土）	島根県立体育館（浜田市）	22 名（参加者 19 名、日本ボッチャ協会 1 名、障害者スポーツ指導員 1 名、事務局 1 名）	日本ボッチャ協会、浜田市社会福祉協議会、浜田市身体障害者福祉協会、益田市障害者スポーツ協会、浜田市レクリエーション協会、島根県障害者スポーツ指導者協議会

２．地域におけるスポーツ活動振興事業

地域において、ボッチャ競技を通じて、障害者スポーツの普及・啓発ならびに障害の理解を図るために実施した。

具体的には、地域からの要望に応じて、障害者スポーツ指導員を派遣し、競技指導を行った。

■内容等

日時	場所	参加者数 （主な参加者）	派遣講師数
6月14日（土）	吉賀町民体育館 （吉賀町）	30名 障害者施設利用者・職員	1名
7月18日（金）	弥栄町老人福祉センター （浜田市）	18名 地区身障協会会員	1名
8月23日（土）	城西公民館 （松江市）	30名 障害児（者）、家族、支援者	2名
10月25日（土）	島根大学 （松江市）	15名 通所の知的障害者	2名

※指導講師は、島根県障害者スポーツ指導者協議会より派遣

３．障害者スポーツにおける情報発信事業

パンフレットを作成し、ボッチャ競技の説明、障害者スポーツ指導員派遣についての情報を掲載し県内各地へ発信した。

また、ホームページにおいて、事業案内・報告などをおこない、より多くの方への情報発信をおこなった。

■内容等

当協会ホームページにてボッチャ教室の案内を掲載し、参加の呼びかけをおこなった。また、事業終了後には、今年度の教室の様子や当協会の今までのボッチャの取組みを掲載した。

また、ボッチャ説明ならびに障害者スポーツ指導員派遣に関するパンフレットを作成し、県内各地に配布することで、より広く多くの方々へ情報発信をおこなった。

Ⅳ障害者スポーツ指導者の活動・役割

「ボッチャ教室」において、9 月 20 日（土）、10 月 19 日（日）の開催では、当日までの準備は本会で実おこなったものの、運営については、障害者スポーツ指導員が主体的におこない、参加者に対して実技指導など運営全般を行った。

11 月 29 日（土）、12 月 13 日（土）については、全体の進行は、日本ボッチャ協会派遣の講師が務めたが、講師とともにコート設営をおこなったり、講師のアシスタント役をつとめることで、教室運営ならびに競技指導のノウハウを学んだ。

「地域におけるスポーツ活動振興事業」では、地域からの要望に応じて、障害者スポーツ指導員が指導講師として、ボッチャの競技指導をおこなった。

Ⅴ成果及び評価

ボッチャ教室では、障害の有無を問わず、多くの方々が参加したことで障害者スポーツの理解・啓発が促進された。また、障害者、健常者が同じ空間でスポーツをおこなうことで、障害に対する理解も深まった。

教室の運営では、数は少ないものの、指導員が主体的に関わることで全 4 回のうち 2 回は実技指導を通じてスキルアップをおこなうことができ、残りの 2 回では、日本ボッチャ協会派遣の講師のアシスタントとして教室運営のノウハウを学ぶことができた。

また、当県におけるボッチャの競技人口が増えていく中で、参加者の中から、ボッチャ競技の団体を組織したいとの声も聞かれ、さらなる発展の兆しがみられた。

さらに、この事業を展開するに当たって、多くの団体と協働することで、各機関と連携を図ることができ、当協会の事業展開においても好循環を及ぼしている。

地域におけるスポーツ活動振興事業では、ホームページ等の周知の効果もあり、指導の依頼が増加した。そのことで、指導員の活動の場も増え、スキルアップへつながっている。

障害者スポーツにおける情報発信事業では、今まで本会とはつながりのなかった団体などからも事業の参加希望、問い合わせなどがあり一定の効果があったと考えられる。

Ⅵ今後の課題

今までは、ボッチャの普及を重視し、取り組みやすさを強調することで競技人口を拡大してきた。今年度、島根県障害者スポーツ大会の競技として導入したが、正式なルールを用いての実施にはいたっていない。今後は、県外で開催される大会への参加を考え、普及の段階から正式なルールを浸透させていく必要がある。それに伴い、指導員のレベルアップを図る必要がある。

また、ボッチャ競技の普及に伴い、地域からの指導員派遣の要望も増加しているが、派遣希望日が重複した場合や平日の派遣になると対応しきれない事態があるため、指導員数の増加等を図っていく必要がある。

Ⅶおわりに（その他所感、特記事項等）

地道に関係団体と連携をとりながら、数を重ねてきた活動の輪が広がり、障害者スポーツならびに障害の理解につながってきている。

今後は、これらの事業で構築した団体との関係や事業実施のノウハウを活かすことで、事業の広がりをもたせ、スポーツを通じて、障害者の社会参加へつなげていきたい。

ボッチャ教室開催要項

1. 目的

競技方法が簡単で親しみやすく、重度の障害者でも競技が可能なボッチャを県内各地で普及することで、より多くの方がスポーツに取り組むことのできる機会を提供する。

2. 主催

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

3. 協力

島根県障害者スポーツ指導者協議会

4. 参加対象

障害の有無は問いません。どなたでもご参加いただけます。

5. 参加定員

各100名程度

6. 日時および場所

期日	時間	会場	住所	申込締切
9月20日(土)	13:30 ～ 16:00	出雲体育館	出雲市今市町北本町3-1-6 TEL　0853-21-1830	平成26年8月29日（金） ※締切は過ぎておりますがご希望があればご連絡ください。
10月19日(日)	10:00 ～ 15:00	松江総合体育館	松江市学園1-21-1 TEL　0852-25-1700	申込は不要です。 ※詳細については、別添チラシをご覧ください。 ※時間内にお越しいただければ、随時指導いたします。
11月29日(土)	13:30 ～ 16:00	大田総合体育館	大田市大田町大田ロ1451 TEL　0854-82-6408	平成26年10月31日（金）
12月13日(土)	13:30 ～ 16:00	島根県立体育館	浜田市黒川町3735 TEL 0855-23-1201	平成26年11月14日（金）

7. 参加費用

無料

8. 申込方法

別紙「申込用紙」に必要事項を記入の上、郵送、FAX、E-mailにてお申し込み下さい。

※10月19日開催分を除く

9. 申込み、問合せ先

〒690-0011

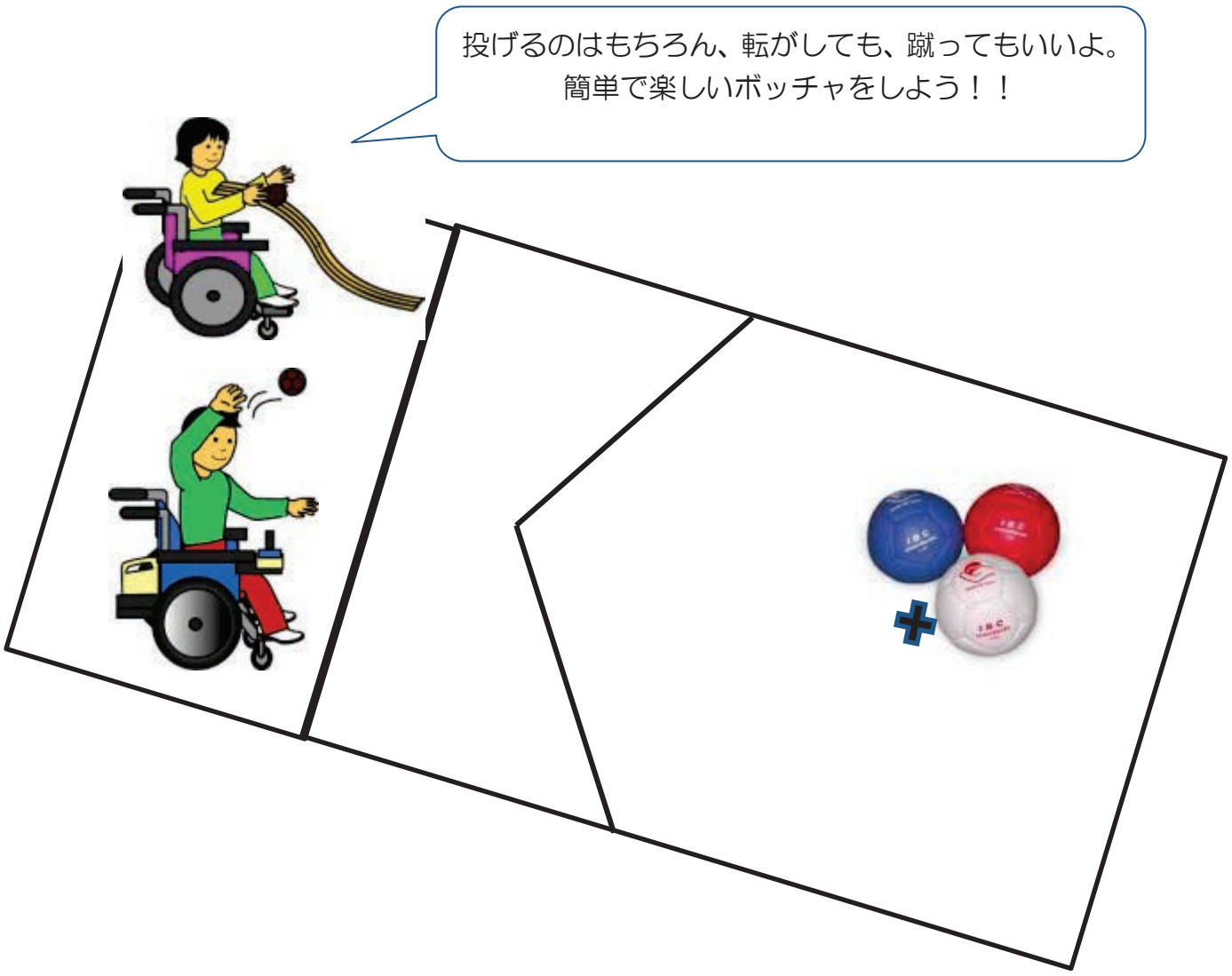
松江市東津田町1741-3　いきいきプラザ島根5階

公益財団法人島根県障害者スポーツ協会

TEL0852-20-7770　FAX0852-32-5982　E-mail :info_office@spokyo.org　（担当：吉岡・木下）

10.その他

主催者において傷害保険に加入します。



【 公益財団法人　島根県障害者スポーツ協会行き　FAX0852－32－5982 】

ボッチャ教室　参加申込用紙

団体等名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　記入者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先(TEL)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【参加期日】

期日	時間	会場	参加希望（〇をつけてください）
9 月 20 日（土）	13:30～16:00	出雲体育館	※5 月から受付中
10 月 19 日(日)	10:00～15:00	松江総合体育館	申込は不要です。 ※時間内にお越しいただければ、随時指導いたします。
11 月 29 日(土)	13:30～16:00	大田総合体育館	
12 月 13 日(土)	13:30～16:00	島根県立体育館	

【参加申込】　参加者氏名をご記入ください。

〇参加者

NO	氏名	ふりがな	障害の有無	備考
1			有・無	
2			有・無	
3			有・無	
4			有・無	
5			有・無	
6			有・無	
7			有・無	
8			有・無	
9			有・無	
10			有・無	

※手話通訳、要約筆記、点字資料が必要な方及び車いすを使用している方は、備考欄にその旨記入してください。
また、その他に主催者側で準備等必要なことがありましたら併せて備考欄にご記入ください

個人情報につきましては、この事業の関連業務のみの目的で使用し、他の目的で使用することはありません。その管理については、「(公財）島根県障害者スポーツ協会個人情報に関する要綱」に基づき適切におこない、無断で第三者に提供することはありません。

ボッチャ教室開催します！

参加無料！

となたでもご参加いただけます！

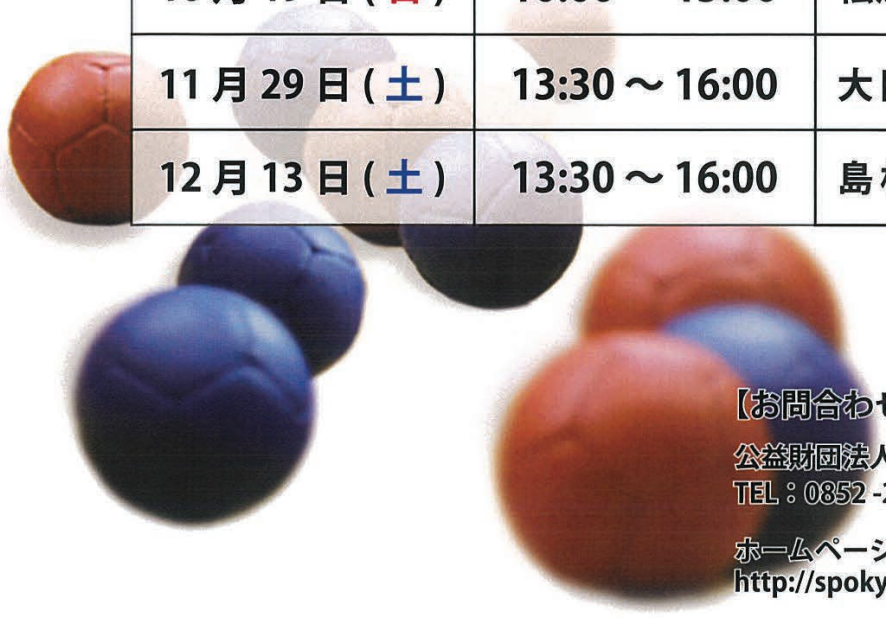
ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤、青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、蹴ったり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

誰でも簡単に楽しむことができるスポーツです！！

開催期日（全４回）

期　日	時　間	会　場
9月20日（土）	13:30～16:00	出雲体育館
10月19日（日）	10:00～15:00	松江市総合体育館
11月29日（土）	13:30～16:00	大田総合体育館
12月13日（土）	13:30～16:00	島根県立体育館



【お問合わせ・お申込み】

公益財団法人 島根県障害者スポーツ協会
TEL：0852-20-7770

ホームページもご覧ください
http://spokyo.org/information03/

スポーツはできないとあきらめていませんか？

ボッチャ

Boccia

ボッチャは誰でもできるスポーツです！

ボッチャって何？

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツです。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくのクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

現在、40以上の国々で普及しており、世界選手権、ワールドカップ、パラリンピック、アジア南太平洋大会といった国際大会の競技種目にもなっています。

誰でもできる!!

ボッチャは、投げてよし、転がしてよし、蹴ってもいい。
障害により手足が使えなくても、ランプという補助具を使って、
こんな風にできます！！

ランプ

【ルールについて】

① コイントスで先攻後攻を決め、先攻サイド（赤）がジャックボールをコートに投げ入れる。
（ジャックボールがジャックボール無効ゾーンに止まった場合は、相手側にジャックボールを投げる権利が移る。）
② 続けてジャックボールを投げた選手が最初のカラーボールを投げる。
③ 次に相手側（青）がカラーボールを投げる。
④ 2球目以降は、ジャックボールより遠い距離にあるカラーボールの側がボールを投げる。
赤・青どちらが遠い距離にあるかは審判が判断し、選手に指示板で伝える。
⑤ 両チームがすべてのカラーボールを投げ終わった時点で1エンド終了し、
得点をつける。

※得点の数え方
・ジャックボールに最も近い相手のカラーボールよりも近い位置にある自分のカラーボールがある場合、ボール1個につき1点が与えられる。
・ジャックボールから最も近い位置に、2個以上の異なる色のカラーボールが等距離にある場合、各ボールにつき1点が与えられる。

＊より詳しい競技説明やルールについては、日本ボッチャ協会公式サイトをご参照ください。

障害者だけのスポーツではありません！

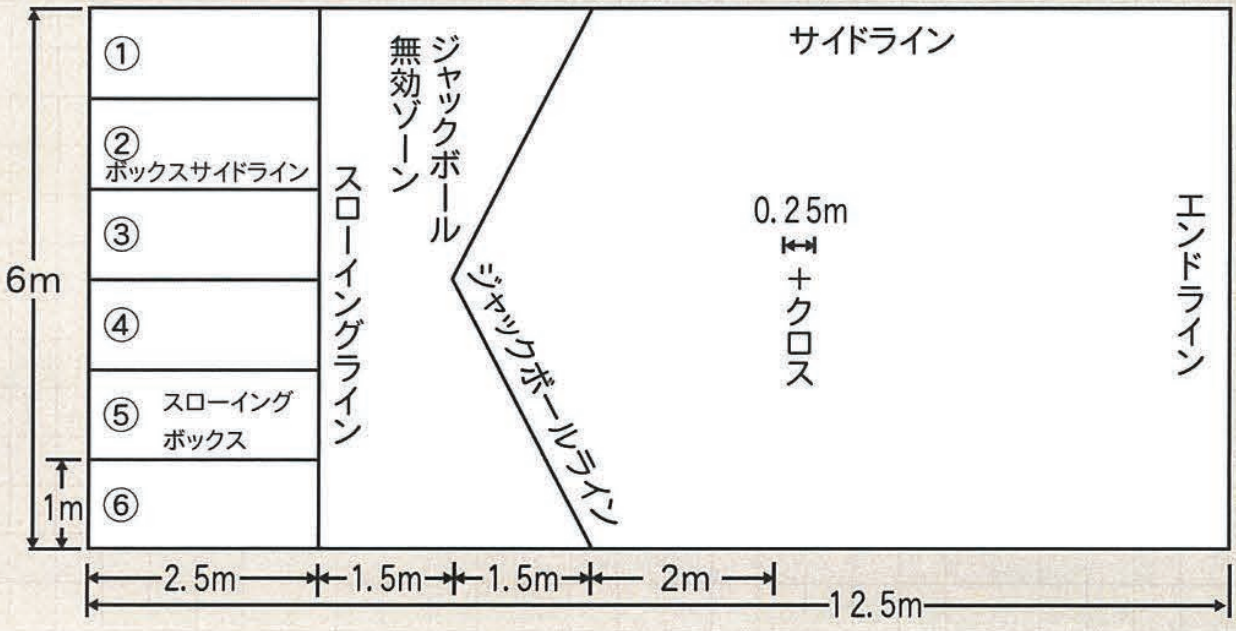
「ボッチャ」を障害者だけのスポーツと思っていませんか？
障害の有無に関係なく、誰でも楽しむことができる
ところがボッチャの魅力です。
ぜひ一度皆さんでやってみてください。
また、ルールはシンプルですので、すぐに覚えられます。
でも実は、勝つには様々な戦略や作戦があり、奥が深い
スポーツでもあるのです。

いろんな遊び方がある!!

こんな的を使ったり、フラフープを使ったり、
コートを作らなくても、工夫次第でいろいろな
遊びができるのもボッチャの良いところ。
自分で的を作るのもいいかも！？

【コートについて】

競技は、12.5m×6m のコートで行われます。
選手は 2.5m×1m のスローイングボックス内でプレーをします。
個人戦ではボックス 3、4（3 が赤、4 が青）、ペア戦ではボックス 2 ～ 5（2、4 が赤、3、5 が青）、
チーム戦ではボックス 1 ～ 6（1、3、5 が赤、2、4、6 が青）を使用します。



スポーツを
やってみたい！

スポーツを
体験したい！

障害者スポーツ指導員がうかがいます！

無料

島根県障害者スポーツ協会では、障害者の方が安全に気軽にスポーツをしていただくために、競技の説明や指導、運営のサポート等を行う障害者スポーツ指導員（※）を派遣しています。
ボッチャに限らず、お住まいの地域、施設、学校でスポーツを「体験したい！」「教えてほしい！」といった方は、ぜひご連絡ください。
障害者スポーツ指導員が用具を持ってうかがいます。もちろん無料ですのでぜひご利用ください。
詳しくは、お問い合わせいただくか、当協会のホームページをご覧ください。

また、用具の貸し出しも行っておりますので、ご希望の方は当協会までご連絡ください。

※障害者スポーツ指導員とは

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が認定した講習会を受講したもので、障害の基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができる者のことです。

【お問合せ・ご連絡先】

☎ **0852-20-7770**

〒690-0011　島根県松江市東津田町 1741-3 いきいきプラザ島根 5 階
公益財団法人 島根県障害者スポーツ協会
【TEL】0852-20-7770　【FAX】0852-32-5982
【E-mail】info_office@spokyo.org　【HPｱﾄﾞﾚｽ】http://spokyo.org/information03/

山口県における障害者スポーツ地域推進事業

- ◆ 地域障害者スポーツ教室開催事業
- ◆ 障害者スポーツ体験教室事業
- ◆ 地域障害者スポーツ大会開催事業
- ◆ 障害者スポーツクラブ指導者派遣および養成事業
- ◆ 情報発信事業

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

山口県における障害者スポーツ地域推進事業報告書

1　はじめに

山口県は、地理的には山口市を中心としているが、各地に同規模の都市が点在し，障害者スポーツの拠点化には苦労している。現在、当協会では、障害者スポーツ推進員を配置して障害者がより身近にスポーツ活動が楽しく実践できるように諸環境（指導者、支援者、拠点施設、仲間、経費等）の整備に努力しているところです。また、山口県では、昨年３月に「山口県スポーツ推進計画」を策定し、基本方針を「生涯スポーツの推進」、「競技水準の向上」、「人材の育成」、「地域の活性化」の４つにまとめスポーツ推進施策を展開している中で障害者スポーツの推進では、共生社会の実現に向けて、地域の障害者が自主的、主体的に参加できるスポーツ環境づくりを推進している。

本年度は、地域の組織を活用した障害者スポーツ教室や障害の有無にかかわらず誰もが気軽にスポーツに参加できるような交流大会、山口市で多く開催されていた県大会を県内各地域で行い障害者スポーツをより身近に感じていただくように事業を展開しようとしている。しかしながら、施設借用の問題や参加者の交通の便を配慮する等どうしても山口市での開催が多くなってしまうのが実情である。また、指導者の育成については、地域の教室や大会に積極的に指導員を派遣し活用するようしているので各地域で核となる人が少しずつ増えてきているが、地域によっては、指導員数が少ないところもあり課題を残している。

2　地域障害者スポーツ教室開催事業

（1）事業の目的

身近な地域で、障害のある方々が気軽にスポーツの楽しさを体験することができ、障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して交流ができるように地域の教室や大会を開催した。

また、障害者スポーツ指導員および障害者スポーツに関心のある方が誰とでも活動しやすい教室として開催し、参加した指導員の中から各地域での指導者組織ができるように支援する。

（2）事業内容

日時	地域	会場	参加者	内容
2/21	岩国地域	岩国短期大学	参加者 14 名、ＶＯ7 名、指導員 7 名	風船バレーとボッチャの交流会を開催し、地域のスポーツ交流の切っ掛けづくりを行った。
3/7	柳井・光地域	サン・アビリティー光	参加者42名、ＶＯ21 名、指導員7名	卓球バレーとボッチャの交流会を開催し、地域のスポーツ交流の切っ掛けづくりを行った
7/6	山口・防府地域	山口総合支援学校	参加者 11 名、ＶＯ 13 名、指導者 2 名	障害者と健常者が交流を目的にグランドソフトボールの体験教室を行った。
8/23		防府市身障センター	参加者 31 名 指導者 14 名	卓球バレーとボッチャの交流会を開催し、地域のスポーツ交流の切っ掛けづくりを行った。

日時	地域	会場	参加者	内容
9/20		維新公園芝生広場	参加者 14 名、指導員 2 名	知的障害者にグラウンドゴルフ競技の体験教室を実施した。
9/22		湯田小学校	児童 31 名、教員 3 名、指導員 8 名	小学校の出前授業の中で風船バレー、ボッチャを指導し障害児との交流スポーツに繋がるよう指導した。
11/21		大内南小学校	児童 110 名 教員 4 名、指導員 8 名	小学校の出前授業の中で風船バレー、ボッチャ、卓球バレーを指導し障害児との交流スポーツに繋がるよう指導した。
1/31		県身障センター	参加者 44 名 指導員 22 名	卓球バレーとフライングディスクの交流会を開催し地域のスポーツ交流の切っ掛けづくりを行った。
6/28	**宇部・小野田地域**	宇部フロンティア大学	参加者 29 名､VO10 名、指導員・役員 10 名	障害児に風船バレー、ボッチャ、フライングディスクの体験教室行い、指導員の指導力向上にも役立てた。
11/9		宇部フロンティア大学	参加者 42 名、VO9 名、 指導員・役員 15 名	障害児に風船バレー、ボッチャ、卓球バレーの体験教室を行い、指導員の指導力向上に役立てた。
11/13		宇部常盤公園	参加者 137 名 ボランティア 16 名、 指導員・役員 7 名	はぁ～と of ふれんずの障害者スポーツコーナーの中で卓球バレーとフライングディスクの体験教室を開催した。
年間		高千帆公民館等	教室数　25 名 参加者数　延 185 名 指導員数　延 53 名	障害者にボッチャ競技の指導をするため教室を年間 23 回実施した。
11/16	**美祢地域**	美祢市スポーツセンター	参加者 71 名 指導員 11 名	県レクリエーション協会と連携して障害者スポーツの卓球バレーとボッチャの体験コーナーを開催した。
8/8	**萩地域**	明倫小学校	参加者 32 名 教員 5 名、指導員 7 名	小中学校の児童生徒に風船バレー、ボッチャの体験教室を実施した。交流スポーツに繋がるよう指導した。
6/12	**下関地域**	**菊川中学校**	児童(障害児)17 名 教員 10 名、支援者 11 名、指導員 6 名	菊川スポーツクラブと連携してボッチャの試合とタンデム、ハンドサイクルの教室を実施した。教室終了後反省会のを実施し継続したいとの話も出ていた。
8/3		**下関南総合支援学校**	視覚障害者 10 名、教員 1 名、支援者 6 名、指導員 14 名	県視連、県サイクリング協会、県自転車競技連盟と連携して、タンデム、ハンドサイクルの教室を実施した。指導員には初めての方もいたがよい研修となった。

（3）実施体制

・障害者スポーツ推進員が、各地域の教育委員会、高齢障害課、社会福祉協議会、小・中学校校長会、特別支援学校、大学、既存の活動組織、社会福祉法人組織等々と協議し、開催の趣旨を理解してもらい基本的な事業の企画運営に当たった。

・事業の実施に当たっては、上記組織の職員やボランティア、特に、障害者スポーツ指導員や当該市町村のスポーツ推進員、競技団体指導者、総合型地域スポーツクラブ等の協力（主管等）を得て行った。

（4）障害者スポーツ指導者の活動・役割

・地域の教室や大会の開催については、地域の指導員やボランティアを活用し、障害児者への支援の方法や指導方法の質の向上に取り組んだ。特に宇部・小野田地域や山口・防府地域では、地域の指導員が自主的・定期的に集まり教室の企画運営（教室内容、会場確保、参加者募集、指導員・ボランティアの確保）や指導に意欲的に取り組んでいる。このような動きに触発され、柳井・光地域や周南地域においても来年度から地域の教室ができるよう準備を進めている。

（5）成果および評価

・スポーツ教室を開催した地域や会場では、参加者の笑顔も多くみられアンケート結果にも引き続いて教室を開催するよう要望されていた。

・学校では、障害のある児童・生徒だけでなく障害のない児童生徒や保護者の参加があった。特に、障害者スポーツを交流スポーツとして活用することにより、児童生徒の障害児の理解や共生社会の実現に向けての取り組みに役立った。

（6）今後の課題

・今後は、活動を定例化して障害者スポーツ指導者の活用を進めるとともに競技団体指導者との連携を深めることを一層進めたい。特に、障害者スポーツ指導員が少ない地域で養成講習会を実施し指導員の確保をする必要がある。また、スポーツ推進員、総合型地域スポーツクラブやレクリエーション団体等との協力や連携が必要であり今後も働きかけていきたい。

（7）所感及び特記事項

・本年度取り組んだスポーツ種目（ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、フライングディスク等）は、障害の種別や軽重、多世代あるいは障害の有無に関係なく比較的取り組みやすいユニバーサルなスポーツ種目であるので、スポーツ教室実施だけでなく障害者スポーツの理解と普及啓発に有効であり、共生社会の実現に貢献できると考えている。

３　障害者スポーツ体験教室事業

（１）実施目的

障害のある児童生徒が、生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるために、発育・発達時期からスポーツへの参加の機会をつくり、スポーツの楽しさを体験する教室を開催する。

また、障害があってもライフワークにスポーツを取り入れ、生活自立や社会参加の推進に役立つようスポーツ参加の契機になるよう体験教室を行う。

（２）事業内容

①ボッチャ、フライングディスク、タンデム・ハンドサイクル教室

７月３０日（水）児童生徒、保護者・家族、教職員８３名参加

・防府総合支援学校において、ボッチャ、フライングディスク、タンデム・ハンドサイクルの体験教室を開催した。参加者を２班に分け全員が２種目体験できるようにした。今回ハンドサイクルとタンデムのサイクリング活動は初めてであったが、支援者や家族と一緒に活動することにより、児童生徒にとっては新たな体験となり大好評であった。

②コーディネーション運動教室

１２月１１日（木）生徒、教職員４９名参加

・防府総合支援学校において、上記トレーニング教室は４回目の開催であったため、与えられた動きにうまく反応でき、自分の体をイメージ通りに動かせて喜ぶ姿が生徒に多くみられた。今後も県内の総合支援学校で障害児が体を動かす喜びを体現できるプログラムを提供してほしいとの声も上がっている。

③射撃教室

１０月５日（日）生徒・一般来客者・ボランティア７３名参加

・下関南総合支援学校の文化祭「相愛フェスタ」においてビームライフル射撃教室を開催した。

昨年に続いての開催となったので評判もよく参加者も増えてきた。視覚障害者も気軽に参加でき、コンピュータ操作で的に当たる喜びも味わえるため学校関係者に好評な教室となった。

④車いす操作と車いすスポーツの体験教室

１２月１８日（木）教職員２８名参加

・岩国総合支援学校において、教職員を対象に車いすの取り扱いや支援方法、車いすスラローム、車いすバスケットの体験教室を開催した。今回は教職員だけの参加であったが、総合支援学校の教職員も初めての体験も多く好評であった。

（３）実施体制

・本年度も年度初めに山口県特別支援学校長会や山口県特別支援学校体育連盟に働きかけ事業の趣旨や事業の展開方法を説明し、各学校の実情に応じて実施した。学校では、全国障害者スポーツ大会を目指す生徒や障害者スポーツ指導員もいてスムーズな運営ができた。

（４）障害者スポーツ指導者の活動・役割

・防府総合支援学校の体験教室では、障害者スポーツ指導員がフライングディスクやボッチャ、タンデム操作の指導をした。また、岩国総合支援学校でも、障害者スポーツ指導員で車いすバスケット関係者が車いすスラロームや車いすバスケットの指導を行った。この事業においては、まだ指導員の主体的な活動までいっていないが、将来的には指導員と特別支援学校とが連携してスポーツ教室ができるように事業を展開していきたい。

（５）成果および評価

・年間４回の体験教室を開催したが、学校教育の中での事業展開なので、各学校の実情に合わせての活動となり、プログラム内容や対象者、実施時間もまちまちであった。しかしながら、各会場とも参加者が意欲的であり、事業の目的である「障害のある児童生徒が生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるためのスポーツ参加の機会をつくる」ことには多いに成果を上げたと考える。まだ、この事業を実施していない学校もあるので事業の趣旨を伝えながら全県下で開催できるよう進めていきたい。

（６）今後の課題

・この事業の実施に当たっては、日時や内容は各学校の要望を最優先しているため計画的に指導員を配置できなかったので昨年と同様に指導員の活躍の場面は少なかった。今後は各学校と地域の指導員との連携ができるように当協会としても調整を図り指導員の活動場面を増やしていきたい。

（７）所感及び特記事項

〇当協会では、障害者と健常者が一緒にスポーツを楽しむ交流スポーツとして「風船バレー、ボッチャ、卓球バレー」を推奨競技として普及に取り組んでいる。発育・発達期における障害児に愛されるスポーツとして有効と思われるので今後も特別支援学校に働き掛けていきたい。

〇事業協力団体及び講師

・山口県車椅子バスケットボール連盟

・山口県障害者射撃協会（山口県ライフル射撃協会、山口市ライフル射撃スポーツ協会）

・中田　徹（嘉年小学校教諭）

JACOT 協会公認コーディネーショントレーニングブロンズライセンス

レクリエーションインストラクター

4　地域障害者スポーツ大会開催事業

（1）実施目的

・障害者が、生活拠点の中で身近に気軽にスポーツの楽しさを体験することや障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して交流を深めることを目的に障害者スポーツの大会を開催する。また、各地域で県レベルの障害者スポーツ大会を開催することにより障害者スポーツの理解を促進する。さらに、障害者スポーツ指導員および障害者スポーツに関心のある方が誰とでも参加しやすい場とし、県内各地域で活動することにより地域活動の組織づくりに役立てる。

（2）事業内容

日時		大会名	会場	参加者	内容
5/11	山口･防府地域	県タンデム教室	山口市河川敷	参加者 23 名、 競輪選手 6 名、 VO 8 名、 指導員 6 名 運営 4 名	知的障害、視覚障害、肢体不自由の方に呼びかけタンデム教室を行った。二人乗り自転車を競輪選手や大学タンデムサークルのＶＯが運転してサイクリングを楽しんだ。指導者は乗降や立哨を行い安全に大会ができるよう支援した。
8/27	柳井･光地域	県ヨット教室	光市スポーツ交流村	参加者 12 名、 ヨット指導者 5 名、 指導員 7 名 運営 4 名	知的障害、視覚障害、肢体不自由の方に呼びかけヨット教室を行った。自然の中での活動が少ない障害者にとって貴重な経験であり新たな発見の場となった。野外活動は、安全対策で多くのスタッフが必要であるが、1 人でも多くの方に体験していただくよう継続したい。
2/15	山口･防府地域	県交流ボッチャ大会	県スポーツ文化センター	参加者 179 名、 審判員 12 名、 指導員 17 名 支援者 2 名 運営 5 名	県ボッチャ協会と連携して競技とレクの部に分かれて参加者はボッチャを楽しんだ。初めて防府市で多くの障害者が参加した。指導者は事前準備、コート設営、運営進行、審判をおこないスムーズな運営ができた。

・各地域の障害者スポーツ・レクリエーション大会は、地域障害者スポーツ教室開催事業で展開した。

・県大会の分散開催については、今回は地域で比較的開催しやすいタンデム、ヨット、ボッチャの大会を開催したが、参加者の交通の便や施設の借用等で県大会の地域開催はかなり難しい状況

にある。

（3）実施体制

開催に当っては、障害者スポーツ指導員や当該市町村のスポーツ推進員、競技団体指導者が運営主管として活動するよう企画運営した。加えて障害者団体や協力してくれる大学、ボランティア、総合型地域スポーツクラブ等の協力を得て大会を運営した。

（4）障害者スポーツ指導者の活動・役割

各大会に障害者スポーツ指導員を要請し､障害者が安全に楽しくスポーツ活動に参加できるように支援することや運営、指導、競技審判等で活躍している。

（5）成果および評価

・本年度も大会を開催した地域や会場では、回数を重ねる毎に盛況となり、運営も円滑になってきた。また、参加者からは次回を懇望される声が多く、学生（ボランティア）にも、良い刺激になった。

（6）今後の課題

・今後は、各地域で県レベルの障害者スポーツ大会ができるようスポーツ関係施設や市町の関係団体と調整するとともに大会内容も再度検討しながら企画立案し計画的に実施していきたい。

（7）所感及び特記事項

・各地域では障害者スポーツの理解と普及啓発には温度差があり、県レベルの大会開催が一朝一夕で出来ない状況にある。今後も地域の働きかけを強化しながら障害者が身近にスポーツに参加できるよう努めていきたい。

5　障害者スポーツクラブ指導者派遣･養成事業

（1）実施目的

県内各地域の障害者スポーツ団体やスポーツクラブ、地域の障害者スポーツ教室に派遣している障害者スポーツ指導員や障害者スポーツボランティアが、安全により効率的･効果的に活動ができるために相談会を開催する。

また、障害者スポーツに関わる入口として障害者スポーツを支えることのできるボランティアを養成する講習会を開催する。

（2）事業内容

①第１回障害者スポーツボランティア養成講習会

７月６日（日）　受講者１２名、講師２名、事務局３名

・山口県スポーツ交流村（光市）において、「障害のある人々のスポーツ」と「ボランティアとホスピタリティ」の２講義と「卓球バレー」と「風船バレー」の体験を行う。

②第２回障害者スポーツボランティア養成講習会

７月１３日（日）　受講者２１名、講師２名、事務局３名

・山口県身体障害者福祉センター（山口市）において、「障害のある人々のスポーツ」と「ボランティア活動を通して」の２講義と「卓球バレー」と「風船バレー」の体験を行う。

③障害者スポーツ支援相談会

２月２２日（日）　参加者３４名、講師（医科学委員）１４名、事務局４名

・パルトピアやまぐち（山口市）において、医科学委員による「テーピングの用法について」「体づくりを支える栄養指導」「競争力向上とメンタルトレーニング」の３講義と「陸上競技」「バレーボール競技」を支援する指導者４名からの活動事例報告を行う。最後に参加者からの質問に医科学委員が回答する。

④ボッチャ審判養成講習会（６月８日、山口県ボッチャ協会開催）と総合型クラブマネージャー養成講習会（８月２３日・２４日、山口県・山口県体育協会開催）に事務局を派遣する。

（3）実施体制

・開催にあたっては、山口県、当該市町、各地域スポーツ推進委員連絡協議会、各市町社会福祉協議会、各市教育委員会、障害者スポーツ医・科学サポート活用推進委員会の後援、協力を得て運営した。

（4）障害者スポーツ指導員の活動・役割

・ボランティア講習会では、障害者スポーツ指導員に講師を要請し、障害者スポーツ活動に参加する楽しさやスポーツ指導員の活動を紹介する。

・支援相談会では、障害者スポーツ指導員が活動の事例を発表し、意見交換を行い、今後の活動に活かせるようにする。

（5）成果および評価

・ボランティアとして活動後、指導員になる人も多く、ボランティア講習会は指導員を増やす役割も担っている。また相談会では、医科学スタッフの充実により各競技団体の監督･指導者の安

全に関する不安や指導に対する課題に対応できたと考える。今後、指導員を増やし、活動している指導員に情報と活動の機会を提供できるよう努めていきたい。

（６）今後の課題

・障害者スポーツ支援相談会については、定期的に年１回開催し、各競技団体の監督･指導者の声に応えていきたい。また、本年度は審判員養成講習会の開催ができなかったので、指導員の養成と併せて審判員の養成も進めていきたい。

（７）その他所感、特記事項等

・当協会は平成２４年度から指導員を人材バンクに登録し、競技団体やスポーツクラブ、地域のスポーツ教室に派遣している。今後も、地域の障害者の要望に応えられるよう努力したい。

6　情報発信事業

（1）実施目的

障害者スポーツへの人々の関心を高め、普及させるとともに、障害者がスポーツに興味を持ち、地域の身近なクラブや団体に所属できるように県内の障害者スポーツクラブチーム紹介をまとめ情報を提供することを目的とした。

（2）事業内容

①障害者スポーツ競技団体やクラブから意見を取り入れ、県内の障害者スポーツクラブの紹介リーフレットを 4,000 部作成した。今後は、各クラブの広報活動に役立て障害者に有効な情報を提供する。

②県内の障害者施設、特別支援学校、障害者スポーツ団体、市町社会福祉協議会、市町、障害者スポーツ指導員、ボランティア登録者等へ配布し、障害者のスポーツ参加に役立てる。

（3）実施体制

作成に当たっては、クラブや団体に所属している障害者スポーツ指導員と協議し、各団体やクラブに原稿を依頼した。事務局で原稿を集め編集した後、印刷会社で作成、各方面へ配布した。

（4）障害者スポーツ指導者の活動・役割

今後県内各地域の障害者スポーツ指導員に配布することにより、障害者のスポーツ参加の情報として活用し、活動の一助になればと期待している。

（5）成果および評価

本年度は、クラブ等紹介リーフレットを作成・配布して事業は終了したが、今後は障害者関係施設や障害者スポーツ指導員等の活用の仕方等にアドバイスしながら情報が個々の障害者届くように努めたい。

（6）今後の課題

障害者スポーツに関わっている人や興味を持っている障害者の手元に情報が確実に届くようにすることが課題である。

（7）所感及び特記事項

HP や機関誌、情報誌等いろいろな形で障害者スポーツ情報を提供しようと努めているが、経費がなく今回も部数を 4,000 部と押さえ配布先も障害者関係に制限している。今後は広く一般に障害者スポーツ情報が提供できるようになればと考える。

<６月１２日　菊川スポーツクラブ>

【ボッチャ】

【タンデム】

<８月８日　明倫小学校>

<８月２３日　山口防府地域障害者スポーツ交流会>

<１１月１６日　美祢地域>

<１１月２１日　山口地域　大内南小学校>

<３月７日　柳井光地域>

レッツ エンジョイ
チャレンジ スポーツ

平成 26 年度
岩国地域障害者スポーツレクリエーション交流会
参加者募集

日　時：平成２７年２月２１日（日）
　　９時３０分～１１時３０分（受付９時から）
場　所：岩国短期大学講堂
　　（岩国市尾津町２－２４－１８）
対象者：障害者スポーツレクリエーションを体験してみたい方（４０名程度）
　　（観戦はご自由にできます）
内　容：風船バレー、ボッチャ等の体験
　　※参加される方は、運動のできる服装、体育館シューズ
　　・飲み物等を各自持参してください。

主　催：一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
共　催：岩国短期大学、山口県障害者スポーツ指導者協議会（岩国地域）
後　援：岩国市、岩国市教育委員会、社会福祉法人岩国市社会福祉協議会

※申込書は FAX または郵送・メールにて、下記申し込み先までお申し込みください。（締切：平成２７年２月６日）

【申し込み先】岩国短期大学　学生支援課　中村洋子
〒740-0032　岩国市尾津町 2－24－18
FAX　0827－31－8143　Mail　y-nakamura@iwakuni.ac.jp

切り取り

平成２６年度岩国地域障害者スポーツレクリエーション交流会　参加申込書

平成　　年　　月　　日

（ふりがな） 氏　名		年　齢	性　別	障害の有無
		歳	男・女	有（　　） 無
住　所	〒	TEL FAX		

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の本大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

平成２６年度

岩国地域障害者スポーツレクリエーション交流会開催要項

１　目的

身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツ（風船バレー、ボッチャ）の楽しさを体験すると共に障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深める。また、障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととする。

２　主催　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　共催

岩国短期大学

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜岩国地域＞

４　後援

岩国市、岩国市教育委員会、岩国市社会福祉協議会

５　日時

・平成２７年２月２１日（土）　９時１５分～１１時３０分（受付開始９時）

６　会場

岩国短期大学（講堂）

（〒740-0032　岩国市尾津町２丁目２４－１８　　TEL：0827-31-8141　）

７　参加資格

障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方

（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

８　参加人数　４０名程度

９　参加方法及び申込み等

（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、　大会事務局　まで申し込む。

（２）申込み締め切りは、２月１２日（木）とする。

（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。

（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。

（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10 大会事務局

事務局　山口県障害者スポーツ協会　担当：檜原

〒753-0072　山口市大手町９－６

TEL：（０８３）９０１－４０６５

FAX：（０８３）９０１－４０６４

E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp

http://syospo-yamaguchi.jp

平成２６年度

光市障害者スポーツレクリエーション大会開催要項

１　目的

○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験すること

○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めること

○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととすること

２　主催　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　共催

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜周南地域＞

４　後援

光市、光市教育委員会、光市社会福祉協議会

５　日時

・平成２７年３月　７日（土）　９時１５分～１１時３０分（受付開始９時）

６　会場

サン・アビリティーズ光（体育館）

（〒743-0075　光市室積沖田６－１　　TEL：0833-79-2025　）

７　参加資格

障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方

（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

８　参加人数　３０名程度

９　参加方法及び申込み等

（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、大会事務局まで申し込む。

（２）申込み締め切りは、２月２０日（金）とする。

（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。

（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。

（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10 大会事務局

一般社団法人　山口県障害者スポーツ協会　担当：檜原

〒753-0072　山口市大手町９－６

TEL：（０８３）９０１－４０６５　FAX：（０８３）９０１－４０６４

E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp

http://syospo-yamaguchi.jp

第１回障害者スポーツ体験・交流会（グランドソフト）開催要項

１　目的
○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験する
○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深める
○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととする

２　主催
山口市盲人福祉協会西京クラブ　＜グランドソフトボールクラブ＞
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　共催
山口県障害者スポーツ指導者協議会＜山口・防府地域＞

４　後援
山口市社会福祉協議会

５　日時
平成２６年７月６日　１３時００分～１５時００分（受付開始１２時３０分）

６　会場
山口県立山口県総合支援学校
（〒753-0871　山口市朝田５８５－１　　TEL：０８３－９３４－４８１１）

７　参加資格
障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方
（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

９　参加方法及び申込み等
（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、山口県障害者スポーツ協会（三枝）まで申し込む。
（２）申込み締め切りは、６月２６日（木）とする。
（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。
（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。
（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。
（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10　日程及び主な内容
（１２：００）　役員集合、最終確認
　　スタッフ集合、打ち合わせ、会場準備
（１２：３０）　参加者受付（　２０　名）

（９：００）　開会行事（進行：　三枝　）
① 主催者あいさつ（　大会会長　西　　常夫　）
② スタッフ紹介（自己紹介）
③ 日程説明・競技上の注意（　事務局　）
④ 班ごとに自己紹介、交流タイム
⑤ ウォーミングアップ（　指導員　）
（９：１０）　障害者スポーツ交流会
体験１　１３：２０～１３：５０　守備練習
体験２　１４：００～１４：３０　打撃練習
体験３　１４：４０～１４：５５　練習試合（ミニゲーム）

	体験１	体験２	練習試合
内容	守備練習	打撃練習	ミニゲーム
準備物	◇コート設営 ・ボール（５） ・ベース設置 ・コーチ（各ポジション）	・バット（２） ・アイシェード（１０） ＝弱視・全盲体験	・コーチ（各塁）各塁 ・競技規則に則り交流・体験試合
担当	◎西　三枝	◎西　三枝	◎西　三枝

※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、障害者スポーツ指導員（競技種目担当）、理学療法士１名（救護担当）の協力を依頼する。

（１４：５５）　片付け
（１５：００）　閉会行事（進行：三枝）
① クールダウン（　指導員　）
② 主催者あいさつ（　大会会長　西常夫　）
③ 連絡（　事務局　）
（１５：１０）　解散

11　問合せ先
山口県障害者スポーツ協会　三枝啓巳
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp

山口・防府地区第１回障害者スポーツ交流会開催要項

１　目的
○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験する
○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深める
○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととする

２　主催
山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜山口・防府地区＞

３　共催
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
山口県障害者スポーツ指導者協議会

４　日時
平成２６年８月２３日　９時００分～１３時００分（受付開始８時３０分）

５　会場
防府市身体障害者福祉センター
（〒747-0805　防府市鞠生町 12 番 12 号　　TEL：０８３５－２３－６６２５）

６　参加人数　１７人

７　参加資格
障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方
（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

９　参加方法及び申込み等
（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、753-0001 山口市宮野上　古屋庸江 FAX083-921-1862　Mail:buon-appetito.2@arrow.ocn.ne.jp まで申し込む。
（２）申込み締め切りは、８月１０日とする。
（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。
（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。
（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。
（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10　日程及び主な内容
（８：００）　役員集合、最終確認
　　スタッフ集合、打ち合わせ、会場準備
（８：３０）　参加者受付（　１７　名）
（９：００）　開会行事（進行：　伊東　郁　）

① 主催者あいさつ（　高津　節　）
② 来賓あいさつ（　徳原　啓次　）
③ 日程説明・競技上の注意（　古屋　庸江　）
④ 班ごとに自己紹介、交流タイム
⑤ ウォーミングアップ（　久保田　稔　）

（９：１０）　障害者スポーツ交流会

1回　　９：１０～９：４０
2回　　９：５０～１０：２０
3回　１０：３０～１１：００

	卓球バレー	ボッチャ
内容	◇参加者を３班に分け、全員が２種目を体験する。 ◇卓球バレーは、３班のリーグ戦としボッチャは班を２チームに分けゲームを行う。 ◇ルール・内容は、各担当が実態に応じて実施する。	
準備物	◇１コート設営 ・卓球バレー（1） ・得点板(1) ・パンフレット 50 部用意	◇１コート設営 ・ボッチャ用具（1） ・ラインテープ ・得点板(1)
担当	○檜原、久保田、小柳、重枝	○高津、藤田、伊東、古屋

※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、障害者スポーツ指導員（競技種目担当)、(救護担当）の競技協力を依頼する予定。

（１１：１０）　閉会行事（進行：伊東）
① クールダウン（　久保田　）
② 主催者あいさつ（　高津　）
③ 連絡（　古屋　）
④ アンケート回収（　古屋　）

（１１：３０）　昼食

（１３：００）　片付け後解散

11　問合せ先

山口県障害者スポーツ協会　檜原龍彦
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
http://syospo-yamaguchi.jp

山口・防府地区第２回障害者スポーツ交流会開催要項

１　目的
○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験する
○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深める
○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととする

２　主催
山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜山口・防府地区＞

３　共催
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
山口県障害者スポーツ指導者協議会

４　日時
平成２７年１月３１日　９時００分～１１時００分（受付開始８時３０分）

５　会場
山口県身体障害者福祉センター
（〒753-0092　山口市八幡馬場 36 番地の 1　　TEL：０８３－９２５－２３４５）

６　参加人数　　３０人

７　参加資格
障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方
（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

９　参加方法及び申込み等
（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、753-0001 山口市宮野上　古屋庸江 FAX083-921-1862　Mail:buon-appetito.2@arrow.ocn.ne.jp まで申し込む。
（２）申込み締め切りは、H27　１月１５日（木）とする。
（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。
（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。
（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。
（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10　日程及び主な内容
（８：００）　役員集合、最終確認
　　スタッフ集合、打ち合わせ、会場準備
（８：３０）　参加者受付（　３０　名）
（９：００）　開会行事（進行：　伊東　郁　）

① 主催者あいさつ（　高津　節　）
② 日程説明・競技上の注意（　小柳　）
③ 班ごとに自己紹介、交流タイム
④ ウォーミングアップ（　久保田　稔　）
（９：１０）　障害者スポーツ交流会
1回　　９：１０～９：４０
2回　　９：５０～１０：２０
3回　１０：３０～１１：００

	卓球バレー	フライングディスク
内容	◇参加者を５班に分け、全員が２種目を体験する。 ◇卓球バレーは、１班が２戦できるよう対戦を組む。フライングディスクは、チャレンジゲームと記録会の４種目を行う。 ◇ルール・内容は、各担当が実態に応じて実施する。	
準備物	◇１コート設営 ・卓球バレー（1） ・得点板(1) ・パンフレット 50 部用意	◇１コート設営 ・ディスク（50） ・アキュラシーゴール７台 ・得点板(1)
担当	○大西、小柳、山本、津守、重枝、竹本、佐藤、吉山、松﨑	○檜原、久保田、伊東、池田、磯部 堀越、大畑、佐武、高橋、吉川

※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、障害者スポーツ指導員（競技種目担当)、(救護担当）の競技協力を依頼する予定。

（１１：１０）　閉会行事（進行：重枝）
① クールダウン（檜原）
② 主催者あいさつ（久保田）
③ 連絡（古屋）
④ アンケート回収（古屋）
（１１：３０）　昼食
（１３：００）　片付け後解散

11　問合せ先
山口県障害者スポーツ協会　檜原龍彦
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
http://syospo-yamaguchi.jp

山口市障害者スポーツレクリエーション開催要項

1　目的
○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験すること
○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めること
○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととすること

2　主催
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

3　共催
山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜山口・防府地域＞

4　後援
山口市、山口市教育委員会
山口地域障害者団体・各保健施設
山口市社会福祉協議会

5　日時
・平成２６年１１月２１日（金）午後１時３０分～午後３時３０分

6　会場
山口市立大内南小学校体育館
（〒753-0222　山口市大内矢田南２－４－１　TEL：０８３－９２７－７３７３）

7　参加人数　第４学年児童及び担任、希望者　１１０人程度

8　参加資格
障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方
（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

9　参加方法及び申込み等
（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、山口県障害者スポーツ協会まで申し込む。
（２）申込み締め切りは、１１月１１日（火）とする。
（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。
（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。
（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。
（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10　日程及び主な内容

（１２：００）　役員集合、最終確認
（１２：３０）　スタッフ集合、打ち合わせ、準備、駐車場誘導
（１３：３０）　開会行事（進行：大内南小学校大石和子教諭）
① 主催者あいさつ（県障害者スポーツ協会　三枝啓已常務理事）
② 日程説明・競技上の注意（大内南小学校　椿　徹教頭）
③ 班ごとに自己紹介、交流タイム
④ ウォーミングアップ（大内南小学校　増田幸夫教諭）
（１３：４０）　障害者スポーツの体験
１クール　１３：４０～１４：１０　（休憩　14:10～14：15）
２クール　１４：１５～１４：４５　（休憩　14:45～14：50）
３クール　１４：５０～１５：２０

	風船バレー	ボッチャ	卓球バレー
内容	◇参加者（４年児童）を１２　班（各学級４班ずつ）に分け、全員が３種目を体験する。 ◇風船バレー、ボッチャ、卓球バレーを３０分交代する。 ◇ルール・内容は、各担当が考えて実施する。		
準備物	◇２コート設営 ・ネット(2)・風船(5)・風船測定器 ・ラインテープ・ビブス（４色×１０） ・得点板(2)	◇２コート設営 ・ボッチャ用具（2） ・ラインテープ・ゼッケン（４色×１０） ・得点板(2)	◇２コート設営 ・卓球台(2) ・卓球台用具（2） ・椅子(24脚) ・得点板(2)
担当	◎　総括（久保田稔） ○A コート(久保田稔) ○B コート(古屋庸江、三枝啓已)	◎　総括（藤田英二） ○C コート(藤田英二) ○D コート（松村辰彦、山本直子）	◎　総括（高津　節） ○E コート(高津　節) ○F コート(重枝紀美代、大西真紀)

※表中の△△（△）は、大内南小学校で準備する。
※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、障害者スポーツ指導員　７名（競技種目担当）、救護担当１名（大内南小学校養護教諭）協力で行う。
（１５：２０）　閉会行事（進行：大内南小学校大石和子教諭）
① クールダウン（大内南小学校　増田幸夫教諭）
② 参加者代表お礼のことば（４年生代表児童　　）
③ 主催者あいさつ（県障害者スポーツ協会　三枝啓已常務理事）
④ 連絡（大内南小学校大石和子教諭）
（１５：２５）　片付け
（１５：３０）　解散

11　大会事務局
事務局　山口県障害者スポーツ協会　三枝啓已（さいぐさ　ひろみ）
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
E-mail:saigusa@syospo-yamaguchi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp

第４回宇部・山陽小野田・美祢地域

障害者スポーツレクリエーション大会開催要項

１　目的

○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験すること

○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めること

○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととすること

２　主催

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜宇部・山陽小野田・美祢地域＞

３　共催

宇部フロンティア大学短期大学部

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会、山口県障害者スポーツ指導者協議会

４　後援

一般社団法人山口県レクリエーション協会

宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会、宇部市社会福祉協議会

有限会社リベルタス興産

５　日時

平成２６年６月２８日（土）　　９時１５分～１１時４５分（受付開始９時）

６　会場

宇部フロンティア大学短期大学部　第２体育館

（〒755-8550　宇部市文京町５－４０　TEL：０８３６－３５－９５４６）

７　参加資格

障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方

（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

８　参加方法及び申込み等

（１）申込みは、FAXまたは郵送・Mailにて、宇部フロンティア大学短期大学部富田研究室まで申し込む。

（２）申込み締め切りは、６月２１日(土)とする。

（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。

（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。

（５）傷害保険料等として、参加費を100円とし、当日受付にて徴収する。

（６）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

（７）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

９　日程及び主な内容

（８：００）　役員集合、最終確認、準備開始

（８：３０）　フロンティア短大生集合、打ち合わせ、準備、駐車場誘導

（９：００）　参加者受付（大畑・佐藤・学生）＜BGM（学生）＞

（９：１５）　開会行事（進行：事務局　山本）

① 主催者あいさつ（大会会長　富田）

② スタッフ紹介（自己紹介）

③ 日程説明・競技上の注意（事務局　山本）

④ 班ごとに自己紹介、交流タイム

⑤ ウォーミングアップ（弘中）

（９：４５）　障害者スポーツの体験

		風船バレー	ボッチャ	ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ
体験１	９：４５～１０：１５	１・２班	３・４班	５・６班
体験２	１０：２０～１０：５０	５・６班	１・２班	３・４班
体験３	１１：００～１１：３０	３・４班	５・６班	１・２班

	風船バレー	ボッチャ	フライングディスク
内容	◇参加者（学生を含む）を６班に分け、全員が３種目を体験する。 ◇ルール・内容は、各担当が考えて実施する。		
準備物	◇　１コート設営 ・ネット（1） ・風船、鈴(5) ・風船測定器(1) ・ラインテープ ・得点板(1) ・電子ホイッスル(1)	◇　２コート設営 ・ボッチャ用具（2） ・ラインテープ ・得点板(2) ・メジャー(4)	◇４コート設営 ・練習用 FD ゴール(4) ・ディスク ・ドッヂビー
担当	◎大畑、佐藤、福増	◎山本、高橋、藤井真	◎富田、弘中、藤井芹

※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、理学療法士１名（救護担当）の競技協力を依頼する。

（１１：３０）　閉会行事（進行：事務局　山本）

① クールダウン（弘中）

② 主催者あいさつ（大会会長　富田）

③ 連絡（山本）

※アンケート記入・回収（大畑・佐藤）後解散

（１１：４５）　片付け

（１２：３０）　役員・学生解散

１０　大会事務局

代表　宇部フロンティア大学短期大学部　富田輝美

〒755-8550　宇部市文京町５－４０　TEL&FAX：（０８３６）３５－９５４６

事務局　山本健（宇部総合支援学校）TEL０９０－６８４２－２５８１

レッツ エンジョイ　宇部　山陽小野田　チャレンジ スポーツ

第4回 障害者スポーツレクリエーション

日　時：平成26年6月28日（土）
9時15分～11時45分（受付開始9時）

場　所：宇部フロンティア大学短期大学部
第2体育館（宇部市文京町5－40）

対象者：障害者スポーツを体験してみたい方
障害者スポーツに興味のある方なら、どなたでも！

内　容：風船バレーやボッチャ等の体験

参加費：一人100円（保険代等）

主催：山口県障害者スポーツ指導者協議会
＜宇部・山陽小野田・美祢地域＞
共催：宇部フロンティア大学短期大学部
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
山口県障害者スポーツ指導者協議会
後援：一般社団法人山口県レクリエーション協会
宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会
宇部市社会福祉協議会
有限会社リベルタス興産

※申込書はFAXまたは郵送、Mailにて、下記申込先まで、お申込みください。（締切 6/21）
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物を各自でご準備ください。

【申込先】宇部フロンティア大学短期大学部　富田輝美
〒７５５－８５５０　宇部市文京町５－４０
FAX：（０８３６）３５－９５４６
Mail：tomita@ube-c.ac.jp
【問合せ先】０９０－６８４２－２５８１（事務局：山本）

（切り取り線）

宇部・山陽小野田・美祢地域　第４回障害者スポーツレクリエーション申込書					
平成　年　月　日　申込		性別	年齢	指導員資格	障害の有無
(ふりがな) 氏名		男 女	歳	有・無	有（　　）・無
住所	〒	TEL＿＿＿＿＿＿＿＿FAX＿＿＿＿＿＿＿＿ Mail			

※保護者や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。
（見学や引率のみの方は記入の必要はありません。）

保護者 支援者	(ふりがな) 氏名		住所		性別	男 女	年齢	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の本大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

第５回宇部・山陽小野田・美祢地域

障害者スポーツレクリエーション開催要項

１　目的

○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験すること

○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めること

○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととすること

２　主催

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜宇部・山陽小野田・美祢地域＞

３　共催

宇部フロンティア大学短期大学部

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会、山口県障害者スポーツ指導者協議会

４　後援

一般社団法人山口県レクリエーション協会

宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会、宇部市社会福祉協議会

有限会社リベルタス興産

５　日時

平成２６年１１月９日（日）　　９時１５分～１１時４５分（受付開始９時）

６　会場

宇部フロンティア大学短期大学部　第２体育館

（〒755-8550　宇部市文京町５－４０　TEL：０８３６－３５－９５４６）

７　参加資格

障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方

（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

８　参加方法及び申込み等

（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、宇部フロンティア大学短期大学部富田研究室まで申し込む。

（２）申込み締め切りは、１０月２９日(水)とする。

（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。

（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。

（５）傷害保険料等として、参加費を 100 円とし、当日受付にて徴収する。

（６）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

（７）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

９　日程及び主な内容

（８：００）　役員集合、最終確認、準備開始

（８：３０）　フロンティア短大生集合、打ち合わせ、準備、駐車場誘導

（９：００）　参加者受付（大畑・佐藤・白石・学生）＜BGM（学生）＞

（９：１５）　開会行事（進行：事務局　山本）

① 主催者あいさつ（大会会長　富田）

② 日程説明・競技上の注意（事務局　山本）

③ 班ごとに自己紹介、交流タイム

④ スタッフ紹介（自己紹介）

⑤ ウォーミングアップ＜ラジオ体操宇部弁バージョン＞（指導者は全員前で）

（９：４５）　障害者スポーツの体験

		風船バレー	ボッチャ	卓球バレー
体験１	９：４５～１０：１５	１・２班	３・４班	５・６班
体験２	１０：２０～１０：５０	５・６班	１・２班	３・４班
体験３	１１：００～１１：３０	３・４班	５・６班	１・２班

	風船バレー	ボッチャ	卓球バレー
内容	◇参加者（学生を含む）を６班に分け、全員が３種目を体験する。 ◇ルール・内容は、各担当が考えて実施する。		
準備物	◇　１コート設営 ネット（1）【短大】 風船、鈴(5)【ｽﾎﾟ協】 風船測定器(1)【ｽﾎﾟ協】 ラインテープ【ｽﾎﾟ協】 得点板(1)　【短大】	◇　２コート設営 ボッチャ用具(2)【ｽﾎﾟ協】 ラインテープ【ｽﾎﾟ協】 得点板(2)　【短大】 メジャー(4)【ｽﾎﾟ協】 指示板（2)【ｽﾎﾟ協】 コンパス（2)【ｽﾎﾟ協】	◇　２コート設営 卓球台(2)　【短大】 ラケット(24)　【短大】 ボール【短大】 ネット(2)　【短大】 いす(24)　【短大】 得点板(2)　【短大】
担当	○大畑、板垣、弘中	A コート○山本、佐藤 B コート○白石、藤井真	A コート○富田、高橋政 B コート○清田、三枝

※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、理学療法士１名（救護担当）の競技協力を依頼する。

（１１：３０）　閉会行事（進行：事務局　山本）

① クールダウン（短大）

② 主催者あいさつ（大会会長　富田）

③ 連絡（山本）

※アンケート記入・回収（大畑・佐藤・白石）後解散

（１１：４５）　片付け

（１２：３０）　役員・学生解散

１０　大会事務局

代表　宇部フロンティア大学短期大学部　富田輝美

〒755-8550　宇部市文京町５－４０　TEL&FAX：（０８３６）３５－９５４６

事務局　山本健（宇部総合支援学校）TEL０９０－６８４２－２５８１

レッツ エンジョイ　宇部　山陽小野田　美祢　チャレンジ スポーツ

第5回 障害者スポーツレクリエーション

日　時：平成26年11月9日（日）
9時15分～11時45分（受付開始9時）

場　所：宇部フロンティア大学短期大学部
第2体育館（宇部市文京町5－40）

対象者：障害者スポーツを体験してみたい方
障害者スポーツに興味のある方なら、どなたでも！

内　容：風船バレーやボッチャ等のスポーツ体験

参加費：一人100円（保険代等）

主催：山口県障害者スポーツ指導者協議会
＜宇部・山陽小野田・美祢地域＞
共催：宇部フロンティア大学短期大学部
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
山口県障害者スポーツ指導者協議会
後援：一般社団法人山口県レクリエーション協会
宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会
宇部市社会福祉協議会
有限会社リベルタス興産

※申込書はFAXまたは郵送、Mailにて、下記申込先まで、お申込みください。（締切 10/29）
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物を各自でご準備ください。

【申込先】宇部フロンティア大学短期大学部　富田輝美
〒７５５－８５５０　宇部市文京町５－４０
FAX：（０８３６）３５－９５４６
Mail：tomita@ube-c.ac.jp
【問合せ先】０９０－６８４２－２５８１（事務局：山本）

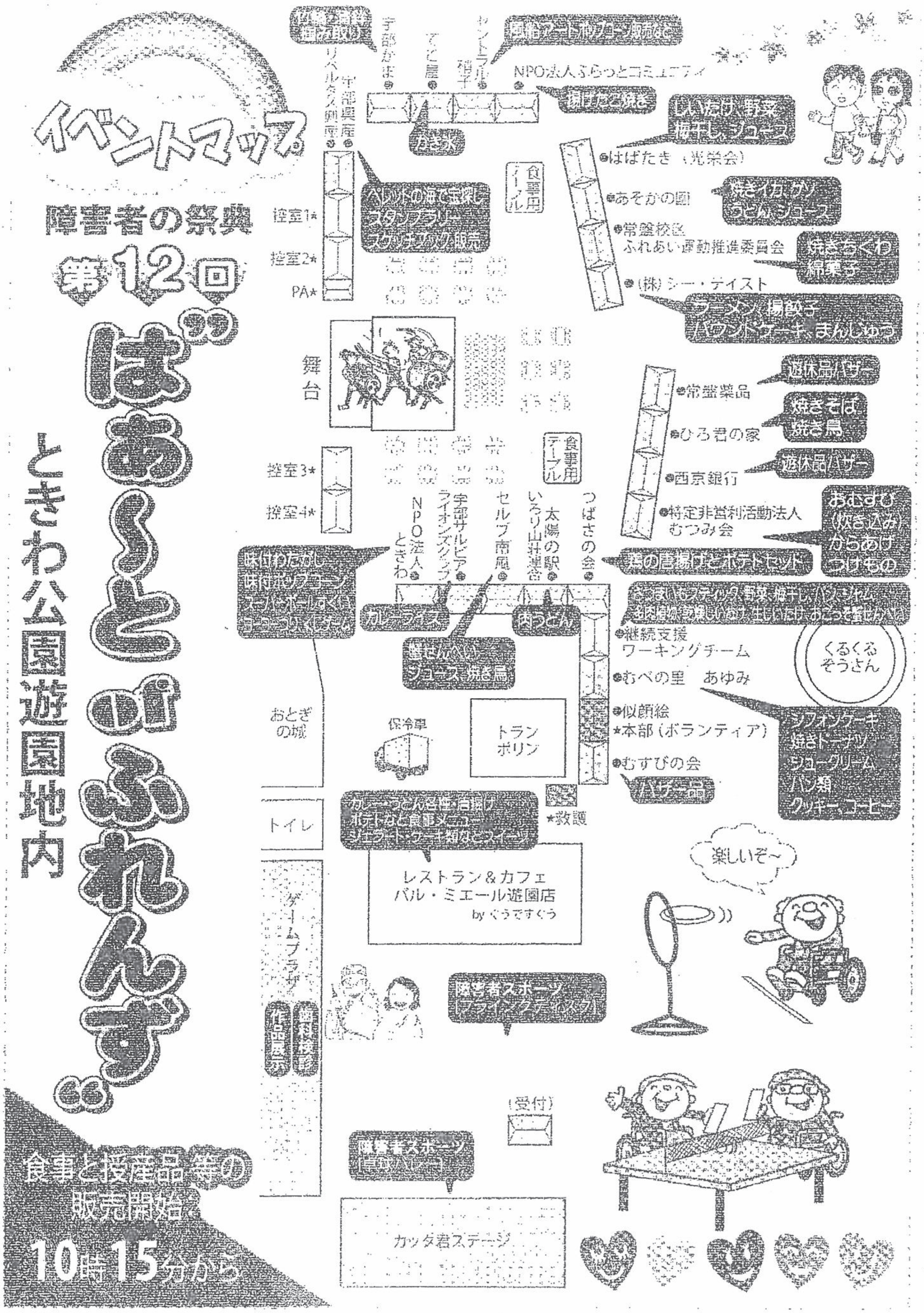
（切り取り線）

宇部・山陽小野田・美祢地域　第５回障害者スポーツレクリエーション申込書						
平成　年　月　日　申込		性別	年齢	指導員資格	障害の有無	
(ふりがな) 氏名		男 女	歳	有・無	有（　　）・無	
住所	〒	TEL＿＿＿＿＿＿＿＿FAX＿＿＿＿＿＿＿＿ Mail				

※保護者や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。
（見学や引率のみの方は記入の必要はありません。）

保護者 支援者	(ふりがな) 氏名		住所		性別	男 女	年齢	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の本大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。



イベントマップ
障害者の祭典
第12回
ばあくとふれんず
ときわ公園遊園地内
食事と授産品等の
販売開始
10時15分から
宇部かま
てとし屋
セントラル硝子
NPO法人ふらっとコミュニティ
風船アート・ポップコーン販売など
揚げたこ焼き
宇部興産
リハルタ興産
かき氷
しいたけ、野菜、梅干し、ジュース
●はばたき（光栄会）
食事用テーブル
ペレットの海で宝探し
スタンプラリー
スクラッチブック販売
控室1★
控室2★
PA★
●あそかの園
焼きイカ、クソ
うどん、ジュース
●常盤校区
ふれあい運動推進委員会
焼きちくわ
綿菓子
●（株）シー・ティスト
ラーメン、揚餃子
パウンドケーキ、まんじゅう
舞台
●常盤薬品
遊休品バザー
焼きそば
焼き鳥
●ひろ君の家
●西京銀行
遊休品バザー
控室3★
控室4★
●特定非営利活動法人
むつみ会
おむすび
（炊き込み）
からあげ
つけもの
NPO法人ときわ
宇部サルビアライオンズクラブ
セルブ南風
いろり山荘
太陽の駅
つばさの会
味付わたがし
味付ポップコーン
スーパーボールすくい
ヨーヨーつりくじ
カレーライス
鶏の唐揚げとポテトセット
えびせんべい
ジュース、焼き鳥
肉うどん
●継続支援
ワーキングチーム
●むべの里　あゆみ
●似顔絵
★本部（ボランティア）
●むすびの会
バザー品
くるくる
そうさん
シフォンケーキ
焼きドーナツ
シュークリーム
パン類
クッキー・コーヒー
おとぎの城
保冷車
トランポリン
★救護
トイレ
カレー・うどん各種・唐揚げ
ポテトなど食事メニュー
ジェラート・ケーキ類などスイーツ
レストラン＆カフェ
パル・ミエール遊園店
by ぐうですぐう
楽しいぞ～
ゲームプラザ
作品展示
障害者スポーツ
（フライングディスク）
（受付）
障害者スポーツ
（卓球バレー）
カッタ君ステージ

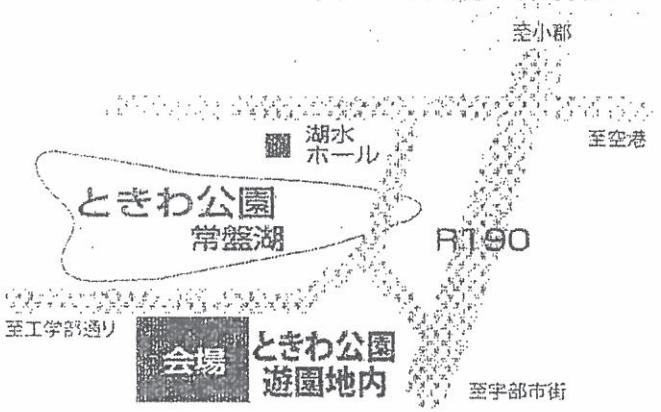
2014年 第12回 はぁ～とがおとる宇部の街

"はぁ～とofふれんず"

～障害者の祭典～

とき 10月19日(日) AM10:00～PM2:00

ところ ときわ公園 遊園地内



障害者作品展示

授産施設等による授産品販売 10:15～

宇部歯科医師会による歯科検診 10:00～13:30

うどん、カレーライス、焼きそば、焼き鳥、から揚げ、フランクフルト、各種飲み物など 10:15～

他にもたくさん

イベント内容

時間	メインステージ
10:00	開会セレモニー
10:10	光栄会(鳴子踊り)
10:30	FREEDOM WINGS(バンド演奏)
10:45	長州南蛮連(よさこい鳴子踊り)
11:05	ハウマナみやび川添(フラダンス)
11:15	小羽山幼稚園(おばやまキッズダンス)
11:25	ほっとすぺーすダンスチーム(ダンス)
11:40	クランクダンススタジオ(CRUNK HIPHOP DANCE)
12:00	スウィートポップコーン&左来子モダンバレエスタジオ(宙(そら)の風 ダンス披露)
12:25	同朋太鼓(太鼓演奏)
12:40	山口大学チアリーディング部(チアリーディング)
12:55	宇部総合支援学校(ダンス)
13:20	宇部吹奏楽団(吹奏楽)
13:40	おっちーとみんなで踊る "恋するフォーチュンクッキー"
13:55	閉会セレモニー
14:00	閉会

ステージ、その他会場でイベントを盛り上げます!!

お問い合わせ先 〒755-0241 宇部市東岐波道田223番地 社会福祉法人光栄会内
TEL(0836)58-2202 FAX(0836)58-5949
E-mail:prism@koueikai.or.jp

主催 第12回 "はぁ～とofふれんず" 障害者の祭典 実行委員会
共催 宇部市障害者ケア協議会
後援 宇部市 宇部市教育委員会 宇部市医師会 宇部歯科医師会 宇部サルビアライオンズクラブ 宇部市社会福祉協議会
宇部市学習協議会 宇部市ミニバンジョン協会 宇部市レクリエーション協会 宇部ボランティア連絡協議会
宇部市青年事業者連絡協議会 [illegible] (宇部地区精神保健家族会) リベンダス興産 宇部日報社 NHK山口放送局
[illegible] tys テレビ山口 yab 山口朝日放送 エフエム山口 FM きらら 山口ケーブルビジョン

第49回山口県スポーツ・レクリエーションフェスティバル

申込不要・参加自由

2014 スポレクフェスタ

日時 平成26年 11月 16日（日） 10:00～15:30

場所 伊佐近隣公園（美祢市伊佐町伊佐徳定）
美祢スポーツセンター
美祢市立伊佐中学校

気軽に体験

主 催　一般社団法人山口県レクリエーション協会
共 催　美祢市レクリエーション協会
後 援　山口県　美祢市　KRY山口放送株式会社　山口県スポーツ推進委員協議会　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
一般財団法人山口県老人クラブ連合会　一般社団法人山口県子ども会連合会

スタンプラリーに挑戦！

いろんなスポーツにチャレンジして、スタンプをゲットしよう！
スタンプをためると、景品と交換できるよ！

伊佐近隣公園

○あそび広場　・・・・・子どもから大人までつい夢中になっちゃうあそびがいっぱい！
○オリエンテーリング・・地図とコンパスを使って、美祢市を探検しよう！
○キャンプ　・・・・・・テントに入って、プチキャンプを体験しよう！
○ゲートボール　・・・・君はゲートをうまく通過できるかな？
○スポーツチャンバラ・・“エアーソフト剣”で、いざ勝負！
○ネイチャーゲーム・・・見て、聞いて、触って、自然を感じてみよう！
○ヒューストン　・・・・吹矢を“ヒュー”と吹いて“ストン”と的に当てよう！
○ペタンク　・・・・・・ビュット（目的球）に向かって鉄球を投げてみよう！

美祢スポーツセンター

○インディアカ　・・・・羽根のついた特殊なボールを手でアタック！
○卓球バレー　・・・・・卓球台を使って６人制のバレー！？まずは体験、体験！
○バウンドテニス　・・・気軽にできるテニス、年齢男女を問わず楽しめるよ！
○ボッチャ　・・・・・・赤球、青球、どちらがジャックボール（目的球）の近くに投げれるかな？

伊佐中学校

○３Ｂ体操　・・・・ボール、ベル、ベルターの用具を使って、音楽に合わせて体を動かそう！
○チャレンジ・ザ・ゲーム・・ボール、なわ、棒などを使ってあそび感覚で運動ができちゃう！

今回は、体験コーナーと記録会の同時開催！　個人、グループ参加のどちらも可能。もちろん、初めて体験する人も大歓迎！　みんなでＢＩＧ記録に挑戦しよう！　賞品もあるよ！

【記録会】　午前の部　１１：００～　　午後の部　１４：３０～

記録会受付（記録会開始１０分前までに、会場にて参加申し込みをしてください）

※体験コーナーは常時受付をしています。

参加者は運動に適した服装・シューズが必要です。

飲食ができるコーナーもあります

お問い合わせ

一般社団法人山口県レクリエーション協会
TEL 083－934－5510
当日は会場内に案内所を設けておりますので、そちらにお問い合わせください。

このイベントは、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。

美祢地域障害者スポーツ体験教室・交流会開催要項

1　目的
○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験する
○　山口県レクリエーション協会と共催し、障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深める
○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とする。

2　主催
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
一般社団法人山口県レクリエーション協会

3　共催
山口県卓球バレー協会
山口県ボッチャ協会
山口県障害者スポーツ指導者協議会

5　日時
平成２６年１１月１６日　１０時００分～１５時３０分（受付開始９時４０分）

6　会場
美祢市スポーツセンター
（〒759-2222　美祢市伊佐町伊佐４８８５　　TEL：０８３７－５２－３３１０）

7　参加資格
障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方
（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

9　参加方法及び申込み等
（１）事前申込みは、FAX または郵送・Mail にて、山口県障害者スポーツ協会（檜原）まで申し込んでください。当日参加も歓迎します。
（２）会場までの移動は、参加者の責任にて行ってください。
（３）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。
（４）活動中の事故については、主催者が応急処置等まで行います。
（５）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10　問合せ先
山口県障害者スポーツ協会　檜原龍彦
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp

萩地域障害者スポーツ教室開催要項

１　目　的

○　身近な地域で、障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験すること

○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めること

○　障害者スポーツ指導員及び障害者スポーツに関心のある方が誰でも参加しやすい場とし、地域の組織づくりのもととすること

２　主　催

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　共　催

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜萩地域＞

４　後　援

萩市、萩市教育委員会

萩地域障害者団体・各保健施設

萩市社会福祉協議会、萩市障害者スポーツ協会

５　日　時

平成２６年８月８日(金)　９時１５分～１１時３０分（受付開始９時）

６　会　場

萩市立明倫小学校体育館（＊新しい明倫小学校の体育館）

（〒７５８－００４１　TEL：０８３８－２５－２１６６）

７　参加人数　３８人

８　参加資格

障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方

（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

９　参加方法及び申込み等

（１）申込みは、FAX または郵送・Mail にて、山口県障害者スポーツ協会まで申し込む。

（２）**申込み締め切りは、７月３１日（木）とする。**

（３）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。

（４）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。

（５）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

（６）参加者へは新聞社等への写真掲載の承諾の有無を受付にて確認する。

10　日程及び主な内容

８：００　役員集合、最終確認
８：３０　スタッフ集合、打ち合わせ、準備
９：００　参加者受付
９：１５～　開会行事
① 主催者あいさつ
② 来賓あいさつ
③ 日程説明・競技上の注意
④ 班ごとに自己紹介、交流タイム
⑤ ウォーミングアップ
９：４５～　障害者スポーツの体験
前半　　９：４５～１０：２５（４０分）
休憩　１０：２５～１０：４０
後半　１０：４０～１１：２０（４０分）
○参加者を４班に分け、全員が風船バレーとボッチャの２種目を体験する。
○前半は、１～２班が風船バレー、３～４班がボッチャを行い、後半は種目を入れ替わって行う。
※山口県障害者スポーツ協会人材バンクを活用し、障害者スポーツ指導員６名（競技種目担当）、養護教諭１名（救護協力）の競技協力を用意する。
１１：２０～　閉会行事
① クールダウン
② 主催者あいさつ
③ 諸連絡
１１：３０～　片付け
１１：４０　解散

11　その他

○**参加者の駐車場については、萩市の第３駐車場（萩市民館西）をご利用ください。**そこから徒歩で明倫小学校までご移動ください。明倫小学校の正門（裁判所の隣）から入り、右側のプールの横を通って体育館へお願いします。
○お問い合わせは、下記の大会事務局にお願いします。

12　大会事務局

事務局　山口県障害者スポーツ協会　三枝啓巳（さいぐさ　ひろみ）
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
E-mail:saigusa@syospo-yamaguchi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp

下関地域（菊川スポーツクラブ）障害者スポーツ教室開催要項

１　目的

○　障害のある方が気軽にスポーツの楽しさを体験すること

○　障害のある方とない方が一緒にスポーツをすることを通して、親睦を深めること

○　総合型スポーツクラブと協力してボッチャを指導することにより交流スポーツの普及・啓発や障害者スポーツの推進を図る。

２　主催

菊川スポーツクラブ

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　協力

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜下関地域＞

山口県障害者ボッチャ協会

４　日時

平成２６年６月１２日(木) 午前　９時３０分～１３時００分

５　会場

下関市立菊川中学校体育館及び運動公園

（〒750-0317　下関市菊川町下岡枝１－２　TEL：０８３－２８７－００４２）

６　参加者

菊川町近隣地区特別支援学級児童生徒：小学生（１２名）中学生（５名）

教員（数名）

菊川スポーツクラブ指導員（数名）

７　スポーツ教室日程及び主な内容

（　９：３０）指導員・担当者集合（打ち合わせ）

（１０：３０）レクボッチャの試合（３人１チーム×２試合）

（１１：３０）試合終了まとめ

昼食

（１２：００）タンデム、ハンドサイクル紹介（県協会）

（１３：００）後始末、終了

１０　大会事務局

事務局　山口県障害者スポーツ協会　檜原龍彦（ひばらたつひこ）

〒753-0072　山口市大手町９－６

TEL：（０８３）９０１－４０６５

FAX：（０８３）９０１－４０６４

E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp

http://syospo-yamaguchi.jp

スポーツ協会のＦＡＸ番号：０８３－９０１－４０６４

下関地域体験者スポーツ（タンデム）体験教室開催要項

1　目的

○　障害のある方がタンデムの体験を通してスポーツの楽しさや野外活動の爽快感を味わう。

○　障害のある方とない方が一緒にタンデムをすることを通して、交流を深める。

○　山口県視覚障害者団体連合会と協力してタンデムやハンドサイクルの体験教室を行うことにより障害者スポーツの普及・啓発を図る。

2　主催

一般社団法人山口県視覚障害者団体連合会
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

3　協力

山口県自転車競技連盟
山口県サイクリング協会
山口県障害者スポーツ指導者協議会

4　日時

平成２６年８月３日(日)　　１３時３０分～１５時３０分

5　会場

山口県立下関南総合支援学校
〒751-0828　下関市幡生町１丁目１－２２　TEL：083-232-1431

6　参加者

日盲連中国ブロックスポーツ担当者
視覚障害体験希望者（約 30 名）
タンデム、サイクリング愛好者等

7　スポーツ教室日程及び主な内容

１２：３０　指導員・スタッフ集合（打ち合わせ）
１３：３０　開会式、準備体操
１３：４０　タンデム、ハンドサイクル紹介、体験活動
１５：２５　閉会式

8　問合せ先

山口県視覚障害者団体連合会　体育部部長 安田和正
〒759-6301　下関市豊浦町川棚 6180-17
TEL・FAX：(083) 772-1236
携帯電話： 090-3373-0035
山口県障害者スポーツ協会　檜原龍彦
〒753-0072　山口市大手町 9-6
TEL：(083) 901-4065　FAX：(083) 901-4064

第１回防府総合支援学校スポーツ教室開催要項

１　目的

障害のある児童生徒が、生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるために、発育・発達時期からスポーツへの参加の機会をつくり、こうした取組みを通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、県民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

２　主催

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　協力

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜山口・防府地域＞
山口県立防府総合支援学校

４　日時

平成２６年7月３０日(水)　１４：００～１６：００

５　会場

山口県立防府総合支援学校　　体育館、グランド
（〒747-0833　防府市大字浜方２０５－３　　TEL：０８３５－２２－６１０８）

６　参加者

山口県立防府総合支援学校　児童生徒 22 名　　教員・保護者 60 名

７　参加方法及び申込み等

（１）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意すること
（２）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

８　日程及び主な内容

（１２：３０）　担当者集合、最終確認、会場準備
（１３：００）　スタッフ集合、打ち合わせ
（１４：００）　開会行事（進行：大西）
① はじめの言葉（　檜原　）
② 日程説明・競技上の注意（　檜原　）
③ 班分け・班員確認、交流タイム（チーム名、班長決定）
④ ウォーミングアップ（　大西　）
（１４：１０）障害者スポーツの体験
前半　　１４：１０～　１４：５５
休憩　　１４：５５～　１５：１０
後半　　１５：１０～　１５：５５

種目及び内容

	ボッチャ	フライングディスク	タンデム ハンドサイクル
内容	◇参加者を２班に分け、全員が２種目を体験する。 ◇タンデム・ハンドサイクルは希望者が行う。 ◇前半（４５分）は、後半（４５分）は種目を入れ替わって行う。 ◇ルール・内容は、各種目グループリーダーの指導で行う。		
準備物	◇体育館１コート設営 ・ボッチャ用具（４） ・ラインテープ・ゼッケン（２色×8） ・得点板(１)	◇体育館半面、晴天であればグランド ・アキュラシーゴール　４セット ・FD：１００枚 ・メジャー５０ｍ３本 ・スローイングライン　４本	◇グランド ・ハンドサイクル１台 ・タンデム５台 ・ヘルメット１１個
担当	◎松崎 重枝、久保田、大西	◎前田 藤元、大濱、田村	◎檜原 石岡 県立大学予定

※山口県障害者スポーツ協会障害者スポーツ指導員３名（ボッチャ担当）、FD 審判員４名（フライングディスク）、県立大学タンデムサークル・協会担当者、（タンデム・ハンドサイクル）

（１５：５５）閉会行事（進行：　大西　）
① クールダウン（　大西　）状況に応じて
② 終わりの言葉（　檜原　）
③ 連絡（　檜原　）
（１６：００）　片付け
（１６：１５）　終了

９　事務局

事務局　山口県障害者スポーツ協会　担当：檜原（携帯：090-8995-2969）
〒753-0072　山口市大手町９－６
TEL：（０８３）９０１－４０６５
FAX：（０８３）９０１－４０６４
E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp

第２回防府総合支援学校スポーツ教室開催要項

１　目的

障害のある児童生徒が、生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるために、発育・発達時期からスポーツへの参加の機会をつくり、こうした取組みを通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、県民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

２　主催

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　協力

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜山口・防府地域＞

山口県立防府総合支援学校

４　日時

平成２６年１２月１１日(木)　１３：３０～１５：００

５　会場

山口県立防府総合支援学校　　体育館

（〒747-0833　防府市大字浜方２０５－３　　TEL：０８３５－２２－６１０８）

６　参加者

山口県立防府総合支援学校　中学部生徒３３名　　教職員１６名

７　参加方法及び申込み等

（１）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意すること

（２）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

８　日程及び主な内容

（１３：００）　担当者集合、最終確認、会場準備

（１３：３０）　開会行事（進行：大西）

① あいさつ（　檜原　）

② 講師紹介　　中田徹　先生

③ ウォーミングアップ（　大西　）

（１３：４０）所外時のコーデネーション運動

前半　　１３：４０～　１４：１５　徒手での運動プログラム

休憩　　１４：１５～　１４：２０

後半　　１４：２０～　１４：５５　用具を使っての運動プログラム

（１４：５５）　閉会行事

（１５：００）　終了

９　事務局　山口県障害者スポーツ協会　担当：檜原（携帯：090-8995-2969）

〒753-0072　山口市大手町９－６

TEL：（０８３）９０１－４０６５

FAX：（０８３）９０１－４０６４

E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp

http://syospo-yamaguchi.jp

平成２６年度障害者スポーツ教室（射撃）実施要項

１　目的　　視覚障害のある方々に、日常生活では経験するこのとのない射撃を体験してもらい、指導者・協力者と一丸となって的をねらう楽しさを共有することを目的とする。

２　主催　　山口県障害者射撃協会、一般社団法人山口県障害者スポーツ教室

３　協力　　山口県ライフル射撃協会、山口市ライフル射撃スポーツ協会

４　開催日時　　平成２６年１０月５日（日）　９：００～１４：４０

５　開催場所　　山口県立下関南総合支援学校　特別教室棟２階多目的室
（下関南総合支援学校・相愛フェスタ会場内）
〒７５１－０８２８下関市幡生町１丁目１－２２
ＴＥＬ：０８３―２３２－１４３１（代表）
ＦＡＸ：０８３―２３２－１４３２

４　開催日時　　平成２６年１０月５日（日）　９：００～１４：４０

５　参加対象　　視覚障害者及び障害者スポーツを体験してみたい方、障害者スポーツに興味のある方（障害の有無、年齢、障害者スポーツ指導員資格の有無は問わない。）

６　募集人数　　４０名

７ 指導者

氏名	住所	指導員資格
田中辰美	山口市平井 1264 重永アパート 2-207 号	中級指導員
木本吾一	宇部市上宇部 2572-6	なし
福本希代美	山口市平井 118-1　ｼｬｰﾒｿﾞﾝﾋﾗｲ B-205	公認審判員
吉賀一平	山口市小郡下郷 2790-17	公認審判員
山内裕貴	山口市中央 4 丁目 8-5	なし
中村祥子	山口市維新公園 5 丁目 3-11	なし

８　指導方法　　各指導者が射撃の基本の動作を参加者に実地指導する。
４射座を設け、ライフルおよびピストル射撃の指導を行う。

９　連絡先　　田中辰美（山口県障害者射撃協会）
メール：tatsumi_tanaka_39@yahoo.co.jp
電話：090-4105-8802

岩国総合支援学校スポーツ教室開催要項

１　目的

障害のある児童生徒が、生涯にわたってスポーツを愛好し親しむ態度を身につけるために、教職員を対象に車いすの操作の仕方、支援方法、車いすを使用した障害者スポーツの紹介を行い、今後教育活動に役立つことを目的に開催する。

２　主催

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３　協力

山口県障害者スポーツ指導者協議会　＜岩国地域＞

山口県立岩国総合支援学校

４　日時

平成２６年１２月１８日(木) １５：００～１７：００

５　会場

山口県立岩国総合支援学校　体育館

（〒747-0833　防府市大字浜方２０５－３　　TEL：０８３５－２２－６１０８）

６　参加者

山口県立岩国総合支援学校　教職員２６名

７　参加方法及び申込み等

（１）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意すること

（２）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。

８　日程及び主な内容

（１５：００）　担当者集合、最終確認、会場準備

（１５：３０）　開会行事

① あいさつ（　檜原　）

② 講師紹介

③ ウォーミングアップ（　檜原　）

（１５：４０）車いすを使用した障害者スポーツの体験教室

前半　　１５：４０～　１６：１５　車いすの操作と支援の方法

休憩　　１６：１５～　１６：２０

後半　　１６：２０～　１６：５０　車いすスラローム・バスケットの体験

①　クールダウン（檜原）

（１６：５５）　閉会行事

（１７：００）　解散

９　事務局

事務局　山口県障害者スポーツ協会　担当：檜原（携帯：090-8995-2969）

〒753-0072　山口市大手町９－６

TEL：（０８３）９０１－４０６５

FAX：（０８３）９０１－４０６４

E-mail:Webmaster@syospo-yamagichi.jp

http://syospo-yamaguchi.jp

Ｌｅｔ’ｓタンデム～風を感じながら走ろう！～in 維新公園２０１４(part１)

開催要項

１　目　　的　タンデムとは、前と後ろに２つハンドルのある二人乗り自転車です。タンデムという乗り物を体験するとともに、老若男女、障害があるなしに関わらず、公園を訪れた人々とふれあう機会を提供します。

２　日　　時　５月１０日(土)　９時３０分～１１時５０分

３　場　　所　維新百年記念公園　園内指定コース

４　内　　容　園内の指定されたコースをタンデムに乗って風を感じたり、草花の香りを感じたりして走ることの楽しさを味わう。

(1)受　付	9:30～	記念塔付近
(2)開会式	10:00～	記念塔
(3)開　始	10:20～	園内指定コース
(4)閉会式	11:30～(予定)	記念塔

５　主　　催　維新百年記念公園指定管理者一般財団法人山口県施設管理財団
社団法人日本競輪選手会山口支部
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

６　共　　催　公立大学法人山口県立大学タンデムサークル

７　協　　力　山口県自転車競技連盟

８　講　　師　社団法人日本競輪選手会山口支部

９　対 象 者
・障害のある方
・教室に参加する事に健康上の問題のない方
・障害者を対象としたタンデムに興味のある方

10　募集人員　１６名程度

11　参 加 費　無料

12　申し込み　別紙申込書に記入の上、下記住所へ平成２６年４月２５日(金)までに申し込みください。
（ＦＡＸ可）（申込書はホームページからもダウンロードできます。）
URL　http://www.syospo-yamaguchi.jp

13　注意事項
・参加者の傷害保険は主催者で加入します。
・ 参加者の集合場所、駐車場はテニスコート北側駐車場で、そこからは誘導係の指示に従って記念塔に移動し受付を行ってください。
・ 雨天の場合中止となり、参加者には県障害者スポーツ協会から連絡します。
・ 参加者は、動きやすい服装(ジャージ等)でご参加ください。持参物等は特にありません。

申込先　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会（担当：檜原　龍彦）
〒753-0072　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館４階
TEL　083-901-4065　FAX　083-901-4064
E-mail：webmaster@syospo-yamaguchi.jp
Hp　http://www.syospo-yamaguchi.jp

Ｌｅｔ’ｓタンデム～風をきって走ろう！～in維新公園２０１４(part２)

開催要項

1 目　　的　タンデムとは、前と後ろに２つハンドルのある二人乗り自転車です。タンデムという乗り物を体験するとともに、 風をきって走る爽快感を味わうことを目的とします。

2 日　　時　５月１０日(土) １３時００分～１５時３０分

3 場　　所　矢原河川公園近辺の自転車道（予定）

4 内　　容　実際に自転車ロードをタンデムに乗って走ることにより風をきる爽快感を味わいます。

(1)受　付	13:00 ～	維新公園アリーナ玄関前
(2)開会式	14:00 ～	矢原河川公園
(3)開　始	14:20 ～	自転車道
(4)閉会式	15:40 ～	矢原河川公園

5 主　　催　維新百年記念公園指定管理者一般財団法人山口県施設管理財団
社団法人日本競輪選手会山口支部
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

6 共　　催　公立大学法人 山口県立大学タンデムサークル
山口市身体障害者団体連合会

7 協　　力　山口県自転車競技連盟

8 講　　師　社団法人日本競輪選手会山口支部

9 対 象 者　山口市身体障害者団体連合会　（６名程度）

10 注意事項
・参加者の駐車場はテニスコート北側駐車場です。参加者はアリーナ玄関口で集合し、受付を行い、そののち係の誘導で開会式会場に移動します。
・雨天の場合中止となり、参加者には県障害者スポーツ協会から連絡します。
・参加者は、動きやすい服装(ジャージ等)でご参加ください。
持参物等は特にありません。

11 その他
・参加者の傷害保険は主催者で加入します。

申込先　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会（担当：檜原　龍彦）
〒753-0072　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館４階
TEL　083-901-4065　FAX　083-901-4064
E-mail：webmaster@syospo-yamaguchi.jp
Hp　http://www.syospo-yamaguchi.jp

平成２６年度障害者スポーツ教室開催事業

ヨット体験教室開催要項

１．目　的

障害のある人が広大な海の自然に親しめる場をつくり、ヨットを通じて海でのスポーツの楽しさを感じ、スポーツ活動の意欲を向上させるとともに、スポーツ人口の増加を図る。

２．主　催

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

３．協　力

山口県スポーツ交流村
一般社団法人山口県セーリング連盟
山口県障害者スポーツ指導者協議会

４．期　日

平成２６年８月２７日（水）　９：００　～　１２：００

＜日程（予定）＞

9:00～	受　付	
9:15～	開　会	（オリエンテーション）
9:30～	体　験	・ヨット（アクセスディンギー）体験 ・クルーザー体験
11:40～	閉　会	（解散）

５．場　所

山口県スポーツ交流村　　＜光市光井２－１９－２　　TEL　0833-71-1144＞

６．対象者

県内在住の障害者（１０歳以上）で、教室参加にあたって健康上支障のない者

７．定　員

１２名

定員を超えた場合には抽選とします。
参加の可否及び最終案内を申込者に８月１９日（火）までに連絡します。

８．参加費

無料　　但し、会場までの旅費、飲食代は各自負担願います。

９．参加申込方法

所定の申込用紙に必要事項を記入され、平成２６年８月８日（金）までに下記事務局へ送付ください。＝必着＝***＜ＦＡＸ可＞　（ホームページから様式をダウンロードできます）***

１０．参加上の注意

①　参加者の健康状態は、各自で十分注意して参加すること。
②　傷害保険に加入するが、教室中の事故等に対しては、主催者側で応急処置のみとし、その責任は負わない。
③　教室に必要な介護者（手話通訳等を含む）は、各自で対応をお願いします。

１１．事務局（申し込み先・お問合せ先）

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会
〒753-0072　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館内
TEL　083-901-4065　　FAX　083-901-4064　（担当：三枝啓巳〈さいぐさ　ひろみ〉）

「海の風をヨットで感じよう！！
みんなで、広大な海へでかけよう！！」

ヨット体験教室参加申込書

ふりがな		性別	生　年　月　日	年　齢
氏　　名		男 ・ 女	年　　月　　日生	歳
所属団体 施設学校等				
連　絡　先	住　　所	〒　　－		
	ＴＥＬ	（　　）　　－	ＦＡＸ	（　　）　　－

１５歳未満および知的障害者の者は、保護者の署名捺印のこと。

【障害名等】

□　身体障害　□　知的障害　□　精神障害　□　内部障害 （該当にチェック）		等　級	級
障　害　名	（手帳に記載されている内容をご記入ください）	身　長	ｃｍ
		体　重	ｋｇ

【日常使用している補助具等】　（該当にチェック）

歩行杖等	□　杖	□　松葉杖２本	□　クラッチ２本
	□　松葉杖１本	□　クラッチ１本	□　その他（　　）
車椅子	□　手駆動	□　足駆動	□　電動
介　　助	□　更衣に介助が必要	□　排泄に介助が必要	
	□　移動に介助が必要	□　ヨットの乗降に介助が必要	
	□　その他（　　）		

＝　誓　約　書　＝

本体験教室の参加にあたり、万一の事故についてその責任を本人及び保護者が負い、主催者に対してなんら迷惑をかけません。

氏　　名：　　印

保護者氏名：　　印

☆１５歳未満及び知的障害者の者は、保護者署名押印のこと。

※　*上記の個人情報は、本体験教室のみに使用します。*

第１２回山口県障害者交流ボッチャ大会開催要項

（平成２６年度）

1　目　　的

重度障害者向けスポーツ「ボッチャ」を通して、障害のある人とない人との交流を深めるとともに、競技人口の拡大と障害者スポーツの向上に寄与することを目的とする。

2　主　　催

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

3　後　　援

山口県　　山口県教育委員会　　山口市　　山口市教育委員会
一般社団法人山口県身体障害者団体連合会　　一般財団法人山口県知的障害者福祉協会
一般財団法人山口県手をつなぐ育成会　　山口県障害福祉サービス協議会
山口県身体障害者施設協議会　　山口県精神障害者福祉会連合会

4　協　　力

山口県障害者スポーツ指導者協議会

5　主　　管

山口県ボッチャ協会

6　実 施 場 所

維新百年記念公園　スポーツ文化センター　アリーナ
山口市維新公園４丁目１番１号　　TEL　083-922-2754

7　日　　時

平成２７年　２月　１５日（日）　　9:00　～　17:00　＜予定＞
受　付　　9:00　～　　開会式　　9:30　～　　競　技　　10:00　～

8　参 加 対 象

・　障害（身体・知的・精神）のある方
・　障害者を対象としたボッチャに興味、関心のある方

9　募集人員及びチーム編成　　（定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込みください）

レクボッチャ　　６４チーム　　：　選手自身で競技が出来る選手
※１団体５チームまでといたしますのでご協力をお願いします。
競技ボッチャ　　２０名　　：　肢体障害者に限りボッチャルールを理解している者
※　出場できない場合には、１月末日までに担当者へご連絡します。

10　参　加　費

レクボッチャ　　１，０００円／１チーム
競技ボッチャ　　５００円／１人
＜また、参加に係る経費（交通費等）は、参加者負担とします。＞

11　申 し 込 み

別紙申込書に必要事項を記入の上、平成２７年１月２３日（金）までに、下記事務局までお申込みください。〈FAX 可〉※FAX 送信後、電話で確認して下さい。　　（できるだけ早めにお申込みください。）
当協会ホームページ http://syospo-yamaguchi.jp からもダウンロードできます。

12　競 技 規 則

①　レクボッチャの部は、別紙「レクボッチャ競技規則」による。（別添のとおり）
②　競技ボッチャは、ボッチャ競技規則（BISFed（国際ボッチャ競技連盟）ルール 2013 日本語版）による。

13　競 技 方 法

①　レクボッチャの部は団体戦、競技ボッチャは個人戦とする。
②　レクボッチャの部は３人１組とし、障害者２名以上で編成する。
③　競技は、各ブロックのリーグ戦を行い、各ブロックの１位のチームが決勝トーナメントへ進出する。
（参加状況によっては、変更する場合がありますのでご了承ください。）

14　表　　彰

優勝、準優勝、３位に賞状及び記念品を贈る。（BC３選手の介助者に賞状を贈る）

15　そ　の　他

①　競技に必要な介護者（手話通訳等を含む）は、各自で対応をお願いします。
②　競技中の事故に対しては、主催者側で応急処置はするが、その責任は負わない。
③　昼食（弁当）は、各自でご用意ください。

事 務 局 （ 申 し 込 み 先 ）
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会（担当：大西真紀）
〒753-0072　　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館内
TEL　083-901-4065　　FAX　083-901-4064

平成２６年度　山口県障害者スポーツボランティア養成講習会開催要項

1. 目　　的
　障害者スポーツ活動を行う上で、障害者及び障害者スポーツを支えることのできるボランティアを養成することを目的とする。

2. 主　　催　　山口県　　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

3. 後　　援　　光市、光市教育委員会、光市社会福祉協議会、光市スポーツ推進委員協議会、周南市スポーツ推進委員協議会、下松市スポーツ推進協議会

4. 協　　力　　山口県障害者スポーツ指導者協議会

5. 開 催 日　平成２６年　７月　６日（日）　9:30　～　16:30

6. 開催場所
　山口県スポーツ交流村（光市光井２丁目１９－２）　　TEL　0833-71-1144

7. 募集定員　４０名程度

8. 参加資格　高校生以上

9. 講習内容　　午前　講義
　　午後　実技

日　　程　　表　　（都合により内容が変更する場合があります。）

時　　間	内　　容
9:30～ 9:50	受　　付
9:50～10:00	開　講　式
10:00～11:00	講　　義　「障害のある人々のスポーツ」　講師：登城文晴氏
11:10～12:10	講　　義　「ボランティアとホスピタリティ」講師：吉野信朗氏
12:10～13:00	昼食・休憩
13:00～16:00	実　　技　＊　障害者スポーツの体験（卓球バレー、風船バレー）
16:00～	閉　講　式

10. 参 加 費
　無　料　　＜但し、参加に係る経費（交通費等）は、参加者負担とします。＞

11. 申し込み
　別紙申込書に必要事項を記入の上、**平成２６年　６月２０日（金）まで**に、郵送又はＦＡＸで下記事務局までお申込みください。（できるだけ早めにお申込みください。）
（申込書はＨＰからダウンロードできます。）　URL　http://www.syospo-yamaguchi.jp

12. 参加上の注意
①　必ず運動のできる服装で参加すること。（体育館シューズを持参してください）
②　講習中の事故に対しては、主催者側で応急処置はするが、その責任は負わない。
③　参加者には全員、主催者にて傷害保険に加入します。

13. その他

①口 受講についての詳細は、**平成２６年　７月３　日（木）まで**にご案内します。
②　講習会を修了後、登録を承諾されますと、スポーツボランティア証明証を発行します。

事務局（申し込み先）
一般社団法人山口県障害者スポーツ協会　　（担当者：大西　真紀）
〒753-0072　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館内
TEL　083-901-4065　　FAX　083-901-4064
E-mail：webmaster@syospo-yamaguchi.jp

平成２６年度　山口県障害者スポーツボランティア養成講習会開催要項

1. 目　　的
　障害者スポーツ活動を行う上で、障害者及び障害者スポーツを支えることのできるボランティアを養成することを目的とする。

2. 主　　催　　山口県　　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

3. 後　　援　　山口市、山口市教育委員会、山口市社会福祉協議会、山口市スポーツ推進委員協議会、

4. 協　　力　　山口県障害者スポーツ指導者協議会

5. 開 催 日　平成２６年　７月　１３日（日）　9:30　～　16:30

6. 開催場所
　山口県身体障害者福祉センター（山口市八幡馬場３６－１）　　TEL　083-925-2345

7. 募集定員　４０名程度

8. 参加資格　高校生以上

9. 講習内容　　午前　講義
　　午後　実技
　日　　程　　表　　（都合により内容が変更する場合があります。）

時　　間	内　　容
9:30～ 9:50	受　　付
9:50～10:00	開　講　式
10:00～11:00	講　　義　「障害のある人々のスポーツ」　講師：登城　文晴氏
11:10～12:10	講　　義　「ボランティア活動を通して」　講師：山野井　隆氏
12:10～13:00	昼食・休憩
13:00～16:00	実　　技　＊　障害者スポーツの体験（卓球バレー、風船バレー）
16:00～	閉　講　式

10. 参 加 費
　無　料　　＜但し、参加に係る経費（交通費等）は、参加者負担とします。＞

11. 申し込み
　別紙申込書に必要事項を記入の上、**平成２６年　６月２７日（金）まで**に、郵送又はＦＡＸで下記事務局までお申込みください。（できるだけ早めにお申込みください。）
　（申込書はＨＰからダウンロードできます。）　URL　http://www.syospo-yamaguchi.jp

12. 参加上の注意
　①　必ず運動のできる服装で参加すること。（体育館シューズを持参してください）
　②　講習中の事故に対しては、主催者側で応急処置はするが、その責任は負わない。
　③　参加者には全員、主催者にて傷害保険に加入します。

13. その他

　①口受講についての詳細は、**平成２６年　７月１０　日（木）まで**にご案内します。
　②　講習会を修了後、登録を承諾されますと、スポーツボランティア証明証を発行します。

事務局（申し込み先）
　一般社団法人山口県障害者スポーツ協会　　（担当者：大西　真紀）
　〒753-0072　　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館内
　　TEL　083-901-4065　　FAX　083-901-4064
　　E-mail：webmaster@syospo-yamaguchi.jp

平成２６年度障害者スポーツ支援相談会開催要項

一般社団法人山口県障害者スポーツ協会

１　趣旨

全国障害者スポーツ大会等の競技力向上に係わる指導者等に対して、スポーツ医・科学サポートに関する情報や強化等に係わる指導事例等の情報共有を行うことにより、指導のヒントや課題解決に資するために相談会を実施する。

２　相談会の概要

- 強化に係わる事例発表（競技力向上のための工夫や生活指導等の事例発表）
- 強化に係わる情報提供（コンディショニングや栄養指導等に係わる情報提供）
- 選手や選手団への支援（山口県やスポーツ協会から）
- 質疑や協議
- その他（セルフチェックの活用や記入等）

３　日時　平成２７年2月２２日（日）１３時３０分から１６時３０分まで

４　場所　パルトピアやまぐち（防長青年館）２F 第一会議室

753-0064　山口市神田町１－８０　（TEL：０８３－９２３―６０８８）

５　日程（概要）

(1)　開会
(2)　事例発表
(3)　情報提供（Ⅰ）栄養指導やトレーニング・コンディショニング（テーピングの効用、生活リズム、基礎体力の向上等）の事例から
(4)　情報提供（Ⅱ）支援（練習環境、活動支援、相談等）の実際について
(5)　質疑、協議

６　参加予定者

(1)　全国障害者スポーツ大会及び県内の競技大会等で指導や支援に係わっているスタッフ
(2)　山口県障害者スポーツ協会の「障害者スポーツ医・科学サポート活用委員会」の各委員
(3)　障害者スポーツの個人競技及び団体競技の指導者や支援者
(4)　山口県障害者スポーツ協会「障害者スポーツ人材バンク」に登録している者
(5)　山口県障害者スポーツ協会会員（正社員）の所属者
(6)　障害者スポーツの指導に関心をもつ学校、施設、医療関係者等の職員
(7)　障害者スポーツ協会が参加を認めた者

７　相談会の具体的運営

(1)　競技力を高める事例発表（競技力向上のための工夫や生活指導等の事例から）
- 怪我防止を目指すウォーミングアップの事例から
- 「生活指導は競技力を高める」例から

(2)　競技力を高める情報提供(Ⅰ)（コンディショニングや栄養指導に係わる情報提供）
- 競技力向上を目指した食事指導（「スポーツ栄養士」さんから）
- （例）体幹筋の強化を目指すトレーニングについて（「コンディショニング」担当者から）

(3)　情報提供（Ⅱ）・・・選手や選手団への支援（山口県やスポーツ協会から）
- 山口県からの支援（委託や補助事業）（助成金等の申請に係わる情報）
- スポーツ協会からの支援（スポーツ環境づくり、活動支援、情報提供･相談）

(4)　質疑や協議

※　問合せ先：一般社団法人山口県障害者スポーツ協会（担当者：三枝啓巳）

TEL:083-901-4065　FAX:083-901-4064

E-mail:webmaster@syospo-yamaguchi.jp

○日程

1　13：30～　開会　①　障害者スポーツ協会副会長　　番屋元生　　様
　　②　医・科学サポート委員長　　河合伸也　　様

2　日程

	時　間	内容（テーマ）	支援者･情報提供者
1	13：40～14：00	情報提供１ 「（仮称）テーピングの用法について」	下関市立市民病院 リハビリテーション科 宮野清孝　　様
2	14：05～14：25	情報提供２ 「体づくりを支える栄養指導」	スポーツ栄養士 中村由佳里　様
3	14：30～14：50	情報提供３ 「競技力向上とメンタルトレーニング」	JPC 医科学サポートスタッフ 内田若希　　様
4	14：55～15：35	支援の実際１・２ 「個人や団体競技の支援から」 （陸上競技やバレーボール競技の例から）	中村美津男、梅田和平　様 濱口隼人、小田智佳　様
5	15：40～16：20	質疑	司会（医科学サポート委員長） 河合伸也　　様
		○事前アンケートの質問の中から	（参加者の中から質問を受ける） ●各委員から回答 ●スポーツ協会（三枝回答）
		･その他（情報提供） 「熱中症予防」について	●大塚製薬株式会社（長曽我部茂所長）から
	16：20～16：30	これからの課題について	

3　閉会

福岡県内における障害者スポーツ振興事業

◆ 大木町軽スポーツ教室事業

◆ 地域における指導者の派遣事業

◆ ジュニア選手発掘・育成事業（ラケットスポーツ等）

◆ 障害者スポーツ理解啓発事業
（スポーツフェスタ：車椅子ツインバスケ等）

福岡県障害者スポーツ協会

平成２６年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
実績報告書

Ⅰ はじめに

福岡県障害者スポーツ協会は、クローバープラザ（体育館・プール・グラウンド・アーチェリー場を完備）を拠点として、様々なスポーツ教室等を実施しています。

しかし、スポーツ環境を求めて遠方から通わなければならないなど、障がい者がそれぞれの地域で継続的にスポーツを楽しむ環境は十分とはいえない状況にあります。

そこで、身近な場所で気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりのため、本事業を実施し、「場づくり」・「人づくり」・「しくみづくり」に取り組み、それぞれの地域で障がい者が日常的にスポーツを楽しむことができることを目指します。

Ⅱ 事業の目的・ねらい

「場づくり」・「人づくり」・「しくみづくり」の取り組みとして、(1)認定校と連携した地域スポーツ教室事業の開催、(2)地域ニーズに沿ったスポーツ指導者の派遣、(3)ジュニア選手発掘・育成事業、(4)障がい者スポーツ理解啓発事業を地域組織と連携し、地域で気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを目的とします。

Ⅲ 実施概要・成果及び評価・今後の課題

(1) 認定校と連携した地域スポーツ教室事業の開催

事業名	大木町軽スポーツ教室
日　時	5/17・6/21・7/19・9/20・10/18・11/8・1/17・2/21 （土曜日 14 時～16 時　合計 8 回）
会　場	大木町総合体育館・木佐木小学校体育館
受講者	36 名（知的障害児・保護者）延べ 193 名
指導者	講師 5 名（中級 3 名・初級 2 名）延べ 14 名
補助員	国際医療福祉大学学生　30 名（中級 11 名・初級 19 名）延べ 47 名
連携組織	大木町社会福祉協議会、みすゞの会（保護者の会）、国際医療福祉大学

障がい者スポーツ指導者の活動・役割

講師としてプログラムの作成・実践を行い、補助員である国際医療福祉大学生への引き継ぎができるように実践終了後にミーティング行った。

成果及び評価

① 参加者の継続的な活動、認定校学生の実践の場となる。
② 認定校学生が主体的に実践することで、対象者を更に理解し、指導意欲に繋がった。
③ 次年度より自主的活動となる予定。

今後の課題

① 対象者に合った指導・実践が更にできるためのスキルアップ研修会の実施が必要。
② 認定校学生が継続的な指導へ繋ぐための後輩への引き継ぎ。
③ 更に地域の障がい児が参加するための情報提供・発信。

(2) 地域ニーズに沿ったスポーツ指導者の派遣

事業名	地域における指導者派遣事業
派遣日	5/10・6/26・8/1・8/8・8/20・8/24・11/1・12/6・1/25・2/11・2/18 （合計 11 回）
会　場	県内スポーツ施設及び特別支援学校等 10 会場
参加者	470 名
指導者	講師 11 名（スポーツコーチ 1 名、中級 5 名、初級 5 名）延べ 24 名
内容等	別紙 1 のとおり
連携組織	北九州市立大学（中級認定校)、春日市体育協会、福岡県立特別支援学校、 久留米市手をつなぐ育成会等 10 団体

障がい者スポーツ指導者の活動・役割

依頼団体のニーズに沿った指導者を派遣し障がい者スポーツの指導・紹介をすることにより、スポーツの楽しさを体感し、普及・振興に努めた。

成果及び評価

① 今回の派遣の中で、中級認定校である北九州市立大学との連携により、車いすソフトボールの大会へ子ども達を出場させることができ、新たな可能性・目標ができたことは大きな成果である。

② 体育協会での研修会において障がい者スポーツを発信することで、身近な地域でスポーツを楽しむ環境（サポート体制）づくりの機会となった。

今後の課題

① 様々なニーズに沿った指導者の派遣には、地域指導者の育成（種目別・障がい別等）が更に必要である。

② 依頼団体において年間行事として定着している事業は、予算化を促すことで地域指導者の自主的活動の場としていくことが必要である。

(3) ジュニア選手発掘・育成事業

事業名	ラケットスポーツ教室
日　時	10/25・11/8・11/16・11/22・11/29・12/13 （土または日 、10 時～12 時または 13 時～15 時　合計 6 回）
会　場	クローバープラザ、久留米市西田テニスコート
受講者	9 名（身体障害児）延べ 31 名
指導者	講師 4 名（スポーツコーチ 1 名・中級 1 名・初級 2 名）延べ 8 名
補助員	障がい者スポーツ指導員　7 名（中級 3 名・初級 4 名）延べ 22 名 ボランティア 9 名　延べ 22 名
連携組織	福岡県バドミントン協会、桜花台クラブ（総合型地域スポーツクラブ） 久留米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、 TEAM SHUTTLE-ONE（福岡県障害者スポーツ協会会員クラブ）

障がい者スポーツ指導者の活動・役割

講師及び補助員として、楽しみながらの指導と専門的指導を導入し、レベルアップ（パラリンピックに向けて）の意識へと繋げられるような指導及びサポートに努めた。

成果及び評価

① 専門的指導を受ける機会が少ない参加者にとって活動の場となる。

② 国際大会に出場している選手のサポートにより、目標意識が明確となり、継続意欲とレベルアップの意識に繋がることとなった。

③ 総合型地域スポーツクラブ桜花台クラブとの連携により、事業終了後も硬式テニスは継続活動となった。

今後の課題

① バドミントンにおいては、継続的に実践するための場づくり、指導者確保のためのコーディネイトが必要。

② 更に地域の障がい児が参加するための情報提供・発信。

(4)障がい者スポーツ理解啓発事業

事業名	障害者スポーツフェスタ 2014
日　時	平成 26 年 11 月 30 日（日）9 時 30 分時～16 時
会　場	福岡大学　第一記念会堂
参加者	64 名（認定校学生等）
指導者	審判員 4 名、実行委員等 8 名（上級 2 名・中級 3 名・初級 3 名）
補助員	ボランティア 30 名 福岡大学男子バスケットボール部 10 名・女子バスケットボール部 10 名 福岡県障害者スポーツ協会会員クラブ博多パトラッシュ 10 名
連携組織	福岡大学スポーツ科学部、福岡大学地域ネット推進センター、 福岡大学バスケットボール部、福岡県内認定校（４校)、 福岡県障害者スポーツ協会会員クラブ博多パトラッシュ

障がい者スポーツ指導者の活動・役割

実行委員として企画から準備、当日の運営を主体的に実践した。

成果及び評価

① 選手との交流機会が少ない学生にとって貴重な体験となり、車いすツインバスケットボールの楽しさ、車いす操作の難しさを体感することで障がい者スポーツの理解啓発に繋がった。

② 障がい者スポーツ指導者が企画から携わることにより、地域のリーダーとなるための貴重な経験の場となった。

今後の課題

① 体験・参加型で様々な障がい者スポーツを身近に感じ、学内のスポーツ施設を障がい者スポーツ活動の場となるよう連携することが必要。また在学中に障がい者スポーツのサポートが経験できるような「しくみづくり」を構築することが今後の課題である。

② 更に認定校の学生が参加するための情報提供・発信。

大木町軽スポーツ教室

国際医療福祉大学との連携

学生がプログラムを作成

学生との交流・参加者の楽しむ場

学生の指導経験の場

ラケットスポーツ教室

総合型地域スポーツクラブとの連携

アスリートを目指して

会員クラブ「TEAM SHUTTLE-ONE」との連携

個々にあった丁寧な指導

障害者スポーツフェスタ2014

認定校（福岡大学）との連携

車いすツインバスケの楽しさを体感

選手・学生が一丸となって

スポーツは笑顔になれることを体感

Ⅳ おわりに

平成26年度、「地域における障がい者スポーツの振興事業」で実施した大木町軽スポーツ教室、ラケットスポーツ教室、障害者スポーツフェスタにおいて、認定校及び総合型地域スポーツクラブとの連携が図られたことは大きな成果です。

なかでも大木町軽スポーツ教室では認定校の学生が、地域の障がい者スポーツ指導者のリーダーとして、企画から運営まで経験できたことは資質向上の機会となったと考えています。今後、地域の障がい者スポーツを担う指導者となることを期待したい。

また、今回、県内13校の認定校から4校（内中級3校、初級1校）と連携できたところですが、次年度にはより多くの認定校と事業を展開できるように努めていきたい。

最後に、本事業で支援・協働して頂いた皆様へ深く感謝申し上げるとともに、更に身近な地域で共にスポーツを楽しめるスポーツ環境を促進し、東京2020オリンピック・パラリンピック選手を福岡県から発掘することで、県民に夢と感動を与えられるよう取り組んでいきます。

Ⅴ 資料

1 大木町軽スポーツアンケート結果（スタッフ）
2 地域ニーズに沿ったスポーツ指導者の派遣実績（別紙１）
3 ジュニア選手発掘・育成事業「ラケットスポーツ教室」募集チラシ
4 障害者スポーツフェスタ2014報告書表紙・アンケート結果

（公財）日本障がい者スポーツ協会委託事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」

ジュニア選手発掘・育成事業「ラケットスポーツ教室」開催！

～ラケットスポーツにチャレンジしてみませんか！～

教室の内容（日程等）

日 程	時 間	会 場	実施種目
①10月25日（土）	10:00～12:00	クローバープラザ	バドミントン等
②11月 8日（土）	13:00～15:00	久留米市西田テニスコート	硬式テニス等
③11月16日（日）	10:00～12:00	クローバープラザ	バドミントン等
④11月22日（土）	13:00～15:00	久留米市西田テニスコート	硬式テニス等
⑤11月29日（土）	13:00～15:00	クローバープラザ	バドミントン等
⑥12月13日（土）	13:00～15:00	久留米市西田テニスコート	硬式テニス等

対象者 ： 小学生～大学生の身体障がい児・者 15名

参加費 ： 1,000円（傷害保険料等）

申込方法 ： 申込書及び健康チェック表に必要事項を記入し、下記までお申し込みください
（FAX可 送信確認をお願いいたします）

申込締切 ： **平成26年10月17日（金）**
※定員に満たない場合は、随時受け付けます

申込・連絡先 ： 福岡県障害者スポーツ協会（クローバープラザ受箱15号）
担当 染谷・山野
〒816-0804 春日市原町3丁目1-7
TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

主 催 ： 福岡県障害者スポーツ協会
共 催 ： 桜花台クラブ、久留米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
協 力 ： 久留米大学アダプテットスポーツチーム、FHSの会
TEAM SHUTTL-ONE（福岡県障害者スポーツ協会会員バドミントンクラブ）

障害者スポーツフェスタ2014

報　告　書

期日　2014年11/30（日）9：30～16：00

会場　福岡大学／第一記念会堂

内容　車椅子ツインバスケットボールの体験・交流試合
障害者との交流、情報交換　など

主　催　福岡県障害者スポーツ協会
共　催　福岡大学
運　営　障害者スポーツフェスタ2014実行委員会
協　力　福岡大学バスケットボール部
博多パトラッシュ（福岡県障害者スポーツ協会クラブ会員　車椅子ツインバスケットボールクラブ）

（公財）日本障がい者スポーツ協会 委託事業 「地域におけるスポーツ振興事業」

(2)地域ニーズに沿ったスポーツ指導者の派遣実績

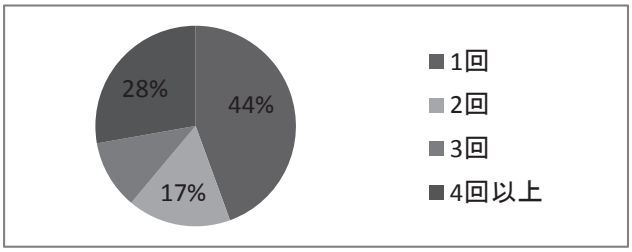
（別紙1）

NO	日時	曜日	派遣人数	参加者	行事名	内容	会場	依頼団体
1	平成26年5月10日	土	1	20	軽スポーツ教室	ストレッチ・ボッチャ・卓球バレー等	カミーリア多目的ホール	筑紫野市身体障害者福祉協会
2	平成26年6月26日	木	1	32	クローバープラザふれあい体験学習	車椅子バスケットボール体験等	クローバープラザ	福岡市立日佐中学校1年生
3	平成26年8月1日	金	3	33	スポーツレクリエーション	卓球バレー・ソフトボウリング	福岡県立太宰府特別支援学校	福岡県立太宰府特別支援学校
4	平成26年8月8日	金	1	80	障がいのある子とない子の地域交流事業「さんさんひろば」	室内レクリエーション	いきいきプラザ	春日市社会福祉協議会
5	平成26年8月20日	水	1	40	子どもスポーツ教室	車椅子バドミントン・車椅子バスケットボール	那珂川町町民体育館	那珂川町社会教育課
6	平成26年8月24日	日	2	36	サマースクール(障害児とその家族)	軽スポーツ	国立夜須高原青少年自然の家	久留米市手をつなぐ育成会
7	平成26年11月1日	土	2	20	軽スポーツ教室	ストレッチ・ボッチャ・卓球バレー等	カミーリア多目的ホール	筑紫野市身体障害者福祉協会
8	平成26年12月6日	土	2	20	2014福岡県障害者文化祭	車椅子バスケットボール・フライングディスク体験	イオンモール福岡	福岡県障害者社会参加促進センター
9	平成27年1月25日	日	3	120	春日市スポーツ研修会	車椅子バスケ・フライングディスク・卓球バレー・ボッチャ	春日市立スポーツセンター	春日市体育協会
10	平成27年2月11日	水	6	60	第2回北九州車椅子ソフトボール大会	車椅子ソフトボール	北九州市穴生ドーム	北九州市立大学
11	平成27年2月18日	水	2	9	競技力向上のためのスポーツ指導	県大会種目（50m走・スラローム・ビーンバック等）	福岡県立柳河特別支援学校	福岡県立柳河特別支援学校
	合計		24	470				

大木町軽スポーツ教室に関するアンケート（スタッフ用）　回答数18

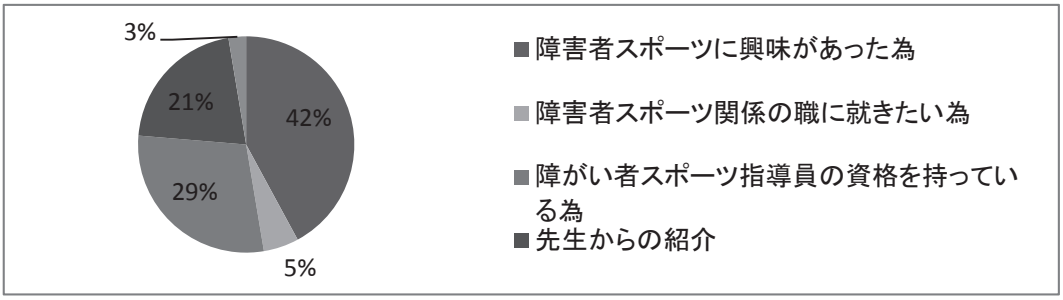
1　この教室に何回参加しましたか。

項目	回答数
1回	8
2回	3
3回	2
4回以上	5



2　教室に協力しようと思ったのはなぜですか。

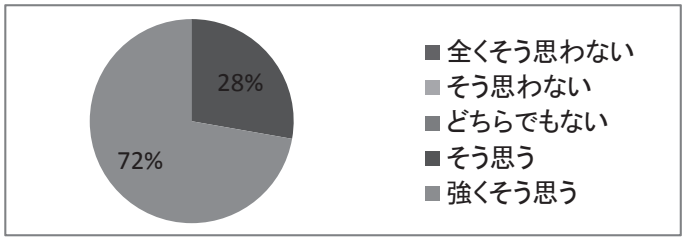
項目	回答数
障害者スポーツに興味があった為	16
障害者スポーツ関係の職に就きたい為	2
障がい者スポーツ指導員の資格を持っている為	11
先生からの紹介	8
その他（友人の紹介）	1



3　以下の文章を読んで、あたはまるものに〇をつけてください。

（1）指導で楽しいところはありましたか。

項目	回答数
全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらでもない	0
そう思う	5
強くそう思う	13



【理由】（抜粋）

（そう思う）

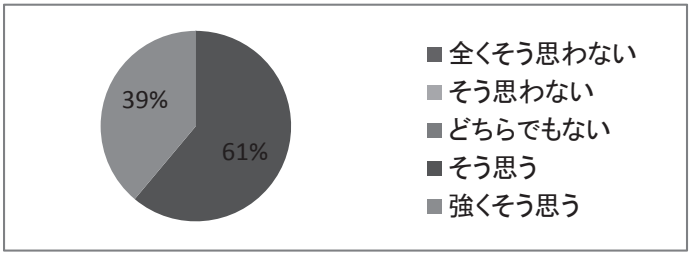
・子ども達の楽しんでいる姿を見られ、一緒にスポーツを楽しめた。（複数回答）

（強くそう思う）

・子どもたちと交流していく中で、一緒に楽しさを共有できたから。
・自分自身経験したことのないことで、感じたことが多かった為。楽しさがあった。
・子ども達が楽しそうに行い、一緒に楽しむことができる為。（複数回答）
・スポーツを通して、障害のある子ども達と触れ合え、逆に元気をもらった。
・子ども達が少しずつ心を開いてくれ、仲良くなれたことが嬉しかった。

（2）指導で難しいところはありましたか。

項目	回答数
全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらでもない	0
そう思う	11
強くそう思う	7



【理由】（抜粋）

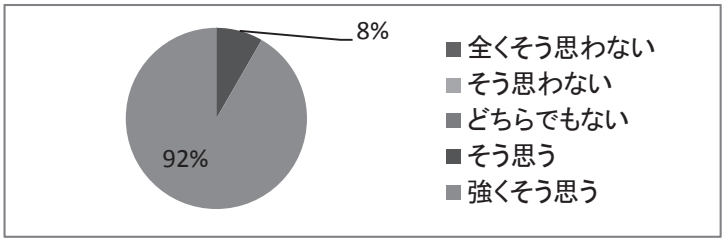
（そう思う）

・次のプログラムに移行するタイミングを見極めていくのが難しかったから。
・限られた時間の中で、どのように運営するか。また、いかに簡単な言葉で伝えるか苦戦した。

・一人一人、得意、不得意があって個人に合わせることが難しかった。
（強くそう思う）
・説明をわかりやすくしたり、自分の伝えたいことを伝える方法を考えることが難しかった。
・子どもの立場になって取組むのが難しかった。
・一人一人の性格や障害に合わせて、柔軟な対応がもとめられるところ。
・ルールの説明を行う時に、全員に伝わるようにすることが難しかった。

（3）今後も障害者スポーツのサポートをしたいと思いますか。

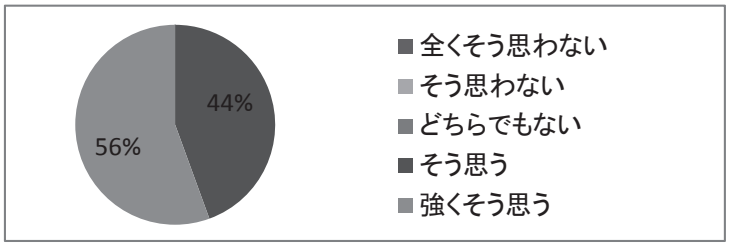
項目	回答数
全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらでもない	0
そう思う	1
強くそう思う	11



【理由】（抜粋）
（そう思う）
・子ども達と一緒に、自分も楽しめるから。（複数回答）
（強くそう思う）
・障害者スポーツを通して、人々の笑顔に触れ、また、自分自身も大きく成長できるから。
・今回の経験での反省点や、楽しかったことなども含めて、また参加してみたいと思えたから。
・できるだけ多くの人に楽しんでもらいたいので。（複数回答）
・自分の予想していたよりも、ずっとやりがいのあるものだったので。
・参加者一人一人の変化を感じていきたいと思う。

（4）今後も障がい者スポーツ指導員の資格を継続したいと思いますか。

項目	回答数
全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらでもない	0
そう思う	8
強くそう思う	10



【理由】（抜粋）
（そう思う）
・1度目の教室での改善点を、次こそは頑張りたい。
・東京パラリンピックがあることに加え、登録料が障害者スポーツの繁栄に繋がると考えている。
・将来に役立てると思う為。働きながらも機会があれば参加したい
・その人に合わせた工夫をして、障がい者スポーツを多くの人と楽しみたいから。
（強くそう思う）
・今後も資格を活かして、障害者スポーツや様々な大会に関わっていきたいから。（複数回答）
・障害者の方々の人生のサポートができることが素晴らしいことであると思う為。
・スポーツは苦手だが、スポーツを通して子ども達の色々な表情や、性格を知ることができた為。
・個人に適応したスポーツの在り方などを考えていけたらいいなと思う。

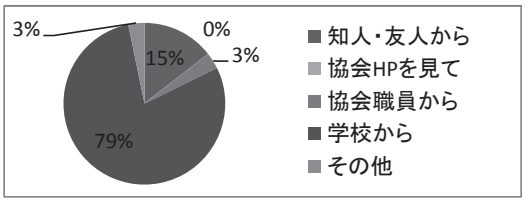
4　今後どういった教室にしていきたいと思いますか。（抜粋）
・参加者の方がもっと意欲的に来たいと思える教室にできるよう、プログラムを練り直したい。
・チーム戦のゲームを行って、コミュニケーションを多く活用していきたい。
・楽しく、色々なことにチャレンジできるような教室。全員が楽しめる教室。（複数回答）
・スポーツが苦手な人も得意な人も、たくさんの人が参加でき、交流ができる教室。
・参加者も、サポートする側も楽しんで指導に参加できるような教室。
・たくさんの種類のスポーツができるような教室。競技性を高められる教室。
・子ども達の個性が生かせるといいと思う。保護者の方も一緒に楽しめるようにしたい。

5　その他、教室についてのご意見等ありましたらお書きください。（抜粋）
・今後も毎年継続してほしい。場所や日程がわからない為、スケジュールがほしい。
・もっと全員が楽しんで参加できるようにしたい。人見知りの人も多いので。

障害者スポーツフェスタ2014に関する参加者アンケート（回答者数62名）

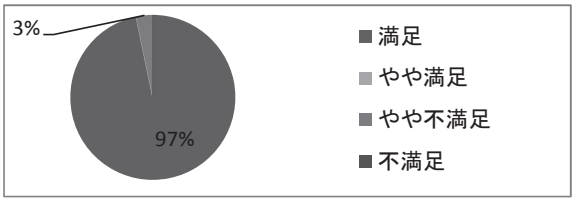
1　このフェスタを何で知りましたか。

項　目	回答数
知人・友人から	9
協会HPを見て	0
協会職員から	2
学校から	49
その他	2



2　フェスタの内容全般について、ご満足いただけましたか。（4択）

項　目	回答数
満足	60
やや満足	0
やや不満足	2
不満足	0

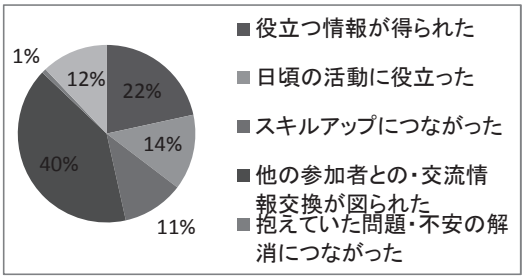


（満足の理由）
- 車椅子バスケがこんなに楽しいものだと思っていなかったので、凄く良い経験になりました。
- 実際に車椅子を体験することで、難しさや楽しさなどを味わうことができたから。
- 車椅子の難しさを知って、それを楽しむと考えれるようになった。
- 普段経験できないことを肌で感じとることができた。
- バスケットの新しい楽しさを知ることができた。

（やや不満足の理由）
- できなかったから。・怪我していたため。

3　参加して、どのような点が良かったですか。（複数回答可）

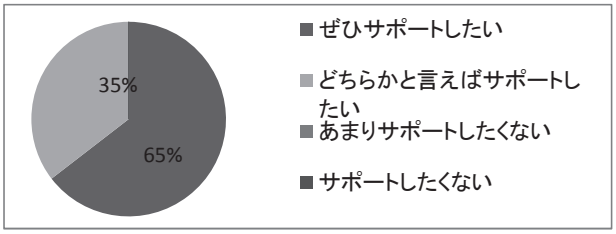
項　目	回答数
役立つ情報が得られた	25
日頃の活動に役立った	16
スキルアップにつながった	13
他の参加者との・交流情報交換が図られた	47
抱えていた問題・不安の解消につながった	1
その他	14



- 障害者スポーツに興味を持つことができました。今後もこういった活動に参加したいと思いました。
- 普段しているバスケットとはちょっと違ったけど、車椅子の使い方やコツ、また、回りとのコミュニケーションがよく取れたのでよかったと思う。
- どんな型であっても、スポーツは笑顔になれること。
- 博多パトラッシュの方と交流できた。
- 知るということだけでなく、実際に活動できることはとても貴重な体験でした。

4　今後、障害者スポーツのサポートをしたいと思いますか。（4択）

項　目	回答数
ぜひサポートしたい	40
どちらかと言えばサポートしたい	22
あまりサポートしたくない	0
サポートしたくない	0



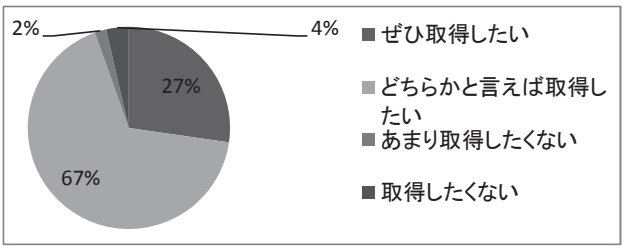
- サポートするというよりも、たくさんのことを自分が学びたいと思った。
- 人の役に立ちたいと思ったから。
- 今日の活動が刺激になった。
- 今日やってみて、大変なことだし、色々なサポートは必要不可欠だと思った。
- 障害のある方も、ない方も、一緒になって楽しむことができるスポーツにとても興味がわいたから。

5　障がい者スポーツ指導員の資格について。

①現在、資格未取得者の方へ

今後、障がい者スポーツ指導員の資格を取得したいと思いますか。（4択）

項　目	回答数
ぜひ取得したい	15
どちらかと言えば取得したい	37
あまり取得したくない	1
取得したくない	2



（ぜひ取得したい理由）

・スポーツを通して、障害を持っている方と楽しくやっていきたいと思ったから。
・もっとこういったスポーツを他の人に知ってもらいたいから。
・障害者スポーツについてあまり知らなかったので、今回のフェスタで多くの事を知り、もっと知りたいと思った。
・今日の体験でそう思った。
・スポーツの素晴らしさを教えられるようにしたいです。

（どちらかと言えば取得したい理由）

・ぜひ取得したいところですが、今はやりたいことがあるので、時間に余裕ができたら取得したい。
・いい経験になるから。
・今後の日本の社会においてアダプテッドスポーツは大切だと思うから。
・人の役に立てるとてもいい資格なので、機会があれば取得してみたい。
・何らかの形で、障害者スポーツと関わりたい。

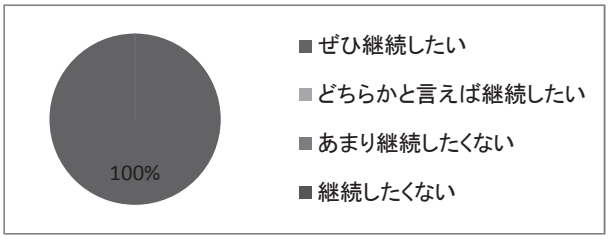
（取得したくない理由）

・年齢的に　・自分にはあまり向いていないと思うので。

②現在、資格取得者の方へ

今後、障がい者スポーツ指導員の資格を継続したいと思いますか。（4択）

項　目	回答数
ぜひ継続したい	7
どちらかと言えば継続したい	0
あまり継続したくない	0
継続したくない	0



（ぜひ継続したい理由）

・今回の大会が楽しかったので、また参加したり、自分が運営に回ったりしてみたいから。
・楽しいし、自分のスキルアップにつながるので。
・東京パラリンピックにスタッフとして参加したいと思っているから。
・障害者スポーツの魅力はたくさんあり、これらの活動を通して、さらに障害者スポーツの普及に貢献したいと思ったから。

6　何かあればご自由にお書きください。

・すごく良い体験ができました。ありがとうございました。自分の身近に身体障害者の方がいないので本当に貴重な経験になりました。
・今日はとても楽しい時間を過ごすことができました。実際に体験してみて分かったことなどもあったので、今後バスケット以外もしてみたいです。本当にありがとうございました。すごく貴重な体験ができた。
・また来年もやりたいと思った。
・今日一日を通し、本当に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。バスケットボールを普段と違った角度から見ることができました。
・参加者が今後、色んな形で実践をできればと思う。

大分県における障害者スポーツの振興事業

- ◆ 大分県内における
  障がい者スポーツ体験会開催のための指導員派遣
- ◆ 各小中学校におけるスポーツ体験会

大分県障がい者体育協会

平成２６年度地域における障がい者スポーツの振興事業活動報告
「大分県における障がい者スポーツの振興事業」

１．はじめに

本県においては、大分県障がい者スポーツ大会や大分国際車いすマラソン大会、知的障がい児・者を対象にした大分県ゆうあいスポーツ大会などの各種障がい者スポーツ大会を開催するとともに、全国障害者スポーツ大会への選手団派遣や障がい者スポーツ団体への助成を行うなど、障がい者スポーツの振興に力を入れてきた。

平成２０年に本県にて開催された第８回全国障害者スポーツ大会（チャレンジ！おおいた大会）を契機として、障がい者がスポーツ環境も大きく改善され、県内においても新しく設立した団体も加わり、２１団体もの障がい者スポーツ団体が活動を行っている。

また、それに伴い障害者スポーツ指導員の数も増加してきた。障害者スポーツ指導員の登録割合は全国的にも多いが、各地域において障がい者スポーツの普及状況には地域間格差があり、障害者スポーツ指導員の活動の状況も偏っていることが現状である。要因としては、派遣指導者や各地域における障がい者スポーツ大会の固定化があげられる。

これらの現状を改善するためには、障がいの有無に関わらず、誰もがそれぞれの個性やニーズに応じた活動を楽しめるようなスポーツ・レクリエーションを県内全域にわたって開催することにより、障がい者スポーツの振興を図っていく取り組みが必要である。

２．事業の目的・ねらい

本事業では、地域参加型のイベントの開催を通じて、障がい児者・地域住民との交流を行い、障がい者スポーツの振興を図ることを目的とする。また、各小中学校での障がい者スポーツの講演・体験会を開催することにより、ジュニア層においても障がい者スポーツの理解を深めていく。

３．実施概要

（１）大分県内における障がい者スポーツ体験会の開催のための指導員派遣

事業内容：総合型地域スポーツクラブ、特別支援学校、障がい児者施設等に障害者スポーツ指導員を派遣し、障がい者スポーツの体験・大会を実施する。また、総合型地域スポーツクラブにおいては、アンケート希望調査を行う。

日　　程：平成２６年４月～平成２７年３月（年３０回実施）

場　　所：各地域の体育館・施設等

参 加 者：５０名程度（誰でも参加可能）

スタッフ：障害者スポーツ指導員５名程度、ボランティア３名程度、事務局１名

※参加人数に応じて、派遣人数は異なる。

①「大分県内における障がい者スポーツ体験会開催のための指導員派遣」

	日付	場所	対象者	対象人数	競技	指導者協議会以外の連携団体	派遣人数
1	5/3	日田支援学校	障がい者(身・知) 地域住民	30	卓球バレー	大分県教育委員会	5
2	5/4	太陽の家サンスポーツセンター	障がい者(身・知) 地域住民	40	ボッチャ	大分県教育委員会	5
3	5/10	大分県立総合体育館	地域住民	41	卓球バレー ボッチャ	大分県教育委員会	5
4	5/11	中津体育センター	障がい者(身・知) 地域住民	49	卓球バレー	大分県教育委員会	5
5	5/15	九重文化センター	障がい者(身)	20	フライングディスク 卓球バレー		1
6	5/17	大原総合体育館	障がい者(身・知) 地域住民	22	卓球バレー	大分県教育委員会	5
7	5/31	佐伯市野岡体育館	障がい者(身・知) 地域住民	25	ボッチャ	大分県教育委員会	5
8	6/25	大分市樋の木会館	高齢者 障がい者(身)	67	ボッチャ	高齢者サロン	3
9	7/24	日田支援学校プレイルーム	障がい児	11	卓球バレー	日田市社会福祉協議会	1
10	7/27	大分県身体障害者福祉センター	障がい児・者(身・知) 保護者	36	卓球バレー ボッチャ	大分県肢体不自由児・者父母の会連合会	4
11	7/29	日田支援学校プレイルーム	障がい児	14	ボッチャ	日田市社会福祉協議会	1
12	7/31	佐伯支援学校	障がい児	13	卓球バレー 水泳	大分県障がい者水泳連盟 NPO法人虹の翼	4
13	8/6	佐伯支援学校	障がい児	10	ボッチャ 水泳	大分県障がい者水泳連盟 NPO法人虹の翼	4
14	8/7	中津市教育福祉センター	障がい児 保護者	8	卓球バレー	中津市社会福祉協議会	2
15	8/22	日田支援学校プレイルーム	障がい児	10	卓球バレー	日田市社会福祉協議会	1
16	8/25	佐伯支援学校	障がい児	15	フライングディスク 水泳	大分県障がい者水泳連盟 NPO法人虹の翼	3
17	8/26	中津市教育福祉センター	障がい児 保護者	12	フライングディスク 卓球バレー	中津市社会福祉協議会	3
18	8/31	日出町保健福祉センター	地域住民	55	陸上競技	日出町社会福祉協議会	1
19	10/26	別府市身体障害者福祉センター	障がい者(身・知)	44	フライングディスク 卓球バレー ボッチャ	別府市身体障害者福祉団体協議会	2
20	11/15	佐伯市総合体育館	障がい者(身・知・精)	34	フライングディスク 卓球バレー ボッチャ	佐伯市教育委員会 総合型地域スポーツクラブ	7
21	11/22	中津市老人憩いの家	高齢者	40	卓球バレー	高齢者サロン	1
22	11/28	大分県立中津支援学校	障がい児(小中高)	75	フライングディスク 卓球バレー ボッチャ		12
23	1/23	日田支援学校	障がい児(小中高)	54	陸上競技 (車椅子選手)	大分身体障害者陸上競技協会	2
24	2/1	大分県身体障害者福祉センター	障がい児・者(身・知)	36	ふうせんバレー 卓球バレー	大分県肢体不自由児・者父母の会連合会	2
25	2/8	中津市教育福祉センター	障がい児	18	フライングディスク 卓球バレー	中津市社会福祉協議会	7
26	2/13	大分市立寒田小学校	障がい児 保護者	70	卓球バレー ボッチャ ラダーゲッター	大分県レクリエーション協会 総合型地域スポーツクラブ	10
27	2/17	太陽の家サンスポーツセンター	高校2年生	50	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟	6
28	2/23	城井公民館	障がい者(知)	30	卓球バレー		2
29	2/24	城井公民館	障がい者(知)	30	ボッチャ		2
30	3/3	もみじ園	障がい者(知)、小学生	50	ボッチャ		2
			計	1009名			113名

（２）各小中学校におけるスポーツ体験会

事業内容：県内小中学校を対象に障がい者スポーツの歴史やルールについて講演・体験会を行い、障がいや障がい者スポーツに関する理解を深めていく。事業開始前に県内小中学校に障がい者スポーツ体験会の実施希望調査を実施した。

日　　程：平成２６年４月～平成２７年３月（年３４回実施）

場　　所：県内の各小中学校

参 加 者：５０名程度（小中学生を対象）

スタッフ：講師１名、障害者スポーツ指導員２名程度、ボランティア２名程度、事務局１名　　※参加人数に応じて、派遣人数は異なる。

②「各小中学校におけるスポーツ体験会」

	日付	場所	対象者 学年	対象 人数	競技	指導者協議会以外の連携団体	派遣 人数
1	6/8	佐伯市立上入津小学校	全校	47	陸上競技（車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	2
2	6/13	大分市立大在小学校	6年生	137	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	3
3	6/25	大分市立長浜小学校	5･6年生	75	フライングディスク ボッチャ	大分市社会福祉協議会	2
4	6/27	大分市立野津原西部小学校	全校	14	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
5	7/2	杵築市立北杵築小学校	6年生	40	車椅子バスケットボール	日出町社会福祉協議会	5
6	7/6	中津市立今津中学校	全校	109	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	3
7	7/11	津久見市立千怒小学校	6年生	33	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟 津久見市社会福祉協議会	8
8	7/11	臼杵市立北中学校	3年生	71	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟	7
9	7/15	臼杵市立東中学校	全校	179	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟	6
10	8/20	日出町立日出小学校	小学4年～ 中学3年生	21	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟 日出町社会福祉協議会	9
11	9/4	大分市立大道小学校	5年生	73	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	3
12	9/11	大分市立王子中学校	3年生	174	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟 大分市社会福祉協議会	7
13	9/12	佐伯市立大入島中学校	全校	3	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
14	9/18	佐伯市立鶴見中学校	全校	21	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
15	9/25	豊後大野市立清川小学校	5･6年生	35	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	2
16	9/29	日出町立日出小学校	6年生	51	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	2
17	10/1	由布市立塚原小学校	全校	24	フライングディスク ボッチャ		2
18	10/3	大分市立野津原東部小学校	3年～ 4年生	51	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	2
19	10/16	宇佐市立和間小学校	全校	77	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	3
20	10/28	大分市立南大分小学校	5年生	114	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	4
21	10/18	日出町立大神小学校	6年生	42	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟 日出町社会福祉協議会	5
22	11/20	大分市立大道小学校	5年生	73	卓球バレー ボッチャ	大分市社会福祉協議会	4
23	11/20	由布市立谷小学校	6年生	10	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
24	11/26	別府市立緑丘小学校	4年生	40	ボッチャ ふうせんバレー		2
25	11/27	大分市立下郡小学校	6年生	136	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟	6
26	12/1	大分市立神崎小学校	全校	45	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	2
27	12/2	別府市立石垣小学校	5年生	87	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	2
28	12/4	竹田市立菅生小学校	全校	31	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
29	12/5	豊後高田市立臼野小学校	全校	14	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟	2
30	12/5	大分市立城南中学校	全校	378	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
31	12/8	大分市立竹中中学校 二豊学園分校	小学6年～ 中学3年生	22	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
32	12/17	日出町立大神小学校	4年生	48	ボッチャ 卓球バレー	日出町社会福祉協議会	3
33	1/14	由布市立塚原小学校	全学年	25	陸上競技 （車椅子選手）	大分身体障害者陸上競技協会	1
34	1/27	大分大学教育福祉科学部 附属中学校	中学2年生	160	車椅子バスケットボール	大分県車椅子バスケットボール連盟	6
				2460名			110名

４．成果および評価

県内中部エリアに関しては、大分県障害者スポーツ指導者協議会（別府市）や当協会（大分市）が所在していることもあり、比較的障がい者スポーツに関する取り組みが他エリアと比較して活発に行われてきている。県内各地においても体験会の開催文書等の広報活動を行い、体験会の参加を募ることで、中部エリア以外においても障がい者スポーツ活動の活性化に繋げることができた。また、当協会のホームページ上で随時体験会等での状況を情報発信していったことも効果が大きかった。

【県内におけるエリア別障がい者スポーツ講演・体験会回数】

北部東部エリア　・・・１８箇所

（国東市 姫島村 豊後高田市 杵築市 日出町 宇佐市 中津市）

中部エリア・・・２９箇所

（別府市 由布市 大分市 臼杵市 津久見市）

西部エリア　・・・６箇所

（日田市 玖珠町 九重町）

県南豊肥 エリア・・・１１箇所

（佐伯市 豊後大野市 竹田市）

（１）大分県内における障がい者スポーツ体験会開催のための指導員派遣

県内各地にて計３０回障がい者スポーツ体験会を実施した。今回課題となっていた地域において楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及・振興活動においては、ユニバーサルスポーツに焦点を絞り、障がいの有無に関係なく、地域で取り組めるよう調整を行った。教育委員会、社会福祉協議会、福祉関係者、障がい者スポーツ関係団体等との連携体制の強化にも繋がり、今後の障がい者スポーツの振興にあたっての基盤づくりとして効果が大きかった。

事業を実施した中で、支援学校を対象に体験会を開催したことはとても成果として大きなものとなった。会場を支援学校とすることにより、対象となる参加者も多く集まり、障がい者スポーツを初めて行うきっかけ作りにもなった。

また、総合型地域スポーツクラブを対象に障がい者スポーツに関するアンケート調査を実施したことで各地域の障がい者スポーツに関しての実情を確認することができた。

～総合型地域スポーツクラブ　アンケート結果～

調査時点：平成２６年７月３１日現在

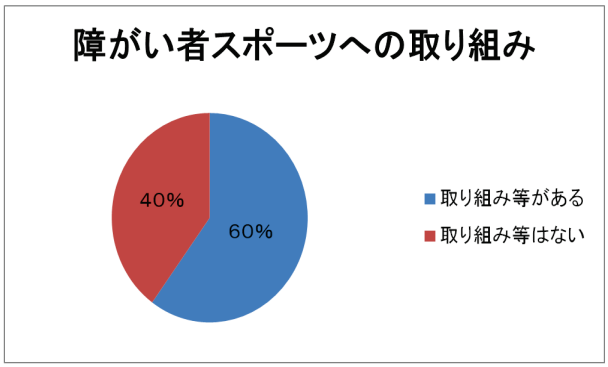
回答数：県内の総合型地域スポーツクラブ　２０クラブ／４３クラブ

調査概要：本調査は、県内の総合型地域スポーツクラブに係る障がい者スポーツの実態を把握し、今後の取り組みを効果的に行うために実施。

回収率：全体：４６．５％

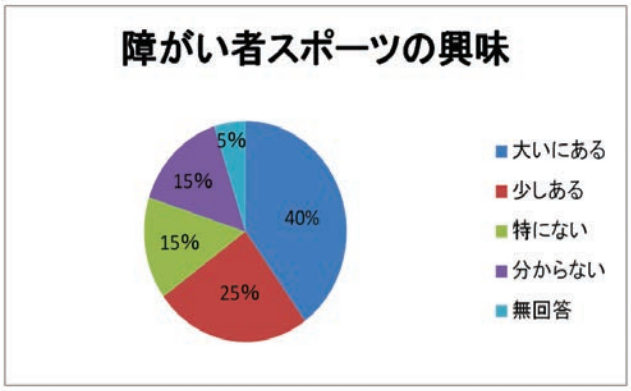
1. 障がい者スポーツの取り組みや
障がいのある方との交流の有無
（過去の取り組み、交流も含む）

取り組み等がある	12 クラブ
取り組み等はない	8 クラブ



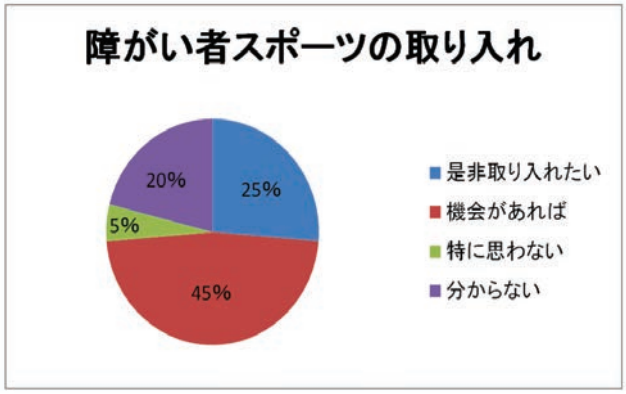
2. 障がい者スポーツの実施について
（1）障がい者スポーツへの興味

大いにある	8 クラブ
少しある	5 クラブ
特にない	3 クラブ
分からない	3 クラブ
無回答	1 クラブ



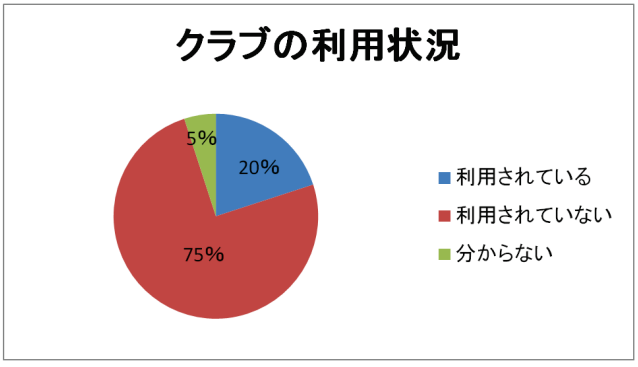
（2）障がい者スポーツの取り入れ

是非取り入れたい	5 クラブ
機会があれば	9 クラブ
特に思わない	1 クラブ
分からない	4 クラブ



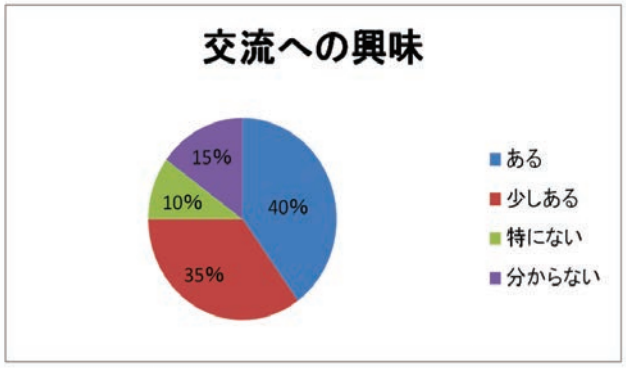
3. 障がいのある方のクラブ利用について
（1）クラブの利用状況

利用されている	4 クラブ
利用されていない	15 クラブ
分からない	1 クラブ



（2）交流への興味

ある	8 クラブ
少しある	7 クラブ
特にない	2 クラブ
分からない	3 クラブ



（２）各小中学校におけるスポーツ体験会

年度当初に県内各小中学校を対象に障がい者スポーツ体験会の実施案内文を送付し、希望を募った。その結果、県内３４校を対象に障がい者スポーツの講話・体験会を開催することができた。今回、県内全域を対象にしたことによって、各地で障がい者スポーツを知ってもらえる場を設けることができた。

また体験会の中で、障がい者スポーツのアスリートから障がい者スポーツを始めたきっかけを話してもらったり、各競技のルール説明等を行ったことにより、参加生徒からも障がい者スポーツが身近なものに感じられたという感想を多く聞くことができ、普及活動として効果が大きかった。

５．今後の課題

（１）大分県内における障がい者スポーツ体験会開催のための指導員派遣

県内の総合型地域スポーツクラブで行なわれている障がい者スポーツの実態を調査した中で、障がい者が参加しているクラブは２割と少ないことと、７割においては機会があれば障がい者スポーツを取り入れていきたいとの結果であった。今回、総合型地域スポーツクラブを対象としたイベントにおいては、各クラブの予定が決まっていたこともあり２回のみの実施となった。実際に取り入れていきたいといったクラブの多くは、場所・道具の手配等の問題が多いようであった。

今後は、アンケート結果を基に実際に取り入れていきたいというクラブや新たに設立するクラブを対象に障がい者スポーツを取り入れていける交流機会の促進を目指していく必要性が感じられた。また体験会を開催した中で障がい者スポーツに興味を持った方が地域で活動できるように、各障がい者スポーツ団体との調整もあわせて行っていく必要がある。

（２）各小中学校におけるスポーツ体験会

事業実施にあたり学校側と日程・要望等を調整しながら進めた中、調整段階でいくつか課題があげられた。指導員の多くは、仕事の傍らで活動を行っていることもあり、急な変更等が生じた場合での情報共有が難しい場面があった。

今後は、早い段階での派遣調整や各関係機関（障がい者スポーツ指導者協議会、社会福祉協議会、各障がい者スポーツ団体等）との連携をより一層強めていくことが必要になってくる。また派遣指導員が固定化している傾向にあるため、各地にキーパーソンとなる指導員の育成や各地域での活動組織づくりが必要である。

６．おわりに

本事業においては、主にユニバーサルスポーツの普及活動に力を入れて実施してきた。その中で、初めて行う競技に興味を持つ方も多く、県内においての障がい者スポーツに対する認知度を高めることができた。しかし、今回実施できたのは６４箇所であり、県内全域に普及啓発していくためには、普及状況について必ずしも十分ではなく、継続して活動を行う必要がある。今後は、特に特別支援学校等を対象にユニバーサルスポーツの普及活動と、興味を持ったスポーツを継続的に取り組んでいける環境づくりが必要になってくると感じた。

①「大分県内における障がい者スポーツ体験会開催のための指導員派遣」事業の様子

【フライングディスク】

佐伯支援学校（アキュラシー）

中津支援学校（アキュラシー）

佐伯市総合体育館（ディスクゴルフ）

【陸上：車いす競技】

日出町保健福祉センター
（日出町車いす陸上講演会）

日出町保健福祉センター
（日出町車いす陸上体験会）

【ボッチャ】

大分市樋の木会館

大分県立総合体育館

佐伯市総合体育館

中津支援学校

【水泳】

佐伯支援学校①

佐伯支援学校②

【卓球バレー】

大分県立総合体育館

佐伯市総合体育館

中津体育センター

中津市教育福祉センター

②「各小中学校におけるスポーツ体験会」の様子

【ふうせんバレー】

別府市立緑丘小学校

【フライングディスク】

由布市立塚原小学校

【ボッチャ】

日出町立大神小学校

由布市立塚原小学校

【車椅子バスケットボール】

大分市立王子中学校

臼杵市立東中学校

日出町立日出小学校

杵築市立北杵築小学校

【卓球バレー】

日出町立大神小学校

大分市立大道小学校

【陸上：車いす競技】

日出町立日出小学校

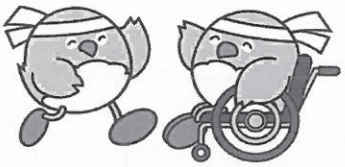
宇佐市立和間小学校

大分市立城南中学校講演会

竹田市立菅生小学校

やってみよう！

障がい者スポーツ

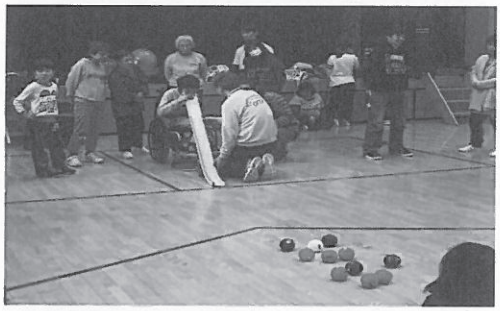


障がい者スポーツとは？

・特定の障がいのある人のために創られたスポーツ。
・障がいのない人が行っているスポーツを、障がいのある人も行えるようにアレンジしたもの。
・障がいのない人と同じ条件で行うことができるスポーツ。

ボッチャ

・ヨーロッパで生まれた重度の旺盛麻痺車等を対象としたパラリンピック正式種目です。個人戦と団体戦（2対2、3対3）があります。
・ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。
・ボールが軽く、室内でも遊べます。



卓球バレー

・卓球台を使い、専用ネットを挟んで、1チーム6人ずつが、椅子に座ってピン球を転がし、相手コートへ3打以内で返す、というルールです。
・障がいの重い人でも軽い人でも気軽に取り組めるスポーツです。
・広くない場所でも気軽にできる団体競技です。

こうした、「誰もが簡単に楽しくできるスポーツ」のことを総称して「ユニバーサルスポーツ」と呼んでいます。

フライングディスク

・アキュラシー（5m・7m離れたゴールに10投中何投通過したかを競います。）ディスタンス（3投中、最も遠くに飛んだ距離を競います。）が全国障害者スポーツ大会の正式競技となっています。
・すべての障がい者が同じ条件で競技する唯一の競技です。

ふうせんバレー

・バドミントンコートを使用し、ネットで分けられたコートにそれぞれ1チーム6名ずつ入り、ネット越しに両チームがふうせんを打ち合うスポーツです。チーム全員がボールに触れた後、相手コートに返さなければいけません。

車椅子バスケットボール

・車椅子で行うバスケットボールです。ルールは一般のバスケットボールに準じていますが（コートの広さやリングの高さ）、車椅子の特性を考慮し、ボールを保持した状態で2プッシュまで車椅子をこぐことが認められている。ダブルドリブルは適用されない。

・・・まずは、1回、やってみませんか？

地域のみんなが楽しく取り組める、
簡単なスポーツを紹介します！！

専門の指導員（公認障害者スポーツ指導員）が、
優しく・楽しく・丁寧に指導します！！

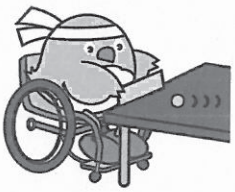
指導員の派遣費用は、原則、県障がい者体育協会が
負担します！！

「興味ある」「やってみたい」と思われた方、ぜひこちらへお電話を♪

（「ユニバーサルスポーツ」に関するお問い合わせ先）

大分県障がい者体育協会
電話：097-533-6006　FAX：097-506-1740

参考ホームページ「みっけ！障がい者スポーツの広場おおいた」
http://www.oita-syotaikyo.org/jinzai/index.html



～障がい者スポーツについて～

・ボッチャ

「ボッチャ」は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。 ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ６球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障がいによりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくBC1～BC4 のクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦（2 対 2 のペア戦と 3 対 3 のチーム戦）があります。

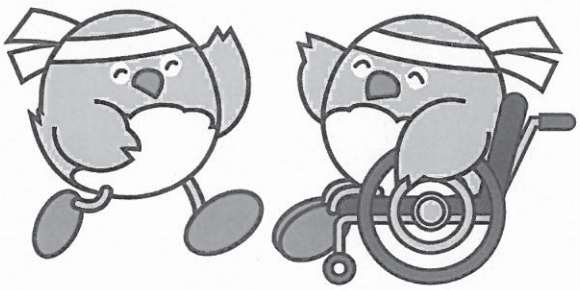
・卓球バレー

「卓球バレー」とは，卓球台を使い，専用ネットを挟んで，１チーム６人ずつが，いすに座ってピン球を転がし，相手コートへ３打以内で返す，というゲームです。ルールは，６人制バレーボールのルールを元に，考案されています。

障がいの重い人も軽い人も，視覚・聴覚・肢体・知的の障がいのある人も，障がいのない人とも，誰でも簡単にできますが，慣れてくるとボールのスピードも速くなり，白熱した試合が見受けられます。広くない場所でも気軽にできる団体競技です。

・フライングディスク

「フライングディスク」とはプラスチック製の円盤状のディスクのことで、一般にフリスビーという名称でも呼ばれています。現在、全国障害者スポーツ大会の正式競技になっており、すべての障がい者が同じ条件で競技する唯一の競技です。競技はアキュラシー競技（ゴールを通過した数を競います。ディスリート・ファイブは 5m、ディスリート･セブンは 7m先のゴールを狙ってディスクを 10 投連続して行います。）とディスタンス競技（男女別に座位と立位の４区分で競技し、飛距離を競います。競技は、ディスクを 3 投連続して行い、記録は 3 投中最も距離の遠い着地点を計測します。）の 2 競技で、障害者スポーツ特有の障害区分を極力減らし、日頃から障がいのない人も含めたすべての人が等しく楽しめる競技です。

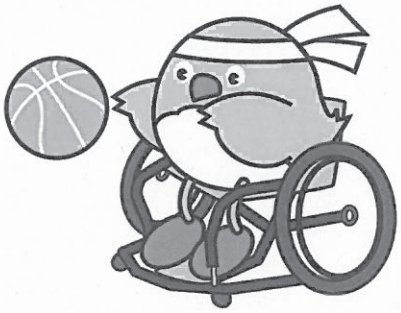


・ふうせんバレーボール

「ふうせんバレーボール」は、バドミントンコートを使用し、ネットで分けられたコートにそれぞれ１チーム６人ずつ入り、ネット越しに両チームが、ボール（ふうせん）を打ち合うスポーツです。
一番の特徴は、障がいのある人と障がいのない人とがチームを組み、チーム全員がボールに触れたあと６回以上１０回以内で相手コートにボールを返すことです。

・車椅子バスケットボール

車椅子で行うバスケットボールです。 ルールは一般のバスケットボールに準じていますが（コートの広さやリングの高さなども同じ）、車椅子の特性を考慮し、ボールを保持した状態で２プッシュまで車椅子をこぐことが認められる（連続して３プッシュ以上するとトラベリング）。また、ダブルドリブルは適用されない。
使用する車椅子は、回転性能や敏捷性、あるいは高さが得られるような車椅子バスケットボール専用のものが用いられる場合が多い。競技技術はもとより、車椅子の操作性が求められる。
選手の障害状況に応じて持ち点（各自に 1.0 点から 0.5 点きざみで 4.5 点まで）が定められ、１チーム５人の持ち点合計が、14 点以下でなければならない。



（※本用紙は、そのままＦＡＸ送信票としてご利用いただけます。）

送付先：０９７－５０６－１７４０

大分県障がい者体育協会　　担当：後藤 宛て

（お問い合わせ先ＴＥＬ：０９７－５３３－６００６）

《総合型地域スポーツクラブ　アンケート》

お忙しい中とは存じますが、下記項目にお答えいただき、７月３１日（木）までにＦＡＸにてご提出くださいますよう、お願いいたします。

クラブ名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記入者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先（電話）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◆これまでに、障がい者スポーツの体験や、障がいのある方々との交流がありますか。
（過去に当協会とのイベントも含めて回答ください）
ア　ある　　イ　ない

◆以下の各該当項目について該当箇所を○で囲んでください。

1　障がい者スポーツの実施（体験会等）について：

（1）貴クラブで障がい者スポーツを実施することに興味がありますか。
ア　大いにある　イ　少しある　ウ　特にない　エ　分からない

（2）機会があれば、貴クラブでも取り入れてみたいと思いますか。
ア　ぜひ取り入れたい　イ　機会があれば　ウ　特に思わない　エ　分からない

2　障がいのある方のクラブ利用や交流について：

（1）現在、障がいのある方が、貴クラブ会員として利用されていますか。
ア　利用されている　イ　利用されていない　ウ　分からない

（2）障がいのある方との、スポーツを通した交流に興味がありますか。
ア　ある　イ　少しある　ウ　特にない　エ　分からない

◆以下、ご記入ください。

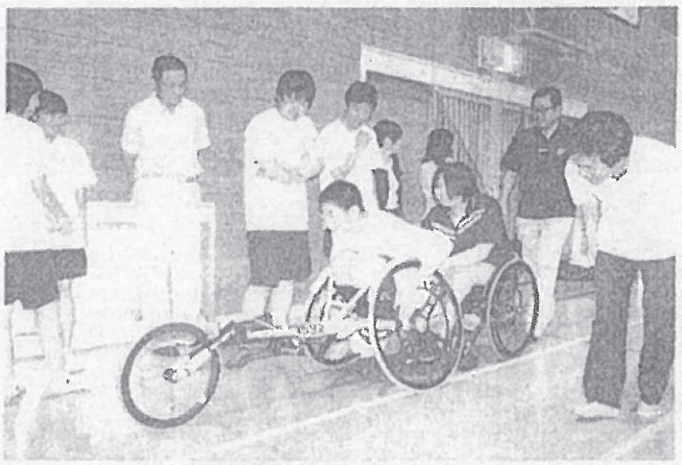
1　今年度、貴クラブ主催の地域内イベント（○○祭り、○○大会等）について、イベント名と時期（概ねの予定時期でも可）をご教示ください。
※　複数回答も可能です。

☆ご協力ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

障害福祉課
26年7月15日
大分合同新聞(朝・夕)刊

レーサー試乗など楽しく

中津・今津中 車いすマラソン選手と交流



坂元智香選手に押してもらい、レーサーに試乗する生徒＝今津中学校

中津市の今津中学校（池永正博校長、109人）で車いすマラソン選手との交流会があった。この日は学校公開日で全校生徒と保護者が選手と楽しいひとときを過ごした。

県障がい者体育協会の協力で、車いすマラソン選手の笹原広喜さん(40)＝別府市、坂元幸雄さん(30)、智香さん(32)夫婦＝日出町＝ら3人に障害を乗り越え、大会に出るようになった経緯などを説明し「挑戦することの大切さ、感謝する気持ちなどを学んだ」と話した。

この後、生徒たちは4班に分かれて競技に使うレーサーに試乗。こぎながら方向を変えるのが難しいようで、選手に押してもらいながら体育館内を1周した。

レーサーの試乗体験をする児童

車いすマラソン 選手と交流の児童 「今年も応援する」

第34回大分国際車いすマラソン大会（11月、大分市）に出場する3選手と児童との交流会が4日、同市の大道小学校（佐藤文登校長、440人）であった。障害者スポーツを身近に感じてもらおうと、県障がい者体育協会（首藤忍会長）が毎年開いている。

5年生73人が参加。1981年の第1回大会から33回連続で出場している吉松時義選手(71)と吉川勇選手(61)、パワーリフティングでも活躍する城隆志選手(54)＝いずれも別府市＝が、競技用車いす（レーサー）を持参。児童たちは操作方法を習い、実際に乗って感触を確かめた。

二宮小姫さん(11)は「思ったよりスピードが出て怖かった。競走する選手はすごい。今年も応援に行きたい」と話した。

吉松選手は「目標達成のためには、日々の努力が大切。挑戦する気持ちを忘れず、勉強やスポーツを頑張って」と児童に語り掛けた。

合同 9/30(夕) ①

（第3種郵便物認可）

「すごい！」驚き

日出小で車いすの陸上選手と交流会

第34回大分国際車いすマラソン大会（11月9日・大分市）を前に、日出町の日出小学校で9月29日、出場する2選手との交流会があった。県障がい者体育協会が県内各地で開いている交流事業の一環。

6年生70人が参加。笹原広喜選手（40）＝フル・別府市、佐矢野利明選手（26）＝ハーフ・日出町川崎＝が来校し、競技との出会いや競技生活で感じたことについて話した。

同大会で優勝経験のある笹原さんは、努力して挑戦することの素晴らしさと周囲への感謝を忘れないことを強調。佐矢野さんは自身で目標を持つことの大切さを訴えた。

その後、児童は両選手の指導で競技用車いす（レーサー）の試乗にも挑戦。手本として見せた軽快な走りや動きには「速すぎる」「すごい」と驚きの声を上げていた。大屋咲喜さん（11）は「障害に負けず、頑張っている選手の人たちはすごいと思った。大分国際車いすマラソン大会も生で見てみたい」と話した。

競技用車いすに試乗する児童と指導する笹原広喜選手＝日出町の日出小学校

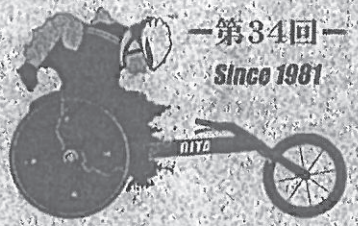
競技用車いす 簡単に見えたけど… 大分

11月にある「第34回大分国際車いすマラソン大会」の機運を盛り上げるとともに、障害者スポーツを子どもたちに理解してもらおうと、参加選手による授業が4日、大分市立大道小学校であった。5年生70人余りが「レーサー」と呼ばれる競技用車いすを体験乗車した。

小学校を訪れたのは、大分国際車いすマラソンに初回から参加している吉松時義選手（71）ら選手3人。吉松さんは障害の程度でクラス分けされていることを説き、「速い選手は下り坂で時速50㌔も出す。勢いよく駆け抜ける選手も格好良いが、不自由な手で坂を上り、完走を目指す選手たちも応援して」とあいさつ。夢を実現するために挑戦し続けることの大切さを強調した。

子どもたちは前輪が浮きやすいレーサーの扱いに四苦八苦し、ホイールを回しながらハンドル操作する大変さを感じた。田中はなさん（10）は「映像では簡単そうに見えたけど、思った以上に操作が難しい。選手たちは、すごく練習を重ねていると思いました」と話した。（菊地洋行）

障害福祉課 (1)
26年10月29日
大分合同新聞(朝・夕)刊



大分国際車いすマラソン大会

県内4選手 児童と交流

第34回大分国際車いすマラソン大会（11月9日・大分市）に出場する県内の4選手が28日、大分市の南大分小学校（上村もと子校長・714人）を訪れ、5年生114人と交流した。障害者スポーツを体験し、素晴らしさを子どもたちに伝えようと、県障がい者体育協会が県内の小学校などで開いている。

マラソンに出場する笹原広喜選手(40)＝別府市、藤原修選手(51)＝大分市、ハーフマラソンに出場する佐矢野利明選手(26)＝日出町、城隆志選手(54)＝別府市＝が訪問。笹原選手は児童に「障害者も健常者も、目標に向かう気持ちは一緒。失敗を恐れず挑戦を続けてほしい」と話し、佐矢野選手は「興味を持ったら、ぜひ応援に来て」と呼び掛けた。

レーサー（競技用車いす）に試乗した平木聖悟君(11)は「こぐのに力が必要で、マラソンを走る選手はきついだろうと思った。本番も頑張ってほしい」と話した。

藤原修選手（左端）からレーサーの説明を受ける児童たち＝28日、大分市の南大分小

「本番も走り抜いて」

障害者スポーツの素晴らしさを体感

日田支援学校で交流会

日田支援学校（横山勝也校長、54人）で23日、児童・生徒とアスリートの交流会があった。障害者スポーツの素晴らしさを子どもたちに理解してもらおうと、大分国際車いすマラソンで活躍している城隆志選手（54）、笹原広樹選手（40）を招いた。

競技用車いすを楽しむ児童＝23日

車いすマラソンのビデオを見た後、事務局が選手を紹介。城選手は「諦めないでやっていれば何でもできる」、笹原選手は「チャレンジする大切さを車いすマラソンで学ぶことができた」などと話した。

この後、全校児童・生徒は競技用車いすに試乗。体育館の端から端までを往復した。高等部1年の生田将太君（16）＝顔写真＝は「思ったよりスピードが出た。『諦めなければ何でもできる』という話が印象に残ったので、ランニングを頑張って足が速くなりたい」と話した。

大分合同新聞（朝刊）　2015年(平成27年)2月19日　木曜日

別府で車いすバスケの講習会

障害者と同じ目線でプレー

車いすバスケットボールに挑戦する生徒たち＝別府市の太陽の家

別府市の亀川校区青少年育成協議会は17日、太陽の家で別府溝部学園高校（野田）の生徒を対象に車いすバスケットボールの講習会を開いた。太陽の家などがある亀川校区には多くの障害者が暮らしている。同じ地域で学ぶ高校生に、スポーツを通じて障害への理解を深めてもらおうと初めて開いた。

溝部学園高生徒が体験

乗り慣れない、悪戦苦闘

普通科の2年生47人が参加。車いすバスケチーム「太陽の家スパーズ」（別府市）と「OWBC」（大分市）の選手ら6人が講師を務めた。生徒は競技用車いす20台を使ってリレーやゲームを体験した。事前に競技のルールを学んでいたが、乗り慣れない車いすに悪戦苦闘しながらボールを追い掛けていた。

相良優香さん(17)＝顔写真＝は「登校中に車いすを使っている人をよく見かけていたが、車いすバスケを通じて身近な存在だということがあらためて実感できた」と話した。

協議会は亀川自治会連合会、亀川地区社会福祉協議会と一緒に小学生と障害者が一緒に卓球バレーを楽しむ大会を開くなど、子どもが障害への理解を深める取り組みを続けている。

佐藤宣男会長は「障害者も健常者も同じ亀川に住む仲間。お互いに理解し合える地域を目指し、講習会を毎年続けたい」と話している。

（小石朋世）

車いすバスケットボール

国内では1960年に国立別府病院（当時）の中村裕博士（太陽の家創設者、故人）が英国で学び、同病院で初めて紹介して全国に広まったとされる。出場選手の障害の程度に応じて持ち点を定めるなどの特別ルールはあるが、使用するコートやボールは通常のバスケと同じ。競技用車いすはタイヤの角度が「ハの字」形で、素早く、細かいターンができる。

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業

◆ サッカークリニック

◆ 水泳記録会

◆ アダプテッドスポーツキャラバン

特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

平成 26 年度地域における障がい者スポーツの振興事業
「沖縄県における障がい者スポーツの振興事業」事業報告

1．はじめに

沖縄県では、平成 25 年度文化観光部策定の「沖縄県スポーツ推進計画」、平成 26 年度子ども生活福祉部所管でスタートした「第 4 次沖縄県障害者基本計画」の中で、新たな障害者スポーツの推進・活性化を図るため、県は障がい者スポーツ協会との連携による活動について書き記した。また、平成 26 年度より公益財団法人沖縄県体育協会へ加盟登録したことで、一般競技団体や総合型地域スポーツクラブとの連携により、地域での障害者スポーツを活用した事業環境が整いつつあります。さらに、一般競技同様スポーツツーリズム事業を広く展開し、他県から来沖されるアスリートとの交流を図る事で生まれる効果がこれからの沖縄県における障害者スポーツの発展へ期待されるところであります。しかし、離島を多く抱える沖縄は、本島と離島との活動格差が大きく、離島に住む障がい児・者は新たなスポーツに出会う又はスポーツ活動に参加する機会が少なく、新規参加者数の拡大や指導員の活動の場、学ぶ機会が少ないことも課題として挙げられる。

2．目的

本事業では、沖縄県の有するトップアスリートなどのスポーツ資源を活用したイベントの開催や、他県選手との交流活動を行うことで、イベント参加への意識づけやスポーツに対する関心をもってもらい、本島のみならず離島での活動をこれまで以上に展開することで、新たなスポーツ活動の発見に繋げていきたいと考える。

3．実施概要

主　　催：特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会

実施内容

<table>
<tr><td colspan="5">【サッカークリニック】</td></tr>
<tr><td>日　　時</td><td>H26.10.4
9:00～17:00</td><td>H27.1.11
9:00～17:00</td><td colspan="2">H27.2.21
14:00～16:00</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td>浦添市多目的屋内運動場</td><td>沖縄国際大学</td><td colspan="2">サン・アビリティーズうらそえ</td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>84 名</td><td>107 名</td><td colspan="2">10 名</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">催事名：MIX サッカーフェスタ
（午前の部サッカークリニック）
（午後の部フットサル大会）</td><td colspan="2">サッカークリニック</td></tr>
<tr><td>協力団体</td><td colspan="4">一般社団法人琉球スポーツサポート、NPO 法人ナインプロモーション沖縄
琉球フットボールクラブ株式会社、総合型スポーツクラブサンビスカス沖縄
プラン・ドゥ・ハプンスタンス株式会社</td></tr>
</table>

【水泳記録会】	
日　　時	平成 27 年 1 月 25 日
会　　場	金武町営プール
参加者数	20 名
内　　容	水泳記録会、練習会
協力団体	金武町教育員会、沖縄県水泳連盟審判員 九州身障者水泳選手権沖縄大会実行委員会

【アダプテッドスポーツキャラバン】			
開催日	会　場	参加数	実施種目
10 月 13 日	浦添市多目的屋内運動場	60 名	ハンドバイク
11 月 15 日	健康福祉センターうるみん	40 名	ハンドバイク
11 月 22 日	石川多目的ドーム	28 名	ハンドバイク・ボッチャ
11 月 26 日	沖縄県立八重山特別支援学校	36 名	ボッチャ
12 月 27 日	トゥリバー海浜公園	8 名	ハンドバイク
1 月 19 日	宮古島市立城辺小学校	52 名	車椅子バスケットボール
1 月 31 日	イオン琉球南風原店	不特定	障害者スポーツ用具展示・活動相談
2 月 1 日	イオン琉球名護店	不特定	障害者スポーツ用具展示・活動相談
2 月 4 日	浦添市運動公園	12 名	ハンドバイク
2 月 8 日	イオン琉球具志川店	不特定	障害者スポーツ用具展示・活動相談
2 月 28 日	宜野湾市立体育館	48 名	ハンドバイク、ボッチャ 車椅子ラグビー
【協力団体】 社会福祉法人うるま市社会福祉協議会、社会福祉法人宮古島市社会福祉協議会 浦添市体育協会、沖縄ボッチャクラブ、宮古島市車椅子バスケットサークル 広告会社、沖縄ハリケーンズ、日本スポーツ健康福祉専門学校沖縄			

4．障がい者スポーツ指導者の活動・役割

これまで県内の指導員から多く聞こえる「活動の場が少ない」の意識を変えるため、自身の指導現場づくりの意も含め、指導員の皆さんにはイベント企画調整・運営に参加いただきました。体育協会、総合型地域スポーツクラブでは障がい者のイベント参加の際に「専門スキルを持った指導員の不足」等の相談が多かったため、今回の事業実施のように障害者スポーツ指導員が企画運営を行い、イベント会場を管理する一般団体と連携できたことは、障がい者が安全にスポーツ活動に参加できるよい機会となったことでしょう。

５．成果及び評価

今回の事業実施にあたっては、別事業にてすでに調査済みであったアンケートデータをもとに、各競技団体の抱える問題点の一つにあがった普及活動の弱さにポイントをおき、事業計画を立てました。多くのチームが自団体の普及活動が少ないことが、新規参加者の減少、活動への理解・認知度の低さを課題として挙げていた。そこでこの事業では、離島を含め県内各会場にて広範囲での体験活動等を実施できるように、市町村社会福祉協議会、体育協会、学校等に呼びかけを行い、これまでの福祉団体に限られがちであった活動範囲をさらに拡げた。水泳会場となった金武町営プールでは障がい者の利用に対する理解が高まり、冬場の開催に配慮し水温を高めに保っていただくなど、参加者が安全に競技を行えるよう準備いただいた。

これらの活動連携から市町村体育協会、総合型地域スポーツクラブなど一般団体も障がい者スポーツに関心をもっていただき、会場の提供や指導員のサポート、共同での事業展開を実施することができた。また、公認障害者スポーツ指導員養成講習会への問い合わせも増え、障がい者スポーツを取り巻く環境に変化をもたらすことができたと実感した。

６．今後の課題

ボッチャ・ハンドバイク・車椅子競技と、障がい者スポーツ体験としては見た目にも一般競技との違いがわかりやすい種目での実施であったが、それぞれが競技備品としては高額であるため各団体にて備品を整備することが難しいといった問題点があり、「いつでもどこでも気軽に楽しめる」にはまだまだ課題が残ると言える。今後は、一般競技団体と連携して活動拠点づくりに並行して、備品整備、指導者のスキル向上に向けた取り組みも一層進めていく必要がある。

７．おわりに

今回実施したスポーツ種目は、障がいの種別や軽重や障がいの有無に関係なく取り組みやすいスポーツであったため、各事業とも参加制限を設けず多くの方に参加いただいたことで、異なる障がい種別の参加者間の交流を図る事ができた。また、一般のチームと競技を行うことで、障がい者スポーツ界のレベルアップにも繋がり、障がい者スポーツへの理解・普及啓発に有効な取り組みであったと考える。

MIX サッカーフェスタ 2014 実施要項

各種障がい者サッカーの普及・競技力向上を目的とし、障がいの有無・種別に関わらず多くの参加者をチャンプル～した【MIX サッカーフェスタ 2014】を開催する。
サッカークリニックでは、プロサッカー選手をコーチとしてお招きしてのプログラムを実施。フットサル大会では、一般・大学・高校・障がい者スポーツのカテゴリーを MIX し開催することで、障がい者サッカーチームの競技力向上を図る。

主　　催：特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会
一般社団法人 琉球スポーツサポート
特定非営利活動法人 ナインプロモーション沖縄

協　　力：沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会

日　　時：平成２６年１０月４日（日）９：００～１７：００
平成２７年１月１１日（日）９：００～１７：００
平成２７年２月２１日（土）１３：００～１５：００（クリニックのみ）

会　　場：浦添市多目的屋内運動場（平成２６年１０月４日）
沖縄国際大学体育館（平成２７年１月１１日）
サン・アビリティーズうらそえ（平成２７年２月２１日）

実施概要：【午前の部】１０：００～１１：３０
「サッカークリニック」
対　象：障がい児・者
定　員：３０名
参加費：１名　５００円
【午後の部】１２：００～１７：００
「フットサル大会」
対　象：障がい者フットサルチーム
一般・大学生・高校生フットサルチーム
定　数：１０チーム
参加費：１チーム　３，０００円

申込方法：申込用紙に必要事項を記入し下記宛に郵送・FAX 下さい。

そ の 他：健康・安全管理については、参加者において十分配慮するものとする。
主催者側においては大会時の応急処置のみを行う。

お問合せ先

特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会
〒９０３－０８０４
沖縄県那覇市首里石嶺町４－３７３－１（県総合福祉センター内４F　４０７）
TEL／FAX　０９８－８８５－６７４７（担当：下地隆之）

MIX サッカーフェスタ 2014 活動写真

サッカークリニック

10 月 4 日には FC 琉球の選手によるサッカークリニックを実施

1 月 11 日のサッカークリニックにはトレーニングキャンプのため来沖中であった J リーガー（東京ヴェルディ、横浜 FC、ロアッソ熊本、V・ファーレン長崎）の選手が講師として参加

MIX サッカーフェスタ 2014 活動写真

フットサル大会

選手の競技力向上を目的に開催したこのイベントには、知的・精神・CP サッカーチームが参加し、一般のサッカーチームと共に競技を楽しんだ。

平成 26 年度水泳記録会実施要項

沖縄県における障がい者水泳選手の育成と水泳競技の底辺拡大、参加者間の交流を図ることを目的に、昨年度から実施しております水泳記録会。今年度は 6 月に開催されました九州身障者水泳選手権沖縄大会の影響もあり、県内での盛り上がりは大きなものがあります。つきましては、冬季トレーニングの一環として下記の通り記録会を実施することとなりましたので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

主催団体　特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会

協力団体　沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会、金武町教育員会
沖縄県水泳連盟審判員、九州身障者水泳選手権沖縄大会実行委員会

開 催 日　平成２７年1月２５日（日）
受　　付：１２時００分～
練習開始：１２時３０分～
競　　技：１４時００分～１６時００分

会　　場　金武町営プール

参 加 費　１人：５００円（保険代含む）

実施種目　○２５ｍビート板レース
○２５ｍ（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）
○５０ｍ（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）

申込方法　所定の用紙に必要事項を記入し下記までお申し込みください。

お申込み・お問合せ先
〒903－0804
沖縄県那覇市首里石嶺町４－３７３－１（沖縄県総合福祉センター西棟４０７）
ＴＥＬ／ＦＡＸ　０９８－８８５－６７４７
Ｅ－ｍａｉｌ　　okiparaspo23@yahoo.co.jp
沖縄県障がい者スポーツ協会（担当：下地　隆之）

水泳記録会活動写真

アダプテッドスポーツキャラバン実施要項

【活動目的】

【アダプテッドスポーツとは】障がいの有無に関わらず、子供から大人まで多くの方が楽しめるように創られたスポーツ全般を表します。スポーツのルールや用具を障がいの種類や程度に適合（adapt）させることによって、障がいをもつ人はもちろんのこと、幼児から高齢者、体力の低い人であってもスポーツに参加することが可能になるのです。

この活動では、障がい者がスポーツを楽しむためには、その人自身と、その人を取り巻く人々や環境を問題として考え、両者を統合したシステムづくりを目的に実施します。

【主　催】　特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会

【協　力】　沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会

【日　程】　平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 2 月まで

【内　容】　**①障がい者スポーツ体験**

車椅子バスケットボール、陸上、ハンドバイク、ボッチャ等各種スポーツを体験。

②アスリート講演

沖縄県内外で活躍する障がい者スポーツアスリートによる講演。

【申込み】　開催を希望する団体は、申込用紙に必要事項を記入の上、下記宛にメールまたは郵送にてお送りください。

【問合せ先】　特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会
〒903－0804　那覇市首里石嶺町 4 - 371 - 1（県総合福祉センター西棟 407）
TEL／FAX　０９８－８８５－６７４７
E-mail　okiparaspo23@yahoo.co.jp（担当：下地 隆之）

アダプテッドスポーツキャラバン活動写真

平成26年度　障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

2015年3月31日 発行

発行　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
印刷　日本印刷株式会社